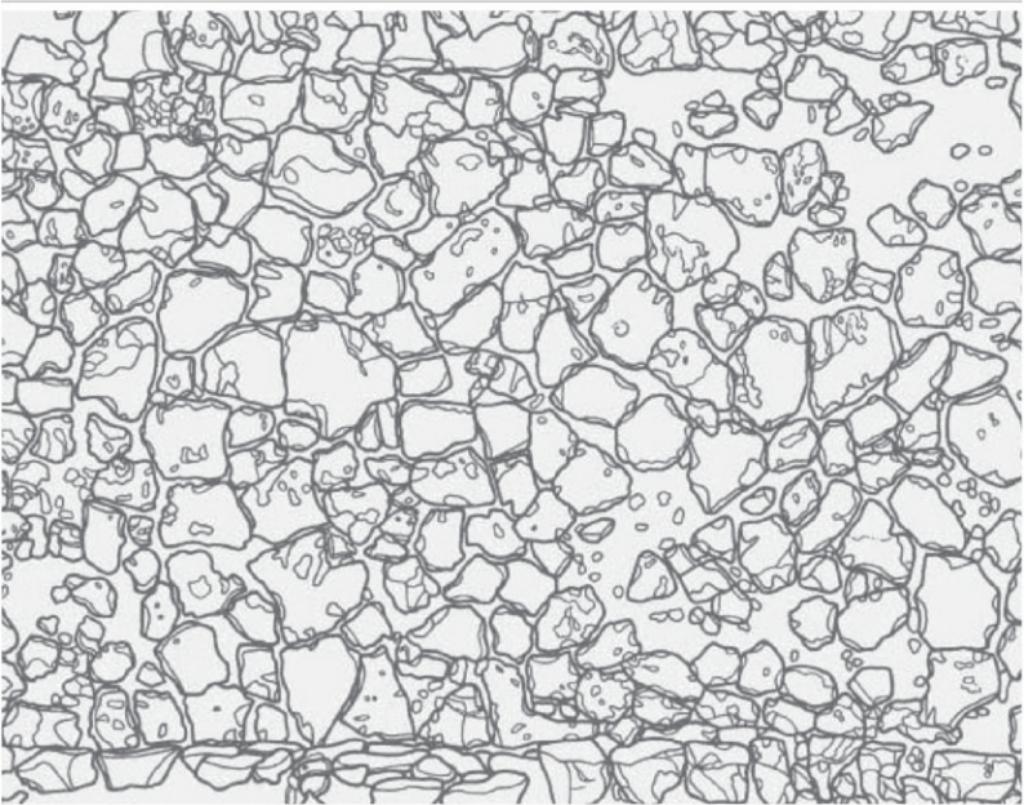


首里城跡

—城の下地区発掘調査報告書—



2004年（平成16）3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

首 里 城 跡

—城の下地区発掘調査報告書—

2004年（平成16）3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、県営首里城公園整備に伴い平成13年度に事業の分任を受けて実施した、埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。県営首里城公園は城郭を取り巻く外側地域で、当該年度の発掘は首里城北側城郭の下に造営された「城の下」と通称される王国時代の道路地域を対象としました。

調査の結果、琉球王国第二尚氏王統第11代国王の尚貞王（在位1669～1709年）代の1673年に造営したとされる石畳道跡が確認されました。その経緯は王府の正史『球陽』にも記され、城とその北下方にある円覚寺との間を通る通路として造営されたものです。戦前まではその姿が見られたのですが、沖縄戦等によって地中に埋もれてしまっていました。幸い戦前の写真資料が残存し、これらを手がかりにしながら現地の発掘を実施したところ、往時の姿を確認することができました。また、地盤造成等道路造営の前後の状況も判明しました。

これによって、首里城公園の整備事業がいっそう円滑に進み、城郭の外側地域もかつての王都の歴史的環境をとりもどすことが期待されます。

本報告書がその事業に役立つとともに、県民をはじめとする多くの方々が首里城に関する知識と理解を深め、あわせて琉球・沖縄の歴史と文化ならびに文化財の保護と活用等についても関心をいっそう高めることに活用していただければ幸いです。

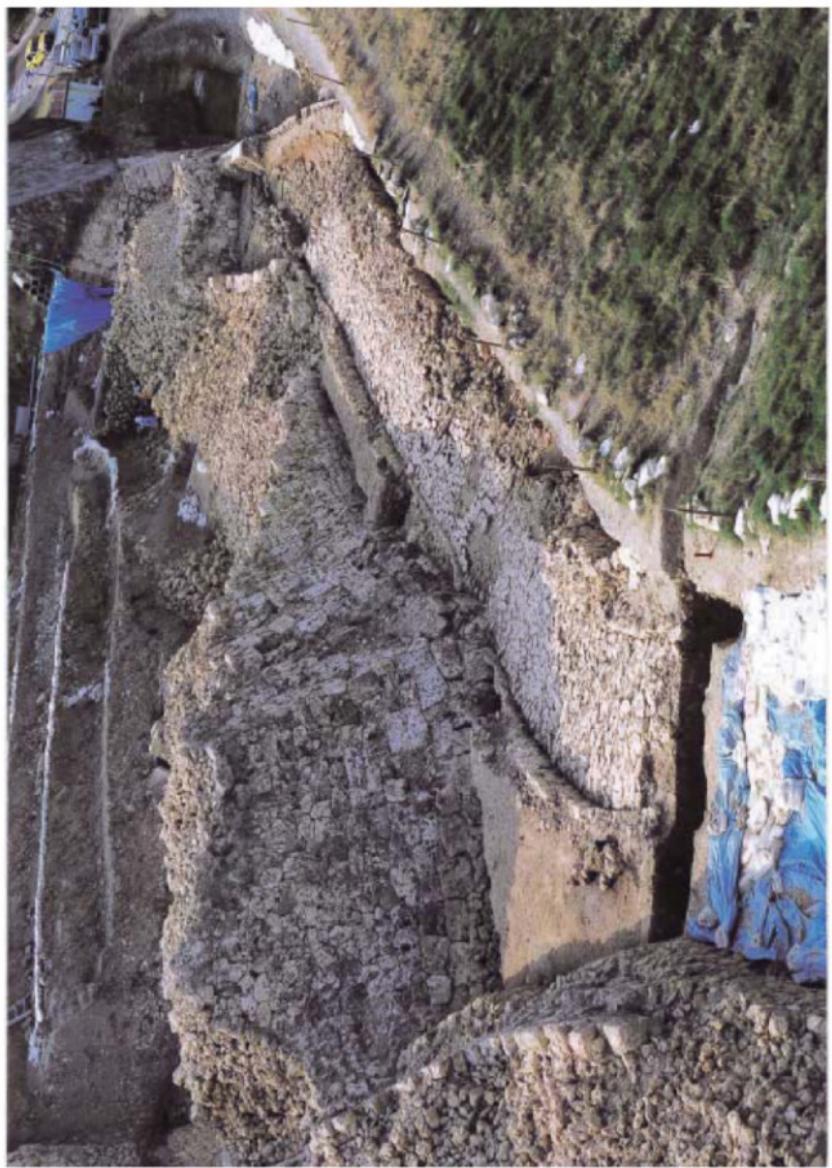
末尾ながら、発掘調査および出土品の分析同定等にあたり、ご指導・ご協力を賜った関係各位に深く感謝申しあげます。

平成16年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長 安里嗣淳



卷頭図版1 城の下道と首里城城壁（西から）



卷頭図版2 城の下道と首里城城壁（東から）

公衆送信権のため未表示



卷頭図版4 城の下道の出土遺物

例　言

- 1 本報告書は、首里城公園整備に伴い平成13年度に実施した、城の下道の埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 発掘調査および資料整理は、沖縄県土木建築部より依頼を受け沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 出土遺物の同定及び資料整理にあたってのご指導は下記の諸先生方によるものであります。記して深謝いたします。

白磁・沖縄産施釉陶器・その他の国外産陶磁器………家田　淳一（佐賀県立博物館　学芸課　資料係長）
白磁・本土産陶磁器・その他の国外産陶磁器………堀内　秀樹（東京大学　助手）
その他の国外産陶磁器……………矢島　律子（町田市立博物館　学芸員）
褐釉陶器………向井　瓦（金沢大学大学院　大学院生）
カムミヤキ………吉岡　康暢（国立歴史民俗博物館　教授）
土器……………金城　亀信（沖縄県教育委員会　主任専門員）
脊椎動物遺体………金子　浩昌（東京国立博物館　研究員）
貝類……………名和　純（湯の生態史研究会　会員）
石製品……………神谷　厚昭（元沖縄県立真和志高校　教諭）
また錢貨の同定に際し、青山奈緒嘱託職員（現　鹿児島大学埋蔵文化財調査室　技術補佐）にX線写真を撮っていただいた。
- 4 本書に掲載した地図は、国土地理院の1/25,000の地形図である。
- 5 遺構実測図の縮尺は基本的に、1/50に統一した。遺物の実測図は基本的に1/3に統一した。ただし瓦や大型の陶磁器は1/4に、金属・石製品等は1/2・原寸で図示した。
- 6 掲載した城の下道の古写真は、故坂本万七氏が戦前に撮影した（坂本万七写真研究所蔵）写真である。
- 7 久手堅憲夫氏によると、「城の下」とは、本来首里城の南側の一画をさす地名である。今回発掘調査した首里城北側の地区についても、戦前生まれの汀良町・当蔵町の一部の方々は「城の下」と呼び、今に至っている。この発掘調査報告書においても、便宜上「城の下」と呼び、この地に造られた道と言う意味で「城の下道」と呼ぶ。
(参考文献) 久手堅憲夫『首里の地名—その由来と縁起—』2000年10月
- 8 本報告書の編集は伊集ゆきの他の協力を得て羽方誠が行った。各節の執筆は以下のとおりである。

羽方　誠…………第1章、第2章、第3章、第4章、第5章第1節～25節－1、第6章
金子　浩昌…………第V章第25節－2
- 9 本書に掲載された出土遺物の写真撮影は後藤典子・光嶋香が行った。
- 10 発掘調査で得られた出土品、図面・写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

報告書抄録

ふりがな	しゅりじょうあと							
書名	首里城跡							
副書名	城の下地区発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第18集							
編著者名	羽方誠、金子浩昌							
発行機関	沖縄県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7							
発行年月日	平成16年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°' "	°' "			
しゅりじょうあと 首里城跡	おきなわけん なはし 沖縄県那覇市 しゅりじょうあとくらちょう 首里当藏町	472018		26° 12' 51"	127° 43' 51"	平成13年 7月16日 ↓ 平成14年 1月31日	1,100m ²	県営首里城 公園整備
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
首里城跡	城館	中世 近代	石疊道	青磁、白磁、染付、色絵、瑠璃釉、褐釉陶器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、土器、陶質・瓦質土器、石製品、金属製品、簪、煙管、骨製品、土製品、貝製品、貝類、脊椎動物遺体、円盤状製品、瓦、埠			古文書・古絵図に記されている石疊道について、保存状態が良好であった。	

目 次

序

巻頭図版

例言

報告書抄録

第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査経過	7
第4章 層序と遺構	9
第1節 層序	9
第2節 遺構	19
第5章 遺物	
第1節 青磁	22
第2節 白磁	29
第3節 染付	32
第4節 その他の国外産陶磁器	35
第5節 褐釉陶器	38
第6節 タイ産半縫	46
第7節 本土産陶磁器	46
第8節 沖縄産施釉陶器	52
第9節 沖縄産無釉陶器	58
第10節 陶質土器	65
第11節 瓦質土器	68
第12節 カムィヤキ	69
第13節 土器	69
第14節 土製品	71
第15節 円盤状製品	71
第16節 煙管	73
第17節 骨製品・プラスチック製品	73
第18節 玉	73
第19節 銭貨	74
第20節 簪	80
第21節 金属製品	81
第22節 石製品	83
第23節 瓦	84
第24節 塚	84
第25節 自然遺物	
1. 貝類	89
2. 脊椎動物遺体	90
第6章 結語	95
付 編	
城の下道出土遺物の放射性炭素年代測定	169

図 目 次

第1図 沖縄本島の位置	3	第39図 プラスチック製品・煙管・骨製品・玉	74
第2図 首里城跡の位置及び周辺の遺跡	4	第40図 錢貨（1）	77
第3図 旧首里城図	6	第41図 錢貨（2）	78
第4図 調査範囲 トレンチ配置図	8	第42図 錢貨（3）	79
第5図 石疊道遺構図	11	第43図 簪	80
第6図 トレンチ1・2 土層図	13	第44図 金属製品	82
第7図 トレンチ3 土層図	14	第45図 石製品	83
第8図 トレンチ4・5 土層図	15	第46図 瓦（1）	86
第9図 トレンチ7 西壁土層図	16	第47図 瓦（2）	87
第10図 トレンチ8 北壁土層図	17	第48図 瓦（3）・堀	88
第11図 トレンチ10・12 石疊道西端部土層図	18	第49図 首里旧城之図	96
第12図 青磁（1）	26	第50図 冠船之時御座構之図	96
第13図 青磁（2）	27	第51図 城の下道	96
第14図 青磁（3）	28	第52図 首里城の航空写真	96
第15図 白磁	31		
第16図 染付	34		
第17図 その他の国外産陶磁器	37	第1表 遺物出土状況	21
第18図 褐釉陶器1（中国産）	42	第2表 青磁出土状況	23
第19図 褐釉陶器2（中国産）	43	第3表 青磁観察一覧	24
第20図 褐釉陶器3（中国産・タイ産）	44	第4表 白磁出土状況	29
第21図 褐釉陶器4（タイ産・ミャンマー産）	45	第5表 白磁観察一覧	29
第22図 タイ産半練	46	第6表 染付出土状況	32
第23図 本土産陶磁器（1）	50	第7表 染付観察一覧	33
第24図 本土産陶磁器（2）	51	第8表 その他の国外産陶磁器出土状況	35
第25図 沖縄産施釉陶器（1）	56	第9表 その他の国外産陶磁器観察一覧	36
第26図 沖縄産施釉陶器（2）	57	第10表 褐釉陶器観察一覧	39
第27図 沖縄産施釉陶器（3）	58	第11表 褐釉陶器出土状況	41
第28図 沖縄産無釉陶器（1）	62	第12表 タイ産半練出土状況	46
第29図 沖縄産無釉陶器（2）	63	第13表 タイ産半練観察一覧	46
第30図 沖縄産無釉陶器（3）	64	第14表 本土産陶磁器出土状況	47
第31図 沖縄産無釉陶器（4）	65	第15表 本土産陶磁器観察一覧	48
第32図 陶質土器（1）	67	第16表 沖縄産施釉陶器観察一覧	52
第33図 陶質土器（2）	68	第17表 沖縄産施釉陶器出土状況	55
第34図 瓦質土器	69	第18表 沖縄産無釉陶器出土状況	59
第35図 カムイヤキ	69	第19表 沖縄産無釉陶器観察一覧	60
第36図 土器	70	第20表 陶質土器出土状況	65
第37図 土製品	71	第21表 陶質土器観察一覧	66
第38図 円盤状製品	72	第22表 瓦質土器出土状況	68

表 目 次

第1表 遺物出土状況	21
第2表 青磁出土状況	23
第3表 青磁観察一覧	24
第4表 白磁出土状況	29
第5表 白磁観察一覧	29
第6表 染付出土状況	32
第7表 染付観察一覧	33
第8表 その他の国外産陶磁器出土状況	35
第9表 その他の国外産陶磁器観察一覧	36
第10表 褐釉陶器観察一覧	39
第11表 褐釉陶器出土状況	41
第12表 タイ産半練出土状況	46
第13表 タイ産半練観察一覧	46
第14表 本土産陶磁器出土状況	47
第15表 本土産陶磁器観察一覧	48
第16表 沖縄産施釉陶器観察一覧	52
第17表 沖縄産施釉陶器出土状況	55
第18表 沖縄産無釉陶器出土状況	59
第19表 沖縄産無釉陶器観察一覧	60
第20表 陶質土器出土状況	65
第21表 陶質土器観察一覧	66
第22表 瓦質土器出土状況	68

第23表	瓦質土器觀察一覧	68	図版3	調査状況（3）	103
第24表	土器出土状況	69	図版4	調査状況（4）	104
第25表	土器觀察一覧	70	図版5	調査状況（5）	105
第26表	土製品觀察一覧	71	図版6	調査状況（6）	106
第27表	円盤状製品出土状況	71	図版7	調査状況（7）	107
第28表	円盤状製品觀察一覧	72	図版8	調査状況（8）	108
第29表	煙管觀察一覧	73	図版9	調査状況（9）	109
第30表	骨製品・プラスチック製品觀察一覧	73	図版10	調査状況（10）	110
第31表	玉觀察一覧	73	図版11	調査状況（11）	111
第32表	錢貨觀察一覧	74	図版12	調査状況（12）	112
第33表	簪觀察一覧	80	図版13	調査状況（13）	113
第34表	金属製品出土状況	81	図版14	調査状況（14）	114
第35表	金属製品觀察一覧	81	図版15	調査状況（15）	115
第36表	石製品觀察一覧	83	図版16	調査状況（16）	116
第37表	瓦・埠出土状況	84	図版17	調査状況（17）	117
第38表	瓦觀察一覧	85	図版18	調査状況（18）	118
第39表	埠觀察一覧	85	図版19	調査状況（19）	119
第40表	貝類出土状況（1）巻貝	89	図版20	調査状況（20）	120
第41表	貝類出土状況（2）二枚貝	89	図版21	調査状況（21）	121
第42表	メジロザメ出土一覧	93	図版22	発掘・資料整理作業員	122
第43表	エイ類出土一覧	93	図版23	青磁（1）	123
第44表	魚類出土量	93	図版24	青磁（2）	124
第45表	ニワトリ出土一覧	93	図版25	青磁（3）	125
第46表	ネズミ類出土一覧	93	図版26	白磁	126
第47表	イルカ出土一覧	93	図版27	染付	127
第48表	ジュゴン出土一覧	93	図版28	その他の国外産陶磁器（外面）	128
第49表	ウマ出土一覧	94	図版29	その他の国外産陶磁器（内面）	129
第50表	ブタ出土量	94	図版30	褐釉陶器1（中国産）	130
第51表	ブタ齒出土一覧	94	図版31	褐釉陶器2（中国産）	131
第52表	ウシ出土量	94	図版32	褐釉陶器3（中国産・タイ産）	132
			図版33	褐釉陶器4（タイ産・ミャンマー産）	133
			図版34	タイ産半練	134
			図版35	カムィヤキ	134
			図版36	瓦質土器	134
			図版37	本土産陶磁器（1）外面	135
			図版38	本土産陶磁器（1）内面	136
			図版39	本土産陶磁器（2）外面	137
			図版40	本土産陶磁器（2）内面	138
			図版41	沖縄産施釉陶器（1）外面	139
			図版42	沖縄産施釉陶器（1）内面	140

図版目次

卷頭図版1	城の下道と首里城城壁（西から）	94
卷頭図版2	城の下道と首里城城壁（東から）	
卷頭図版3	沖縄戦前の城の下道（西から。坂本万七写真研究所蔵）	
卷頭図版4	城の下道の出土遺物	
図版1	調査状況（1）	101
図版2	調査状況（2）	102

図版43	沖縄産施釉陶器（2）外面・内面	141	図版55	錢貨（3）	152
図版44	沖縄産施釉陶器（3）外面・内面	142	図版56	錢貨（4）写真のみ	153
図版45	沖縄産無釉陶器（1）	143	図版57	金属製品	154
図版46	沖縄産無釉陶器（2）	144	図版58	石製品	155
図版47	沖縄産無釉陶器（3）・（4）	145	図版59	瓦（1）	156
図版48	陶質土器（1）・（2）	146	図版60	瓦（2）	157
図版49	土器	147	図版61	瓦（3）・壇	158
図版50	土製品	148	図版62	貝 上：巻貝 下：二枚貝	159
図版51	円盤状製品	148	図版63	骨（1）サカナ	161
図版52	プラスチック製品・煙管・骨製品・玉・簪	149	図版64	骨（2）上：イルカ、ジュゴン、ウシ 下：ニワトリ	163
図版53	錢貨（1）	150	図版65	骨（3）ブタ	165
図版54	錢貨（2）	151			

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

今回の発掘調査は県営首里城公園整備事業に伴うものである。この整備事業は、昭和63年に沖縄県土木建築部が策定した「首里城公園基本設計」に基づいている。この設計では、首里城周辺を8つのエリア別に整備していくことが立案されており、発掘調査と復元整備事業が随時行われてきた。城の下道は、「円覚寺エリア」に含まれている。

今回城の下道を整備するにあたり、事前に発掘調査を行い石疊道の状況を確認し、整備事業の基礎資料を作る必要がでてきた。そこで沖縄県土木建築部都市計画課からの分任事業として、沖縄県教育委員会が主体となり、平成13年より発掘調査を開始することとなった。

（参考文献）

沖縄県土木建築部『首里城公園基本設計』1988年

第2節 調査体制

発掘調査は平成13年度に、資料整理は平成14・15年度に沖縄県立埋蔵文化財センターが行った。その体制は以下の通りである（職名等は当時）。

平成13年度（発掘調査・資料整理）

事業主体者	沖縄県教育委員会	教 育 長	津嘉山朝祥
事業所管	沖縄県立埋蔵文化財センター	所 長	知念 勇
事業総括	同 上	副所長兼庶務課長	知念 廣義
事業事務	同 上	副所長兼庶務課長	知念 廣義
	同 上	庶務課 主事	城間 千賀
	同 上	庶務課 主事	上原 浩
事業実施	同 上	調 査 課 長	島袋 洋
	同 上	調査課 充指導主事	西銘 章
	同 上	同 上 専門員	安座間 充
	同 上	同 上 専門員	羽方 誠
	同 上	同 上 嘴託員	藤崎 京
	同 上	同 上	柏木 祐
	同 上	同 上	矢沢 秀雄

発掘調査作業員

浦崎京子、島中恵子、真栄城千枝子、川上益子、小波津ヨシ子、金城さとみ、親川菊江、喜納初子、富山勇、柚木崎末子、比嘉洋子、佐渡山正子、長島誠

資料整理作業員

岡村綾子、城間千鶴子、比嘉なおみ、瑞慶覧尚美、池原直美、玉寄智恵子、玉城恵美利、高良三千代、平良貴子、金城敬子、友利映子、宮崎典子、仲宗根三枝子、外間瞳、上原園子、大城勝江、国場のりえ、玉那覇キミ子、大城輝子、仲地まゆみ、梅田倫代、富山実、比嘉久美子、大城愛、仲里絹子、田渕恵子下地美歩、津波古哲

発掘調査指導・協力（職名等は当時のもの）

上原靜（沖縄国際大学 専任教師）	屋比久益貞（那覇市首里在住）
神谷厚昭（沖縄県立真和志高校 教諭）	大城宜栄（那覇市首里在住）
真栄平房敬（那覇市文化財調査審議会委員）	

平成14年度（資料整理）

事業主体者	沖縄県教育委員会	教 育 長	津嘉山朝祥
事業所管	沖縄県立埋蔵文化財センター	所 長	安里 嗣淳
事業総括	同 上	副所長兼庶務課長	安富祖英紀
事業事務	同 上	副所長兼庶務課長	安富祖英紀
	同 上	庶務課主任査	城間 千賀
	同 上	庶務課主任	西江 幸枝
事業実施	同 上	調査課長	盛本 純
	同 上	専 門 員	羽方 誠
	同 上	専 門 員	知念 隆博
	同 上	嘱 託 員	矢沢 秀雄

資料整理作業員

新垣利津代、伊集ゆきの、上原園子、上原美穂子、大城勝江、大村由美子、岡村綾子、我那覇悠子、金城克子、金城敬子、小濱かおり、崎原美智子、城間千鶴子、瑞慶覧尚美、高良三千代、玉城恵美利、玉城照美、仲宗根三枝子、比嘉孝子、比嘉登美子、比嘉優子、比嘉洋子、藤田奈穂美、又吉純子

資料整理作業協力者

赤嶺雅子、池原直美、石嶺敏子、光嶋香、宮崎典子、玉寄智恵子、友利映子、諸久村泰子

平成15年度（資料整理）

事業主体者	沖縄県教育委員会	教 育 長	津嘉山朝祥
事業所管	沖縄県立埋蔵文化財センター	所 長	安里 嗣淳
事業総括	同 上	副所長兼庶務課長	安富祖英紀
事業事務	同 上	副所長兼庶務課長	安富祖英紀
	同 上	庶務課主任査	比嘉美佐子
	同 上	庶務課主任	西江 幸枝
事業実施	同 上	調査課長	盛本 純
	同 上	専 門 員	羽方 誠
	同 上	専 門 員	知念 隆博
	同 上	嘱 託 員	矢沢 秀雄

資料整理作業員

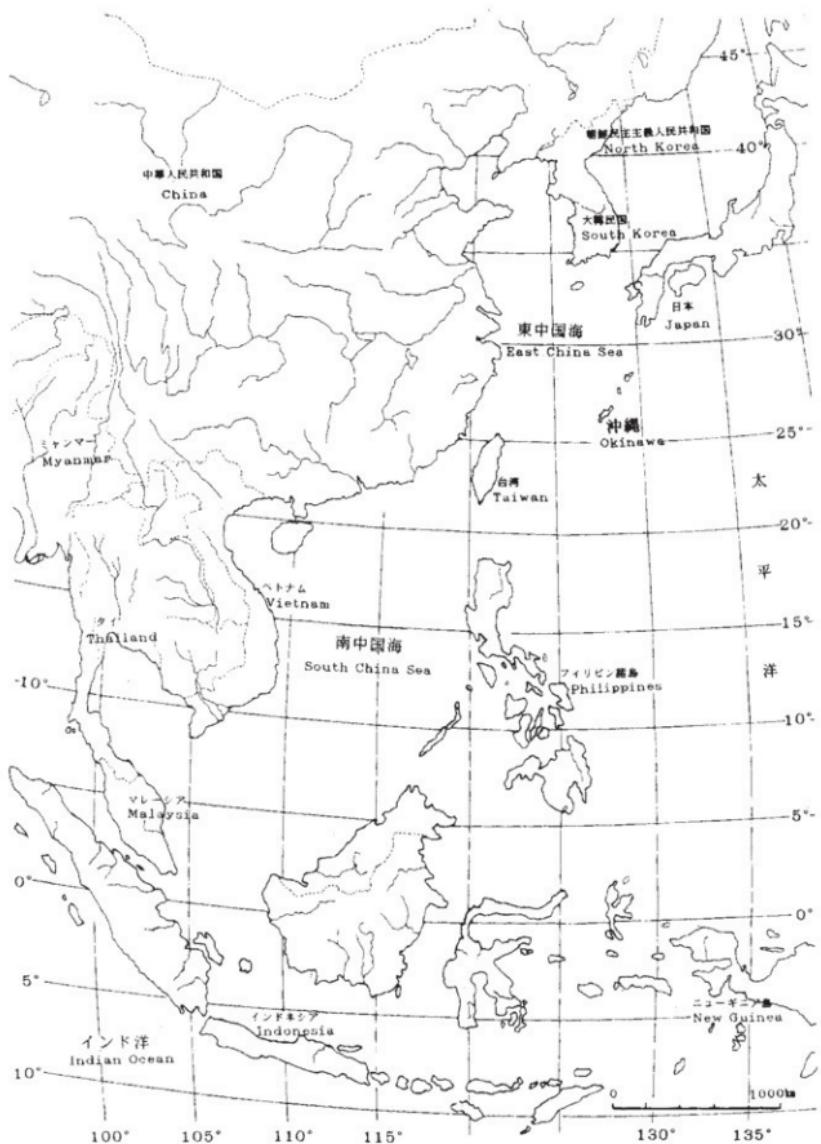
當山実、田場玲奈、仲宗根めぐみ、諸久村泰子、古堅宗幸、新垣亜樹子、荻堂さやか

資料整理作業協力者

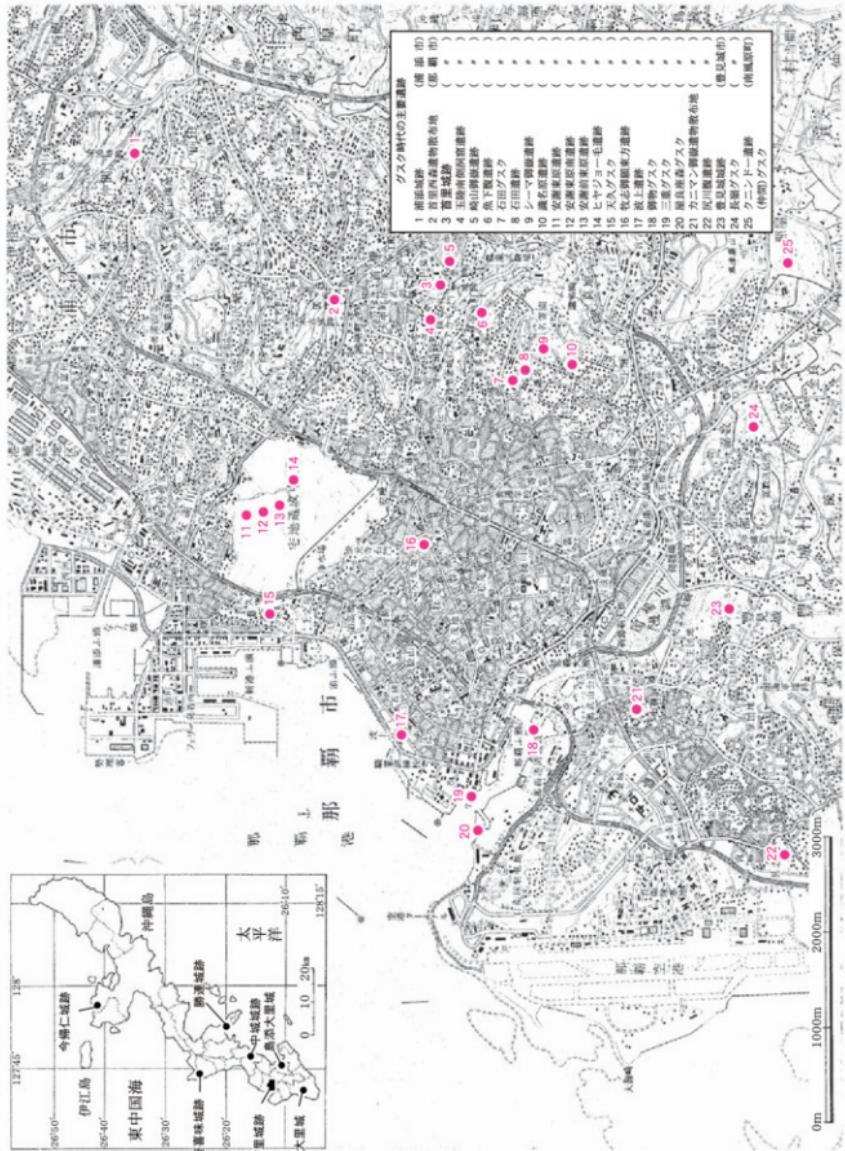
赤嶺雅子、池原直美、石嶺敏子、伊集ゆきの、光嶋香、後藤典子、瑞慶覧尚美、高良三千代、玉城恵美利、玉寄智恵子、友利映子、宮平真由美

資料整理指導（職名等は当時のもの）

向井 瓦（金沢大学大学院）



第1図 沖縄本島の位置



第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

城の下道跡は、首里城北側の城壁に沿って造られた石疊道である。首里城が立地するのは、那覇市北東部の標高100～130mの台地（通称首里台地）上である。この台地は島尻層群（砂岩・泥岩）を基盤に、その上を覆う琉球石灰岩から成っている。首里台地に降った雨水は琉球石灰岩中を浸透し、不透水層である島尻層群に達したあと、両者の不整合部分から湧水として再び地上に現れる。首里城周辺には湧水点が30ヶ所以上あり、現在も住民に利用されている。

首里城跡の東方約1kmのところにある弁ヶ岳（標高165.7m）から連なる丘陵が北西方向に延び、その北裾を末吉川（安謝川の上流）が流れ、首里的北境となっている。首里台地の東南部にもほぼ東西に丘陵が延び、その西端に崎山御嶽がある。首里台地の南に広がる急斜面の裾の谷間には、金城川（安里川の上流）が流れ、首里的南境となっている。首里城はこのような丘陵・川・急斜面に囲まれた自然の要塞の中にある。

城の下の北側には、緩斜面地を挟んで、琉球王の位牌を祀った円覚寺がある。高さ4m以上の石積みに囲まれた琉球最大の寺院である。

首里城と円覚寺との間には高低差がある。また円覚寺は島尻層群上に、首里城は島尻層群の上を覆う琉球石灰岩上にあるため、首里城に降った雨水は、島尻層群に達したあと、城の下道の下を通って、円覚寺方面にしみ出すと考えられる。

＜参考文献＞

沖縄県教育委員会『沖縄県歴史の道調査報告書—国頭・中頭方西海道（1）・弁ヶ岳参詣道—』 1985年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター『円覚寺跡—遺構確認調査報告書—』 2002年3月

第2節 歴史的環境

城の下道が造られる以前、この地は南を首里城、北を円覚寺に挟まれた斜面地であった。

首里城の創建年代については不明な部分が多い。ただし「安國山樹華木碑記」（1427年建立）の記述から、15世紀の初め頃には、首里城の原形が出来上がっていたと考えられる。第二尚氏王統第3代の尚真王は、1494年に円覚寺を造営した。円覚寺は、琉球王の位牌を祀る寺院であった。第4代尚清王は1543～1546年にかけて、繼世門とそれに連なる城壁を整備し、首里城の外郭が完成した。

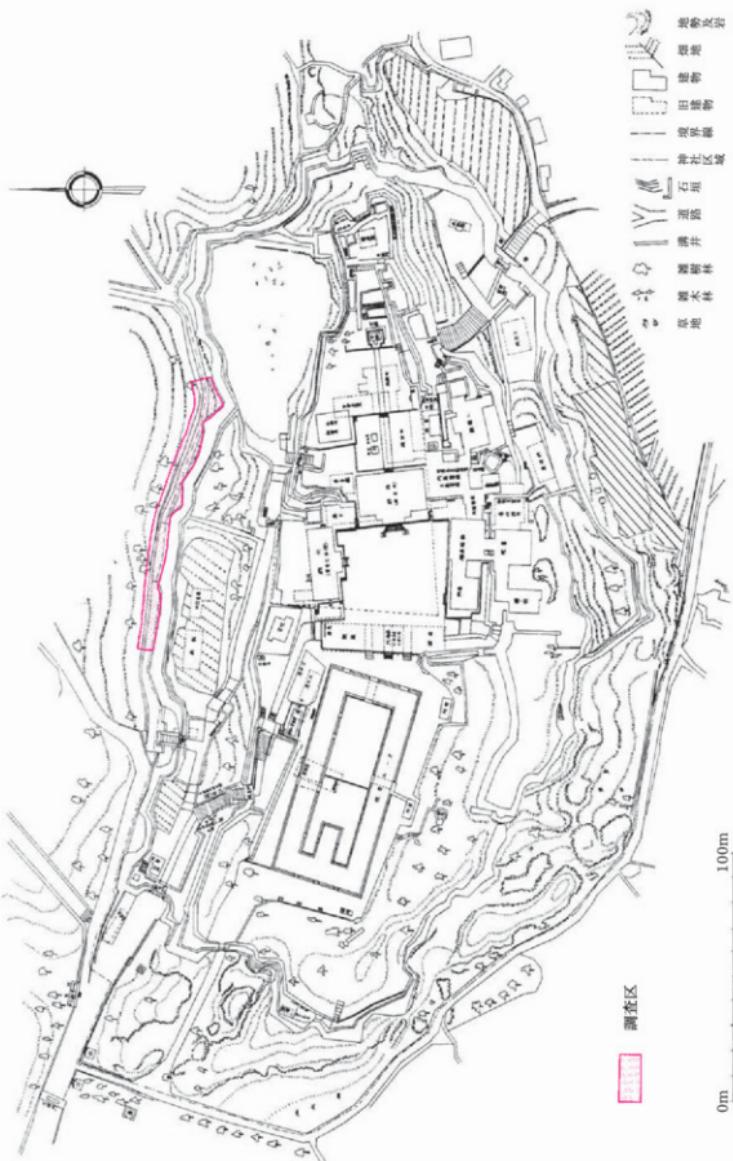
城の下道が造られたのは、『球陽』巻七によると尚貞王五年（1673年）の時である。「首里城と円覚寺との間に道がなく、往来に不便であった。そこで琉球王は家臣に命じて新しく道を造らせ、人々が往来できるようにした。」というのがその内容である。

1877（明治12）年の廃藩置県によって、450年に及ぶ琉球王府の時代に幕がおろされた後、首里城内には熊本鎮台沖縄分遣隊が駐留した。その後も各種の学校が首里城内を利用していなかで、城内の建物などが少しづつ改変されていった。石疊道はこれまでどおり住民の交通路として機能していた。

1945（昭和20）年に終結した沖縄戦直後の首里城は、見渡す限りの瓦礫の山であった。沖縄戦直前まで往時の姿を保っていた城の下道も瓦礫の下に埋もれてしまったと考えられる。

戦後の復興が進む中、1950（昭和25）年に琉球大学が建てられた。城の下道跡には、大学のグランドのスタンド等が建設された。

1982（昭和57）年に琉球大学の移転が終了すると、首里城内外の文化財等の整備が本格化していった。整備に伴い各地に仮設の管理用道路が設置され、城の下道跡地にも道路が走ることになった。今回の発掘調査に先立ち、この仮設道路は撤去され、およそ500年ぶりに石疊道が我々の目の前に現れた。



第3図 旧首里城図（昭和6年頃 坂谷良之進原図 沖縄県立図書館蔵）

第3章 調査結果

発掘調査は平成13年7月16日から開始し、平成14年1月31日に終了した。総面積約1,100m²である。城の下道に接する首里城城壁の発掘調査（調査主体：沖縄県立埋蔵文化財センター）も同時並行で行われていたので、安全管理や重機導入のタイミング、石疊道・城壁の相互関係調査などの面で、協力して作業を進めていく必要があった。なお調査区のグリッドは、沖縄県教育委員会が平成9～13年度に行った、円覚寺跡発掘調査で使用した10m四方のグリッドを使用した。

調査区一帯は、首里城公園の管理用道路があった場所なので、厚い造成土に覆われていた。発掘調査に伴い、大量の掘削土が出ると予想されたため、調査区を東西に二分し、最初に東半分を前半期調査区として調査を開始し、西半分は後半期調査区として土置き場とした。

まず、バックホウで沖縄戦後の造成土を除去し、石疊道の上約1mまで掘り下げた。次に人力によって、調査区南側半分に対してトレーナー（トレーナー1～6）を設定し、石疊道の検出を行った。石疊道は予想以上に残りが良く、両側の石積みもかなり残っていた。トレーナー6の西側では、首里城城壁から派生するようにして東北方向にのびる旧琉球大学の石積み遺構を検出した。石疊道の東端は破壊されていたので、ここにトレーナー7を設定し、石疊道の構造と、石疊道下の土層堆積状況を調査した。同じく石疊道の残りが悪い西端付近でも土層の観察を行った（第11図）。城の下石疊道と首里城城壁に囲まれて出来た「空き地」部分にも、3本のトレーナー（トレーナー8・9・12）を設定し、石疊道と城壁との関係を調査した。

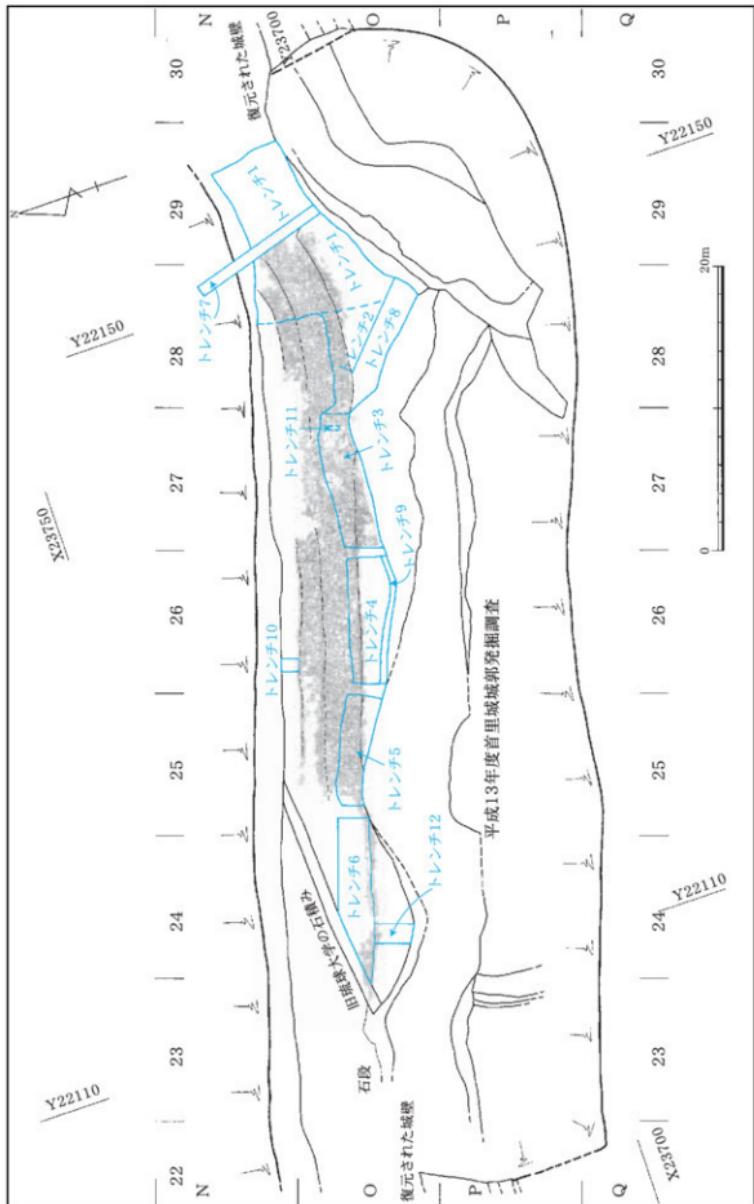
12月18日からは、後半期調査区の造成土撤去にはいった。前半期調査区に比べ遺構の残りは悪く、首里城城壁沿いに僅かに石疊と石段を検出したのみであった。

年が明け、調査が終わりかけた平成14年1月20日に、円覚寺跡、城の下道跡、首里城城壁跡の合同現場説明会を行った。その後遺構全体を土蓋で覆い、さらに土をかぶせ調査を終了した。

平成13年度 城の下石疊道 発掘調査工程表

	7月 上 中 下	8月 上 中 下	9月 上 中 下	10月 上 中 下	11月 上 中 下	12月 上 中 下	1月 上 中 下
磁気探査							
重機による掘削							
前半期調査区							
後半期調査区							
人による発掘							
前半期調査区							
トレーナー1～5							
トレーナー1～5北側							
トレーナー6							
トレーナー7							
トレーナー8							
トレーナー9							
トレーナー10							
トレーナー11							
トレーナー12							
後半期調査区							
石疊道の測量							
空中撮影							
現地説明会							
埋め戻し							
台風16・19号							

発掘調査で得た遺物・図面等は調査終了後に沖縄県立埋蔵文化財センターに持ち帰り、平成14年度から本格的な資料整理を実施した。調査で得られた遺物は遺物収納コンテナに換算して23箱であった。遺物の洗浄・ナンバーリング・分類・集計・実測・撮影・トレース・版組等を行いこの報告書を刊行した。遺物・図面等はすべて沖縄県立埋蔵文化財センターの収蔵庫・記録保存室に保管されている。



第4図 調査範囲 トレンチ配置図 (縮尺 1/300)

第4章 層序と遺構

第1節 層序

今回の発掘調査で確認した層序を大別すると、時期が古い順にⅢ層：首里城外郭整備（1546年までには終了）以前の層、Ⅱ層：首里城外郭整備時から、城の下石垣道造営時（1673年）までの層、Ⅰ層：沖縄戦以後の層に分けることが出来る。以下にトレンチの設定理由と、確認できた層序について説明する。

トレンチ1～5

これらのトレンチは石垣面を検出するために、前半期発掘調査区の南半分に対して、東側から順に設定した。石垣面の直上には厚さ1m以上の造成土が堆積していた。これらは1945（昭和20）年に終結した沖縄戦後に堆積した土である。そしてそのほとんどが首里城公園整備に伴って設置した、仮設道路の造成土である。トレンチ3西壁の4層はⅡ層の可能性があり、それ以外は全てⅠ層である。

トレンチ6

前半期調査区西側に設定したトレンチである。この部分では、石垣道の残りは悪く、首里城城壁側に石積みと、これに接してわずかに石垣が残っている程度であった。2～10cm程のコーラルを敷いた面を検出したが、石垣道に伴うものかは不明である。またトレンチの西端では、高さ約1.7mの旧琉球大学の石積みを検出した。

トレンチ7

調査区の東側、石垣道が途切れた部分に、幅約1m、長さ約10mで設定した。石垣道の下部構造を確認する事と、円覚寺側の石積み外面を検出する事が目的であった。ここではⅠ～Ⅲ層全てを確認した。

Ⅲ層に当たるのが、13～22層である。首里城外郭整備の造成際に掘り込まれたライン（Ⅱ層との境界線）が城壁際に確認出来る。また20層は黒褐色の土であり、首里城外郭整備以前の旧表土の可能性がある。20層からは、グスク土器と見られる細片が1点出土している。

Ⅱ層に当たるのが2～12・23・24層である。特に23・24層は外郭整備時の造成土と考えられる。また2層は沖縄戦直前までの旧表土と考えられる。7層からは高麗系平瓦（銘あり）、10層からはタイのパンブーン窯産と考えられる鉢が出土した。3～12層は、Ⅲ層の可能性もある。

このトレンチでは、2～11層を一部削平して、石垣と石積みを造っていることが確認できた。石垣の直下には直径数cmのコーラルを敷いている。

1層に当たるのが、1層である。

トレンチ7からは、青磁、白磁、褐釉陶器、黒釉陶器（天目）、土器、錢貨、瓦、動物骨など合計32点の遺物が出土した。錢貨は中国南宋時代の咸淳通寶で、初鑄年は1265年である。青磁は4点出土しており、いずれも14世紀中頃～15世紀中頃のものと思われる。瓦は9点出土しており、6点が大和系の平瓦、1点が高麗系の平瓦、2点は不明である。動物骨にはブタ・ウマ・ウシがあり、いずれも解体時にいたと考えられる傷があるものを含んでいる。

トレンチ8

調査区の東側、石垣道と首里城城壁との間に、長さ約7m、幅約2m、深さ約1.5mで設定した。調査の結果、首里城城壁の下部構造である石積みを検出した。

Ⅲ層に当たるのが10層であり、これより上に堆積している土層は全てⅡ層である。

9層は、外郭造営時の際10層を掘りくぼめて、野面積みの城壁を積み上げた後に埋めた造成土である。7トレンチの23・24層に対応すると考えられる。

6層は、直上に石垣・石積みが造られていることから、Ⅱ層となる。6層からの出土遺物には青磁の皿（15世紀前半～中頃）、高麗系平瓦（銘あり）、大和系平瓦、褐釉陶器などが出土している。

7・8層については、Ⅱ・Ⅲ層のいずれかに属する。出土遺物にはタイのシーサチャライ窯産の褐釉陶器（15世紀初頭～16世紀前葉頃）や瓦が出土している。7・8層は出土遺物から見て、Ⅲ層となる可能性が高い。

2～4層は黒褐色であり、これらは石疊道造営以前の表土の可能性がある。ただしトレンチ上端から40cmの範囲からは沖縄戦時のものと考えられる砲弾片や弾丸も出土していること、また2～4層の厚さは約60cmと厚いことから、石疊造営以前～沖縄戦時にかけて堆積・造成した土として時間的に幅をもたせたほうがよいと考えられる。2～4層の直上にある1層についても同様に考えておく。

トレンチ8からは合計370点の遺物が出土した。褐釉陶器が158点と最も多く、金属製品が47点、青磁が37点、沖縄産陶器が30点、瓦が30点出土している。注目されるのは金属製品の中の鉄釘である。37点出土しており、その多くがトレンチ上端から80cm以上の深さから出土している。

その他には、少數ではあるが銅滓とみられる遺物が出土している。そのうち1点はトレンチ上端から80～100cmの地点から出土しており、石疊道造営以前のものである可能性が高い。

トレンチ9

トレンチ4の範囲、石疊と城壁との間に幅40cmで設定した。トレンチ内からは236点の遺物が出土している。トレンチ上端から深さ20cm程度の範囲からは、制服のボタンや沖縄戦時の砲弾片が出土しており、トレンチ8の2～4層と同様な状況である。

トレンチ10

調査区西側、円覚寺側石積みの北側に、幅約1mで設定した。

II層にあたるのが3層である。沖縄戦以前の旧表土の可能性がある。4・5層はII・III層のいずれかにあたると考えられる。人工遺物は1点も出土しなかった。

トレンチ11

調査区東側、石疊破損部に設定した。石疊直下では石灰岩の細かい礫（コーラル）があり、その下にはや粗い礫が敷かれていた。

トレンチ12

調査区西側、石疊道と城壁の間の空き地に設定した。

II層にあたるのが1～4層である。1層は黒褐色の土であり、トレンチ8の2～4層と同じく、旧表土である可能性がある。4層からは青磁の碗（15世紀末～16世紀前半頃）が出土している。

5～7層はII・III層のいずれかにあたると考えられる。6層からはカムイヤキと見られるものや、平瓦片が出土している。5層からは青磁の碗（14世紀末～15世紀初め頃）が出土している。このような出土遺物から、5～7層はIII層である可能性が高い。

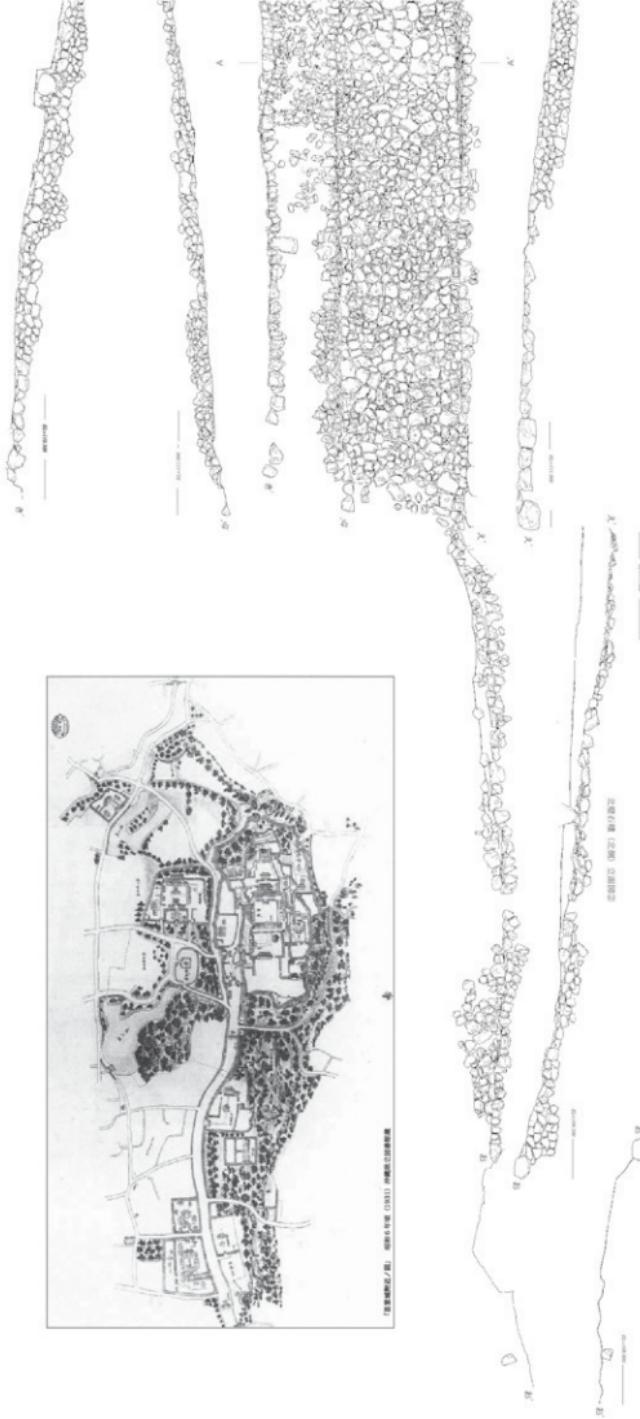
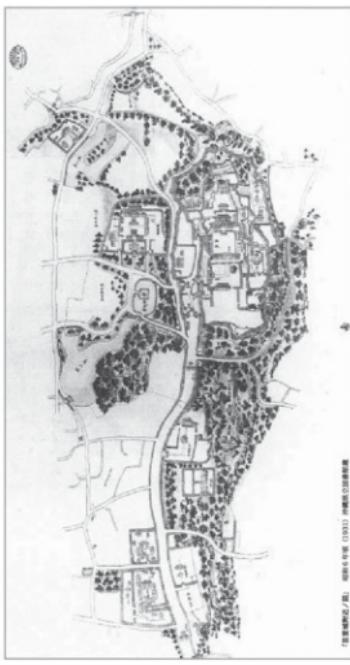
トレンチ全体では、青磁3点、白磁2点、沖縄産陶器1点、簪1点が出土している。沖縄戦時のものと考えられる砲弾片が1層から出土している。

石疊西端部土層図

調査区西側O-25グリッドの、石疊道が大きく削平されている部分である。トレンチ7と同様に、石疊道の造成方法を調べるために調査した。

II層にあたるのが1層である。石疊道直下に敷かれたコーラルを多量に含む。

2～8層は、II・III層のいずれかにあたると考えられる

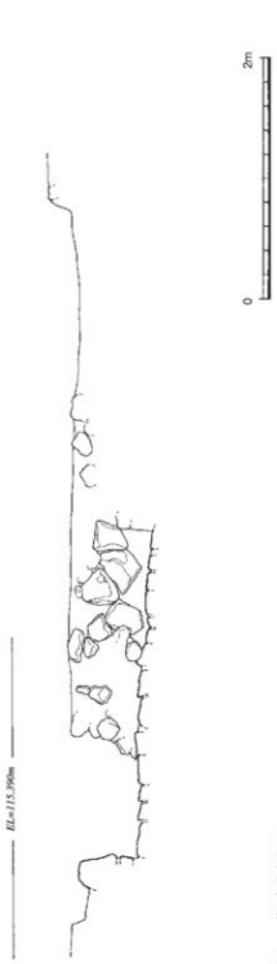


第5图 石质道路路面

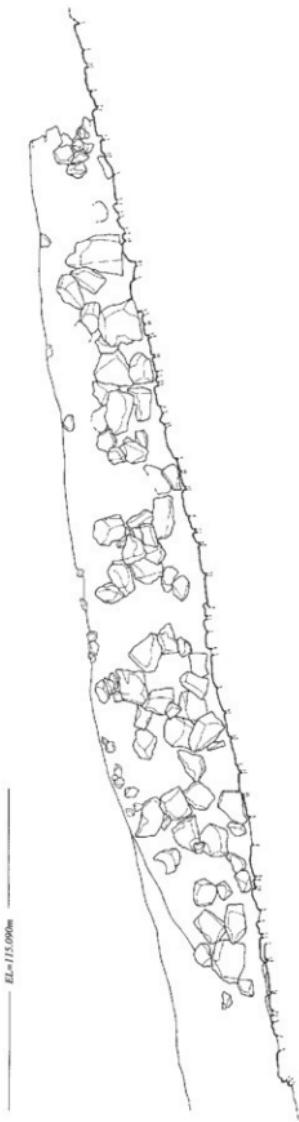


第6図 トレンチ1・2 土層図

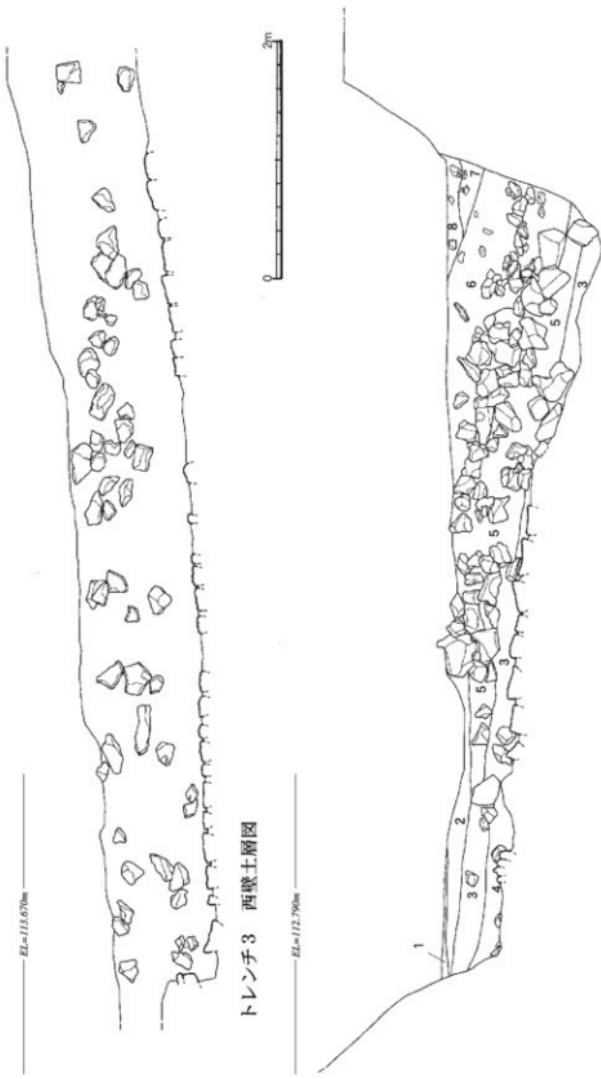
トレンチ1 西壁土層図



トレンチ2 北壁土層図



トレンチ3 北壁土層図

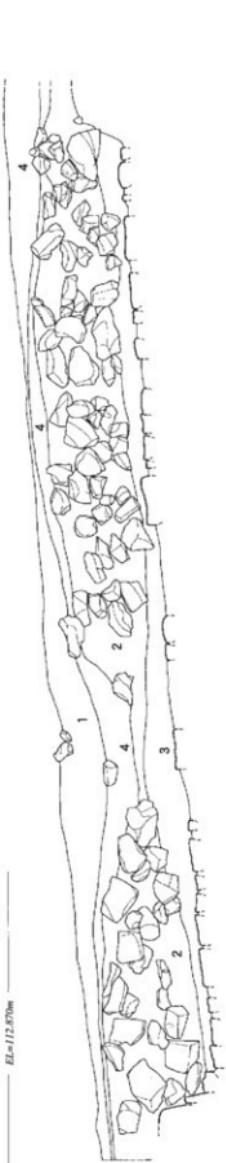


- 14 -

第7図 トレンチ3 土層図

トレンチ3番号					参考	
	土壤番号	色	質	厚さ(cm)		
3 西壁	1	明黄色砂質土	砂質土	2~6	4層以外は後世の堆積層と考えられる。固く結まる。	
	2	黄褐色砂質土	砂質土	5~15		石炭岩層(多量)
	3	黑褐色砂質土	砂質土	3~22		
	4	褐色	粘土質土	9~20		風成、陶器、石炭岩小塊
	5	石炭岩層	砂質土	15~56		
	6	灰褐色砂質土	砂質土	2~83		青磚、レンガ、甃瓦、瓦、植株、井戸周辺無機物混在など
	7	黄褐色砂質土	砂質土	2~18		
	8	黒褐色砂質土	砂質土	2~13		

トレンチ4 北壁土層図



トレンチ番号		土層番号	色	質	厚さ(cm)	混入物	備考
4	1	1	褐色	砂質土	3~30	瓦、陶器、小礫	トレンチ5の1層に付点。
	2	2	石炭岩	砂質土	6~68	瓦	トレンチ3の5層に付点。
	3	3	黒褐色	砂質土	8~32		トレンチ3の3層に付点。
	4	4	黒褐色	砂質土	4~26	瓦、石灰岩小礫	

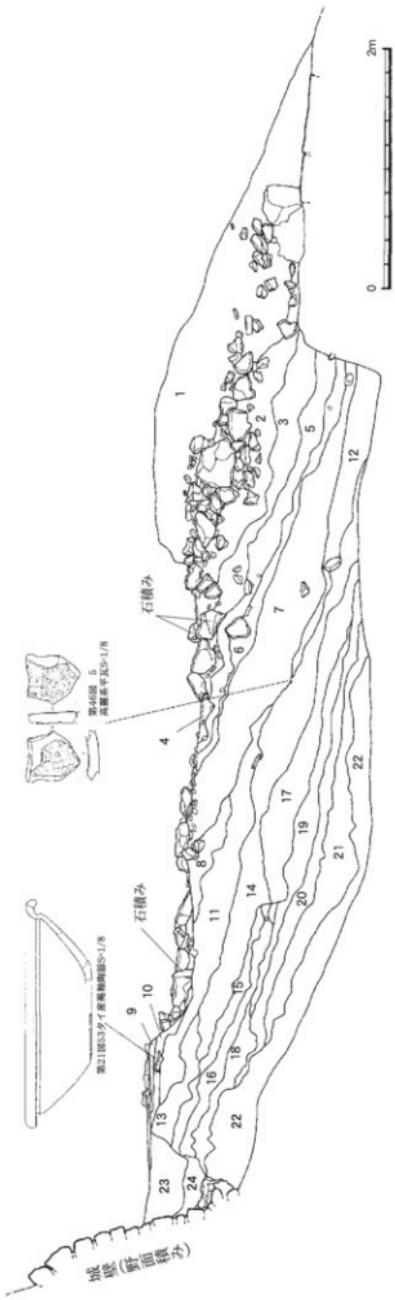
トレンチ5 北壁土層図



トレンチ番号		土層番号	色	質	厚さ(cm)	混入物	備考
5	1	1	褐色	砂質土	2~23	瓦、陶器、小礫	トレンチ4の1層に付点。
	2	2	石炭岩	砂質土	2~85		トレンチ4の2層に付点。
	3	3	黒褐色	砂質土	2~20		トレンチ4の3層に付点。
	4	4	黒褐色	砂質土	2~32	瓦、石灰岩小礫	
	5	5	褐色	砂質土	20~32		少し骨を帯びる。固く緻まる。

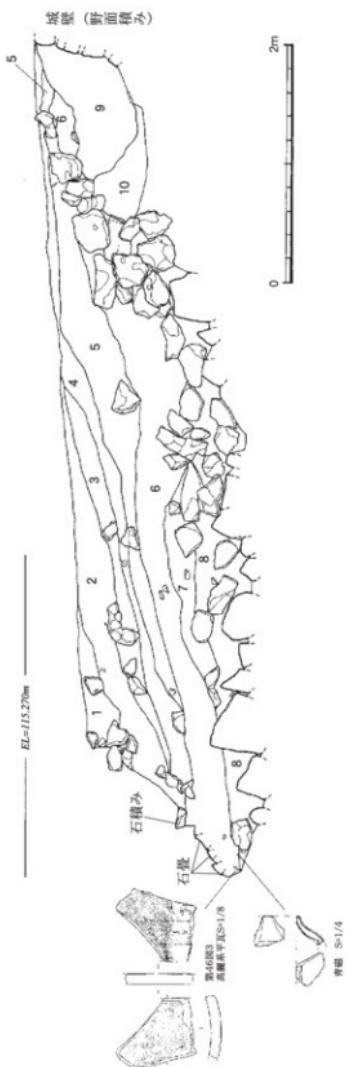
第8図 トレンチ4・5 土層図

E1=1/17.270m



トレンチ番号	土壌番号	色	質	厚さ(cm)	見	土壌番号	色	質	厚さ(cm)	見
1	赤リード色			8~90	褐色風化、赤色外縁風化薄層	透視土	13	に赤い済州島土色の赤色土	2~21	小粒なクサヤ板(多頭)
2	黒褐色			5~37	褐色風化薄層(アマモ付着)、赤色外縁風化薄層(アマモ付着)		14	黒褐色	5~36	小粒なクサヤ板(多頭)
3	暗灰褐色			4~30	褐色風化薄層(アマモ付着)、赤色外縁風化薄層(アマモ付着)	全体よく變る。	15	褐色風化薄層(アマモ付着)、赤色土	2~15	小粒なクサヤ板(多頭)
4	暗灰褐色			2~7	褐色風化薄層(アマモ付着)、赤色土(よく変入)	よく變る。	16	黒褐色	5~19	青色、灰、赤土
5	に赤い済州島土色			4~26	褐色風化薄層(アマモ付着)、赤色土(よく変入)	全体は變る。(手に握るとサラサラしている。)	17	黒褐色	5~30	小粒なクサヤ板(多頭)、赤色土
6	黒褐色	少粘性		3~19	褐色風化薄層(アマモ付着)、赤色土(よく変入)	してある。	18	褐灰色	2~20	細い済州島土色
7	7	6~50			クチバツ風化薄層(アマモ付着)、	全粒に風化する。	19	に赤い済州島土色の赤色土	2~31	風化した(ごくくゆか)
8	灰褐色	二二二に似たき の細かな手触り		4~20	風化薄層(アマモ付着)	全粒に風化する。	20	黒褐色	2~18	風化した(土野(グスク風))
9	黒褐色			2~5	褐色風化薄層(アマモ付着)	全粒に風化する。	21	に赤い済州島土色	2~32	風化した(土野(グスク風))
10	褐褐色			2~7	褐色風化薄層(アマモ付着)	全粒に風化する。	22	褐灰色	2~38	風化した(土野(グスク風))
11	に赤い済州島土色 (透)	粒(細かく風化)に (透)		3~32	褐色風化薄層(アマモ付着)、赤色土	細粒化したややや風化。	23	に赤い済州島土色	3~38	クサヤ風化薄層
12				2~23			24	黒褐色	5~15	クサヤ

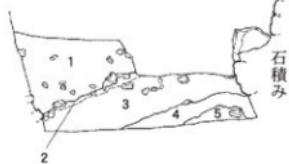
第9図 トレンチ7 西壁土層図



トレンチ番号	土層番号	色	質	厚さ(cm)	混入物	備考
1	暗オリーブ褐色	砂質土	2~29	(穢(多量)、貝、マイマイ)		
2	黒褐色	褐鉄陶器、瓦(多量)、石灰岩細片(多量)、貝、マイマイ	2~22	褐鉄陶器、瓦(多量)、石灰岩細片(多量)、貝、マイマイ	かなり固く締まる。	
3	黒褐色(のぼりやや崩る)		2~18	細礫、石灰岩細片	固く締まる。	
4	黒褐色		3~22	瓦、等サイズ(小量~多量)、マイマイ、貝、遺物も比較的散見される。		
5	褐色	砂質に近似	2~43	瓦、石灰質殻、マイマイ、小さなクチャ塊	見た目6層より色調の差み強く、手に取ると 溶け口が口ほどぞ。	
6	暗赤黄色(褐(色調))		16~50	褐鉄陶器、瓦、青磁、礫(多量)、上層近くから貝、マイマイ(礁か)		
7	オリーブ褐色	粘質土(10層と断続)	11~24	瓦、石灰岩細粒	固く締まる。粘土性も比較的ある。	
8	暗灰褐色	混合礫層	15~48	褐鉄陶器。礫の隙間を土が埋める風。	粘土性弱い。	
9	黄褐色	粘質土	23~62	青磁。導火管の殻、石灰岩細粒	粘土性それほどなく、手に取ると溶け口が口ほど する。	
10	灰オリーブ色	粘土(底生植物)	5~41	ほとんど見られない。	かなり締まる。	

トレンチ10 東壁土層図

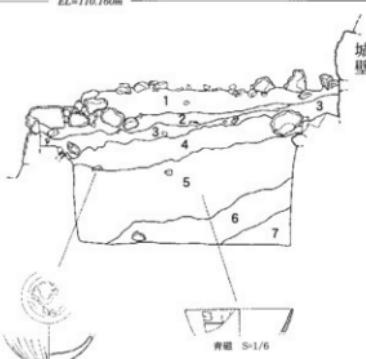
EL=111.140m



トレンチ番号	土層番号	色	質	厚さ(cm)	混入物	備考
10	1					戦後の造土。
	2			2~8	石灰岩片、石炭質 粘土質が混入。	
	3	暗灰黄色	粘質土	14~36	礫・コラル(石 炭岩)・泥灰粒(石 炭岩)・全体的に多 い)、貝・貝(若干)。	あまり縦まり は強くない。 全体的に石炭土 の可能性。
	4	オリーブ 褐色	粘質土	10~18	礫かいしチャコラ(少 量)、赤色土粒(少 量)。	全体的によく 縦まる。
	5	にぶい黄 褐色(褐色 より黄褐色 へと変化を 示す)	粘質土	2~12	石灰岩片、赤色 土粒、灰(僅か)	

トレンチ12 東壁土層図

EL=110.160m

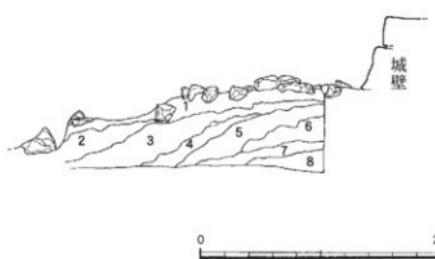


第12回22青緑S-1/6

トレンチ番号	土層番号	色	質	厚さ(cm)	混入物	備考
12	1	黒褐色	砂や粘 性有り (崩れ)	5~25	コラル・石灰岩片(石 炭岩が多い)、貝・貝片、 マダラ・貝殻片多い。	
	2	オリーブ 褐色	1層に ほぼ同 じ	4~17	青磁、1層と同様、礫・ コラルも多いが、1層 の量が少ない。ラム量はや やかな。	縦く縦まる。
	3	オリーブ 褐色(褐色 より黄褐色 へと変化する)		3~19	青磁、小なクチャコラ 石灰岩片(數ミリ)り~1cm 大)や石灰質貝立つ。 赤色土粒(僅か)	
	4	オリーブ 褐色	粘質土	5~25	青磁、小さなクチャコラ 石灰岩片(数ミリ)立つ。 砂が立ち、石灰岩片 灰(僅か)量も見られる。	全体的に よく縦まる。
	5	オリーブ 褐色(褐色 より黄褐色 へと変化する)	粘質土	36~65	青磁、赤色土粒、灰、礫・ 石灰岩片(僅か)目立つ。	全体的に 縦く縦まる。
	6	オリーブ 褐色(褐色 より黄褐色 へと変化する)	粘質土	5~28	カムイイヤナ、灰瓦、 クチャコラ、赤色土粒(多量) 石灰岩片(僅か)	縦く縦まる。
	7	黄褐色	粘質土 (リチャード)	2~32	砂(数ミリ)多く有り、骨(骨) 骨(骨)は見られない。 遺物なし。	縦く 縦まる。

石畳道西端部東壁土層図

EL=110.760m



トレンチ番号	土層番号	色	質	厚さ(cm)	混入物	備考
石畳道西端部 東壁土層図	1	黒褐色	泥コラル 土層	3~18	礫・コラル(多量)、骨か い石灰岩片(石灰岩片) や灰、赤色土粒(多量)、遺 物など見られる。	骨の下の 層。
	2	オリーブ 褐色	粘質土	2~20	石灰岩片(若干)、骨か い石灰岩片(石灰岩片)	全体に縦く 縦まる。
	3	オリーブ 褐色	粘質土	2~32	クチャコラ、石灰岩粒(全体) 赤色土粒(僅か)、遺物なし	全体に縦く 縦まる。
	4	オリーブ 褐色(褐色 のみ)	粘質土	2~15	石灰岩粒(僅か)、 クチャコラ、石灰岩片 灰(僅か)、遺物なし	全体に縦く 縦まる。
	5	黄褐色	全剖面によく 縦つき粘質 土(リチャード)	15~26	ほんとんど見られない、遺 物なし。	全体によく 縦まる。
	6	オリーブ 褐色	粘質土	4~20	小さなクチャコラ、石灰岩粒 赤色土粒はほんと見え れない。	全体によく 縦まる。
	7	オリーブ 褐色	粘質土	7~12	6層のようなクチャコラ はあまり見られない。	全体によく 縦まる。
	8	黄褐色	粘土(チチ)	2~17	石灰岩粒、赤色土粒はほん ど見られない、遺物なし。	全体によく 縦まる。

第11図 トレンチ10・12・石畳道西端部土層図

第2節 遺構

今回の発掘調査で検出した遺構は、石疊道とそれに伴う石積み・石段、石疊道と城壁の間の空き地（以下「空き地」と仮称する）である。

1 石疊道

石疊道は幅約2.6～3m（両側の石積みを含めると約5m）、東西長約40m、総面積約170m²を検出した。道は西に向かって下っており、その角度は約11度である。また道の横断面図を見ると、円覚寺側（北側）に向かって3～7度でゆるやかに傾斜していることがわかる。

使われた石材は全て琉球石灰岩である。琉球石灰岩は那覇石灰岩・牧港石灰岩・読谷石灰岩の3者に大別されるが、石疊道に使われた琉球石灰岩は全て那覇石灰岩である（神谷厚昭氏の御教示による）。

石材の形態は長さ10数cm～50cm前後で不正多角形、厚さ10cm前後の石である。長年に渡って人が歩いた結果、石の表面はツルツルに摩耗していた。築造工程や意匠を示すような目地は確認出来なかった。石疊の直下には直径2～10cmほどのコーラルを敷いていることが、トレーナー7などの観察からわかった。

2 石積み

石疊の両側で石積みを検出した。首里城城壁側（南側）と円覚寺側（北側）とでは、規模や構造・残存状況などに少し違いがある。

1. 首里城城壁側の石積み

首里城城壁側の石積みは、主に20cm前後の石を、あいかた積みで4～5段積んでいる。天端は直線となるよう石を切りそろえている。石疊面からの高さは約60cm、鉛直方向に対する傾斜角は5度である。また首里城の城壁が北側に張り出している部分については、城壁を代用しつつ石積みが形成されている。石積みの裏側（南側）には裏込め石と考えられる拳大の礫が少量見られる（トレーナー7・12）。城壁側の石積みは、城壁と石積みとの間に空き地部分の土が流出するのを抑える、土留めの役割が大きいようである。

2. 円覚寺側の石積み

円覚寺側の石積みは、南北に面を持つ石積みである。いずれもあいかた積みのようであるが、首里城城壁側に比べ、やや雑な印象を受け、野面積みのような部分もある。

南側（首里城側）については20cm前後の石を4段以上積んでいる。

北側（円覚寺側）については、まず40cm前後の大きめの石を1・2段積み、そこから30cm奥まった所から、20cm前後の石を積み上げている。石積みの高さは残りが良い部分で1.2mである。

円覚寺側の石積みについては全体的に残りが悪く、不明な部分が多い。以下は戦前の様子の聞き取り調査結果である。南側の石積みの高さは子供の肩あたりまでで、簡単にはのぼることができなかった。天場の幅はおよそ3尺（約90cm）であった。北側石積みと円覚寺との間は樹木や草が生い茂り、鬱蒼としていた。昼間でも暗いほどで、石疊道から円覚寺の建物はほとんど見えなかつた。また地面は円覚寺に向かって自然に傾斜していた。

3. 石段

石疊道西側で検出した石段であるが、ほとんどが破壊されている。故坂本万七氏が戦前に撮影した石疊道の写真（巻頭図版3）に写っている石段であると考えられる。段数は1段である。「旧首里城図」（第3図）の城の下道部分をよく見ると、道を南北に横断する2本の線が見える。このうち左側については、今回の調査で検出した石段と場所がほぼ一致する。このことから2本の線は、石段を表現している可能性が高い。

4. 空き地

空き地とは、石疊道と首里城城壁との間に空き地がある部分の仮称である。空き地には石疊・石積みといった構造物ではなく、地面が広がっている。今回の調査で確認した3か所の空き地について、東から順に1～3の番号をふって、

以下に説明する。

空き地1については、上からみると不整三角形をなしている。この部分に関しては、首里城の城壁に新旧関係がある。右掖門方向に繋がる城壁（旧城壁と仮称）と、その城壁に取り付いて西に延びる城壁（新城壁と仮称）である。上からみると、旧城壁に対して新城壁がほぼ直角に取り付いていること、道自体が北東方向に曲がりかけていることが、不整三角形になった理由である。

また旧城壁については、下の部分が野面積みで、その上が布積み・あいかた積みという特殊な状況であった。新城壁に関しては、野面積みではなく、布積み・あいかた積みであった。

空き地2・3は上から見ると凸レンズ形であり、空き地2は東西に長い。

空き地の表面には、黒褐色の土があり（トレンチ8・10）、陶磁器等に混じって沖縄戦時の砲弾片等が出土している。石疊造営以前～沖縄戦時までに堆積した旧表土である可能性がある。

第5章 遺物

今回は遺物コンテナに換算して23箱分の遺物が出土した。陶磁器・屋根瓦・貝類・獸骨・金属製品・石製品・骨製品等に大別できる。各種遺物については代表的なものを報告し、その他は集計表で示した。

第1節 青磁

青磁は合計897点が出土した。器種別にみると、碗が大半を占める。時期的には14世紀末～15世紀頃の例が主体を占める。胎土は灰白色が多く、灰色・浅黄橙色なども少数ある。同じ青磁釉でも緑灰色・灰緑色・オリーブ灰色など微妙に異なり、透明度も様々である。

1. 碗

口縁部の形態と文様により分類した。

<口縁部>	<文様>	<図番号>	<口縁部>	<文様>	<図番号>
I 直口	A無文	6,7,10	II 外反	A無文	12,13,14
	B蓮弁文	a幅広 8 b幅狭 1,3,4,5,9		B蓮弁文	a幅広 なし b幅狭 15
	C雷文帯	2		C雷文帯	11

他にも少量ではあるが、口縁部が直口で、玉縁状の例がある。

底部資料については内・外面の施釉範囲によって以下のように分類した。

<置付>	<高台内>	<見込>	<図番号>	<置付>	<高台内>	<見込>	<図番号>
I 施釉	A総釉 B無釉	c蛇の目無釉 a総釉 b無釉 c蛇の目無釉 - a総釉	…なし …23 …なし …なし …16,22	II 無釉	A総釉 B無釉	c蛇の目無釉 a総釉 b無釉 c蛇の目無釉 - a総釉	…17 …18,19,20 …なし …21 …なし

2. 盤

口縁部が直口・外反するものに大別でき、文様の有無で細別した。また稲花の資料が少數ある。

3. 盤

口縁部が外側に平坦に折れ曲がるもの（鰐縁）については、端部まで平坦な例と、端部を摘み上げる例に大別できる。さらに文様の有無で細別した。

口縁部が平坦な例については、幅広い例（35,41）と、幅がせまくぶ厚い例（40）がある。

口縁部を摘み上げる例についても、摘み上げが大きい例（39）、小さい例（37,38）、ゆるやかにカーブを描いて立ち上がる例（36）がある。

また少量ではあるが、口縁部が直口で、やや玉縁状の例がある。

<参考文献>

上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁碗』NO.2 1982

第2表 青磁出土状況

器種・分類	出土地	トレンチ												石量(重)	石器面下	石頭内	城壁下	鰐覆土	客土	表探	不明	合計
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13										
調 (583点)	口縁部 直口 外反 平縁 その他 茎弁 茎文 無文 その他 B無地 C絶無 I 目 直種 不明 A絶種 B絶種 II 無種 口折 口斜 桜花 輪花 東花文 胸部 底部	八無文	25	1		1	2		1										29	2	2	58
		A絶地	2				2												12			16
		B無地	17	3	5		2		6									22	3	1	59	
		C無文	2	1			1	1										10			16	
		その他	1	1														16	1	1	19	
		A無文	15	5			1	2	2		4							29	3	2	63	
		B無地	1																		1	
		C無文	1																		1	
		その他	1															6			10	
		その他	1															3			3	
		茎弁	18	4	1	1	1											2	2	2	55	
		茎文																1			2	
		無文	33	5	1		4	1	10									4	1	86	11	6
		その他	2	1														1			7	
		B無地	1					5		2								17	1		27	
		C絶地	3															5	1	1	13	
		a絶地																1			1	
		b無地																1			1	
		不明																5			10	
		直口																1			1	
		外反																1			1	
		口折																2			2	
		桜花																1			1	
		輪花																5			2	
		東花文																1			1	
		胸部	5															8			13	
		底部	7	1			1		3	4	4							22	4	4	50	
重 (99点)	口縁部 直口 外反 口折 無種 口斜 桜花 輪花 東花文 胸部 底部	口～底																			1	
		直口	有文															23			45	
		直口	無文															1			4	
		直口	無文															1			4	
		外反	無文															1			4	
		口折	有文															1			1	
		桜花	有文															1			1	
		輪花	無文															5			2	
		東花文	無文															1			1	
		胸部	5															8			13	
盆 (135点)	口縁部 直口 外反 口折 無種 口斜 胸部 底部 蓋 (5点) 瓶 (5点) 瓶 (5点) 器 (3点) 酒呑器 (1点)	口～底	その他	3																	3	
		口縁部	體地	19	1		9	1		5								2	21	1	4	54
		口縁部	その他	4														6		1	11	
		口縁部	有文	1			1											3	1		6	
		口縁部	無文	5	1	1	1		2									14	2	3	30	
		口縁部	その他	1														4			5	
		底部	4	2					1									14	2	3	26	
		蓋or瓶 (1点)	底	1																	1	
		蓋 (5点)	口縁部						1									1			2	
		瓶 (5点)	胸部	1					1									4			6	
		瓶 (5点)	底部	2														2		1	5	
		器 (3点)	胸部																		1	
		酒呑器 (1点)	胸部						2									2			3	
		蓋 (1点)	底部	1														1			1	
鉢	(7点)	口縁部	直口															3		1	5	
		直口	外反															1			1	
		制部		1																	1	
		制部	胸部															1			1	
		制部	底部															1			1	
		口縁部																1			1	
		水庄	口縁部																		1	
		(2点)	把手															1			1	
		香炉?	口縁部															1			1	
		蓋 (4点)		3														1			4	
		食器 (13点)	口縁部																		1	
型物か袋物 (1点)	(21点)	口縁部	2	2			1		4									3			12	
		制部																1			1	
		口縁部	4						1									4		1	10	
		把手?							1									2			2	
		底部	1															1			1	
		不明																			1	

合計

197 28 7 6 4 37 8 3 53 4 18 3 453 37 39 897

第3表 青磁観察一覧

単位: cm

番号	器種	部位	分類	口径 底径 器高	船上	船裏	ピンホール・貫入	器形・文様など	出土地点
1			I-B-b	17.0 —	白色	不透明で黄色がかった明緑灰色釉 薬が、全面にやや厚くかかる。	ピンホールが内・外面に 多い。	鉢の可能性あり、神劍の運 弁文。	客土
2			I-C	17.6 —	灰白色	オーラーク灰色の釉薬が全面にかか る。	なし	内面に雷文帯・格子に四 角の文様。	客土
3			—	12.3	—	—	—	—	トレンチ3 黒色上
4			B-b	14.6	灰白色	灰緑色釉が全面にかかる。ガラス質 で気泡はない。	なし	口縁部外面に波状文	P-26-27 石鏡面
5			I-B-b	14.4 —	淡黄色で黒色粒を少 し含む。	不透明で銀灰色釉薬が、全面にかか る。	ピンホール・貫入が内・ 外面に多い。	繪刻の運弁文。焼成不良。	客土
6			—	12.0	—	—	—	—	トレンチ3 黒色土
7			I-A	15.4	灰白色	緑灰色釉が全面にかかる。	なし	—	—
8		口～ 肩部	—	16.8	灰色で一部浅黄褐 色	不透明(白粉をふいた感じ)な緑灰 色釉が全面にかかる。	ピンホールが内・外面に 少しある。	口縁部外面に、釉がけは て出来た磨削面がある。燒 成不良。	トレンチ8 0-20cm
9			I-B-a	—	—	やや不透明な明灰緑色釉が全面に かかる。	なし	鉛垂りの運弁文。	客土
10			I-B-b	9.9	白色	オーラーク灰色の釉薬が全面にかか る。	なし	片切り彫りの運弁文。	トレンチ8 黒色上
11			I-A	—	白色で黒色粒を少 し含む。	不透明で黄色がかった明緑灰色釉 薬が、全面にかかる。	貫入が内・外面に多い。	玉縁状の口縁部。	トレンチ7 黒色上
12	瓶 身・ 底盤		II-C	15.8 —	灰白色	不透明でやや白っぽい灰緑色釉が 全面にかかる。	なし	内面に刻花文。	トレンチ8 100-120 cm
13			—	12.6	灰白色でやや紺質。	不透明で緑灰色釉が全面にかかる。	なし	—	トレンチ9 0-20cm
14			II-A	14.8	灰白色	オーラーク灰色の釉薬が全面にかか る。	なし	—	トレンチ7 黒色上
15			—	16.8	灰白色	灰緑色釉が全面にかかる。やや分厚 い。	なし	龍泉窯か。	トレンチ4 北朝石機 ア
16			II-B-b	8.5	—	若干青みを帯びた灰緑色釉が全面 にかかる。	なし	外面に片切り彫りの痕跡。 内面に丸彫りの菊花文、口 部に削り残り。	トレンチ3
17		肩部～ 底部	I-C-a	6.2	灰白色で黒色粒を少 し含む。	—	貫入が外面上に少しある。	瓶部内面に草書体文、見 込みに十字花文・八宝文。	トレンチ3 黒色土
18			II-A-c	—	灰白色	やや不透明な明灰緑色釉が全面に かかる。	貫入が内・外面上に少しあ る。	見込みがぼむ。	客土
19			II-B-a	5.9	灰白色でやや紺質。 黒色粒を少し含む。	不透明なオーラーク灰色釉がかかる。	ピンホールが内・外面上に 少しある。	泉州窑系か。ヨコロは左回 転。	トレンチ3 黒色土
20			I-B-a	5.5	灰白色	不透明な明灰緑色釉がかかる。	なし	ヨコロは左回転。全体に風 化。	トレンチ8 100-120 cm 黒色土
21			II-B-c	—	5.7	灰白色	不透明なオーラーク灰色釉がかかる。	見込みに團練・草書文、ヨコ ロは左回転。	客土
22			I-C-a	—	5.7	灰白色	やや不透明な明灰緑色釉がかかる。	泉州窑系か。見込みに印 花文。	トレンチ12 (2)
23			I-B-a	—	5.2	灰白色	やや不透明な明灰緑色釉がかかる。	ヨコロは左回転。見込みに印 花文。	P-26-27 石鏡面
24		口～ 底部	—	9.6 5.0 4.8	灰白色	若干青みを帯びた灰緑色釉がかかる。	なし	豊肥りの運弁文。見込みに印 花文。背付に所々露胎。	トレンチ7 黒色土
25			菊文	12.2	灰白色	透明に近い明灰緑色釉(ガラス質) が全面にかかる。	ピンホールが内・外面上に 少しある。	繪刻の運弁文。	客土
26		口～ 肩部	外反 黒文	—	灰白色	不透明で黄色がかった明灰緑色釉 薬が、全面にやや厚くかかる。	なし	口肩部は玉縁状。	客土
27			横花 黒文	11.2	灰白色	不透明で黄色がかった明灰緑色釉 薬が、全面にやや厚くかかる。	—	口縁部直下に2本、側部に 1本の團練。ヨコロは左回 転。	トレンチ3 黒色土
28			外反 黒文	11.4	灰白色	若干暗いオーラーク灰色の釉薬が全面 にかかる。	ピンホールが内面上に瘤か にある。	口肩部は玉縁状。	トレンチ3 黒色土

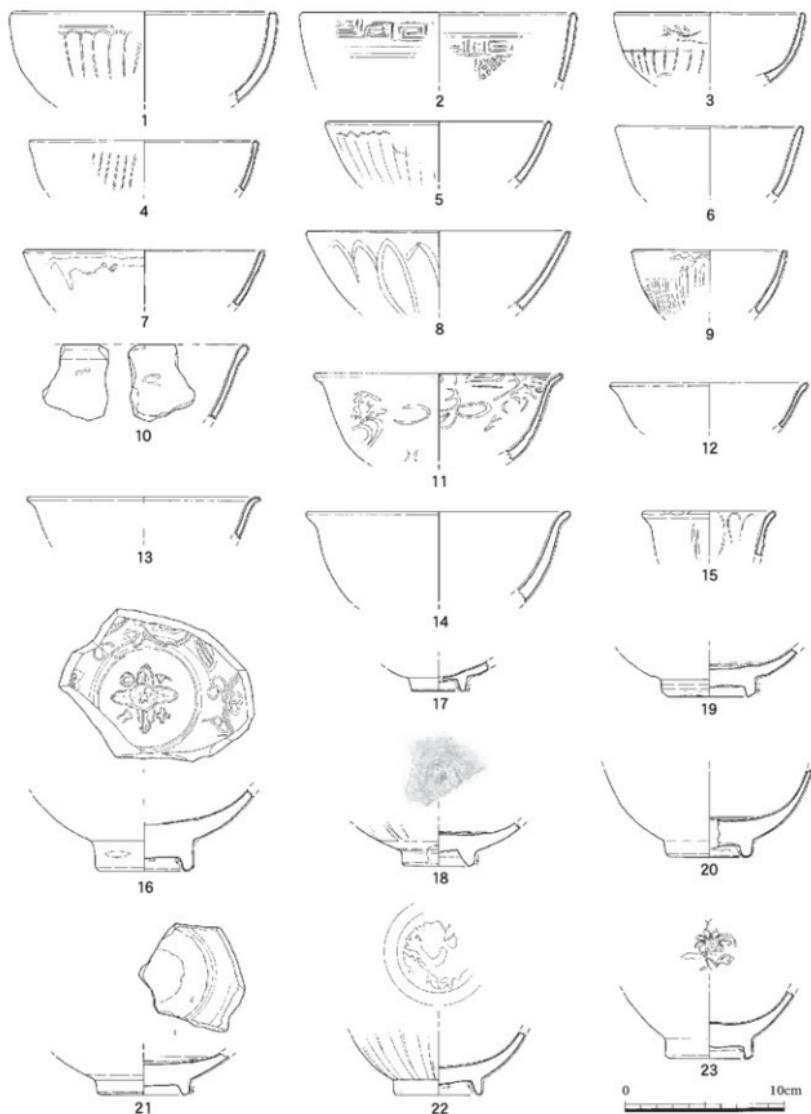
注「-」:計測不可

第3表 青磁觀察一覧

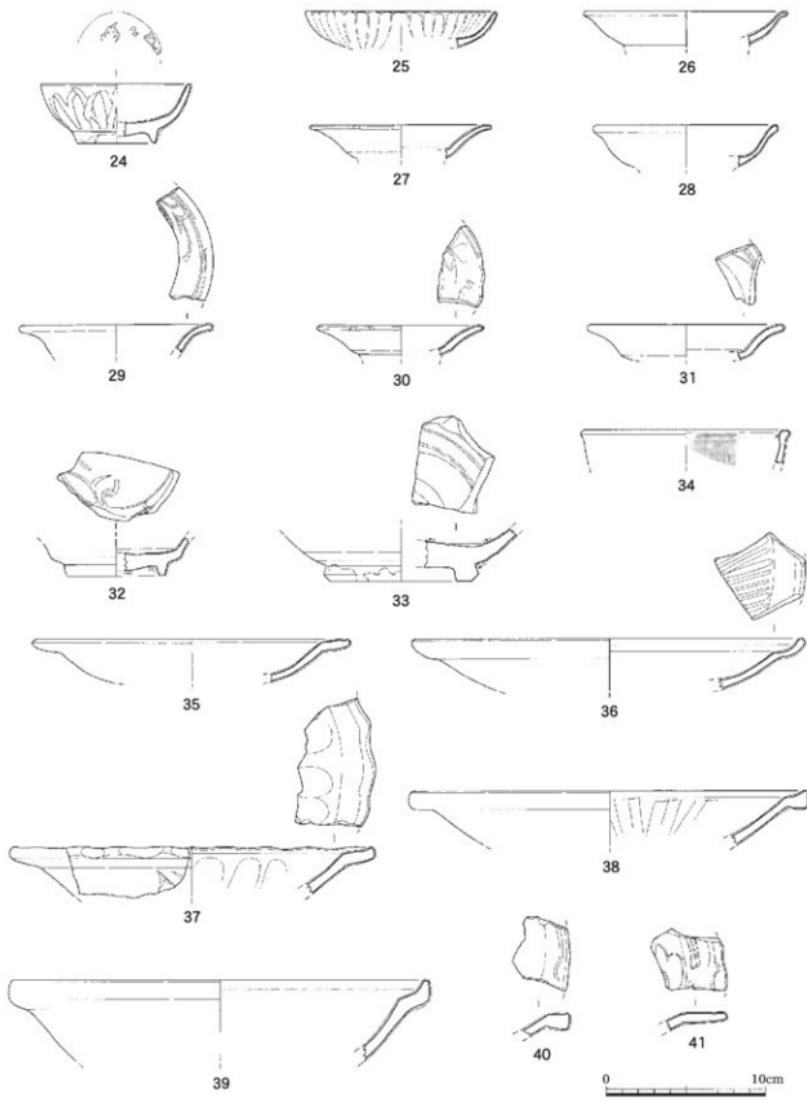
単位:cm

図面号	器種	部位	分類	口径 底径 高さ	鉢土	釉裏	ピンホール・貫入	器形・文様など	出土地點
29	外反 有文	口～ 胸部	12.5	灰白色、黒色、白色 粒を少し含む。	不透明で黄色がかった明緑灰色釉 裏が、全面にかかる。	なし	内面に團練と文様。	客土	
30			10.4	灰褐色、墨色、赤色 粒を少し含む。	灰オリーブ釉裏が全面にかかる。	ピンホールが内・外面に 多い。	縞花	P-26・27 石登面	
31			12.6	灰白色	不透明でやや白っぽい灰緑色釉が 全面にかかる。	なし	内面に2本の團練と文様。	レンヂ3 黒色土	
32	外反 有文	胸～ 底部	6.2	灰白色	不透明でやや白っぽい灰緑色釉が かかる。	なし	横折れ八角風。	レンヂ3 黒色土	
33			9.0	灰白色	明オリーブ灰色。	貫入が内・外面に多い。	内面に印花文。蛇の目高 台。	P-26・27 石登面	
34			13.4	灰白色	不透明でやや白っぽい灰緑色釉が かかる。	なし	内面は露胎。1cmあたり6本 の浅い割り目。	客土	
35	縞花	口～ 胸部	20.2	灰白色	黄褐色釉が全面にかかる。	ピンホールが内面に少し ある。	施成不良。	レンヂ8 80-100cm 褐色土	
36	縞花	縞 平坦	25.0	灰色	オリーブ灰色の釉裏が全面にかかる。	貫入が内・外面に少しある。	内面に連弁文。	レンヂ8 0-20cm	
37			23.2	淡黄褐色	やや明るい黄褐色釉が全面にかかる。	貫入が内・外面に多い。	縞花。輪郭の蓮弁文。	レンヂ8 0-20cm	
38			23.4	灰色	暗オリーブ灰色釉がかかる。	なし	幅広の蓮弁文。	客土	
39	縞 桶み上げ	口～ 胸部	26.6	淡黄褐色	やや明るい黄褐色釉が全面にかかる。	ピンホールが内・外に 特に、貫入約・外面 に多くある。	縞花。内面に連弁文か、口 縦部平坦面に花紋。外面 に文様。	レンヂ8 0-20cm	
40			—	灰白色	不透明で黄褐色釉が全面にかかる。	ピンホールが内・外に 少しある。	縞花。内面に唐草文。口縦 部平坦面に花紋。外面 に文様。	壁下部 焼土	
41			—	灰白色	不透明でやや白っぽい灰緑色釉が 全面にかかる。	貫入が外面上に少しある。	縞花。内面に蓮弁文。高 台に露胎。	レンヂ8 0-20cm	
42	底部	底 部	9.0	灰白色	不透明でやや白っぽい灰緑色釉が 全面にかかる。	貫入が内・外面上に 多い。	見込みに八宝文らしき文 様。高台内側の釉を搔き取る。	客土	
43			14.2	灰白色	明オリーブ灰色が薄くかかる。	貫入が内・外面上に少しあ る。	見込みに升豆・雷文。高台 内に蛇の目状の露胎部。	表採	
44			—	灰白色	不透明でやや白っぽい灰緑色釉が かかる。	なし	見込みに3本繩のラマ式蓮 弁文。高台に露胎。	客土	
45	壺	胸部	—	灰白色	黄褐色釉が全面にかかる。	貫入が内・外面上に 多い。	外面にラマ式蓮弁文。内面 に文様。	客土	
46	壺	底	24.0	灰白色	灰褐色釉がかかる。	なし	外面に唐草文らしき文 様。	客土	
47			—	灰白色	灰オリーブ～オーリーブ黑色釉が全面 にかかる。	ピンホールが内面上に僅か にある。	壺中片切彫りの花唐草 文。内面はでこぼこしてい る。	レンヂ3 黒色土	
—			灰白色	内面には若干青みを帯びた灰緑色釉、 外面上には明緑色釉がかかる。	なし	口唇部は露胎。	客土		
48	酒 食 器	口 縦部	19.8	灰白色	若干青みを帯びた灰緑色釉がかかる。	なし	口唇部は露胎。	客土	
49			28.8	灰白色	内面には若干青みを帯びた灰緑色釉、 外面上には明緑色釉がかかる。	なし	口唇部は露胎。	レンヂ3 黒色土	
50			—	灰白色	内面には若干青みを帯びた灰緑色釉がかかる。	なし	外面に貼り付け文様があ る。	レンヂ3 黒色土	
51	瓶	胸部	—	灰白色	不透明な明灰緑色釉がかかる。	ピンホールが内・外面上に 少しある。	外面上位に牡丹唐草文、 同下位にヘラ彫り蓮弁文。 内面にコロ灰。	表採	
52	水注	口～ 頸部	3.8	灰白色	オリーブ灰色の釉裏が全面にかかる。	なし	外面に芭蕉文と範方向の ヘラ彫り舟。	レンヂ8 40-60cm	
53	型物 か 袋物	胸部	—	淡黄色でやや砂質。	やや明るい黄褐色釉が全面にかかる。	ピンホールが内面上に少 し、貫入が内・外面上に多く ある。	揚刻文。	客土	
54			—	灰白色	内面には明オリーブ灰色、外面上には オリーブ灰色釉がかかる。	貫入が外面上に少しある。	外面に貼り付け文様があ る。	レンヂ8 20-40cm	
55	不明	?	—	灰色	オリーブ灰色の釉裏が全面にかかる。	なし	文様がある。	客土	

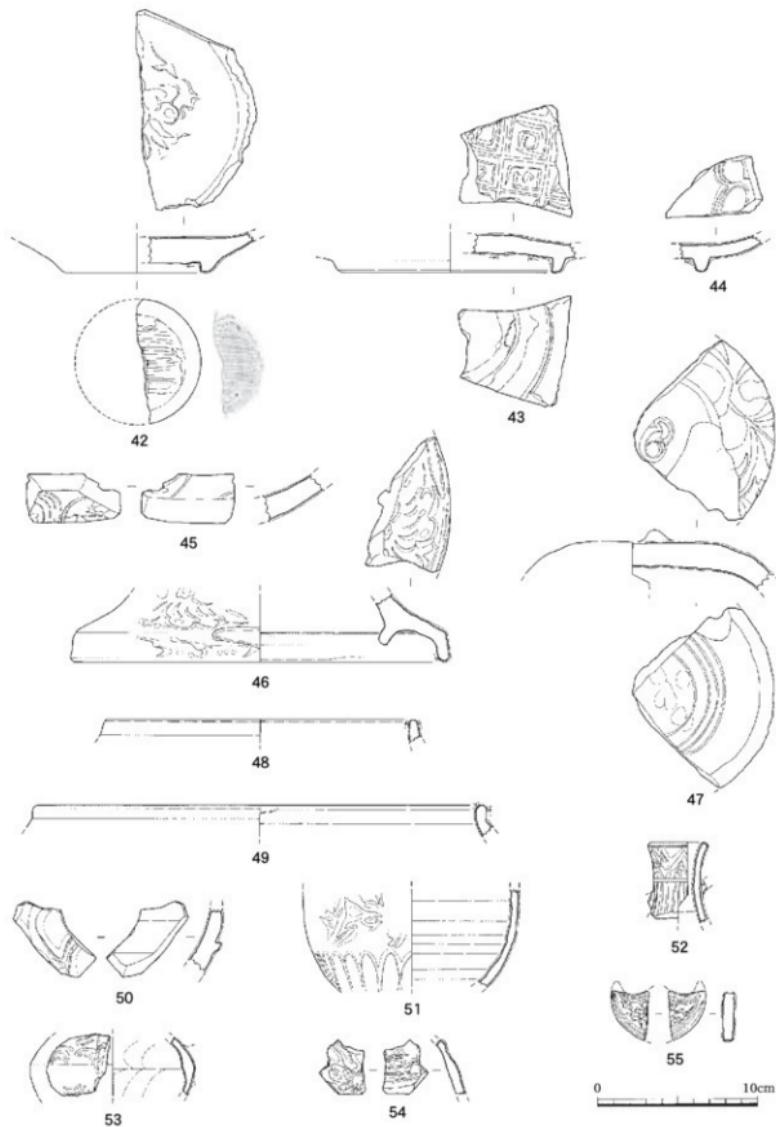
注「-」:計測不可



第12図 青磁（1）



第13図 青磁（2）



第14図 青磁（3）

第2節 白磁

今回実測図を掲載した28点の製作年代は、16世紀を主体に14～17世紀頃である。14～15世紀頃の例には胎土が砂質でやや黄色味を帯び、釉薬が色を帯び不透明な例が多い。16世紀以降については胎土は白色で目立った混入物はなく緻密である。釉薬は透明に近い白色の例が多い。

出土した白磁の器種構成を見ると、碗・皿などの小型の器が全体の8割以上と圧倒的に多い。

1. 碗

口縁部の形態により、内湾（1）、直口（2・3・4）、外反（5）の3者に大別できる。また口唇部の釉をはぎ取る（口壳）例がある。

2. 皿

口縁部の形態により内湾（18）、直口（19）、外反（20～23）に大別できる。

第4表 白磁出土状況

器種・分類	出土地	トレンチ							石畳面	石畳み内	客土	表採	不明	合計
		3	4	6	7	8	9	12						
碗 (65点)	直口	1									3			4
	口壳						2							2
	口縁部	3	2	1					2		7	4	3	20
	外反										2			3
	施釉													
	内湾	1												
皿	胸部	1		2			2			2	10	1		18
	底部						2				14			18
	口縁部													
	外反		口壳						1					1
小皿(1点)	口縁部													
	外反													
	口壳													
	直口													
	口縁部													
	外反													
皿 (91点)	内湾													
	胸部	5				1				3	4			9
	底部	3	2	1	2	1					2			2
	直口	6	1								18	4	3	37
杯 (13点)	直口													
	外反	1		1							2	1		4
	胸部				1					1				2
	底部										2			2
小杯(1点)	口縁部													
	外反													1
瓶(1点)	底部													1
	胸部													1
袋物 (2点)	胸部													1
	底部													1
型物(1点)	不明													1
	胸部													1
人形型(2点)	胸部										2			2
	直口(1点)										1			1
香炉(1点)	口縁部												1	1
	胸部										1			1
不明 (5点)	底部	1	1			1					1			4
	胸部													
	口縁部													
合計		26	7	6	2	1	9	2	8	5	96	13	9	184

第5表 白磁観察一覧

図番号	器種	部位	分類	口径 底径 高さ	胎土 釉色	釉薬 色調	釉薬		ビンホール 施釉状況	内・外面 全面施釉	内・外面 に少し に多い	器形・文様など	出土地点	時期	単位: cm
							胎土	釉色							
1 15 回 1 2 回 1 3 26 3	碗	内湾	直口	一	淡黄色	不透明な 灰白色	全面施釉	全面施釉	内・外面 に少し に多い			口縁部外面に後。	客土	14～15世紀	
				一	灰白色	不透明な 灰白色	全面施釉	全面施釉	なし	なし		口縁部内面に段。	トレンチ3 黒色土	14～15世紀	
				13.6	灰白色	透明に近い 灰白色	全面施釉	全面施釉	なし	内・外面 に多い		口縁部内面に段。	客土		
				一	灰白色	灰白色	全面施釉	全面施釉	なし						

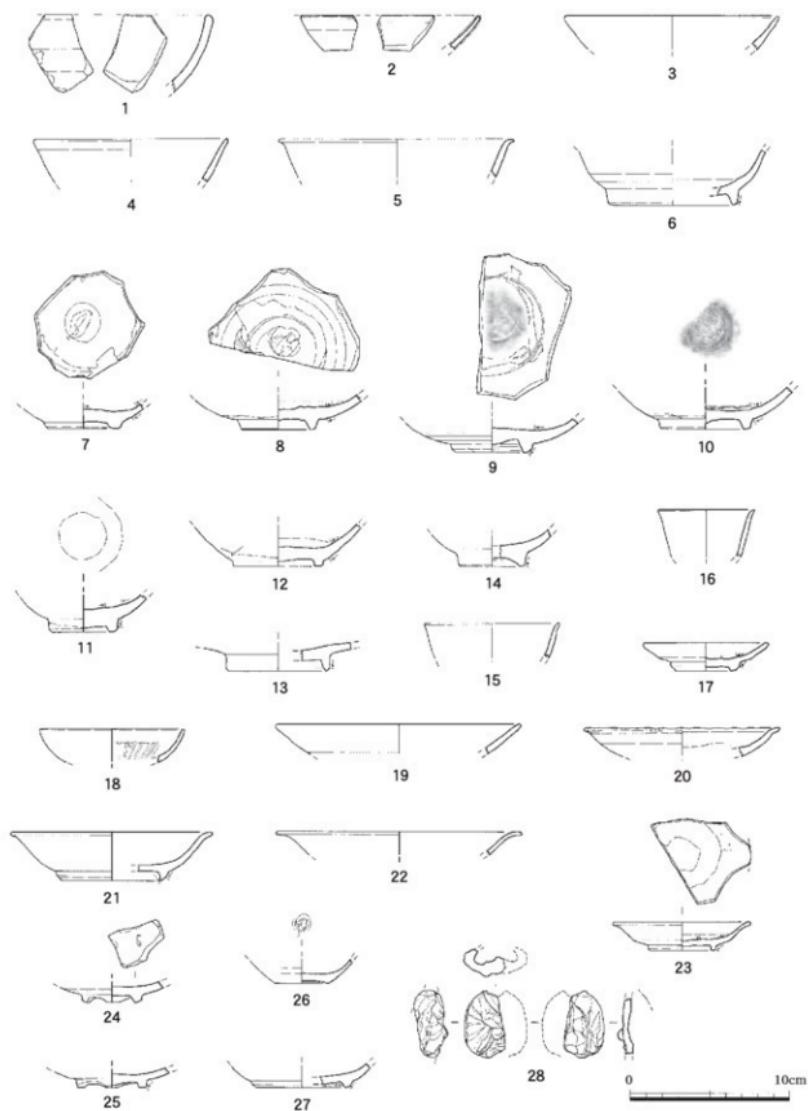
注「-」：計測不可

第5表 白磁観察一覧

単位:cm

同番号	器種	部位	分類	口径 底径 器高	胎上	色調	釉薬	施釉状況	ピン ホール	貫入	器形・文様など	出土地点	時期
4		直口		12.4	白色	やや不透明 な灰白色	口唇部は露胎 (黄褐色)	なし	なし	景徳鎮窯	トレンチ9 0~20cm	16世紀	
5		口～ 脣部	外反	15.0	白色	やや不透明 な灰白色	全面施釉	なし	なし	景徳鎮窯	トレンチ6	16世紀	
6		—	—	7.8	白色	やや不透明 な青灰色	疊付・高台内は露胎 (橙色)	なし	なし	景徳鎮窯	トレンチ3 黒色土	15世紀後半 ~16世紀	
7		—	—	4.5	灰白色	不透明な 灰白色	見込み・高台内、 底部外面下位は露胎	外面向 多い	なし	高台の削り出しが雄。	客土	14世紀後半 ~16世紀?	
8		—	—	4.7	黄色味の ある灰白 色	やや不透明 な灰白色	朝部外面下位～ 高台内、見込みは 露胎	なし	なし	見込み・疊付に重ね焼き の跡、見込みにスタンプ 文?つかは左回転。	客土	16世紀?	
9	碗	—	—	4.6	淡黄色	やや不透明 な灰白色	疊付・高台内、見 込みは露胎	内・外向 に少し	内・外向 に多い	見込み露胎部に「満」の陰 刻。印は左回転。	客土	15世紀 前後?	
10		脣部	—	5.5	淡黄色	やや不透明 な灰白色	高台・高台内、見 込みは露胎	内・外向 に少し	内・外向 に多い	見込みに「福」と書文有の スタンプ文。印は左回転。	トレンチ3 黒色土	15世紀 前後?	
11		—	—	4.0	白色	白色?	見込みは蛇の目 釉剥ぎ。高台内は	不明	不明	全体に風化。	トレンチ9 0~20cm	15世紀?	
12		—	—	5.6	灰白色	灰白色	見込み・脣部外向 下位～高台内は 露胎	内・外向 に少し	なし	見込み・疊付に重ね焼き の跡。	客土		
13		—	—	6.5	白色	透明に近い 白色	全面施釉	なし	内・外向 に少し	高台内面に鉛物粒?が 付着	客土	16世紀	
14		—	—	4.2	白色	青味のある 灰白色	疊付・高台内は露 胎	外面向 むすび	なし		客土	15世紀頃	
15	小碗	口～ 脣部	外反 口壳	8.6	白色	透明に近い 白色	口唇部は露胎	なし	なし		トレンチ12 黒褐色土	17世紀?	
16	小杯	口～ 脣部	外反 口壳	6.2	白色	透明に近い 白色	全面施釉	外面向 少しだけ	なし	景徳鎮窯	石蓋面	16~17世紀	
17		口～ 底部	直口	8.0 3.8 1.8	白色	透明に近い 白色	見込みは円形剥 離。疊付・高台 内は露胎	内・外向 に少し	なし	景徳鎮窯	客土	15~16世紀	
18		内溝	—	9.2	白色	青味のある 透明	全面施釉	なし	なし	内面に菊花文。景德鎮 窯。	客土	16世紀	
19	口縁 部	直口	—	15.6	灰白色	黄色味のある 灰白色	全面施釉	内・外向 に少し	内・外向 に少し		客土		
20		外反	—	12.4 —	浅黄褐 色で砂質	不透明な 灰白色	見込みは露胎	外面向 少し	内・外向 に多い	菊花。見込みは露胎。底 土に黒色・褐色斑を少し 含む。景德鎮窯。	トレンチ3 黒色土	15世紀	
21	皿	口～ 底部	外反	12.8 6.4 3.1	灰白色	透明	疊付は露胎	内・外向 に少し	なし	口縁部は不整形な輪花? 景德鎮窯。	トレンチ3 黒色土	16~17世紀 前半	
22	口縁 部	外反	—	15.6	白色	透明に近い 灰白色	金面施釉	なし	なし		トレンチ3 黒色土	16~17世紀 前半	
23	口～ 底部	外反	—	8.8 4.3 1.8	白色	透明	疊付は露胎。見込 みは白釉剥離部 にアルミナ?付着	外面向 少し	なし	景徳鎮窯。	トレンチ3 黒色土	16世紀	
24		脣～ 底部	—	3.8 —	浅黄色で 砂質	不透明な 白色	全面施釉	なし	内・外向 に少し		客土	15世紀	
25		—	—	4.4	白色で砂 質	外面向は不 透明な白色。 内面は灰黄色	高台内は露胎	外面向 少し	内・外向 に多い	高台に4ヶ所の抉り、疊付、 見込みに重ね焼きの跡。	トレンチ4 北側石積み	15世紀	
26	瓶	底部	—	3.4	灰白色	透明	底部外面は露胎	なし	なし	基筋底。	客土		
27	皿	脣～ 底部	—	6.0	灰白色	不透明な 灰白色	疊付は露胎	内面向 多く外 面に少し	なし	高台内側に砂粒が付着。	客土		
28	人形	脣部	—	—	白色	不透明な 灰白色	内・外向の所々が 露胎	なし	なし	綿装のような服を着ている。	客土	17~18世紀	

注:「-」:計測不可



第15図 白磁

第3節 染付

合計456点が出土しており、8割以上が碗・皿といった小型の容器である。製作時期は16世紀頃が主体である。碗・皿・鉢については、口縁部の形態により直口・外反に分けて集計を行った。

1は直口の碗であるが、やや内湾気味である。4も直口の碗だが、口縁部外面が浅く窪む。

皿の底部については、幕筒底タイプ(12・13・16)と高台タイプ(14・15・17)とがある。

第6表 染付出土状況

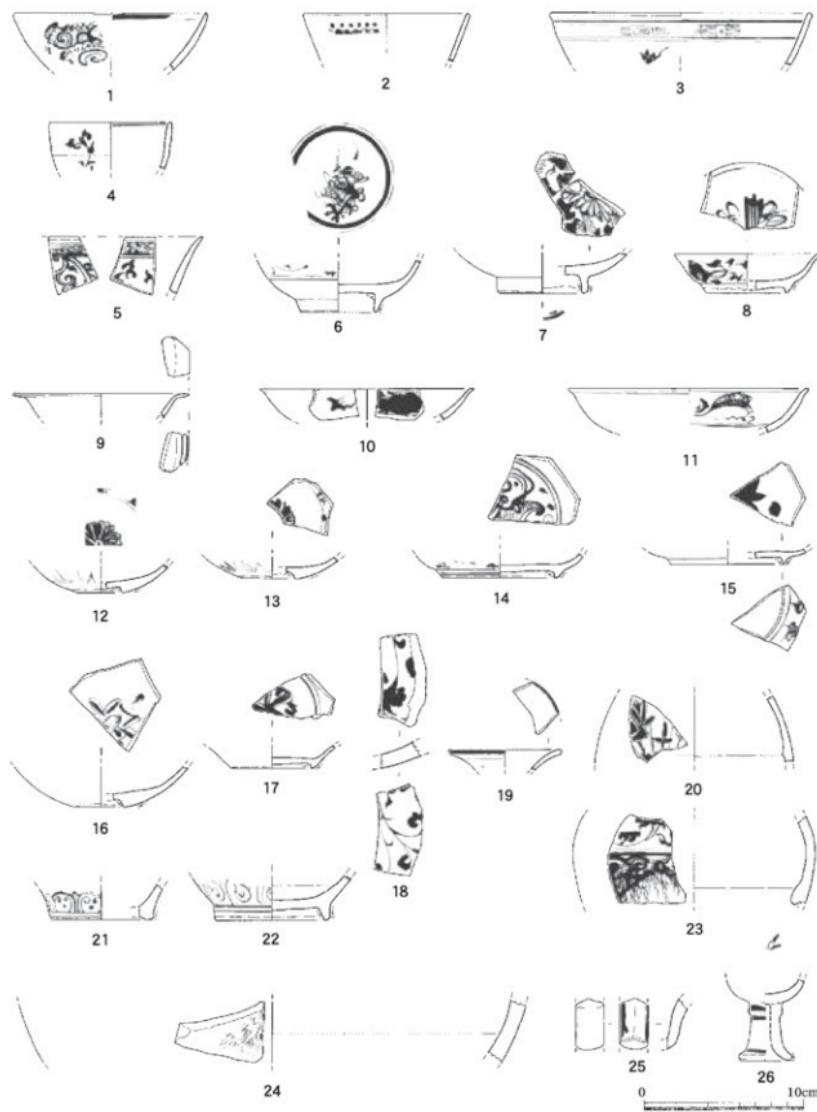
器種・分類	出土地	トレンチ									石積み内 客土	表様	石積み内+客土+ 石疊面	不明	合 計
		3	4	6	8	9	石積み内	客土	表様	石積み内+客土+ 石疊面					
碗 (209点)	口縁部 直口	5	1		1	2	1	25	3		1	39			
	肩部			1		2		5	1		1	10			
	底部	2						3				5			
	口縁部 外反	6			1	1		12	2			22			
	肩部				1			1				2			
	底部	2						1			1	4			
小碗 (11点)	胸部	26	5	3		1	14	1	46	7	6	109			
	底部	3					1	12			2	18			
	口縁部 直口	1		1								2			
	口縁部 外反	1			1		1	3	1			7			
皿 (138点)	底部					1					1	2			
	口縁部 直口	7	1			1		16	4		1	27			
	肩部		1									1			
	底部							6				6			
	口～底	1										1			
	口縁部 外反	2						4			1	7			
	肩部	1					1					2			
	近部	2						3				5			
	口縁部 輪花										1	1			
	口縁部 繊花						1					1			
盆 or 瓢(33点)	胸部	5	1	2		1	1	12	4		1	26			
	底部	15	1	1		3	1	32	4	1	3	61			
	側部	13				1	3	14	2			33			
小瓢(1点)	口縁部 外反							1				1			
盤(4点)	胸部						1	1	1			3			
	底部	1										1			
小杯 (4点)	口縁部 外反					1		1				2			
	胸部										1	1			
盞(5点)	胸部							4	1			5			
	底部							1				1			
鉢 (15点)	口縁部 直口						2					2			
	口縁部 外反							2				2			
	胸部	3						5			1	9			
	底部							1				1			
	側部											1			
瓶 (19点)	口縁部					1		2	2			5			
	頭部	1	1					1			1	4			
	胸部	4				2		1	2			9			
	底部										1	1			
水注(1点)	把手								1			1			
高足杯(1点)	底部	1										1			
袋物 (4点)	胸部	1							1			2			
	底部					1						2			
不明 (10点)	口縁部	1							1			2			
	胸部	1	1						4			6			
	底部								1			1			
	不明								1			1			
合 計		105	10	9	3	11	33	2	225	32	1	1	24	456	

注「+」:接合の意

第7表 染付観察一覧

単位:cm

図番号	器種	部位	分類	口径 底径 器高	釉薬・施釉状況など	ピンホール・ 貫入	文様		
							外側	内面	出土地点
1	碗	口～ 胴部	直口	12.4 — —	全面施釉。透明釉は若干青味を帯びる。	なし	雲文?と2本の團線。	口縁部に2本の團線。	表探
2				10.6 — —	全面施釉。呉須は綠味を帯びる。	貫入が内・外面に少しある。	口縁部に波瀾文帯。	なし	トレンチ3 黒色土
3	钵	口～ 胴部	直口	16.6 — —	全面施釉。口唇部は所々露胎。	貫入が外面に少しある。	團線に挿まれた雷文。脚部に唐草文。	團線に挿まれた四方博文。	客土
4	碗	口～ 胴部	直口	7.8 — —	全面施釉。腹部中央に突線がめぐる。胎土に黑色粒をわずかに含む。	貫入が内・外面に少しある。	團線と唐草文。	極広の團線。	表探
5	钵	口～ 胴部	外反	— — —	全面施釉。透明釉は乳白色。	貫入が内・外面に多くある。	團線と波瀾文。	團線に挿まれた四方博文。脚部に唐草文。	客土
6	碗	脚～ 底部	—	4.8 — —	墨付・高台内側は露胎。	なし	團線と唐草文。	團線と草花文。	トレンチ3 黒色土
7	鉢	底部	—	5.4 — —	墨付は露胎。	なし	團線。	草花文。	客土
8	皿	口～ 底部	外反	9.2 5.2 2.5	墨付は露胎。	ピンホールが内・外面に少しある。	團線と唐草文。	團線と十字花文。	トレンチ3 黒色土
9	碗	口～ 胴部	外反	11.2 — —	全面施釉。	なし	團線。	團線。	トレンチ3 黒色土
10		口～ 胴部	外反	13.6 — —	全面施釉。	貫入が内・外面に少しある。	唐草文?と團線。	團線と花文。	トレンチ3 黒色土
11				15.4 — —	全面施釉。	なし	團線。	文様有り。	客土
12				— — —	墨付は露胎。基筒底。	なし	芭蕉葉文。	花文。	不明
16	團 圓 盤 27	底部	—	— — — — —	墨付は露胎。基筒底。	なし	芭蕉葉文。	花文。	トレンチ3 黒色土
13			—	3.0 — — — —	墨付は露胎。	なし	芭蕉葉文。	花文。	トレンチ3 黒色土
14			—	7.2 — —	墨付は露胎。	なし	芭蕉葉文。	团線と玉收禪子文。	表探
15			—	7.3 — —	墨付に斜目跡。	なし	團線と文様。	團線と蓮花唐草文。	トレンチ8 20~40cm
16			—	3.0 — —	墨付は露胎。	なし	團線と外輪にわざかにあら。	團線と十字花文。	客土
17			—	5.2 — —	墨付は露胎。	なし	なし	團線と捺花文。	不明
18	盤	胴部	—	— — —	全面施釉。	なし	唐草文。	唐草文。	表探
19		口縁部	—	7.2 — —	全面施釉。	なし	團線。	團線。	表探
20	瓶	胴部	—	— — —	全面施釉。	なし	團線。	なし	P-26・27 石鏡面
21		脚～ 底部	—	15.6 — —	底部外面は露胎。	なし	ラマ蓮弁文と團線。	なし	不明
22	壺?	脚～ 底部	—	12.4 — —	墨付は露胎。	なし	如意頭文と團線。	なし	客土
23	瓶	底部	—	— — —	全面施釉。内面の透明釉は青味を帯びる。	なし	草唐草文と樹文、團線。	なし	表探
24	壺	胴部	—	— — —	全面施釉。呉須はやや薄い。	なし	竈堂手文。	なし	客土
25	水注	把手	—	— —	全面施釉。	なし	繩取り縫有り。	なし	客土
26	高足 杯	底部	—	3.4 — —	脚内面は露胎。	なし	團線。	文様有り。	トレンチ3 黒色土



第16図 染付

第4節 その他の国外産陶磁器

ここでは青磁・白磁・染付・褐釉陶器の節で報告した陶磁器以外の国外産陶磁器を報告する。

1. 黒釉陶器（1～6）

合計37点が出土した。全て碗である。1は玳玳天目と呼ばれ、中国の吉州窯で12～13世紀頃に作られたと考えられる。黒釉の上に灰釉をかけて焼成している。内面の文様は、鸞と呼ばれる鳥の翼の先端部分と考えられる。灰釉をかける前に型紙をあて、黒色で表現している。2～6は無文の碗で、いずれも中国産である。

2. 鉄鉢（7・8）

合計2点が出土した。いずれも中国の磁州窯で14～15世紀頃に作られた壺である。白化粧土の上に黒色釉で文様を描いており、7の外面にはさらに透明釉をかけて仕上げている。

3. 褐釉器（9）

合計2点が出土した。9は杯の口縁部である。外面には赤褐色釉、内面には透明釉がかけられている。

4. 三彩（10・14・15・17～19）

合計12点出土した。14・15は法花（三彩の一種）の壺で、細い粘土紐で文様を縁取っているのが特徴である。17～19は鳥をかたどった水注の各部分である。首里城跡（註1）に出土例がある。

5. 翡翠釉（11）

合計2点出土した。11は瓶の胴部である。

6. 瑞穂釉（12・13）

合計7点出土した。13は内面に呉須で描いた囲線がある。

7. 色絵（16・23）

合計5点が出土した。16は15世紀頃に作られた中国産の皿である。23はベトナム産の皿である。

8. 象嵌青磁（20・21）

合計5点出土した。20は盤の底部で15世紀頃に作られたものか。21は13～14世紀頃のものである。

9. 白磁（22・24）

合計2点出土した。22は器種不明の胴部、24は皿の底部で、いずれもベトナム産である。

第8表 その他の国外産陶磁器出土状況

器種・分類	出土地	トレンド							小括 み内	客上	表採	不明	合計	
		3	4	6	7	8	石量面							
黒釉陶器 (37点)	口縁部	3	1						5				9	
	脚部	3		1	1	1	1		10	2	3		22	
	底部	1	1						2	2			6	
合計		7	2	1	1	1	1	0	17	4	3		37	
鐵鉢(2点)	且	脚部								2				2
	瓶	口縁部	1											1
褐釉器 (2点)	瓶	口縁部	1											1
	且	脚部	1							1				2
皿	底部									1				1
	皿	脚部								2				2
三彩 (12点)	口縁部									1				1
	鳥型・頭部	1												1
	足	脚部	1											1
水注	口													1
	瓶	脚部								2				2
	底部									1				1
合計		4	0	0	0	0	0	0	8	0	0		12	
褐彩釉 (2点)	且	脚部	1											1
	瓶	脚部								1				1
瓶	瓶	脚部							1					1
	小瓶	脚部							1					1
瑞穂釉 (7点)	底部								1					1
	瓶	脚部	1						2					3
	小瓶	脚部												1
合計		1	0	0	0	0	0	0	5	0	1		7	
色絵 (5点)	瓶	脚部	1							2				3
	皿	底部	1											2
象嵌青磁 (5点)	皿	脚部							1	1	1			3
	盤	底部									1			1
白磁 (2点)	不明	脚部	1											1
	且	底部							1					1
翡翠釉 (1点)	不明	脚部	1											1
	且	脚部												1
封緘(7点)	且	脚部	1											1
	皿	脚部								2				2
	水注	把手	2											2
不明	鳥型・脚部									1				1
	不明									1				1
合計		3	0	0	0	0	0	0	4	0	0		7	
黒釉陶器(1点)	不明	脚部												1
	急須	把手									1			1

<註>

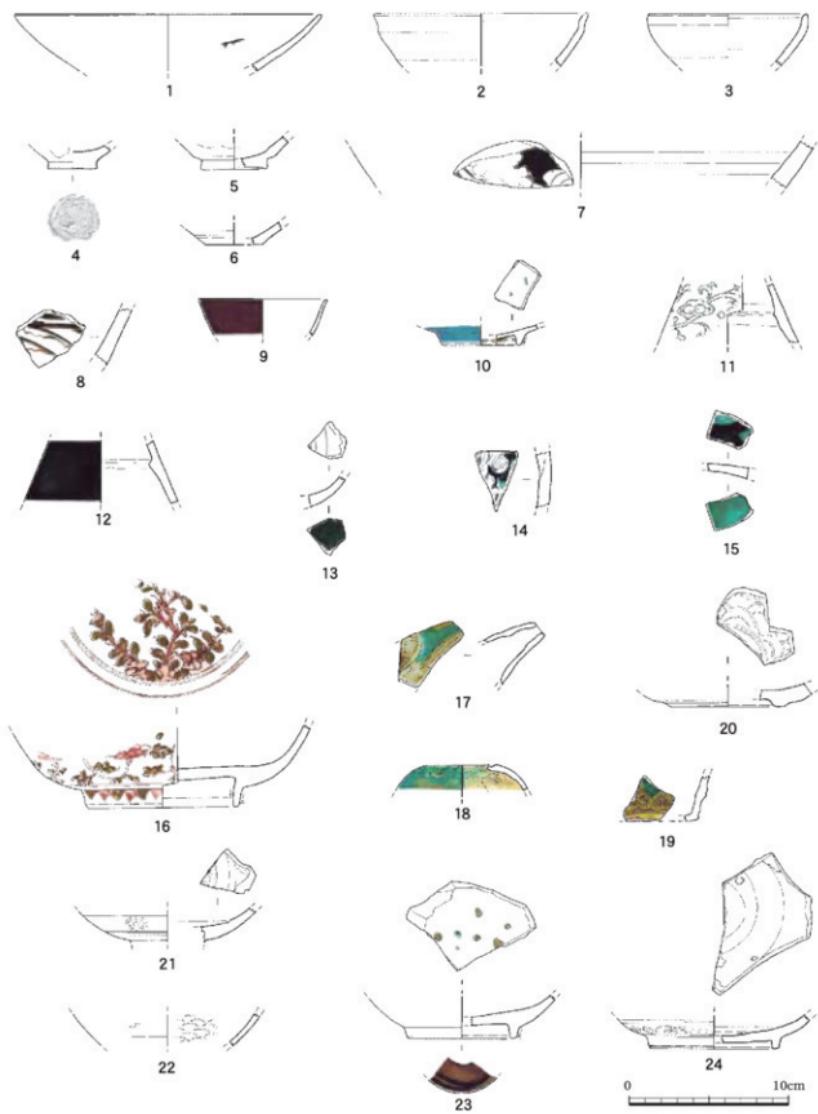
註1. 『首里城跡一下之御庭跡・用物座跡・瑞泉門跡・漏刻門跡・廣福門跡・木曳門跡発掘調査報告書一』

2001 沖縄県立埋蔵文化財センター

第9表 その他の国外産陶磁器観察一覧

図番号	種類	器種	部位	相異		出土地点	產地・時期				
				底塗 施釉器	胎土	色調	施釉状況	ピンホール・貫入	器形・文様など		
1	黒釉 褐器	口～ 腹部	底部	19.5	灰白色でやや砂質。	黒色地に、にぶい黄色 でわざかに含む。	全面施釉。	貫入が外面に多く、 内部に多い。	型紙を用いた鳥 トレンチ3、 黒色土	中国	
				13.6	灰色、黒色粒を少し 含む。	黒色に黄褐色がじ てた。	全面施釉。	なし		客土	中国
				10.0	灰黄色、黒色粒を少 し含む。	黒色。	全面施釉。	なし	全体が白く変 色。	客土	中国
				3.2	淡黄色でやや砂質。 黒色、赤色を少し 含む。	黒褐色。	底部外面は 露胎。	なし	底部外面は条 切り、内面にリク ロナゲ。	客土	中国
				4.2	灰色。	褐色。	底部外面は 露胎。	なし		トレンチ3 黒色土	中国
				3.6	灰黄色でやや砂質。 含む。	灰褐色。	底部外面は 露胎。	なし		石積み	中国
7	鉄绘	壺	柄部	—	—	内面は黒色。外面は白 化粧土に黒色、透明 釉。	全面施釉。	ビンホールが内・外 面に少しある。		客土	中国 (磁州窯) 14～15世紀
				—	灰色。						
8	—	—	—	—	桜色でやや砂質。赤 色、白色を多く、半 透明釉を少し含む。	外面は白化粧土に黒 色、内面は黒褐色。	全面施釉。	なし		客土	中国 (磁州窯) 14～15世紀
				8.2	白色。	外面は赤褐色、内面は 白色。	全面施釉。	ビンホールが外面に わずかにある。		トレンチ3 黒色土	
10	三彩	壺	底部	4.7	白色でやや砂質。	高台外面は青色、窓 内側は黄褐色。内面は 青色。	貫入付は露 胎。	貫入が内・外 面に多く、ビンホール が外面にわずかにあ る。	露胎の剥離 が進む。	客土	中国(華南) 16世紀
				—	—						
11	青翠 釉	瓶	柄部	—	白色、黒色、白色粒 を少し含む。	外面は青緑色、内面は にぶい黄褐色の露胎。	全面施釉。	なし	青翠釉の剥離 が進む。	表面	
				—	—						
12	瑠璃 釉	瓶	柄部	—	白色。	外面は緑色。内面は青 白色。	全面施釉。	ビンホールが内面に わずかにある。		客土	
				—	白色。	外面は緑色。内面は青 須(青色)と透明釉。	全面施釉。	貫入が内面に少しあ る。			
14	二彩	壺	柄部	—	白色でやや砂質。	外面は水色～濃藍色。 内面は黄緑色。	突線部分は 露胎。	貫入が内・外 面に多 い。		客土	中国(華南) 16世紀
				—	—						
15	—	—	—	—	白色でやや砂質。	外面は濃藍色～水色。 内面は黄緑色。	全面施釉。	貫入が内・外 面に多 い。		客土	中国(華南) 16世紀
				—	—						
16	色繪	壺	頭～ 底部	9.8	白色。	黄緑・赤・黄色の上絵。	露胎付は露 胎。	ビンホールが内・外 面に少しある。	花文、無文。	トレンチ3 黒色土	中国 15世紀
				—	—						
17	—	注ぎ 口	—	—	浅橙色でやや砂質。	緑・黄・褐色。	内面は露 胎。	貫入が外面に多くあ る。	鳥のくちばし部 分にあたる。	トレンチ3 黒色土	
				—	—						
18	三彩	水注	口縁 部	4.2	淡橙色でやや砂質。	緑色。	内面は露 胎。	ビンホールが外面に 多くある。	口縁部外側に 模様文。	客土	
				—	—						
19	—	—	底部	—	淡橙色でやや砂質。	緑・黄色。		貫入が外面に多くあ る。型押による連舟 文。		客土	
				—	—						
20	青磁 青磁	盤	底部	7.0	灰色。	灰色、黒色、白化粧土 による象嵌。	全面施釉。	貫入・ビンホールが 兔座による青磁 内・外面上に多くあ る。波文。	表面による青磁 文。	表面	朝鮮 15世紀か
				—	—						
21	不明	瓶	頭部	—	灰色。	灰・白色。	全面施釉。	ビンホールが内・外 面にわずか、貫入が内 ・外面上に多くあ る。	象嵌による日花 文、團蝶。	トレンチ3 黒色土	朝鮮 13～14世紀
				—	—						
22	白磁	不明	柄部	—	白色でやや砂質。	白化粧土と透明釉。	全面施釉。	貫入が内・外面上に多 くある。	突線による青海 文。	トレンチ3 黒色土	ベトナム
				—	—						
23	色繪	皿	底部	6.8	白色でやや砂質。	内・外面上に白化粧土。 内面に透明釉。	高台内は繪 色の混 合。	ビンホールが内・外 面に少しある。貫入が内 ・外面上に多くあ る。	ハラヌイ痕あり。 波文。	P-26+27 石皿面	ベトナム
				—	—						
24	白磁	皿	底部	8.3	白色でやや砂質。	白化粧土と透明釉。	露胎～高台 内は露胎。	ビンホールが外面上に わずか、貫入が内 ・外面上に多くあ る。	外面上に刻畫蓮 井文。ハラヌイ痕 石積み内。	石積み内	ベトナム
				—	—						

注「—」:計測不可



第17図 その他の国外産陶磁器

第5節 褐釉陶器

おもに褐色・黒色の釉薬をかけた陶器である。合計で6,216点出土した。中国産が約8割、タイ産が約2割で、ミャンマー産の資料が2点ある。器種別に見ると、壺が9割以上を占め、鉢・播り鉢・甕が少量ある。以下產地ごとに説明する。

1. 中国産 (1~32)

胎土は泥質・砂質の両者があり、その色は灰色・橙色系統のものが多い。胎土中には白色・赤色・黒色・半透明粒を含む。整形方法は基本的に叩打法である。釉薬の色は黒色を基本に黒褐色・暗褐色・灰オリーブ色など様々である。

完形資料がないため詳細は不明だが、底部外面や胴部（肩部）内面が露胎の場合がある。

壺については口縁部の形態をもとに方形（1~7・15）、逆L字形（8~11・13）、三角形（12・14）に分けた。方形・逆L字形の壺は口径が20cm前後の例が多い。三角形の場合、口径はやや小さくなる。

底部については、胴部への立ち上がり方に注目して、直行するもの（22・23）、一度内側に屈曲するもの（24~26）、ゆるやかに外反するもの（27~29）に分けた。

壺以外には、30の播り鉢がある。31・32は蓋のようだが器種不明である。

2. タイ産 (33~51・53)

A. ノイ川窯産 (33~45)

胎土は暗赤灰色・灰色など様々だが、雲母のようにきらきらと光る微細な鉱物粒を含むもの（33~36・38~40・45）が多い。

壺の口縁部資料については口縁端部を丸く肥厚させることが特徴である。口縁～頸部の内面は施釉がまばらでやや雑な例が多い。43は碗であろうか。

B. シーサッチャナライ窯産 (46~51)

胎土は灰色系統が多い。胎土中には赤色・白色・半透明粒を含む。

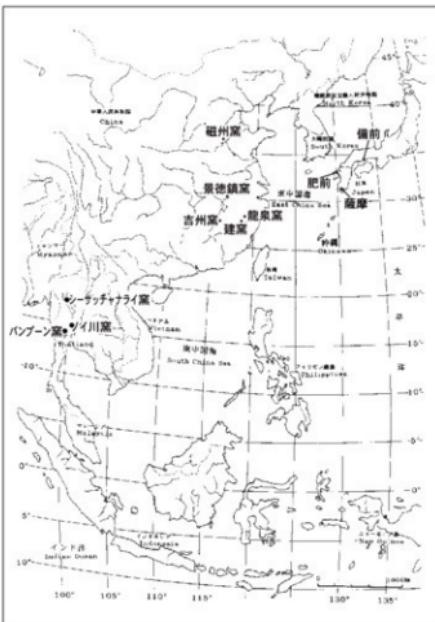
壺の場合、ノイ川窯産と同じく口縁部を丸く肥厚させるもの（46~48）と、断面形が三角形のもの（49）がある。50の口縁部は不明だが、胴部は球形になる双耳壺と考えられる。51は四耳壺ではなく、梅瓶風の器形になると考られる。

C. バンブーン窯産 (53)

無釉の鉢であるが、この節で取り扱った。口縁部は一度内湾したのち外反し、肥厚している。胴部は直線的だが、底部はやや丸みをもった平底のようである。器形について見ると、シーサッチャナライ窯産の鉢にも類似例があるが、胎土が少し異なる。今回は、バンブーン窯産の可能性が高いという事でここに報告する。

3. ミャンマー産 (54)

壺の胴部が2点出土しており、内1点を図化した。胎土は砂質でにぶい黄橙色である。胎土中には黒色・赤色粒を少し含み、白色・半透明粒をわずかに含む。外面に黑色釉をかけており、貫入が多くある。内面は露胎である。



城の下道跡に関する主な陶磁器の产地・窯跡

第10表 褐釉陶器観察一覧

単位: cm

団番号	部位	分類	色調	混入物	釉薬	ビンホール・貫入	器形・調査箇など	出土地点	产地	
1	口盤 基部	21.4 —	に赤い赤褐 —	白色・半透明・赤色粒を少 し含む。	外面上には黒～黒褐色釉、内面 には黒褐色釉がかかる。	ビンホールが内・外 面に少しある。		トレンチ3 黒色土	中国	
2	—	21.2 —	淡黄色、 —	白色・半透明・赤色粒を少 し含む。	黒～黒褐色釉が全面にかか る。	ビンホールが内・外 面に少しある。		トレンチ3 黒色土	中国	
3	—	19.3 —	灰黄色、 —	白色・半透明・赤色粒を少 し含む。	緑褐色～黒褐色釉が全面にかか る。	貫入が内・外面に多 くある。			客土	中国
4	方 形	20.3 —	灰色、 —	白色・半透明・赤色粒を少 し含む。	黒褐色釉が全面にかかる。	不明。	全体的に黒化して おり、右瓦片が付着して いる。	P-26-27 石表面	中国	
5	—	18.6 —	灰褐色、 —	半透明・赤色粒を少し、白 色粒をわずかに含む。	外面上には暗褐色～黒褐色釉、 内面には黒褐色釉がかかる。	貫入が内・外面に少 しある。		トレンチ8	中国	
6	—	19.6 —	灰黄色、 —	半透明・赤色粒を少し含 む。	外面上には灰オーブー色・暗 褐色、内面には灰オーブー色・赤 褐色、黒色釉がかかる。	貫入が内・外面に多 くある。	所々露胎部があり、 施釉がやや薄であ る。	トレンチ3 黒色土	中国	
7	口 縁部	18.3 —	灰褐色、 —	半透明粒を少し、帶色・棕 褐色をわずかに含む。	外面上には暗褐色釉、内面には オーブー色褐色釉がかかる。	貫入が内・外面に多 く、ビンホールが内・外 面にわざわざある。	所々露胎部がある。	トレンチ3 黒色土	中国	
8	—	18.8 —	に赤い黄褐色、 —	白色・半透明・赤色粒を少 し含む。	黒褐色釉が全面にかかる。	貫入が内・外面に少 しある。		トレンチ3 黒色土	中国	
9	—	18.1 —	黄灰色、 —	半透明粒を少し・赤色粒を わずかに含む。	黒褐色釉が全面にかかる。	不明。	全体的に黒化して いる。	石積み	中国	
10	—	19.9 —	外側は褐色、 — 内側は灰褐色、 —	半透明・赤色粒を少し、白 色・黒色粒をわずかに含 む。	外面上には黄褐色釉、内面には オーブー色褐色釉がかかる。	貫入が外面上に少 しある。	口縁部平坦面・内面 には露胎が薄、外面に 数箇の火線。	客土	中国	
11	—	18.6 —	橙色、 —	半透明・赤色粒を多く、棕 色・黑色粒を少し含む。	外面上にはオーブー黄色釉、内面 には暗褐色の泥釉？が分か る。	なし。	外面上の釉薬がほとんど 剥離している。	客土	中国	
12	三角 形	15.2 —	灰色で砂質、 —	黑色粒を多く、反透明粒を 少し、赤色粒をわずかに含 む。	白化土？が全面にかかる。	なし。		トレンチ3 黒色土	中国	
13	逆L 字型	15.5 —	赤褐色で砂 質、 —	半透明・黒色粒を少し含 む。	オーブー墨釉が全面にかかる。	ビンホールが内・外 面にわずかにある。		トレンチ9 0~20cm	中国	
14	角 形	16.0 —	灰色、 —	白色・黒色粒を少し含む。	全面黒釉。(外面上は灰褐色、内 面は灰色)	なし。		トレンチ8 20~40cm	中国	
15	方 形	—	—	黑色粒を多く、半透明粒を 少し含む。	暗褐色黃色釉が全面にかかる。	ビンホールが内・外 面に多くある。		トレンチ3 黒色土	中国	
16	—	—	黄褐色、橙色 — 砂質、 —	黑色粒を多く、半透明・赤 色粒を少し含む。	光沢のない灰褐色釉がかかる。	ビンホールが外面上に 多くある。		トレンチ7 黒色土	中国	
17	唇 部	—	に赤い —	半透明粒を多く、白色・赤 色粒を少し含む。	外面上には白化土？、内面に は黒褐色釉がかかる。	ビンホールが内・外 面に少しある。	上下方向に耳が付 く。下は通常の押付 けだが、上は器型に 吸い付くように取り付 く。	客土	中国	
18	—	—	灰褐色で砂 質、 —	半透明粒を多く、黑色粒を 少し含む。	外面上には黒褐色、内面にはオ ーブー色褐色釉がかかる。	貫入が内・外面に少 しある。	胎土中に半透明粒を 多く含む。	客土	中国	
19	—	—	灰褐色、 —	半透明粒を多く、黑色粒を わずかに含む。	外面上には黒褐色、内面には露胎 (灰色)。	なし。	L字形の落枕跡や文 と直径1cmの粘付痕 文。	P-26 石積み	中国	
20	唇 部	—	橙色で砂質、 —	半透明・赤色・黒色粒を少 し含む。	外面上には暗褐色釉、内面は オーブー色釉(暗褐色)。	なし。	施釉後の釉剥離取 りによる消失き文と直徑 1cmの粘付痕文。	客土	中国	
21	—	—	に赤い —	半透明・赤色・黒色粒を少 し含む。	外面上にはオーブー色釉、内面 には灰オーブー色の釉がかかる。	ビンホールが内・外 面に少しある。		トレンチ3 黒色土	中国	
22	直 筒	11.6 —	灰色、褐色で、 —	白色・半透明・黒色粒を少 し含む。	黒釉。オーブー色釉の枯れ がある。	なし。	底部外面には直底が 少し残る。	客土	中国	
23	—	12.2 —	灰色、褐色、 —	白色・半透明・黒色粒を少 し含む。	黒釉。(外面上は褐色、内面 は灰褐色)	なし。		不明	中国	
24	—	16.2 —	灰褐色、 —	半透明・赤色粒を少し含 む。	外面上には暗オーブー色釉、内 面にはオーブー色釉がかかる。	貫入が内面に多くあ る。		トレンチ3 黒色土	中国	
25	—	16.0 —	灰褐色、灰 色、 —	白色・半透明粒を少し、白 色粒をわずかに含む。	外面上には暗オーブー色釉、内 面には暗オーブー色釉がかかる。	貫入が内面に少しあ る。	砂目跡がある。	トレンチ3 黒色土	中国	

注「-」:計測不可、「-」:複合の意

第10表 褐釉陶器観察一覧

単位:cm

番号	器種	分類 底模 底板	色調	泥人物	輪郭	ピンホール・貯入	器形・調節痕など	出土地点	産地
第12回 26	盤	直曲	明褐色灰や砂質。	半透明粒を少し、白色・黒褐色地がかかる。底部外縁は粗粒。	なし。	内・外面ともやや風化している。	トレンチ4 北側石積み	中国	
第12回 27	蓋	直部	17.8 16.2 16.2 16.2 16.2 14.1 —	暗褐色、灰 色。 白色、半透明、黑色粒を少 し、白色粒をわずかに含む。 白色、半透明、黑色粒を少 し、白色粒をわずかに含む。 白色、半透明、黑色粒を少 し、白色粒をわずかに含む。 灰色、灰 色。	楕オリーブ褐色地がかかる。 外縁には暗褐色地、内面には 暗褐色地がかかる。	貯入が内・外面に多く、 ピンホールが内面に少しある。	内・外面ともやや風化 化、成形時の凸凹が残る。粗粒を多く含む。	トレンチ8 20~40cm	中国
第12回 28	蓋	直部	—	白色、半透明、黑色粒を少 し、白色粒をわずかに含む。	外縁には暗褐色地、内面には 暗褐色地がかかる。	貯入が内・外面に多く、 ピンホールが内面に少しある。	内・外面ともやや風化 化、成形時の凸凹が残る。粗粒を多く含む。	トレンチ8 20~40cm	中国
第12回 29	反	直部	—	白色、半透明、黑色粒を少 し、白色粒をわずかに含む。	オリーブ黒褐色地が全面にか かる。	貯入が内・外面に少しある、 ピンホールが内面に少しある。	底面外縁にも薄く釉 がかかる。成形時の 凸凹が残る。粗粒を 多く含む。	P-27 石縁面	中国
第12回 30	蓋	直部	23.1 — — — —	灰色地やや 砂質。	口縁部内、外面上には暗褐色 地がかかる。貯物部は外面が 灰色、内面にはぶい赤褐色。	なし。	楕円は1cmあたり 4本。	客土	中国
第12回 31	蓋	直部	— — —	灰色、にぶい 黑色。半透明を少し、白色 粒をわずかに含む。	外縁には灰褐色地(白化粧 土?)、内面にはばらばらに白化 粧土がかかる。	なし。	外面は風化している。	トレンチ6	中国
第12回 32	蓋	—	— — — —	灰色、半透明を少し、白色 粒をわずかに含む。	外面には白化粧土。内面は 跡跡には白化粧土がかかる。	なし。	31と土・色がよく似 る。	客土	中国
第13回 33	—	—	19.2	暗赤褐色。	褐色地を多く、半透明、赤 色粒を少し含む。	なし。	腹部に突起。口縁部 内面に重ね焼きの跡。	トレンチ3 黒色土	タイ ノイ川窓
第13回 34	—	—	17.6	暗赤褐色。	半透明、赤褐色を少し、白 色、黑色粒をわずかに含 む。	なし。	粘土粒の接合痕が内 面に残る。	客土	タイ ノイ川窓
第13回 35	—	—	19.2	暗赤褐色。	褐色地を多く、半透明、赤 色粒を少し、黑色・黒褐色 をわずかに含む。	なし。	口脣部が上にとがる。	客土	タイ ノイ川窓
第14回 36	蓋	直部	— — —	褐色地や 砂質。	褐色地を多く、半透明、赤 色地を少し、白色粒をわ ずかに含む。	なし。	口縁部内面に重ね燒 きの跡。	トレンチ3黒 色土+トレンチ4側 石積み	タイ ノイ川窓
第14回 37	—	—	18.8	明褐色灰。	褐色地を多く、赤褐色を少 し、白色粒をわずかに含 む。	なし。	口縁部内面に重ね燒 きの跡。	客土	タイ ノイ川窓
第14回 38	—	—	14.4 — —	褐色~褐 色地やや砂 質。	褐色地を多く、半透明、赤 色地を少し、黑色・黒褐色 をわずかに含む。	なし。	口脣部が上にとがる。	トレンチ3 黒色土	タイ ノイ川窓
第14回 39	脚部	—	—	褐色地や 砂質。	褐色地を多く、半透明、赤 色地を少し、白色粒をわ ずかに含む。	なし。	口脣部内面に重ね燒 きの跡。	客土	タイ ノイ川窓
第14回 40	蓋	脚部	—	褐色地や 砂質。	褐色地を多く、半透明、赤 色地を少し、白色粒をわ ずかに含む。	なし。	口脣部が上にとがる。	トレンチ3 黒色土	タイ ノイ川窓
第14回 41	口縁部	—	—	灰褐色地や 砂質。	白色地を少し、白色粒を わずかに含む。	なし。	口縁部に褐色の自然執り がかかる。(貯物部は褐色。)	トレンチ4 北側石積み	タイ ノイ川窓
第14回 42	蓋	—	21.3	灰色。	白色・赤褐色地を少し含む。	なし。	内面に余分な粘土が 付着。	客土	タイ ノイ川窓
第14回 43	脚部	—	—	褐色。	黒褐色地を少し含む。	なし。	表面	表面	タイ ノイ川窓
第14回 44	口縁部	底部	— — —	にぶい 褐色地やや 砂質。	白色粒を多く、半透明、赤 色地を少し含む。	なし。	底面外縁には細かな 凹凸があるが全体的に 平坦。	トレンチ8 40~60cm	タイ ノイ川窓
第14回 45	—	底部	—	褐色地や 砂質。	半透明、赤褐色地を少し、白 色地をわずかに含む。	なし。	底面外縁には細かな 凹凸があるが全体的に 平坦。内面に2mm 前後の凹凸の跡が 付着。	トレンチ3 黒色土	タイ ノイ川窓
第14回 46	口縁部	底部	16.4 —	灰褐色地や 砂質。	白色・半透明粒を少し、赤 色地をわずかに含む。	なし。	底面下に突起。	トレンチ8 100~120cm 赤色土	タイ シーザナライ 窓
第14回 47	—	底部	16.8 —	灰褐色地や 砂質。	赤褐色地を多く、半透明粒を 少し、白色地をわずかに含 む。	なし。	内面に輪裏が厚く残 り、外縁に少し残る。	客土	タイ シーザナライ 窓

注「-」:計測不可、「?」:接合の意

第10表 褐釉陶器観察一覧

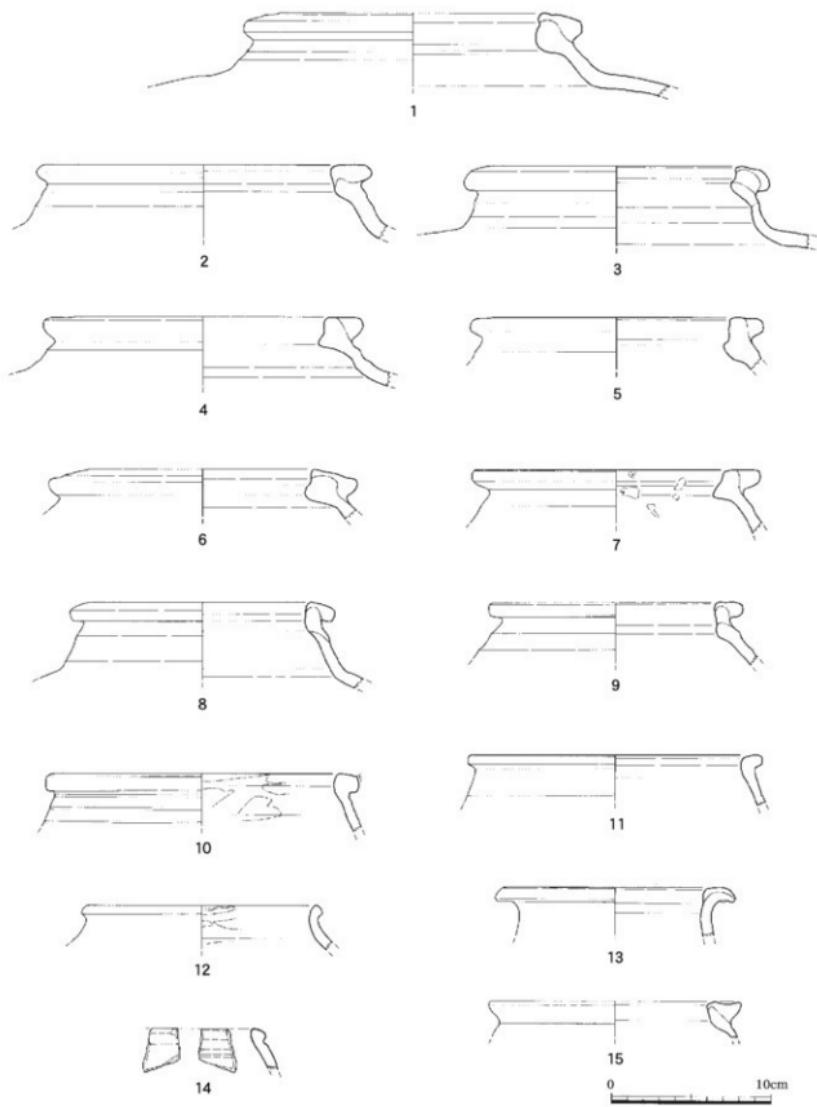
単位:cm

器番号	器種	部位	分類	土色		器蓋	ピンホール・貫入	器形・調査痕など	出土地点	産地
				底径	高さ					
48	口縁部	-	-	外側は灰褐色、 中心には赤褐色。	9.6 半透明・赤色粒を少し含む。	白く変色した黒色釉? がかかる。	なし。	口唇部は露胎。	トレンド3 黒色土	タイ シーザチャナライ 窓
				-	21.6	褐色。	赤色粒を多く、半透明 釉を少し含む。	灰褐色の泥釉? がかかる。口縁 部に黒色釉がまだらにかかる。	なし。	トレンド3 黒色土
49	蓋?	-	-	-	-	黒色釉が全面にかかる。	-	-	-	タイ
				-	-	灰白色。 黒色粒を少し含む。	-	底部が丸い双耳型。	トレンド3 黒色土	シーザチャナライ 窓
50	胴部	-	-	-	-	-	-	口唇部付近に2本の 横溝。	トレンド3 黒色土	シーザチャナライ 窓
				-	-	白色粒を少し、半透明 釉をわずかに含む。	蓋胎。	なし。	シーザチャナライ 窓	タイ シーザチャナライ 窓
51	蓋?	底部	-	外側は灰褐色、 内側は赤褐色。	9.2 白色粒を少し、半透明 釉をわずかに含む。	外面には緑灰色(所々青白い 色)釉、内面には暗オーブル色釉 がはばらつかる。	貫入が内面に多くある。	底部は特に露胎では ないが、半坦、白耳置 ではなく、すりんりし た飾瓶底の迹か。	石積み	タイ シーザチャナライ 窓
				-	-	-	-	-	-	不明
52	口縁部	-	-	赤褐色。	87.0 白色・半透明釉を多 く含む。	外面には緑灰色(所々青白い 色)釉、内面には暗オーブル色釉 がはばらつかる。	貫入が内面に多く ある。	口唇部付近に2本の 横溝。	トレンド3 黒色土	不明
				-	-	-	-	-	-	不明
53	口?	底部	-	灰褐色で砂質。	37.2 15.7 11.0	半透明・黒色粒を少 し、白色粒をわずかに 含む。	蓋胎。	表面がやや磨滅して いる。	トレンド7 ④	タイ バンブー窓
				-	-	-	-	-	-	不明
54	蓋?	胴部	-	にふい黄褐色 白色・半透明釉をわざ かに含む。	-	外面には灰褐色、内面は露胎 (にふい黄褐色)。	貫入が外面に多く、ピンホールが 外面に少しある。	-	石積み内	マンマー 窓

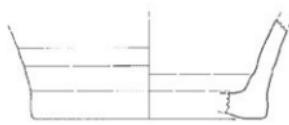
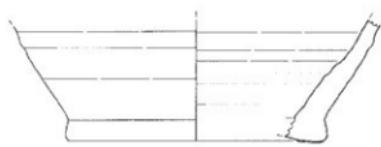
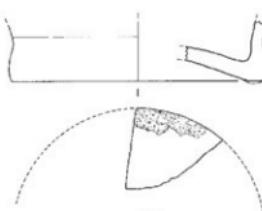
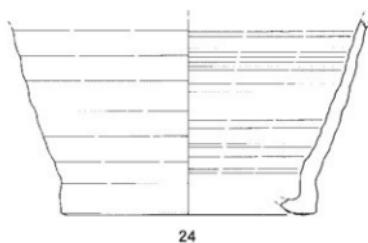
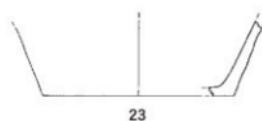
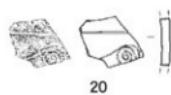
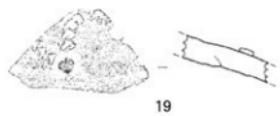
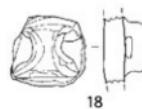
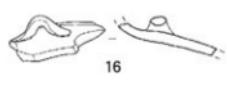
第11表 褐釉陶器出土状況

器種・分類	出土地	トレンド									客土	表記	トレンド3+4	不明	合計		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9							
中国産	東部	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	3	
	底部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2	
	小惑(1点)	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	口縁部	王絆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	口縁部	方形	38	-	1	1	1	11	-	-	1	56	7	5	121	-	
	口縁部	泡	2	-	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	6	-	
	口縁部	三房形	2	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	5	-	
	口縁部	玉絆	2	-	-	-	2	-	-	-	-	4	-	-	2	-	
	口縁部	その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	
	耳	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	51	-	-	9	-	
ノイ川窓	頭部	3	5	1107	150	2	1	6	121	34	244	20	5	1	2	2623	187
	頭部	頸部	21	1	-	-	-	-	-	9	-	58	9	3	101	-	
	蓋?	直行	5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	2	-	
	蓋?	屈曲	13	1	-	-	3	-	1	-	-	35	3	5	61	-	
	底部	ゆるやかに外反	3	-	-	1	2	-	-	-	-	7	1	-	14	-	
	底部	その他	3	-	-	1	1	-	-	-	-	10	1	-	19	-	
	底部	耳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	
	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	
	蓋?	(2点)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	
	小計	3	5	1203	154	2	4	6	125	35	272	20	6	3	3	2808	208
タイ産	輪?(1点)	頭部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	輪?(1点)	口縁部	4	-	-	-	1	-	-	-	-	10	2	1	18	-	
	輪?(1点)	頭部	4	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1	-	11	-	
	輪?(1点)	頭部	136	5	5	4	39	-	-	-	-	428	63	29	709	-	
	輪?(1点)	耳	2	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	5	-	
	輪?(1点)	底部	1	-	-	1	-	-	-	-	-	4	1	-	8	-	
	輪?(1点)	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	1	-	30	-	
	輪?(1点)	口縁部	6	-	-	2	1	-	-	-	-	223	11	14	368	-	
	輪?(1点)	口縁部	1	69	10	6	30	1	31	1	-	5	-	-	7	-	
	輪?(1点)	底部	2	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	5	-	
シーザチャナライ窓	蓋?(1点)	底部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	蓋?(1点)	頭部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	蓋?(1点)	輪?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	蓋?(1点)	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
バンブー窓	輪?(1点)	頭部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	輪?(1点)	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	輪?(1点)	口~底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
マンマー窓	小計	1	0	216	19	0	11	1	33	5	56	1	0	0	0	700	80
	不明	頭部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
	輪?(1点)	口縁部	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
合計		4	5	1420	170	2	15	7	158	40	328	21	6	4	3	3508	289
															1	235	8216

注: (+):接合の意

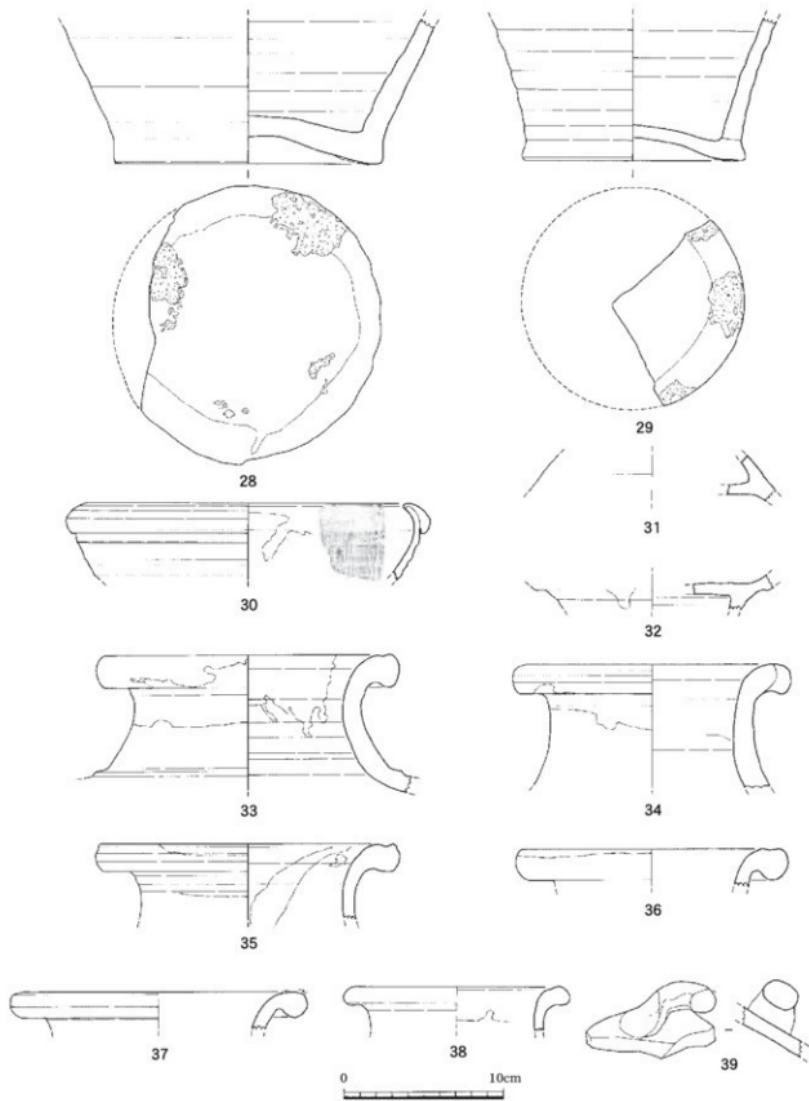


第18図 褐釉陶器 1 (中国産)

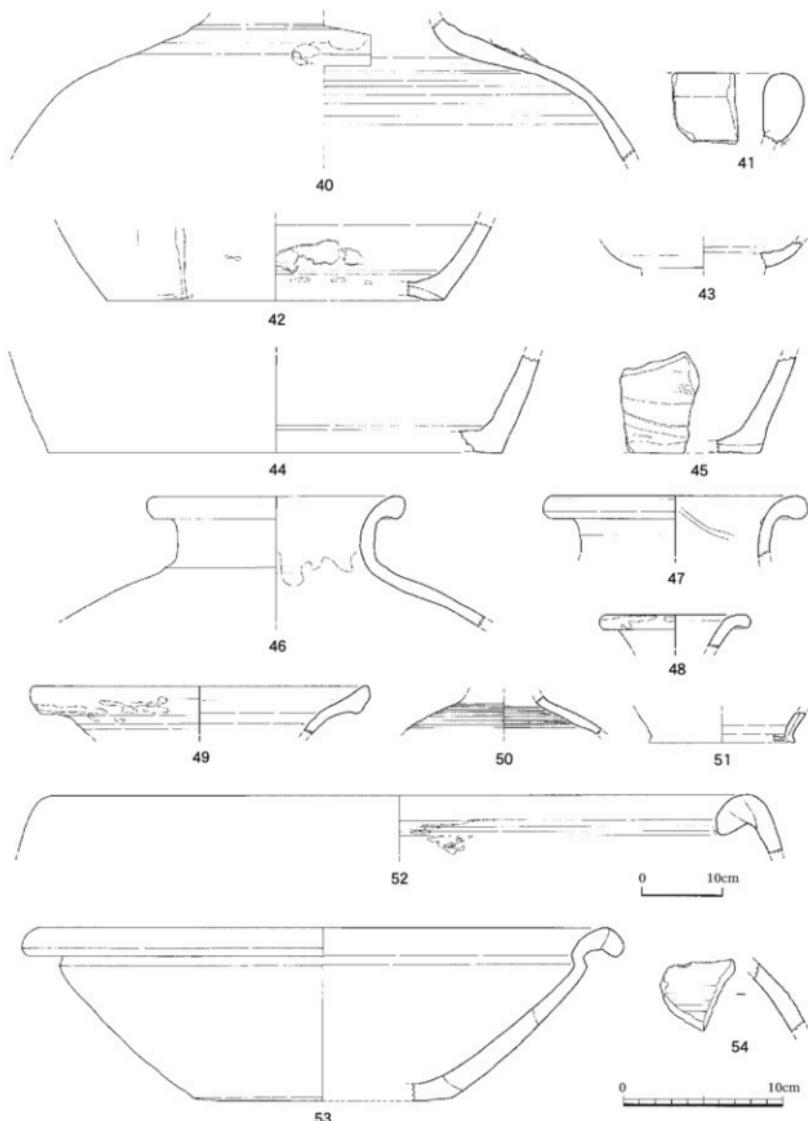


0 10cm

第19図 褐釉陶器 2 (中国産)



第20図 褐釉陶器 3 (中国産・タイ産)



第21図 褐釉陶器 4 (タイ産・ミャンマー産)

第6節 タイ産半練

合計34点出土した。全て蓋である。器面は主に橙色で、胎土には半透明・黒色・赤色・橙色粒を含んでいる。

1・2は撮み部分を欠損している落とし蓋である。端部付近は断面三角形の突帯がめぐっている。上面はナデ、下面中央はケズリ、下面外周はナデ調整である。

3は宝珠形の撮み部分である。

第12表 タイ産半練出土状況

器種	出土地					トレンチ	石晝面	客土	表探	表探+客土	不明	合計
	2	4	6	8	11							
蓋 (26点)	1	1	1				1	17	3	1	2	27
撮み							1	1				2
不明 (5点)	不明			1	2		1	1				5
合計	1	1	1	1	2	3	19	3	1	2	34	

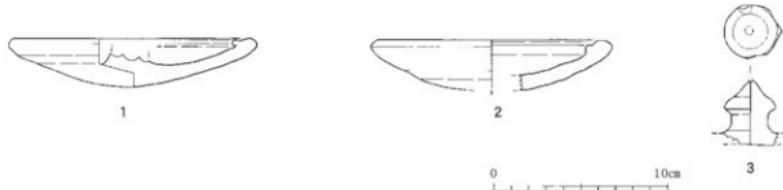
注「+」:接合の意

第13表 タイ産半練観察一覧

単位:cm

図番号	器種	部位	端部径 器高	胎土		色調	器形・調整痕など	出土地点
				色調	混入物			
第22 岡 ・ 図 版 34	1 蓋	一	14.4 2.8	橙色。中心は 灰色。	半透明粒が多く、黒色・赤色 粒を少し含む。	橙色。	甲面はナデ。裏面は中央部 がケズリ、周辺はナデ。	表探+客土
	2 蓋	一	14.0 —	橙色。中心は 灰色。	半透明・橙色粒を多く、黒色・ 赤色粒を少し含む。	橙色。	甲面はナデ。裏面は中央部 がケズリ、周辺はナデ。	客土
	3 蓋 撮み	—	灰白色、浅黄 — 橙色。	半透明粒が多く、橙色・黒色・ 赤色粒を少し含む。	橙色。	ナデ。		客土

注「-」:計測不可、「+」:接合の意



第22図 タイ産半練

第7節 本土産陶磁器

1. 染付 (1~3、5~17)

図示したものは全て肥前産の染付である。5・13~17以外は17・18世紀のものである。14~17は、明治・大正時代に作られた印判手の染付である。

2. 白磁 (4・21・36)

4・21は肥前産の白磁である。36は関西系の皿で、18世紀頃のものであろうか。

3. 色絵 (18・20・22・34)

18は17世紀後半に、有田の南川原で作られた皿である。20は肥前産の蓋である。34は関西系の皿である。

4. 陶器 (19・23~33・35・37・38・40)

19は肥前の内野山で作られた碗である。23~29は薩摩産、もしくはその可能性がある陶器である。胎土は砂質なものが多く、赤色・黒色・白色・半透明粒などの混入物が目立つ。

30~33は備前産の擂鉢である。35は関西系の皿、37・38・40は产地不明である。

第14表 杰土產陶磁器出土狀況

桂「ア」の発音の質

第15表 本土産陶磁器観察一覧

単位:cm

図番号	種類	基部 部位	口径 底径 高さ	胎土	釉系		ピンホール・貫入	器形・文様など	出土地点	産地・時期	
					色調	施釉状況					
1		皿 脚部	口～ 底	—	白色。	全面施釉。	なし	内面に墨線と文様。	トレンチ8 60～80cm 黒色土	肥前 17世紀後半～ 18世紀前半	
2	丸付	碗 底部	4.0	白色。	具頭は暗い。	墨付は露胎。	なし	高台外面に墨線。	トレンチ9 17世紀末～18 世紀中頃	肥前	
3			5.1	—	白色。	墨付は露胎。	買入が内・外面に少しある。	初期伊万里。高台外面に墨線。見込みに文様。	石巻下二 ラ～敷き 黒色土	肥前 17世紀の半	
4	白磁	皿 脚部	9.3	—	白色。	全面施釉。	買入が内・外面に多く、ピンホールが内・外面にわざかにある。	トレンチ9 0～20cm	肥前 17世紀後半		
5		口様 皿	12.4	—	白色。	全面施釉。	ピンホールが内・外 面にわざかにあ る。	梅花。内・外面に文 様。	客土	肥前 19世紀	
6		皿 脚部	—	—	白色。	全面施釉。	なし	外面に草花文。内面に文 様。	客土	有田 17世紀後半	
7	瓶	脚部	—	—	白色。	具頭は緑釉を帯 びる。	内面は露胎。	なし	外面に網目文、墨線。	トレンチ4 ⑨ 肥前 17世紀中頃～ 後半	
8		蓋	10.0	—	白色。	身受け部は露 胎。	買入が内・外面に 多く、ピンホールが 外面に少しある。	外面に墨線と文様。	P-26-27 石巻面	肥前 17世紀後半～ 18世紀	
9	染付	—	—	—	白色。	具頭の色はやや 薄い。	墨付は露胎。	外面に墨線。内面に墨 線と荒磚文。墨付に砂 が付着。	トレンチ3 黒色土	肥前(幡野) 17世紀後半	
10		皿 底部	6.1	—	白色。	具頭の角筋が想 い。	墨付は露胎。見 込みは純白の目輪 剥ぎ。	内面に花文、墨線。見 込みに五瓣花文。墨付 に砂が付着。	トレンチ2	18世紀後半	
11		瓶 頭部	—	—	白色。	内面は露胎。	なし	外面に墨線、網目文。	トレンチ4 北朝石積み	肥前 17世紀後半	
12		—	—	—	—	—	—	—	トレンチ6	肥前 17世紀末～18 世紀前半	
13		蓋	9.9	—	白色。	身受け部は露 胎。	ピンホールが内面 にわざかにある。	外面上に山水文？	O-29石巻 面+石積 み+客土	肥前 明治	
14		蓋 底部	8.5	—	白色。	身受け部は露 胎。	ピンホールが外 面にわざかにある。	外面上に四方博文、圓 模、刻健文など。内面 に墨線、花文。見込み に砂が付着。	トレンチ3 黒色土	肥前系 明治～大正	
15	印刷 染付	—	7.8	—	白色。	高台内の純の 日部に白色の 墨線？。	なし	外面に青 海波文、花文、墨健 文。	トレンチ3 黒色土	肥前系 明治～大正	
16		皿 底部	4.4	—	白色。	墨付は露胎。	ピンホールが内面 にわざかにある。	外面に墨線。内面に 墨線、花文。見込み に砂が付着。	トレンチ3 黒色土	肥前系 明治～大正	
17		—	—	—	—	高台内の純の 日部に白色の 墨線？。	ピンホールが外 面に少しある。	外面に墨線。内面に 墨文、点描文。	トレンチ6	肥前系 明治～大正	
18	色絵	皿 脚部	—	—	白色。	具頭と脚色。	全面施釉。	なし	外面に墨文。内面に花 文。	有田(南向原) 17世紀後半	
19	脚器	蓋 底部	4.7	—	淡黄色でやや 砂質。	外面は脚絞釉、 内面は鉄釉。	高台外面～高 台内は露胎。	なし	客土	肥前(内野山) 17世紀後半～ 18世紀前半	
20	色絵	蓋 底部	10.4	—	灰色。	—	全面施釉。	買入が内面にわざ かにある。	外面に花文、墨線。内 面に墨文、墨線など。	肥前 19世紀	
21	白磁	水 滴 部	—	—	灰色。	—	内面は露胎。	なし。	植物。	不明	
22	色絵	段 口様 部	10.0	—	白色でやや砂 質。	—	外面は黄色・綠。 全面施釉。	買入が外面に少 しある。	外面に文様あり。	客土	19世紀

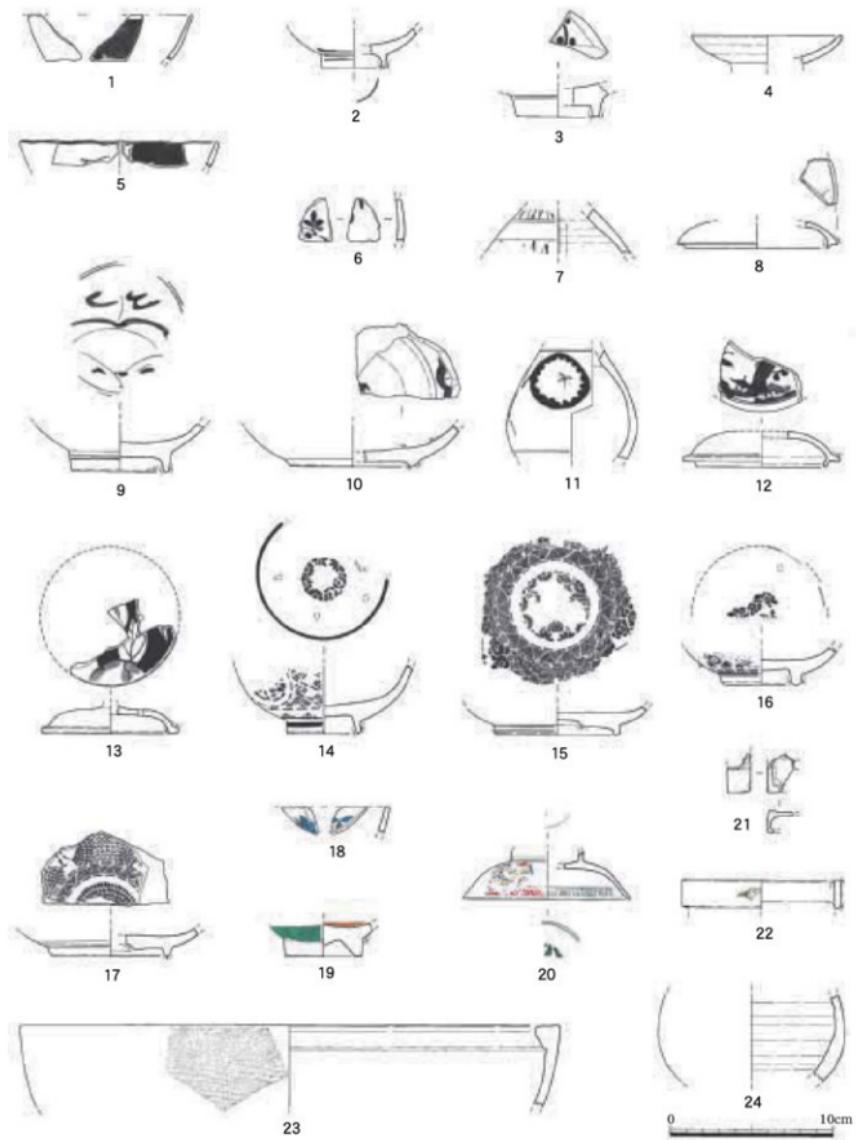
注:「-」:計測不可、「-」:接合の意

第15表 本土産陶磁器観察一覧

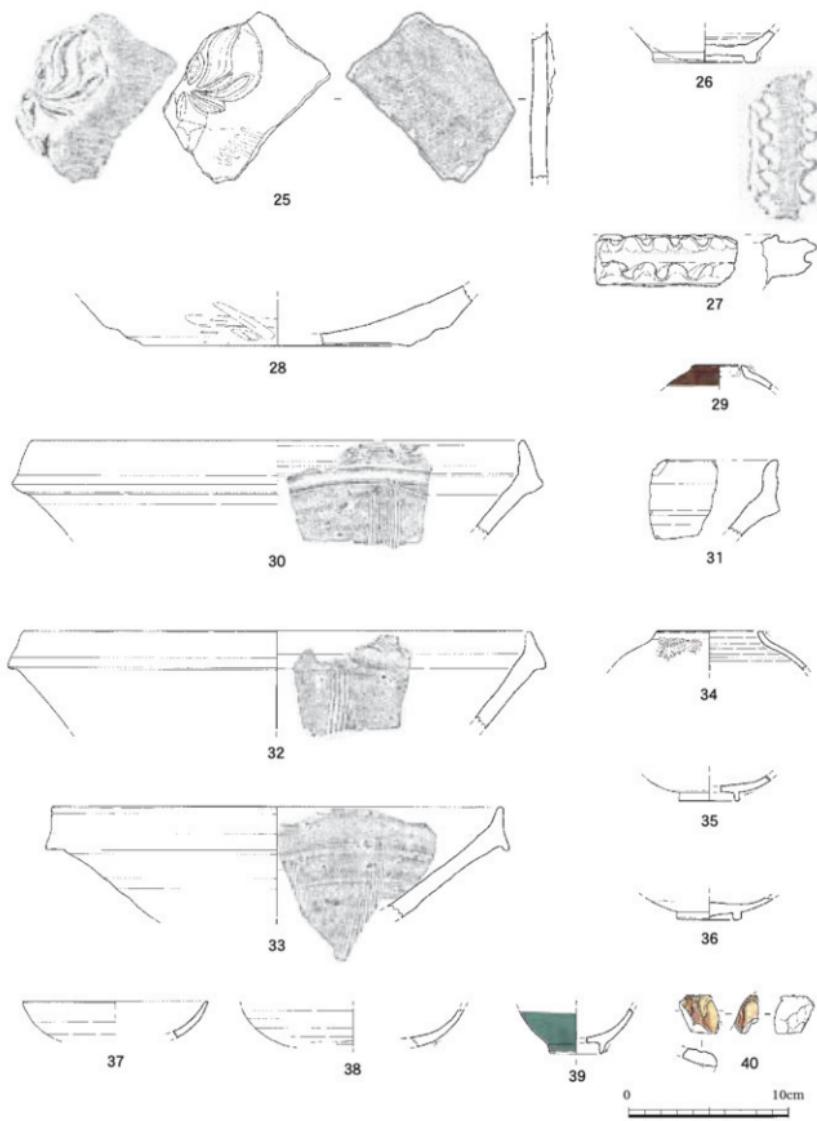
単位:cm

団番号	種類	器種	部位	口径 底径 器高	胎土	釉薬	施釉状況	ピンホール・貫入	器形・文様など	出土地点	産地・時期
第 23 23 24 24 25 25 26 26 27 27 28 28 29 29 30 30 31 31 32 32 33 33 34 34 35 35 36 36 37 37 38 38 39 39 40 40	陶器	鉢	口縁部	33.4	明赤褐色でやや砂目。赤色、内外面に白化粧。半透明粒を多く、土、内面に透明白色粒を少し含む。	無釉。	なし	外面にタキ模様。	客土	薩摩か中国かペトナム 17~18世紀	
37 37 38 38 24 24 25 25 26 26 27 27 28 28 29 29 30 30 31 31 32 32 33 33 34 34 35 35 36 36 37 37 38 38 39 39 40 40	陶器	瓶	胴部	-	にぶい橙色で砂質。白色粒を多く、半透明、青色粒を少し含む。	外面は黒色。内面は露胎。	なし	胴部径は11.6cm。	トレンチ9 0~20cm	薩摩か沖縄 18世紀	
-	-	-	-	-	灰・褐色で砂質。黒色、半透明粒を多く、白色・赤色粒を少し含む。	内・外面に灰オーリーブ釉?。	無軸?。	なし	外面に貼花文。内面に青海波次のタキ模様。	トレンチ3 薩摩か中国 黒色土 17~18世紀	
-	-	-	-	-	にぶい橙色でやや砂質。白色粒を多く、赤色粒を少くすわすかに含む。	外面は黒色。	内面と骨付へ高台内は露胎。	蛇の目高台。	トレンチ9 0~20cm	奥摩か沖縄 18世紀	
-	-	-	-	6.6	褐色で砂質。黒色、半透明粒を多く、白色粒を少し含む。	内・外面に灰オーリーブ釉?。	無軸?。	なし	フリル状。	トレンチ3 薩摩か沖縄 黒色土 17~18世紀	
-	-	-	-	17.0	暗赤灰色。半透明粒を多く、風色・赤色粒を少し含む。	無軸。	なし	高台状。底外部はへたりがき。	客土	薩摩か中国か東南アジア	
-	-	蓋?	底部	3.6	にぶい黄褐色でやや砂質。	無軸。	なし	外面は鉢足。	トレンチ3 黒色土 18~19世紀		
-	-	-	-	31.2	灰色、灰赤色。白色・赤色・黒色を多く、半透明粒を少し含む。	無軸。	なし	口縁部外側下位に重ね焼き痕。堀日は9本。	客土	備前 16世紀	
-	-	蓋?	口縁部	-	赤灰色。黒色、白色・半透明粒を少し含む。	無軸。	なし	一	客土	備前 16世紀	
-	-	-	-	32.2	灰色・灰赤色。白色・赤色粒を少し含む。	無軸。	一	堀日は7本。	トレンチ3 黒色土 16世紀		
-	-	-	-	28.6	褐色、白色・赤色・緑色粒を少し含む。	無軸。	一	堀日は8本。	客土	備前 16世紀	
-	-	蓋?	口縁部	6.5	浅黄色でやや砂質。黑色粒を白化粧上。	口沿部へ内面は露胎。	貫入が外面に多くある。	無文。	客土	関西系 18~19世紀	
-	-	-	-	-	内・外面にオリーブ色釉。種々ガラス質で気泡が多い。	底部外面下位へ高台内は露胎。	貫入が内・外面上に多くある。	-	トレンチ9 0~20cm	関西系 18世紀	
-	-	-	皿 底部	3.8	浅黄色。	底部外面へ高台内は露胎。	ビンホールが内面に少し、貫入が内・外面上に多くある。	-	客土	関西系 18世紀	
-	-	-	-	4.1	浅黄色。白色。	底部外面へ高台内は露胎。	ビンホール・貫入が内・外面上に多くある。	-	トレンチ7 黒色土 16世紀	備前 16世紀	
-	-	-	皿 底部	11.8	-	全面施釉。	ビンホール・貫入が内・外面上に多くある。	-	トレンチ7 黒色土 16世紀	備前 16世紀	
-	-	-	-	-	白色。白色。	底部外面は露胎。	ビンホールが内面に少し、貫入が内・外面上に多くある。	筋土、無文が37に假る。	トレンチ7 黒色土 16世紀	産地不明	
-	-	皿?	胴部	-	白色。白色。	底部外面は露胎。	ビンホールが内面に少し、貫入が内・外面上に多くある。	筋土、無文が37に假る。	トレンチ7 黒色土 16世紀	産地不明	
-	クロム 青磁	碗	胴~底部	4.2	白色。	墨付は露胎。	なし	高台内に文様。	客土	産地不明	
-	唐器	人形	胴部	-	淡黄色。	内面は露胎。	なし	男性の人形、型物。	トレンチ3 黒色土 16世紀	産地不明	

注「-」:計測不可、「!」:接合の意



第23図 本土産陶磁器(1)



第24図 本土産陶磁器(2)

第8節 沖縄産施釉陶器

器面に釉薬をかけた陶器で「上焼（ジョウヤク）」とも呼ばれる。今回は1,034点が出土した。碗・皿といった器種が半分を占め、他に急須・鉢・壺・火取などがある。整形方法は基本的にロクロナデで、底部外面はロクロケズリとなるものが多い。

1. 碗 (1~4)

いずれも口縁部は直口する。1は口縁部がほぼ直口で、内・外表面とも白化粧（白化粧土+透明釉）の碗である。2~4器面には灰釉と呼ばれる釉薬がかかっているが、その色・透明度は様々である。2・3は、口縁部～胴部を釉薬の中に入す「ガキ」と呼ばれる施釉方法が用いられている。4は口縁部外面に露胎部があり、胎土は砂質で釉薬の色も通常の灰釉とはやや異なっている。

2. 小碗 (5~13)

口縁部資料については直口（5~7・10）、外反（8・9）の2者がある。直口のものについては、6・7のように外に開くものと、10のように胴部が丸みを帯び、口縁部がほぼ垂直になるものとがある。

3. 皿 (14~22)

14~19は白化粧の皿であり、19については口縁部が直口で、それ以外は外反する。20は灰釉の皿で、口縁部は直口である。22は大型の皿で、内面には雲龍文と、縦方向の密な沈線がある。

第16表 沖縄産施釉陶器観察一覧

単位:cm

団番号	器種	分類	部位	口径 底径 器高	施土	施釉	ピンホール・貫入	器形・文様など	出土地点	時期	
				色調	混入物	（ ）は施釉順序	施釉状況				
1	碗	直口・口～白化粧	底部	13.6 5.8 7.1	赤褐色。 赤・暗赤色。	白色を少し、黒 色・透明粧をわ ずかに含む。	白化粧土→白 化粧・オリーブ 色の文様→透 明釉。	見込みは蛇の目施 釉。豊付にアルミ ナイト。	ピンホールが内・外面 にわずか、貫入が内・ 外面に多くある。	内・外面上に草花文 様。	客土 19~20世紀
2	碗	外反・口～灰釉	胴部	14.6	灰色。	特になし。	透明に近い灰 色。	フィガキー。	ピンホールが内・外面 にわずか、貫入が内・ 外面に少しある。	口縁部直下 と胴部に沈 線。	客土 18世紀前半~中頃
3	碗	直口・口～灰釉	胴部	—	灰色。	特になし。	灰オリーブ色。	フィガキー。	ピンホールが内・外面 に少し、貫入が内・外 面上に多くある。		客土 17世紀末 ~18世紀前半
4	碗	直口・口～灰釉	胴部	12.8 8.8	にぶい 黄褐色 で砂質。	白色粧をわずかに 含む。	外面は暗褐色、 内面は黄褐色。	口縁部外面が帶狀 に施釉。	貫入が内面に少しあ る。	内面に施釉 の小突起。	トレンチ3 黒色土 18世紀後半~19世 紀
5	碗	直口・口～灰釉	胴部	—	黄褐色 で砂質。	白色・椎色粧を わずかに含む。	白化粧。	全面施釉。	貫入が内・外面上に多く ある。	口沿部を少 し肥厚。	客土 19世紀
6	碗	直口・口～灰釉	胴部	8.6	灰白色。	特になし。	灰白色。	フィガキー。	ピンホールが内・外面 にわずかにあら。		客土 19世紀
7	碗	直口・口～灰釉	胴部	8.4	—	—	透明に近い灰 色。	全面施釉。	なし。		客土 17世紀後半~18世 紀前半
8	碗	外反・口～灰釉	胴部	10.0 —	灰白色 でやや砂質。	黒色粧を少し含 む。	外面は暗褐色、 内面は灰オリーブ 色。	外面の一部と見込 みは露胎。	ピンホール・貫入が内・ 外面に少しある。	胴部外面に 沈線。	トレンチ9 18世紀
9	小碗	外反・口～白化粧	底部	9.5 4.2 4.5	淡黃褐色 で砂質。	黒色粧を少し、 赤色粧をわずかに 含む。	白化粧。	見込みは蛇の目施 釉。豊付にアルミ ナイト。	横方向の画 刷り。	客土 19世紀	
10	碗	直口・口～灰釉	胴部	8.0	—	灰白色。	黒色粧をわずかに 含む。	灰白色。	ピンホールが内・外面上に 少しある。	沖縄屋では ない可能性 もある。	客土
11	—	—	—	3.6	淡黄色 で砂質。	特になし。	白化粧。	見込みは蛇の目施 釉。豊付にアルミ ナイト。	貫入が内・外面上に多く ある。	トレンチ6 19世紀	
12	白化粧	胴～底部	—	—	淡黄色 で砂質。	特になし。	白化粧。	見込みは蛇の目施 釉。	貫入が内・外面上に多く ある。	トレンチ6 19世紀	
13	—	—	—	2.2	灰白色。	特になし。	—	食付へ高台内は露 胎。	外面に青・ 暗オリーブ 色の文様。	P-26~27 石垣面 19世紀	

注「-」:計測不可

第16表 沖縄産施釉陶器観察一覧

単位:cm

国番号	器種	分類	部位	胎土		施釉		ピンホール・貫入	器形・文様など	出土地点	時期	
				底径	高さ	色調	漬入物					
14				13.4								
				5.8	浅黄色で砂質。	特になし。	白化粧。	見込みは蛇の目釉剥ぎ、漬付にアルミナ。	ピンホール・貫入が内・外面に少しある。	蓋付・見込みに重ね焼きの跡。外面上に施釉後の指跡。	客土	18世紀末～19世紀
				3.7								
15				13.9								
				6.8	浅黄色で砂質。	特になし。	白化粧。	見込みは蛇の目釉剥ぎ、蓋付にアルミナ。	ピンホール・貫入が内・外面に少しある。	蓋付・見込みに重ね焼きの跡。	トレンチ6	18世紀末～19世紀
				4.4								
16			外反・口～ 白化粧底部	13.2	浅黄色で砂質。	特になし。	白化粧。	見込みは蛇の目釉剥ぎ、蓋付にアルミナ。	ピンホール・貫入が内・外面に少しある。	蓋付・見込みに重ね焼きの跡。	客土	18世紀末～19世紀
				6.4								
				4.2								
17			皿	13.4								
				6.8	灰色。	特になし。	白化粧。透明釉は明オリーブ灰色。	漬付は釉薬を刷り取って、アルミナを付ける。	ピンホールが内・外面にわざか、貫入が内・外面上に多くある。	蓋付・見込みに重ね焼きの跡。	客土	18世紀末～19世紀
				3.0								
18			口～ 胴部	13.0	浅黄色で砂質。	特になし。	白化粧。内面に真須による文様。	見込みは蛇の目釉剥ぎか。	ピンホールが内・外面上にわざか、貫入が内・外面上に少しある。	内面に真須による花文、團紋。	トレンチ6	19世紀
				—								
				13.2	浅黄色で砂質。	特になし。	白化粧。	施釉後に口唇側の釉薬を剥ぎ取る。	ピンホール外間に少しある。貫入が内・外面上に少しある。	輪花、内面に2本の花線。	トレンチ6	19世紀
19			直口・口～ 白化粧底部	11.6	浅黄色、橙色、灰色で砂質。	特になし。	灰オリーブ色。	全面施釉。	ピンホールが内・外面上にわざか、貫入が内・外面上に少しある。	トレンチ3	17世紀末～18世紀前半	
				—								
				—								
20			直口・口～ 灰釉・胴部	25.7								
				9.6	灰色。	黒色粒をわずかに含む。	外面上は灰オリーブ色、内面は見込みに白化粧。底土、灰オリーブ色～海鼠色。	見込みは蛇の目状に剥離、蓋付にアルミナ。	内面制御部に施釉剤の蓄積と底方向の浸透現象。見込處底部に沈殿。	客土右台、面面と表層		
				4.3								
21			その他 武器	4.2	浅黄色で砂質。	特になし。	内面は白色。	外表面は露胎。	青焼窯ではない可能性もある。	トレンチ3	黒土色。	
				—								
				—								
22			直口～ 底部	—								
				39.6	灰色。	黒色粒をわずかに含む。	外面上は黒色、内面は白化粧。	見込みは蛇の目状に剥離、高台、蓋付に露胎。蓋付にアルミナ。	内面制御部に施釉剤の蓄積と底方向の浸透現象。見込處底部に沈殿。	客土右台、面面と表層		
				—								
23	鉢	—	底部	12.8	浅黄色で砂質。	黒色粒をわずかに含む。	外面上は黒色、内面は白化粧。	見込みは蛇の目状に剥離、高台、蓋付に露胎。蓋付にアルミナ。	見付、見込み蛇の目釉剥ぎ部、高台に黒色タール状の付着物。	客土		
				—								
				—								
24	鉢	—	口～ 胴部	39.6	浅黄色	白色・黒色粒を含む。	白化粧。内面に真須による文様。	全面施釉。	ピンホールが外面上に少し、貫入が内・外面上に多くある。	口縁部に迷路文、花文。	明治以降	
				—								
				—								
25	臺	—	口～ 胴部	6.8	灰白色。	特になし。	暗オリーブ色。	全面施釉。	貫入が内・外面上に少しある。	油壺。	トレンチ9	18世紀
				—								
				—								
26	瓶	—	胴部	—	灰白色。	特になし。	灰白色。	全面施釉。	貫入が内・外面上に少しある。	P-26-27 看板	19世紀	
				—								
				—								
27	瓶	—	胴部	—	灰色で 砂質。	黒色粒多く、透明釉を少し含む。	黑色。	全面施釉。	なし。	瓊杵喜瓶。	トレンチ3 黒土色。	
				9.4								
				—								
28	甕	—	口～ 胴部	—	灰白色。	特になし。	オリーブ色～オリーブ墨色。	口縁部内面へ平埴は露胎。	ピンホールが内・外面上に少し、貫入が外面上に少しある。	客土		
				—								
				—								
29	甕	—	底部	7.2	にぶい 黄褐色	黒色粒を少し、黒色粒をわずかに含む。	外面は白化粧、内面は白化粧上。	高台、蓋付は白化粧。	ピンホール・貫入が外面上に少しある。	甕内に施釉後の一傷がある。	客土	18世紀後半～19世紀
				—								
				—								
30	甕	—	底部	9.6	浅黄色。	特になし。	外面は黒色。	底部外面上は露胎。なし。	内面に釉垂れ。	客土		
				—								
				—								

注「-」:計測不可

第16表 沖縄産施釉陶器観察一覧

単位:cm

団番号	器種	分類	部位	口径 底径 器高	胎土 色調	混入物	色調(→は施 釉頃序)	施釉状況	ピンホール・貯入	器形・文様 など	出土地点	時期
31	瓶	-	底部	10.4	淡黄色 やや砂質。	白色を少し、黒 色をわずかに含む。	外面はオリーブ 色で、内面は褐色。	高台～高台内は露 胎。	ピンホールが外面に多 くある。	トレンチ4 北側石積み		
32	瓶	-	底部	7.4	淡黄色 やや砂質。	墨色、白色を少 し含む。	外面はオリーブ 色で、内面は暗 褐色。	露胎。	ピンホールが外面に少 しある。	客土		
33	壺	-	底部	9.1	淡黄色 やや砂質。	墨色、赤色粒を 少し含む。	オリーブ墨色。	見込み、暈付は露 胎。高台内に移が付 していない。	見込みに或ね 焼きの跡。	トレンチ3 黒色土		
34	-	-	-	16.3	灰白色。 特なし。	外面は灰黄色。	内面は露胎。	ピンホールが外面に少 しある。	外面に灰オ リーブ色の文 様。	トレンチ8 半～19世 紀		
35	蓋	-	-	10.7	灰白色 やや砂質。	墨色を少し、 透明粒をわずかに 含む。	外面は黒褐色。 内面は褐色。	口縁内面は露胎。	なし。	客土	18世紀後 半～19世 紀	
36	不明	-	-	-	灰黄色。 特なし。	墨色。	全面施釉。	ピンホールが内・外 面に多くある。	重ね焼きの跡 らしきものがある。	トレンチ9		
37	蓋?	-	-	-	橙色を多く、 やや砂 質。	白色を少し、 墨色をわずかに含む。	外面は墨褐色。	内面は露胎。	なし。	薄し蓋か、 トレンチ3 黒色土	18世紀末 ～19世紀	
38	壺	-	-	7.6	灰白色。 特なし。	外面に透明粒と 暗緑色の文様。	内面は露胎。	貯入が外面に少しあ る。	外面に沈漫 文。	トレンチ9	19世紀	
39	-	口～ 胴部	-	7.6	灰白色。 特なし。	透明釉。	内面は露胎。	ピンホールが内・外 面に少し、貯入が内・外 面に多くある。		客土	19世紀	
40	-	胴～ 底部	-	7.6	灰白色。 特なし。	透明釉。	底部外面は露胎。	ピンホール・貯入が外 面に少しある。	注ぎ口取り付 き部分には3個 の穴。	客土	19世紀	
41	接 続	-	把手	-	灰白色。	墨色粒を少し含 む。	黑色。	全面施釉。	ピンホールが内・外 面に多くある。		客土	19世紀
42	火 炉	口縁 部	-	-	灰白色。 墨色・白色粒を わずかに含む。	白～水色、灰オ リーブ色。	全面施釉。	ピンホールが内面にわ ずかにあ。		客土	18世紀後 半～19世 紀	
43	火 炉	耳	-	-	橙色で 砂質。	墨色を少し、 白色をわずかに 含む。	外面は墨～暗 褐色。	内面は露胎。	シーサーの 頭を表現。	客土	18世紀後 半～19世 紀	
44	鍋	口縁 部	-	16.2	灰白色。 特なし。	暗オリーブ色。	口縁内面は露胎。	ピンホール・貯入が内 ・外面に少しある。	ロクロは在田 軒。	トレンチ8 20～40cm	18世紀後 半～19世 紀	
45	甕	-	口～ 胴部	17.5	灰白色。 特なし。	墨～褐色。	全面施釉。	ピンホール・貯入が内 ・外面に少しある。		客土	18世紀後 半～19世 紀	
46	鍋	口縁 部	-	16.8	灰白色 やや砂質。	白色・半透明 墨色粒を少し含 む。	暗褐色。	口縁内面は露胎。 なし。		客土	18世紀後 半～19世 紀	
47	打 明 鏡	口縁 部	-	6.6	灰白色。 特なし。	内面に透明釉。	外面は露胎。	貯入が内面に多くあ る。		不明	18世紀？	
48	-	口縁 部	-	5.4	灰白色。 特なし。	墨褐色。	全面施釉。	ピンホールが外面にわ ずかにあ。		石積み内 部	18世紀後 半～19世 紀	
49	打 明 鏡	底部	-	4.4	灰白色 やや砂質。	透明粒をわずかに 含む。	外面は墨色。	底部は露胎。	貯入が外面に少しあ る。	トレンチ4 北側石積み	18世紀後 半～19世 紀	
50	壺	-	-	-	淡黄色 やや砂質。	キラキラと光る鉛 物粒を少し含む。	外面は黄緑～ オリーブ黄色。	内面は露胎。	なし。	不明	18世紀後 半～19世 紀	

注: (ー):計測不可

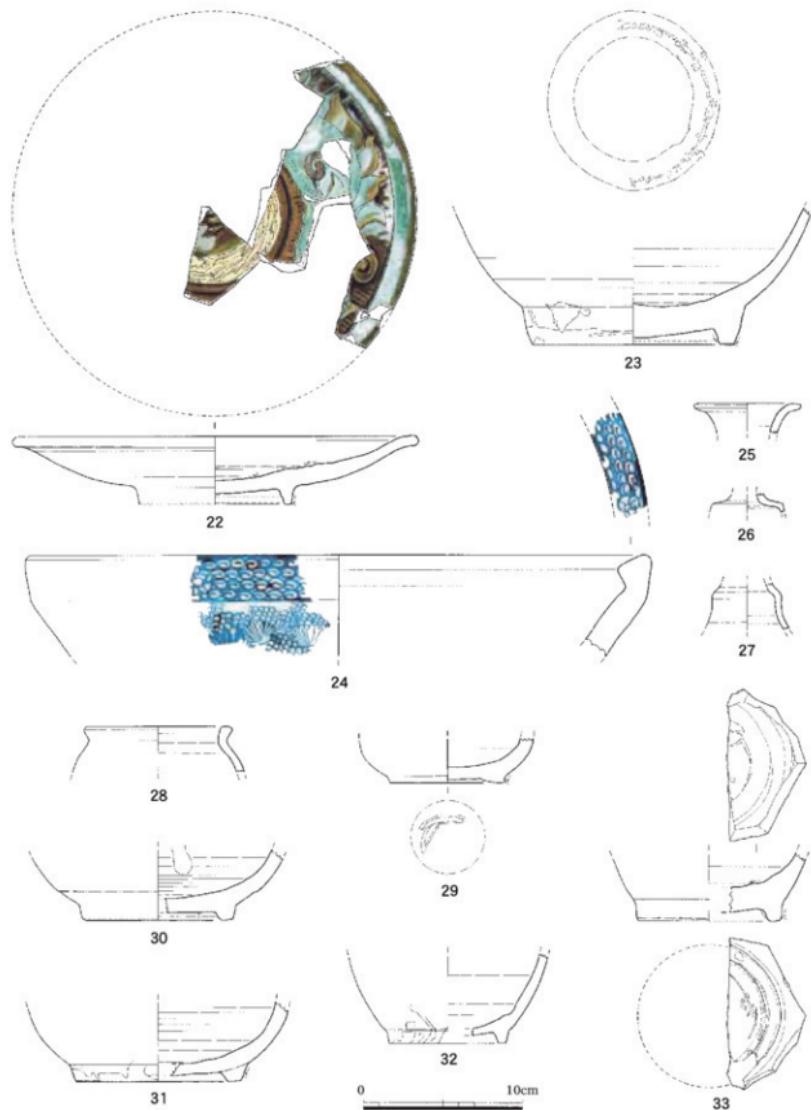
第17表 沖縄産施釉陶器出土状況

器種・分類	出土地				トレンチ				石壺面 面下	石塼 石塼内	石塼 石塼内	客土	表様	客土+石 表様+表様	不明	合計		
	2	3	4	5	6	8	9	12										
痢 (127点)	灰釉	口縁部	直口	2					1				10				13	
		底部	外反	1	1	2							7				11	
		柄部					1		4				15	1			25	
		口～底	直口		1		1		1				4	2	1	1	10	
	白化粧	口縁部	外反	1	1	4	1						1				1	
		口縁部	直口										21	1	1	1	30	
その他		柄部											3				3	
小瓶 (61点)	灰釉	口縁部	直口										8				14	
		底部	外反										2				3	
		柄部											1				1	
		口～底	直口										1				1	
	白化粧	口縁部	外反										1				1	
		柄部											5				5	
その他		口縁部	外反										2				2	
亂 (368点)	灰釉	口縁部	直口										5				5	
		底部	外反										1				1	
		柄部											1				1	
		口～底	直口										1				1	
	白化粧	口縁部	外反										5				5	
		柄部											2	1			3	
その他		口縁部	直口										4				4	
甕(1点)		口縁部	直口										1				1	
体(28点)		口縁部	直口										1				1	
瓢(7点)		口縁部	直口										1				1	
帽(27点)		口縁部	直口										1				1	
館(3点)		口縁部	直口										1				1	
置物(1点)		口縁部	直口										1				1	
急須(122点)		口縁部	直口										1				1	
		底部	直口										1				1	
		柄部	直口										1				1	
		耳	直口										1				1	
		把手	直口										1				1	
		蓋	直口										1				1	
		注口	直口										1				1	
		底部	直口										7				7	
		足つき	直口										4		2	7	10	
		底部	直口										18	1	2	26	26	
盃(8点)		口縁部	直口										3				3	
盃?(1点)		口縁部	直口										1				1	
アラゲン(1点)		口縁部	直口										1				1	
瓶(30点)		口縁部	直口										2				2	
灯明里(1点)		口縁部	直口										4				4	
灯明具(2点)		口縁部	直口										1				1	
		底部	直口										1				1	
		耳	直口										3		1		4	
火取(14点)		口縁部	直口										6		1	6	7	
		底部	直口										1				1	
大炉(2点)		口縁部	直口										1				1	
		耳	直口										1				1	
香炉(1点)		口縁部	直口										1				1	
袋物(54点)		口縁部	直口										22	1	5	50	50	
		底部	直口										1		1		2	
不明(175点)		口縁部	直口										1		2	3	3	
		耳	直口										3		3		3	
		柄部	直口										7	9	6	147	147	
		底部	直口										6		3	3	21	
		不明	直口										1				1	
合計		8	79	27	5	206	7	21	1	37	7	11	8	527	43	1	48	1034

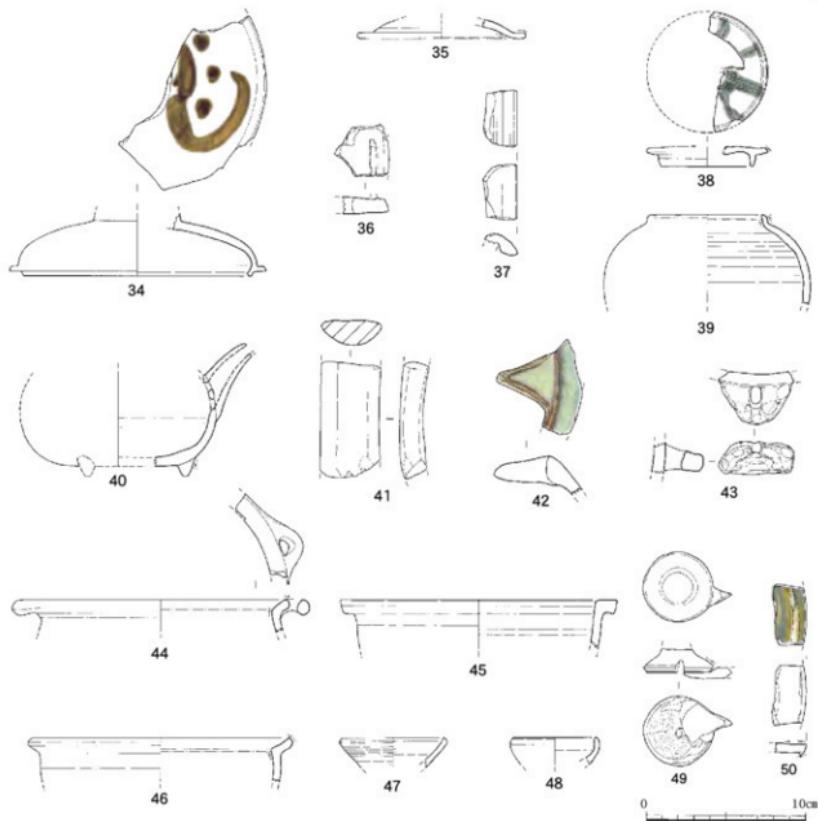
注「+」:接合の意



第25図 沖縄産施釉陶器(1)



第26図 沖縄産施釉陶器(2)



第27図 沖縄産施釉陶器（3）

第9節 沖縄産無釉陶器

「荒焼（アラヤク）」とも呼ばれ、高温で焼き締められた陶器である。基本的に釉薬はかけられないが、泥釉等がかけられるものも含めた。沖縄産施釉陶器と同様に、整形方法はロクロナデが主体である。沖縄産施釉陶器が碗・皿といった小型の什器が主体であったのに対し、沖縄産無釉陶器は壺・甕・擂鉢といった大型の器種となる。そのため焼成時の火のまわり具合によって、焼きむらが出来る場合があり、同じ器でも内面と外面とで色が違うことも多く、色も均一でない。とくに割れ口を観察すると、中心部と外側とで色が異なり、2色ないし3色の層をなすことが多い。

1. 瓢（1～6）

口縁部は全て直口である。

2. 鉢 (8~12)

口縁部資料については全て逆L字型に外反している。11は底部中央に穴があることから、植木鉢として使われたと考えられる。

3. 撥鉢 (14~18)

14・16・17については、撗り目の本数が1cmあたり5・6本とまばらで、撗り目上端はナデ消されていない。15については撗り目が密で、その上端もナデ消されている。18は脚付き播鉢の脚部である。

4. 水鉢 (19~23)

「ミシケワサ」とも呼ばれる。浅鉢形で口縁部が内湾する。口縁端部については、直口 (19・21) のものと、外側に突出するもの (20・22・23) とがある。また外面には沈線や波状文を施す場合が多い。

第18表 沖縄産無釉陶器出土状況

器種・分類	出土地									トレンチ				石積面 石量 面下	石段	石積 み内	客土	表採	H3+客 土	不明	合計
	1	2	3	4	5	6	8	9													
碗 (12点)	口～底					1										1				2	
	口縁部	1	1			1	1	1							1		3			9	
	底部								1										1		
鉢 (21点)	逆L字		2		1	3		1								3	1			11	
	口縁部 直口					1		1							1				2	5	
	その他		1																1		
	胴部																2		2		
	底部					1											1		2		
木鉢 (9点)	口～底						1									1				1	
	口縁部																8			8	
	くの字					1										6	1			8	
播鉢 (40点)	口縁部 逆L字															2				2	
	胴部		1	3		1		3							1		18	1		28	
	脚?							1											1		
	脚部							1											1		
	玉縁		1			1			1										3		
壺 (33点)	口縁部 くの字															1				1	
	その他		1			1		1								1	2			6	
	胴部		1			2		1	3						1	8	2			17	
	底部		1													1	3	1		6	
壺? (1点)	口縁部															1				1	
甕 (8点)	方形					1													1		
	口縁部 逆L字															1	1		2	4	
	逆三角形															2			2		
	その他															1			1		
壺or壺(7点)	胴部		1					4	2						1				7		
蓋(1点)																			1		
瓶 (11点)	口縁部		1					1	1										3		
	胴部		1					1								1			3		
急須 (6点)	底部		1													1	2		1	5	
	胴部							1								2	1		4	2	
火鉢 (6点)	口縁部							1								4			5		
	肩			1															1		
火取(1点)	口縁部															1			1		
火入(3点)	口縁部															3			3		
袋物(2点)	胴部					1										1			2		
	口縁部					1			2							5		4	12		
不明 (545点)	耳					6										2	1		9		
	胴部	1	2	15	20	2	66	19	51	23	2	2	214	29				50	496		
	底部			1		1	1	1	1				22				1		27		
	不明									1									1		
合 计		1	3	27	25	4	88	23	64	36	6	5	1	320	42	1	60	706			

注「+」接合の意

第19表 沖縄産無釉陶器観察一覧

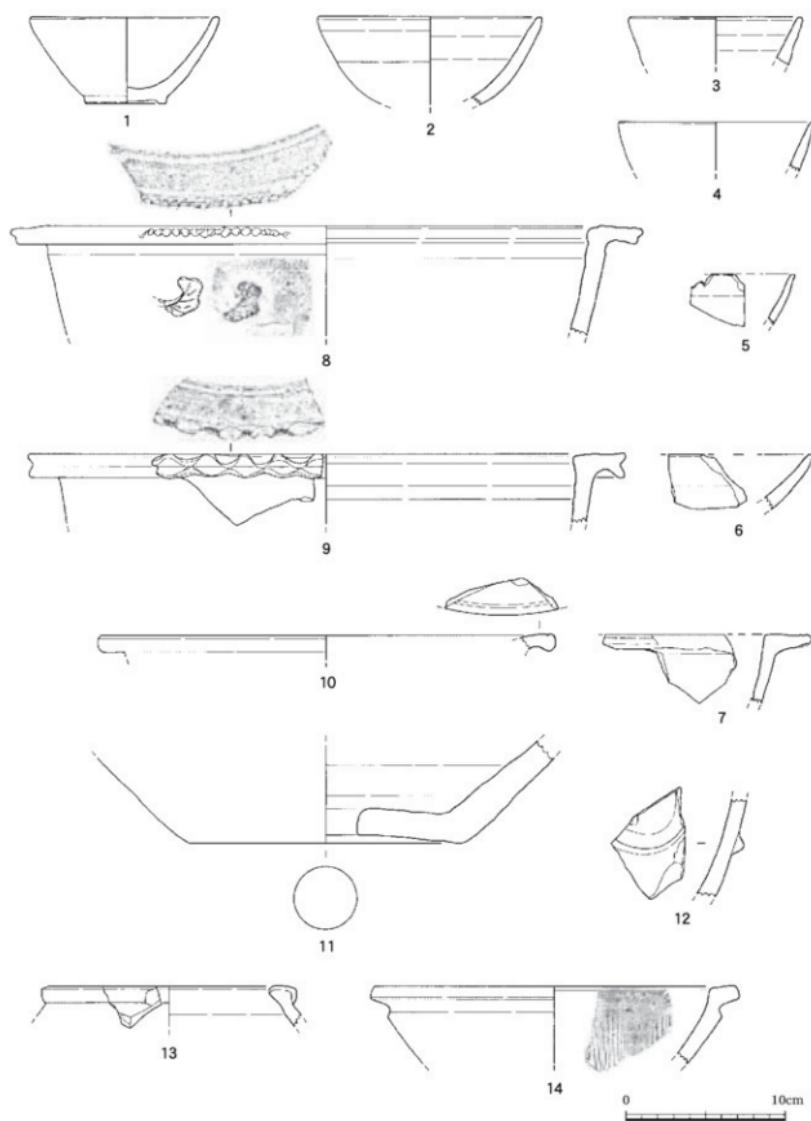
図番号	器種	部位	分類	口径 底径 高さ		施土		器形・文様など	出土地点	単位:cm
				色調・質	混入物	色調				
1	口～底部	-	-	12.0 5.5	赤褐色。	白色粒をわずかに含む。	外面は灰色、純い赤褐色。内面は灰色。	ロクロは右回転。	トレンチ8 20～40cm トレンチ8 80～100cm	
			-	5.1 14.2	赤色。	半透明・橙色粒を少し、黒色粒をわずかに含む。	外面の口縁部は灰褐色、明削りは橙色。内面は灰色。	ロクロは左回転。		
		-	-	-	-	-	-	-	客土	
		-	-	11.0	赤色、赤褐色。	赤色を少し、白色・半透明粒をわずかに含む。	外面は純灰色。内面は灰褐色、橙色。	-	石段	
2	碗	-	-	-	-	-	-	-	-	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
3	口縁部	-	-	12.4	外側は青灰色。 中心は青色。	半透明粒を少し、赤色・橙色粒をわずかに含む。	外面は灰色、純い赤褐色。内面は灰色。	ロクロは左回転。	客土	
			-	-	-	-	-	-		
		-	-	-	外側は青灰色。 中心は灰褐色。	白色・墨色・半透明粒をわずかに含む。	内・外面とも橙色。	ロクロは左回転。	トレンチ3	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
4	口縁部	-	-	12.4	純い赤褐色。	白色・墨色・半透明粒をわずかに含む。	外面は灰褐色。内面は灰褐色。	ロクロは左回転。	客土	
			-	-	-	-	-	-		
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
5	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	ロクロは左回転。	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
6	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	トレンチ2	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
7	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	トレンチ5	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
8	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
9	鉢	逆一字	-	-	-	-	-	-	トレンチ5	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
10	鉢	-	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
11	底部	-	-	-	-	-	-	-	トレンチ6	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
12	脚部	-	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
13	蓋?	口縁部	その他の	-	-	-	-	-	トレンチ6	
				-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
14	擂钵	口縁部	その他の	-	-	-	-	-	客土	
				-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
15	口縁部	逆二字	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
16	脚部	-	-	-	-	-	-	-	トレンチ9	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
17	擂钵	口縁部	くの字	-	-	-	-	-	表探	
				-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
18	擂钵	脚部	-	-	-	-	-	-	トレンチ9	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
19	擂钵	口～底部	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
20	擂钵	口縁部	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
21	水鉢	口～底部	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
22	擂钵	口縁部	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
23	擂钵	口縁部	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
24	擂钵	王縫	-	-	-	-	-	-	トレンチ6	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
25	擂钵	口～底部	-	-	-	-	-	-	石井面	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
26	擂钵	口縁部	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
27	擂钵	口縁部	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
28	擂钵	口縁部	-	-	-	-	-	-	客土	
			-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	

注:「-」:計測不可、「+」:接合の意

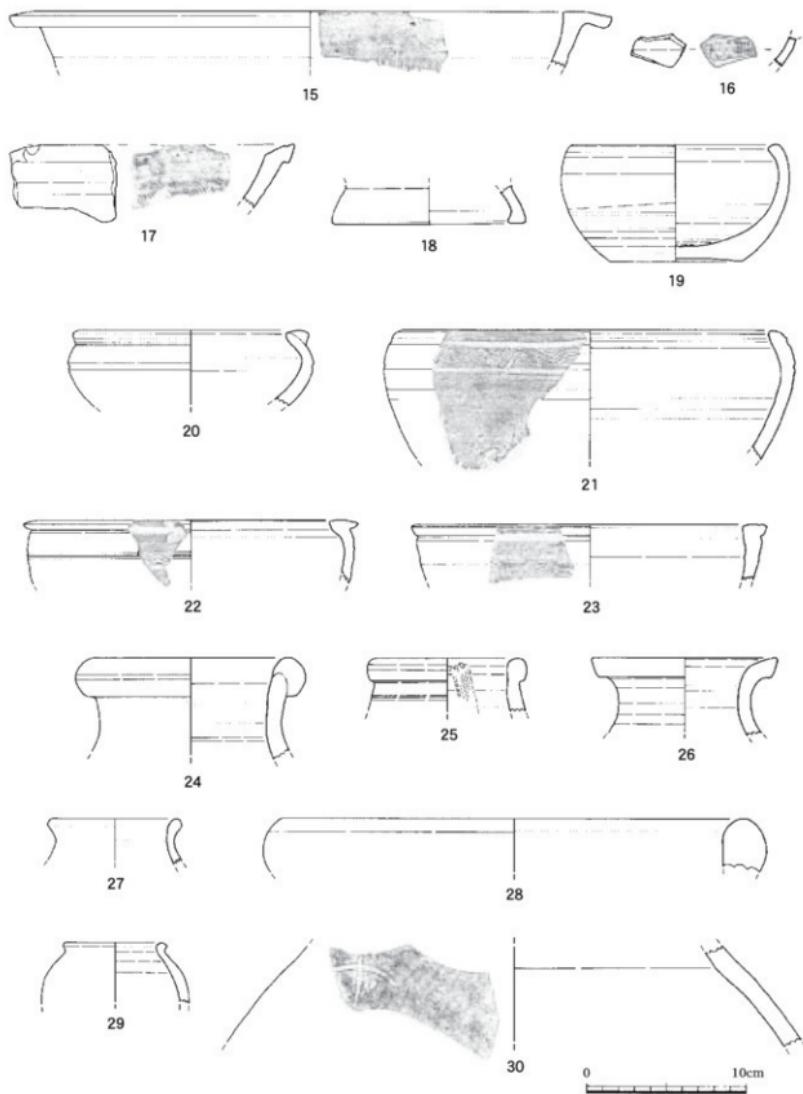
第19表 沖縄産無釉陶器観察一覧

図 番 号	器種	部位	分類	口径 底径 器高	胎土		色調	器形・文様など	出土地名
					色調・質	流入物			
29 30 46	盃	口～ 腹部	その 他の 器高	6.6 —	外側は青灰色。 中心は暗赤色。	半透明粒をわずかに含む。	外面は灰褐色。内面は 青灰色。	脚部径は3.4cm。 脚部外面に擦刻。	トレンチ9
					—	赤褐色。	赤色粒を少し、黒色粒をわずかに含む。		
31	盃	腹部	—	—	赤色。	黑色・半透明粒をわずかに含む。	外面は薄い橙色。内面 は赤褐色。	トレンチ6	石段
					—	赤褐色。	白色・黑色粒をわずかに含む。		
33	盃	腹部	—	—	赤褐色。	白色・青色・褐色粒をわずかに含む。	外面は薄い褐色。内面 は薄い赤褐色。	耳貼り付け前の2本の沈瓶。	客土
					—	—	—		
34	甕	口縁部	測字	—	赤色。	白色・赤色・棕色粒を少し含む。	外面は赤色、褐色。 内面は褐色。	口縁部内面に1本、外面上に2本の沈瓶。	客土
					—	—	—		
35	甕	胸～ 底部	—	11.2	赤褐色。	白色粒をわずかに含む。	外面は灰褐色。内面は 赤色。	胸部径は14.6cm。	客土
					—	—	—		
36	甕	胸部	—	—	赤褐色。	白色・黑色・褐色・半透明粒をわ ずかに含む。	外面は灰色、赤褐色。 内面は褐色。	胸部径は16.1cm。外面上に細かな気泡が目立つ。	客土
					—	—	—		
37	甕	口～ 胸部	—	2.1	純い赤色。	物になし。	内・外面とも純い赤褐色 の泥状。	P-26・27 石皿台	石段
					—	—	—		
38	底部	—	—	7.4	青灰色。	白色・半透明粒を少し含む。	外面は薄い黄褐色。内 面は青灰色。	船主中に白色の薄い層を少し含む。底部外面に擦刻がある。	トレンチ3 黒色七
					—	—	—		
39	底部	—	—	5.8	明赤褐色。	素色・白色粒をわずかに含む。	外面は薄い褐色。内面 は赤色。	船主中に白色の薄い層を少し含む。底部外面に擦刻がある。	不明
					—	—	—		
40	底部	—	—	4.9	灰赤色。	白色を少し含む。	外面は灰褐色。内面は 灰赤色。	船主中に白色の薄い層を少し含む。	P-27 石植み付
					—	—	—		
41	不明	胸部	—	—	外側は純い赤褐色。 中心は明黄色。 砂質。	黑色粒を多く、白色・半透明粒を少 し、褐色粒をわずかに含む。	外面は薄い赤褐色。内 面は赤褐色。	胎土は砂質で黑色粒が多い。	客土
					—	—	—		
42	鉢	口縁部	直口	14.6	外側は暗灰色。 内面側は赤灰色。 中心は青灰色。	白色・半透明粒をわずかに含む。	外面は灰赤色。内面は 赤灰色。	船主中に白色の薄い層を少し含む。	トレンチ6 褐色胎土
					—	—	—		
43	火取	口縁部	—	11.2	純い赤褐色。	赤色・白色・半透明粒をわずかに 含む。	外面は灰褐色。内面は 灰赤色。	客土	客土
					—	—	—		
44	鉢	口縁部	直口	18.2	外側は暗灰褐色。 内面側は褐色。 中心は赤褐色。	黑色・白色粒をわずかに含む。	外面は灰褐色。内面 は褐色。	船主中に白色の薄い層を少し含む。	石段
					—	—	—		
45	鉢	口縁部	—	—	外側は赤褐色。中 心は暗灰褐色。	黑色粒を少し、赤色粒をわずかに 含む。	内・外面とも褐色。	トレンチ9	トレンチ9 0~20cm
					—	—	—		
46	火取	口～ 胸部	—	22.2	外側は灰色。中 心は明黄色。	赤色・白色粒をわずかに含む。	内・外面とも灰色。	胸部径は14.1cm。	客土
					—	—	—		
47	火取	口縁部	—	—	外側は暗褐色。中 心は暗灰褐色。	白色・褐色粒を少し含む。	外面はオリーブ灰色。内 面はオリーブ灰色、灰 褐色。	船主中に白色の薄い層を少し含 む。	トレンチ9 0~20cm
					—	—	—		
48	底部	—	—	—	褐色で砂質。	白色・半透明粒を少し含む。	外面は灰褐色。内面 は褐色。	客土	客土
					—	—	—		
49	急須	胸部	—	—	純い赤褐色。	白色粒をわずかに含む。	外面は純い赤褐色。内 面は褐色。	胸部径は11.1cm。	表様
					—	—	—		
50	急須	胸部	—	—	純い赤褐色。	褐色粒を少し、白色・半透明粒をわ ずかに含む。	外面は暗青灰色、純い 赤褐色。内面は純い赤 褐色。	外面上に2本の沈瓶文。	客土
					—	—	—		
51	急須	底部	—	12.0	赤色。	褐色・青色・白色粒をわずかに含む。	外面は褐色。内面は青 色。	底盤外面はケズによる彫取り。	客土
					—	—	—		
52	不明	底部	—	14.6	外面側は暗褐色。 内面側は褐色。 中心は赤褐色。	白色粒を少し、赤色・褐色粒をわ ずかに含む。	外面は灰オリーブ色。内 面は褐色。	船主中に白色の薄い層を少し含 む。	トレンチ4 北側石積み
					—	—	—		
53	急須	口縁部	—	—	灰色。	白色・半透明粒をわずかに含む。	内・外面ともオリーブ灰 色。	船主中に自然緑のようすを有する物。	客土
					—	—	—		
54	急須	口縁部	—	—	褐色。	白色粒をわずかに含む。	外面は褐色。内面はオ リーブ黒色。	内・外面に白色の付着物。	トレンチ6
					—	—	—		

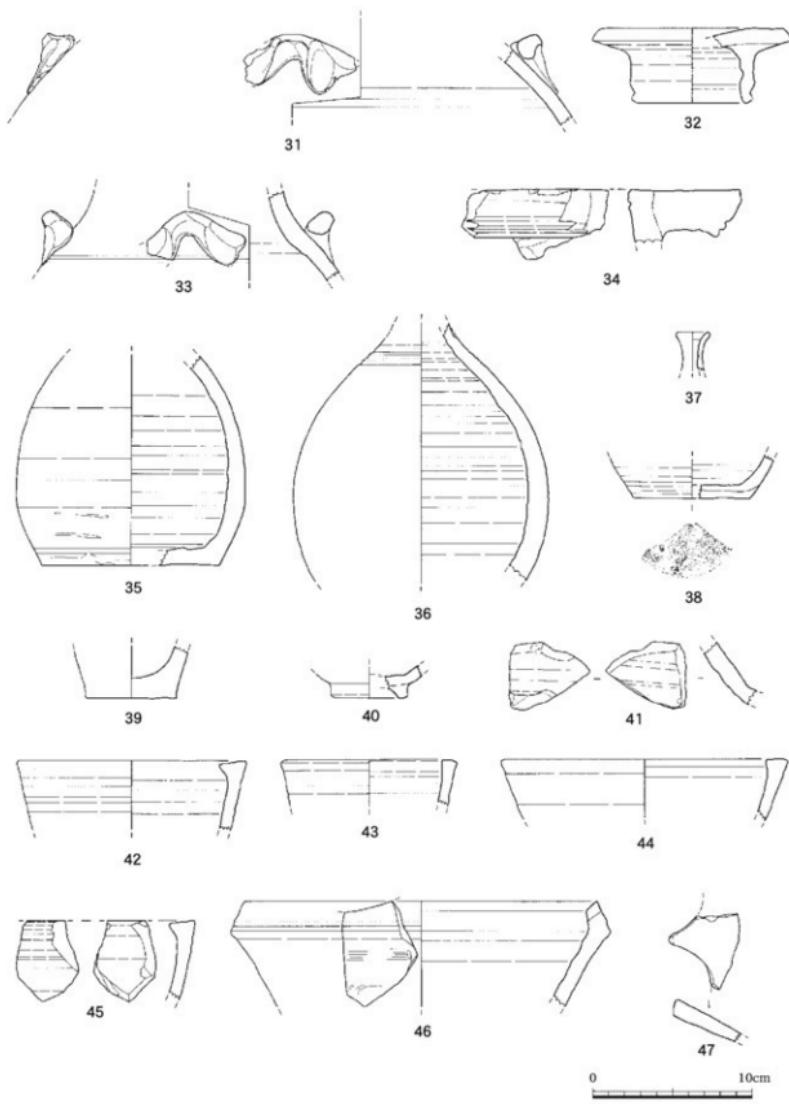
注:-:計測不可、+:接合の意



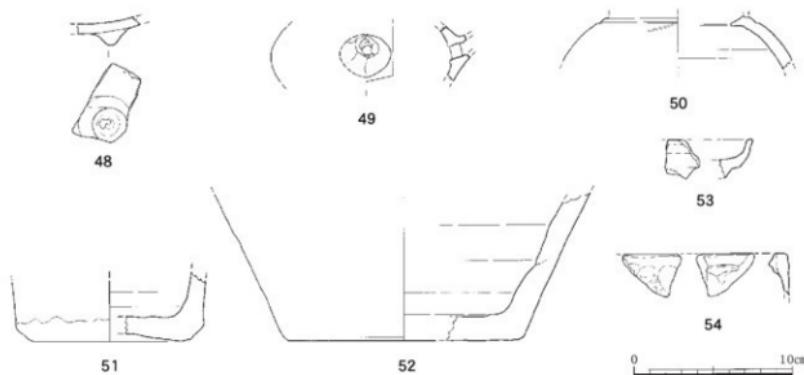
第28図 沖縄産無釉陶器(1)



第29図 沖縄産無釉陶器(2)



第30図 沖縄産無釉陶器(3)



第31図 沖縄産無釉陶器（4）

第10節 陶質土器

「赤物（アカムス）」とも呼ばれる焼き物で、器面はおもに橙色で、触るとざらざらとしており指に粉末が付く。また胎土中にしばしば雲母粒を含んでいる。整形方法はロクロナデを基本にナデ・ケズリを併用しており、白化粧土による圓線をもつものがある。

今回は合計272点が出土しており、碗・皿・鉢・擂鉢・鍋・火炉・急須がある。

第20表 陶質土器出土状況

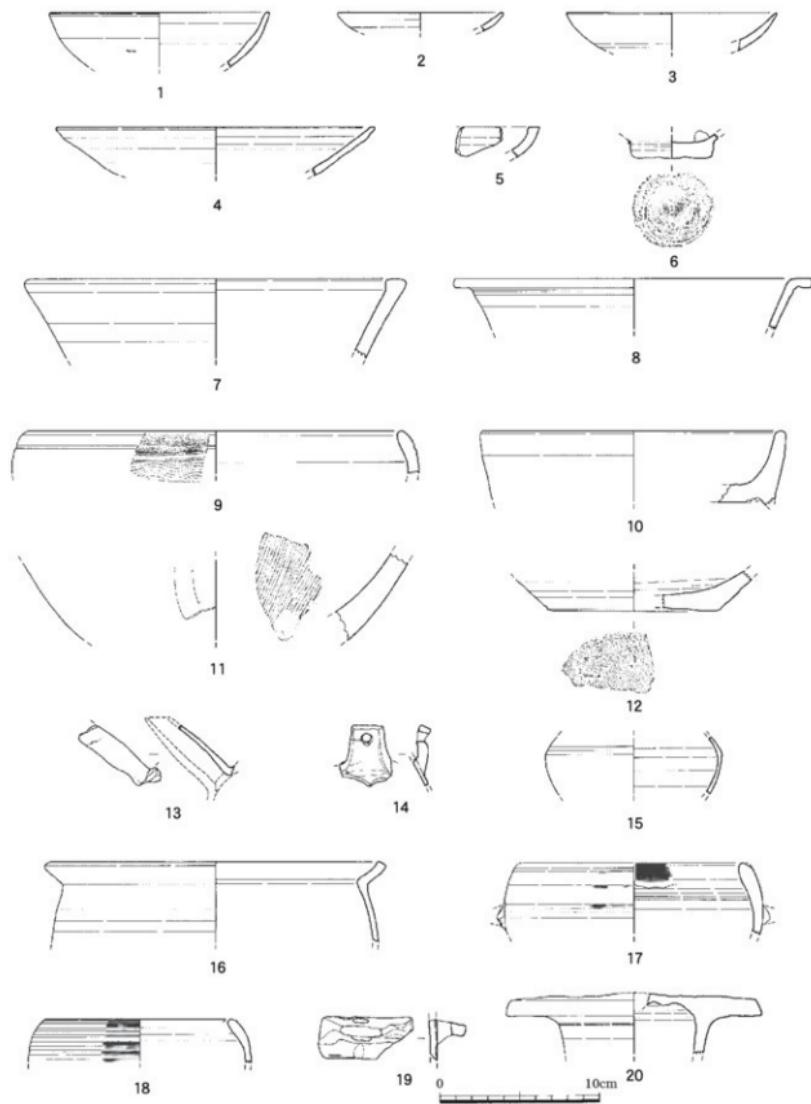
分類	出土地		トレンド			石巻郡		石垣市		石段面		石段		石積み内		城壁下斜面土		客土		表探		不明		合計			
	2	3	4	6	8	9	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	
碗(2点)									1																1		
底部																										1	
直(3点)									1				1												3		
口縁部																										1	
口・底																										1	
鉢(14点)																										1	
口縁部																										11	
底部																										2	
盤(2点)									1																2		
側面																										1	
水鉢(1点)																										1	
鍋																										16	
(18点)																										1	
鍋(1点)																										1	
蓋前																										1	
火炉(12点)																										2	
口縁部																										1	
耳																										1	
蓋前																										4	
火炉(1点)																										1	
蓋前																										1	
口縁部																										2	
急須(9点)																										9	
耳																										1	
製部																										5	
注口																										1	
蓋(1点)									1																1		
口縁部																										1	
不明(1点)																										1	
不明(18点)																										174	
口縁部																										6	
調部									9				28		5	14	5	1	1	1					1		
把手																										1	
底部																										7	
不明																										10	
合計									1	14	5	41	5	23	6	2	2	1	1	1	149	11	11		272		

第21表 陶質土器観察一覧

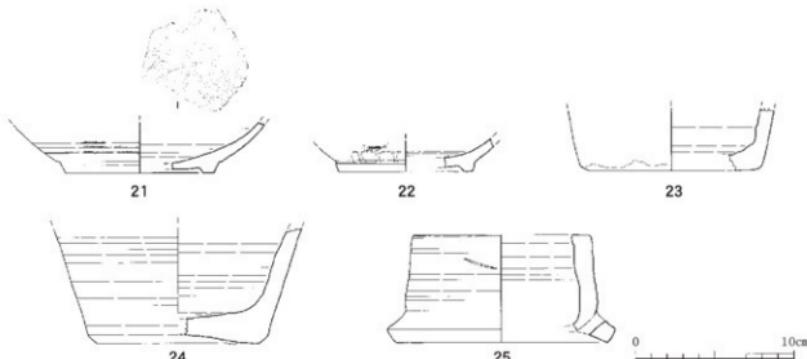
単位:cm

図番号	器種	部位	胎土		色調	器形・文様など	出土地点	
			口径	底径 縦高	色調・質	混人物		
1	碗	口～胴部	14.0	—	褐色。	白色・黒色・橙色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	トレンチ9
2	皿	口縁部	10.6	—	暗灰黄色。	白色・半透明・雲母粒を少し含む。	内・外面とも暗灰黄色。	トレンチ6
3	灯明皿	口縁部	13.4	—	純い赤褐色。	白色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも純い赤褐色。口縁部に黒斑。	客土
4	皿	口縁部	20.2	—	褐色。	雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	石畠面
5	鉢	口縁部	—	—	褐色・灰色。	白色・褐色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	客土
6	不明	底部	5.1	—	褐色。	白色・赤色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	石畠下コーラル敷き⑫
7	鉢	口縁部	24.2	—	褐色。	白色・褐色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	客土
8	鉢	口縁部	22.8	—	純い黄褐色・灰色。	白色・黒色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも純い黄褐色。	トレンチ6
9	水鉢	口縁部	23.4	—	褐色。	白色・赤色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	トレンチ9
10	鉢	口～底部	19.4	—	褐色。	白色・半透明・橙色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	不明
第32回	鉢	胴部	—	—	褐色。	白色・橙色粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	トレンチ4 北側石積み
		底部	11.0	—	褐色。	白色・橙色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	底部外面に糸切り痕。
13	急須	注ぎ口	—	—	褐色。	白色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	トレンチ3 黒色土
14	耳	耳	—	—	褐色。	白色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも明赤褐色・褐色。	直径7mmの穴。
15	鍋	胴部	—	—	純い黄褐色。	白色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも純い黄褐色・褐色。	客土
16	鍋	口縁部	21.6	—	明黄褐色。	白色・橙色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも明黄褐色。	トレンチ6
17	火炉	口縁部	14.2	—	灰色・褐色。	白色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	客土
18	火炉	口縁部	12.0	—	灰黄褐色。	白色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも灰黄褐色。	トレンチ3 黒色土
19	耳	耳	—	—	褐色。	白色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	直径1cmのやや不整形な穴。
20	蓋	—	16.2	—	褐色。	白色・橙色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	外側のナデ調整は粗い。
21	火炉	底部	—	—	褐色。	白色・橙色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	トレンチ4 北側石積み
22	鉢	底部	9.5	—	褐色。	白色・橙色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	城壁下部覆土
23	鉢	底部	8.5	—	褐色。	白色・橙色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	客土
24	火爐	底部	11.6	—	褐色。	白色・橙色・雲母粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	客土
25	不明	不明	10.5	—	褐色。	白色・橙色粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	底部端は面取り。
			11.2	—	—	白色・透明・橙色粒を少し含む。	内・外面とも橙色。	客土
			13.2	—	—	—	—	客土
			6.8	—	—	—	—	客土

注「—」:計測不可



第32図 陶質土器(1)



第33図 陶質土器（2）

第11節 瓦質土器

合計29点出土した。器種は鉢が主体で、香炉・壺・火炉がある。器面は主に灰色・暗灰色である。胎土は主に灰色で、雲母粒を含む場合が多い。調整方法は口クロナデやナデである。鉢については、口縁部外面に波状突帯がめぐることが多い。

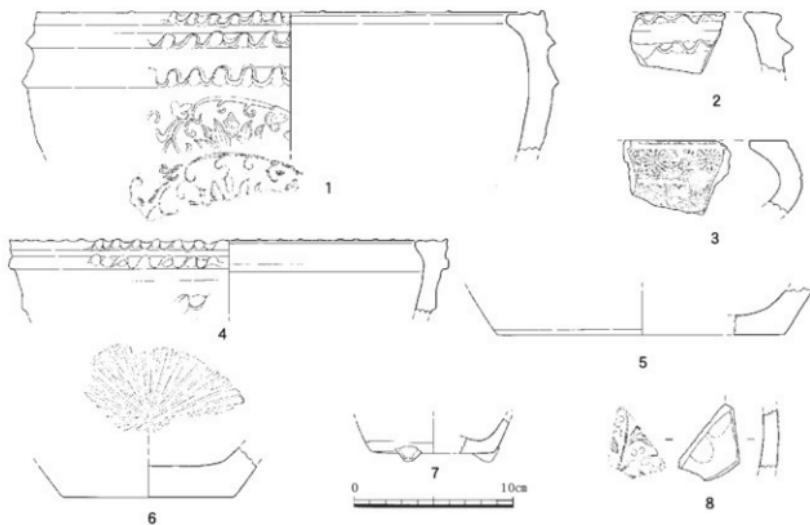
第22表 瓦質土器出土状況

器種	出土地	トレンチ			石壁 曲面下	石積 曲面内	客土	合計
		3	6	8				
体 (13点)	白線部	1	1		1		4	7
	脇部	1					4	5
	底部						1	1
壺鉢(1点)	底部						1	1
香炉(1点)	底部			1				1
火炉(1点)	突起物					1		1
不明 (13点)	口縁部			1			1	2
	脇部						6	6
	不明	1				3	1	5
合計		3	1	2	1	3	1	29

第23表 瓦質土器観察一覧

図番号	器種	部位	口径 直径 高さ	胎土		調査	色調	器形・文様など	出土地点	単位:cm
				色調・質	混入物					
第34 回 36	鉢	口縁部	32.2	黄灰色。	白色・雲母粒を少し含む。	外面はナデ。内面は口クロナデ。	外面は明黄色。内面は黄灰色。	外面は草花文の浮文。波状突帯。	P-26-27 石塀面	
			—	にぶい褐色。	白色・褐色・雲母粒を少し含む。	内・外顔ともに口クロナデ。	内・外顔ともににぶい褐色。	外面に波状突帯。	客土	
			—	にぶい黄色。	白色・雲母粒を少し含む。	内・外顔とも横ナデ。	内・外顔ともににぶい黄褐色。	外面に男のスタンプ文、波状線。	トレンチ6	
			23.6	灰色。	白色・雲母粒を少し含む。	外顔はナデ、口クロナデ。内面はナデ。	内・外顔とも暗灰色。	波状突帯。	客土	
		底部	—	—	—	—	—	—	—	
			18.2	灰色。	白色・雲母粒を少し含む。	外顔はナデ、口クロナデ。内面はナデ。	内・外顔とも灰色。	—	客土	
	6	壺鉢	底部	11.0	灰色。	白色粒を少し含む。	内・外顔ともナデ。	—	—	
	7	香炉	底部	7.8	灰色。	白色粒を少し、黒色粒をわずかに含む。	内・外顔ともナデ。	外顔は灰色。脚先部は褐色。内面は灰色、黒褐色。	トレンチ8 20-40cm	
	8	鉢	脇部	—	灰色。	白色粒をわずかに含む。	内・外顔ともナデ。	内・外顔とも暗灰色。	外面に草花文の浮文。	客土

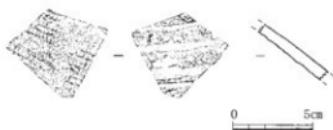
注 1-1: 計測不可



第34図 瓦質土器

第12節 カムィヤキ

鹿児島県伊仙町（徳之島）にあるカムィヤキ古窯跡群で還元焰焼成された焼き物である。10～14世紀頃に作られ、南西諸島を中心分布する。今回は4点出土しており、そのうち1点を図化した。第35図は12世紀後半～13世紀前半に作られたカムィヤキで、蓋の胸部であろうか。外面には格子目状のタタキ痕がある。内面には青海波状のタタキ痕があり、それを切って棒状工具による調整痕が走る。器面・胎土とも灰色である。P-26・27グリットの石畳面からの出土である。



第35図 カムィヤキ

第13節 土器

合計408点が出土した。小破片資料が多いため、器種不明のものが多い。器面の色は主に褐色・橙色で、胎土中に白色・赤色・黒色・橙色粒等を含む。調整方法は主にナデで、一部ハケメ・ケズリ・ミガキも見られる。

10～13は蓋の一部と考えられる資料である。直径はほぼ扁平で、端部は僅かに突出する。調整方法はナデもしくはケズリで、器面・胎土は、黄橙色や明褐色など明るい色が多い。10・12・13について胎土の色が均一ではなく、模様となる特徴がある。

第24表 土器出土状況

器種 分 類	山土地									トレンチ			石塗		石塗各土		表鉢		トレンチ各土		合計	
	3	4	6	7	8	9	面	石塗	各土	表鉢	トレンチ	各土	不明	合計	トレンチ	各土	不明	合計	トレンチ	各土		
口縁部	135	11	2	8	169	10	1	12	338												1	
胸部			1							1											1	
底部										2											2	
蓋																						1
不規																						3
口縁部																						5
胸部																						5
底部																						5
合計	145	5	3	1	3	3	8	1	206	17	1	15										408

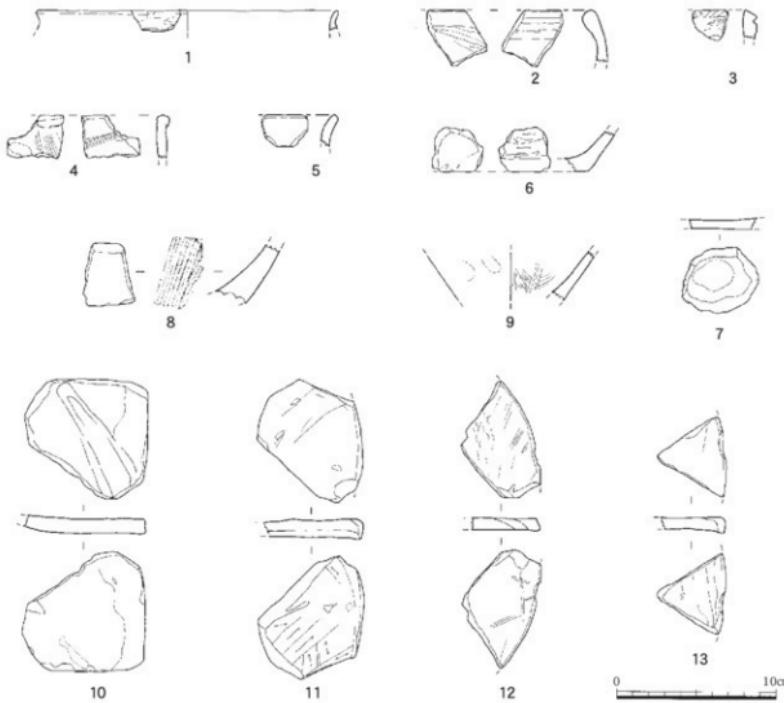
注「+」接合の意

第25表 土器観察一覧

原位

器種	器形	口径 底径 高さ	胎土		調査	色調	器形・文様など	出土地点
			色調・質	焼入物				
1 不明	口縁部 底部	19.0 —	白地・赤色・褐色粒を少し含む。	外面は模ナゲ。内面はナゲ。	外面は灰色。内面は黒褐色。	内・外面とも褐色。	客土。	客土。
	口縁部	—	褐色・灰色。	褐色粒を多く、白色・赤色・褐色粒を少し含む。				
2 鍋	口縁部	—	白地・褐色。	褐色粒を少く、白色・赤色・褐色粒をわずかに含む。	外面は模ナゲとカギ。内面は模ナゲ。	内・外面とも褐色。	客土。	客土。
	山根	—	白地・褐色。	褐色粒を少し、褐色粒をわずかに含む。				
3 明	口縁部	—	白地・褐色。	褐色粒を多く、白色・赤色・褐色粒を少し含む。	外面はナゲ、底・ハケム。内面は模ナゲ、模ハケム。	内・外面とも褐色。	客土。	客土。
	体	—	赤褐色。	褐色粒を多く、白色・赤色・褐色粒を少し含む。				
4 瓢	口縁部	—	褐色。	褐色粒を多く、白色・褐色粒を少し含む。	内・外面ともナゲ。	内・外面とも褐色。	客土。	客土。
	体	—	褐色。	褐色粒を少し、褐色粒をわずかに含む。				
5 口縁部	口縁部	—	褐色。	褐色粒を多く、白色・褐色粒を少し含む。	内・外面ともナゲ。	内・外面とも褐色。	客土。	客土。
	体	—	褐色。	褐色粒を少し、褐色粒をわずかに含む。				
6 不明	口縁部	—	白地・褐色・雲母粒を少し含む。	内・外面ともナゲ。	外面は褐色。内面には少し黄褐色。	内・外面とも褐色。	客土。	トレンチ3 黒色土。
	体	—	白地・褐色。	褐色粒を少し含む。				
7 四脚	口縁部	—	白地・褐色。	褐色粒を少し含む。	外面は黄褐色。内面は茶褐色。	内面は茶を帯びたようにあり、焼き色。	客土。	客土。
	体	—	褐色。	褐色粒を多く、白色・褐色粒を少し含む。				
8 豆	口縁部	—	褐色。	褐色粒を多く、白色・褐色粒を少し含む。	外面はナゲ。内面は模ナゲ。	内・外面とも褐色。	トレンチ6 1cmに4本。	トレンチ6 褐色土。
	体	—	褐色。	褐色粒を少し含む。				
9 不明	口縁部	—	褐色。	白色・黒色粒を少し含む。	外面はハケム。内面はナゲ。	外面は暗灰褐色。内面は褐色。	客土。	客土。
	体	—	褐色。	褐色粒を少し含む。				
10 不明	口縁部	—	浅黄褐色。	白色・褐色粒を少し、半透明・雲母粒をわずかに含む。	内・外面ともナゲか。	内・外面とも淡黄褐色。	不明。	不明。
	体	—	灰色、白地・褐色。	白色・褐色粒を少し含む。				
11 盆	口縁部	—	白色。	白色・褐色粒を少し含む。	外面はこぶし状の黄褐色。内面は黒灰色。	外面上に粉状質。	トレンチ3 褐色土。	トレンチ3 褐色土。
	体	—	明赤褐色。	白色粒を少し含む。				
12 不明	口縁部	—	浅黄褐色。	白色・半透明・雲母粒を少し含む。	半面はナゲか。裏面はケズリ。	内・外面とも明赤褐色。	内面に木科植物灰。	客土。
	体	—	褐色。	褐色粒を少し含む。				
13 不明	口縁部	—	褐色。	白色・半透明・雲母粒を少し含む。	半面はナゲか。裏面はケズリ。	内・外面とも褐色。	10センチ幅の粘土。	客土。
	体	—	褐色。	褐色粒を少し含む。				

注(1)-(3)計測不可



第36図 土器

第14節 土製品

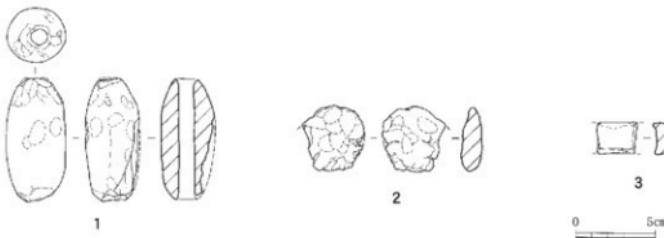
3点が出土した。1は長さ7.0cm、重さ93.4グラムの土錐である。直径1cmの紐通し穴があり、表面はナデ調整である。2は用途不明の焼土である。表面・割れ口ともにぶい黄橙色で、胎土中に黒色・雲母粒をわずかに含む。表面には指紋が残っている。3は器種・用途ともに不明である。

第26表 土製品観察一覧

単位:cm

図番号	器種	長さ 幅 厚さ		胎土 色調・質	混入物	調整	色調	器形・文様など	出土地点
		幅	厚さ						
第37 図 ・ 図 版 50	1 土錐	7.9	赤褐色。	白色粒を少し含む。	ナデ。	内・外面とも灰色。	重量は93.4g。直径1cmの穴。	客土	
	2 焼土	3.7	にぶい黄橙色。	黒色・雲母粒をわずかに含む。	ナデ、オサエ。指紋が残る。	内・外面ともにぶい黄橙色。	重量は13.2g。	トレンチ80~20cm	
	3 不明	3.3 1.3 — 1.0	にぶい黄橙色。	白色・橙色粒を少し含む。	ナデ。	内・外面ともにぶい黄橙色。		表様	

注 (—): 計測不可



第37図 土製品

第15節 円盤状製品

陶磁器・瓦の一部を円形に打ち抜いた、用途不明の製品である。合計61点が出土した。直径7cmを超えるものから3cmに満たないものまである。陶磁器を素材とする場合、壺や甕といった大型製品の胴部を利用するか、碗・皿といった小型の食器の底部を利用することが多い。

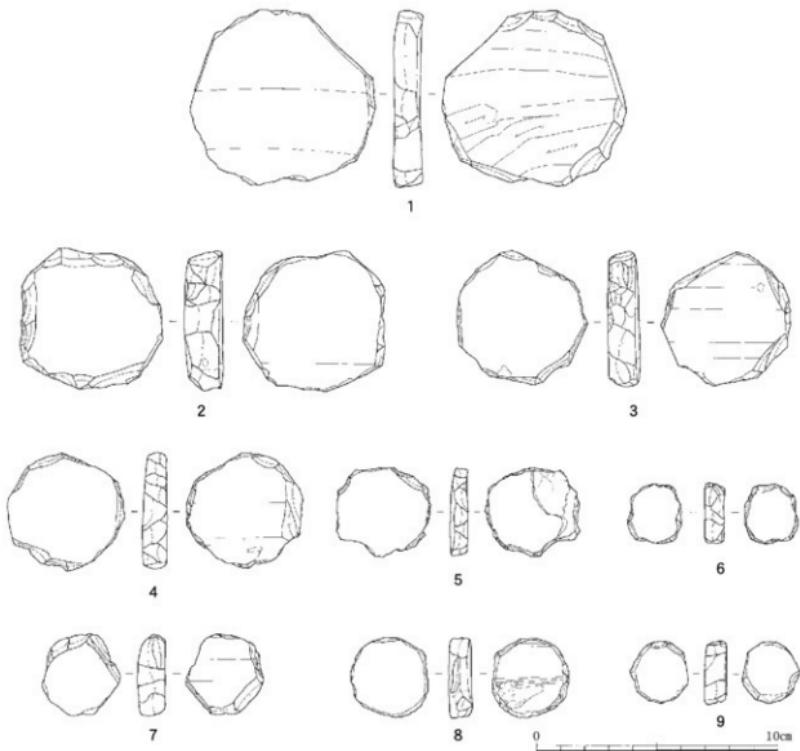
第27表 円盤状製品出土状況

種類	出土地					トレンチ			石塁		客土	表様	不明	合計
	3	6	8	9	12	面	み内	2	1	32	1	2	49	
船形陶器	10		1					2	1	32	1	2	49	
片縫底無軸陶器	1							1	1			2	5	
陶質土器	1												1	
瓦質土器			1		1								2	
瓦		1		2						1			4	
合計	12	2	1	3	1	3	1	33	1	4			61	

第28表 円盤状製品観察一覧

寸法: cm/g

図番 号	種類	法量		粘土		色調	種類	出土地点
		直径	厚さ	色調	混入物			
1	沖縄産無釉陶器	7.612	1.726	にぶい赤褐色。	白色・橙色粒を少し含む。	外面は灰褐色。内面は褐色。	なし。	P-26-27 石垣田
2		6.331	1.499	赤褐色。	白色・橙色粒を少し含む。	外面は黒色。内面は赤灰色。	なし。	不明
3		5.589	75.7	赤褐色。	白色・橙色粒を少し含む。	外面は灰黄褐色。内面は明赤褐色。	なし。	トレンチ3 黒色土
4	振袖陶器 (タイのノイ川窯産)	4.484	1.061	にぶい橙色。	橙色粒を多く、白色粒を少し含む。	内面はにぶい橙色。	外面は暗オーブン色。内面は露胎。	トレンチ3 黒色土
5	褐釉陶器 (中南米)	4.191	0.683	暗灰黄色。	白色粒を少し含む。	内面は灰色。	外面は黒色。内面は露胎。	トレンチ3 黒色土
6	褐釉陶器 (タイのシーサッチャライ窯産)	2.448	0.752	赤褐色。	白色・半透明粒を少し含む。	内面はにぶい黄褐色。	トレンチ3 黒色土	
7		2.013	6.9	赤褐色。	白色粒を多く、赤色・白色粒を少し含む。	内面は黒色。内面は露胎。	トレンチ8 80~100cm	
8	褐釉陶器	3.050	1.203	にぶい黄褐色。	白色粒を多く、赤色・白色粒を少し含む。	内面はにぶい黄褐色。	外面はにぶい黄褐色。内面は露胎。	茶土
9		2.722	17.0	赤褐色。	白色粒を多く、赤色・白色粒を少し含む。	内面は褐色。	外面は黒褐色。内面は褐色。	トレンチ3 黒色土
		3.381	0.906	褐色。	白色粒を多く、赤色・白色粒を少し含む。			
		3.174	14.7	褐色。	白色・赤色粒を少し含む。			
		2.485	0.740	褐色。	白色・赤色粒を少し含む。			
		2.420	7.2	褐色の調子。				



第38図 円盤状製品

第16節 煙管

合計4点出土し、そのうち3点を図化した。2・3は陶器製の火皿である。4は瑠璃釉がかけられた磁器製の吸口である。

第29表 煙管観察一覧

単位:mm/g

回番号	部位	材質	完 成 度 破 壊	計測値								色調	観察事項	出土地
				a	b	c	d	f	g	h	h'			
				a'	b'	c'	e	f'	g'	h'	h'			
第39 図 ・ 國 版 52	2 雁首 冲縄陶 無釉陶器 吸口 吸口 吸口	2 冲縄陶 無釉陶器 吸口 吸口 吸口	成 形 度 破 壊	1.760	1.387	1.499	1.196	—	—	—	6.8	胎土は灰赤色で、器面は黒色。	火皿の口縁と首部は八面に面取りされている。	P-26-27 石巣面
				1.150	1.102	0.901	4.020	—	—	—	7.7	胎土は灰色。外縁は灰色・黃灰色。	内柱形の首部。細かく面取りされている。	トレンチ6
				—	—	1.411	1.344	—	—	—	3.1	外面は褐色。内面は露胎。	吸口部内径	客土

注「-」:計測不可

*計測値凡例

a:火皿(外径) a':火皿(内径) b:火皿(高さ-胴部-底盤) b':火皿(高さ-胴部上面) c:火皿(接続部外径)
c':雁首接続部内径 d:雁首胴部(高) e:雁首長軸値 f:雁首接続部外径 f':吸口接続部内径 g:吸口部外径 g':吸口部内径 h:吸口長軸高

第17節 骨製品・プラスチック製品

第39図の1はプラスチック製、5は骨製の歯ブラシである。6は用途不明の骨製品である。

第30表 骨製品・プラスチック製品観察一覧

単位:cm/g

回番号	器種	材質	完 成 度 破 壊	残存長	幅	厚さ	重さ	観察事項	出土地
第39 図 ・ 國 版 52	1 歯ブラシ 5 骨	プラスチック 骨	成 形 度 破 壊	6.796	9.670	0.522	3.4	柄の表面に「歯刷子」の文字。柄の先端に2.27mmの穴あり。側面に成形時の筋がある。全体に劣化がげしい。	客土
				9.220	1.297	0.679	10.5	柄の先端に金属の釘。表面は少しザザラしているが、釘の周辺はツルツルに磨滅。	トレンチ6
				3.433	1.566	1.047	6.3	表面には小さな傷が多い。熱を受けて黒くこげているようである。	客土

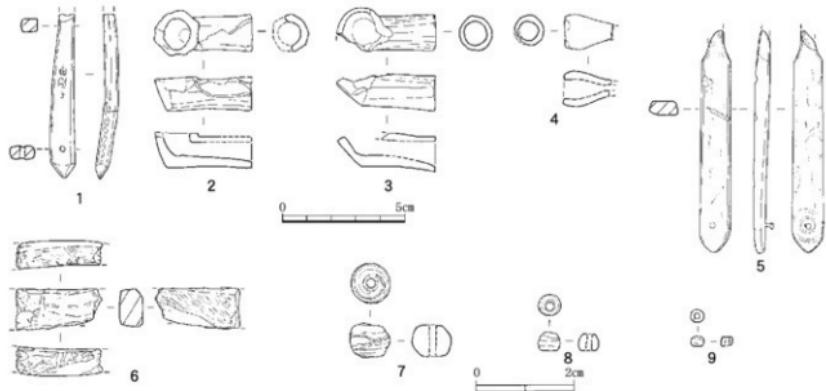
第18節 玉

3点を図示した。大きさはそれぞれ異なっているが、その表面には、成形方法に由来すると考えられる螺旋状の筋がある。図示した以外にも10点の玉が客土から出土している。

第31表 玉観察一覧

単位:mm/g

回番号	形態	材質	横幅	横幅	孔径	重さ	色調	観察事項	出土地
第39 図 ・ 國 版 52	7 丸	ガラス	6.94	8.48	2.04	0.7	ターコイズブルー	表面は滑らかではなく、螺旋状に筋が入る。	トレンチ8 80~100cm
	8 円柱	ガラス	3.55	4.29	1.71	0.1	ターコイズブルー	表面は滑らかではなく、螺旋状に筋が入る。	客土
	9 円柱	ガラス	1.98	2.76	1.12	0.1	ターコイズブルー	表面は滑らかではなく、螺旋状に筋が入る。	客土



第39図 プラスチック製品・煙管・骨製品・玉

第19節 錢貨

合計90点が出土し、内77点を図示した。有文銭と無文銭とがある。銭種の同定にあたってはX線撮影を利用した。近・現代の貨幣以外は基本的に銅銭だが、真鍮製と見られる寛永通寶が1点ある。

1. 有文銭

中国銭には、621年初鋤の開元通寶から、1527年初鋤の嘉靖通寶までがある。日本銭には江戸時代の寛永通寶と、近現代の貨幣がある。またアメリカ製の1セント貨幣が1点ある。

2. 無文銭

無文銭には、直径2cm前後で、通常の有文銭と同じような形をしたものと、直径1cm前後の輪銭とよばれるものがある。輪銭については、トレンド4北側の石積み部分からまとまって出土した。

第32表 錢貨観察一覧

単位: cm

図番号	銘文	錢種	書体	時代 初鋤年代	外縁渡 外縁横	穿鍼 穿横	厚さ 重量	残存状況	観察事項	出土地
1	開元通寶	開元通寶	真書体	唐 621	23.88 24.01	6.41 6.54	1.28 2.9	完		トレンド3 黒色土
	開○○寶	開元通寶	真書体	唐 621	—	—	1.56	1/2		客土
	○○元寶	淳化元寶	草書体	北宋 990	—	—	1.54 1.8	1/2		トレンド3 黒色土
40 回 ・ 回 版 53	淳化○○	淳化元寶	草書体	北宋 990	—	—	1.12 1.6	1/2		客土
	祥○○寶	祥符通寶	真書体	北宋 1009	—	—	1.25 1.7	1/2		不明
	○○元○	祥符元寶	真書体	北宋 1009	—	—	1.35 1.9	1/2		不明
	皇宋通寶	皇宋通寶	真書体	北宋 1038	—	7.97 8.67	1.31 2.7	4/5		トレンド6
	皇宋通寶	皇宋通寶	真書体	北宋 1038	23.59 24.25	6.52 6.46	1.43 3.6	ほぼ完		客土
	皇○通寶	皇宋通寶	篆書体	北宋 1038	—	—	1.3 2.5	2/3		石積み内
	○宋○○	皇宋通寶	真書体	北宋 1038	—	—	1.58 0.9	1/4		客土

注 ○: 判読不能

第32表 錢貨觀察一覧

単位:mm

回番号	銭文	銭種	書体	時代 初劫年代	外縁從 外縁横	穿庭 穿横	厚さ 重量	残存状況	觀察事項	出土地
11	熙寧元寶	熙寧元寶	真書体	北宋 1068	24.52 24.32	7.23 —	1.29 3.1	ほぼ完		城壁覆土
12	○寧元○	熙寧元寶	篆書体	北宋 1068	—	—	1.88 2.5	2/3		客土
13	○○元寶	熙寧元寶	篆書体	北宋 1068	—	—	1.5 1.2	1/3		客土
第40回・回版53	熙寧○○	熙寧重寶 折二錢	真書体	北宋 1071	—	—	1.5 3.2	1/2	模鍛鉄か。	不明
	○○通寶	元豐通寶	篆書体	北宋 1078	—	—	1.54 2	1/2		客土
	紹聖○○	紹聖元寶	行書体	北宋 1094	—	—	1.33 2	1/2		客土
	○符通寶	元符通寶	行書体	北宋 1095	—	—	1.42 2.6	1/3		トレンチ3 黒色土
17	政○○寶	政和通寶	分隸書体	北宋 1111	—	—	1.67 1.7	1/2		客土
19	咸淳元寶	咸淳元寶 折二錢	真書体	南宋 1265	26.77 26.83	7.25 6.97	1.6 4.1	完		トレンチ7 黒色土
20	至○通寶	至大通寶	分隸書体	元 1310	— 24.65	5.42 5.34	1.67 2.3	2/3		不明
21	洪武通寶	洪武通寶 小平錢	真書体	明 1368	22.56 22.25	5.31 5.18	1.59 3.2	完		城壁下部覆土
22	○武○寶	洪武通寶 小平錢	真書体	明 1368	23.10 23.00	5.67 5.25	1.84 4.2	完		トレンチ3 黒色土
23	洪武通寶	洪武通寶 小平錢	真書体	明 1368	23.37 22.92	4.94 5.75	1.65 3.5	完		客土
24	○武通○	洪武通寶 小平錢	隸書体	明 1368	— —	— —	1.41 2	2/3		トレンチ8 60~80cm
25	永樂通寶	永樂通寶	真書体	明 1408	24.49 24.71	5.53 5.45	1.58 3.6	完		不明
26	○○○寶	永樂通寶	真書体	明 1408	— —	— —	1.8 1.6	1/2		P-26~27 石碑面
第41回・回版54	嘉○○寶	嘉靖通寶	真書体	明 1527	—	—	1.36 2.2	1/2		トレンチ4 北側石積み
	○平○寶	太平通寶	真書体	北宋 976	—	—	1.37 1.6	1/2		トレンチ3 黒色土
	○定通○	不明	真書体	—	—	—	1.41 1.8	2/3		客土
	○○○○か ○○○○	不明	篆書体	—	—	—	1.69 1.2	1/3		石積み内
31	○通○○	不明	真書体	—	—	—	1.79 0.7	1/5		トレンチ4 北側石積み
32	○○○寶	不明	真書体	—	—	—	1.5 1	1/4		客土
33	皇○○○	不明	篆書体	—	—	—	1.44 0.9	1/3		客土
34	○○○寶	不明	篆書体	—	—	—	1.47 1.2	1/4		客土
35	○○○寶	不明	行書体	—	—	—	1.25 0.9	1/4		客土
36	寛○通寶	寛永通寶 一文銭	真書体	江戸 1636~1659	— —	— —	1.25 1.6	1/2	一期古寛永	トレンチ6 西側粘土
37	○○○寶	寛永通寶 一文銭	真書体	江戸 1636~1659	— —	— —	1.27 1.8	1/2	一期古寛永	トレンチ6
第42回・回版55	寛永通寶 一文銭	寛永通寶 一文銭	真書体	江戸 1636~1659	— —	— —	1.37 2.2	2/3		P-28 石壁面
	寛○○寶	寛永通寶 一文銭	真書体	江戸 1668~1683	— —	— —	1.2 1.7	1/2	二期新寛永。「文」 の背文。	トレンチ8 40~60cm
	寛永通寶 一文銭	寛永通寶 一文銭	真書体	江戸 1697~1747	23.21	5.91	1.13	完	三期新寛永。	トレンチ3 黒色土
	寛永通寶 一文銭	寛永通寶 一文銭	真書体	江戸 1767~1781	23.18	6.01	2.6	完	三期新寛永。	客土
42	寛永通寶	寛永通寶 一文銭	真書体	江戸 1697~1747	23.21	6.53	1.2	完	三期新寛永。	客土
43	寛永通寶	寛永通寶 一文銭	真書体	江戸 1697~1747	23.18	6.78	2.7	完	三期新寛永。「元」 の背文。	トレンチ9

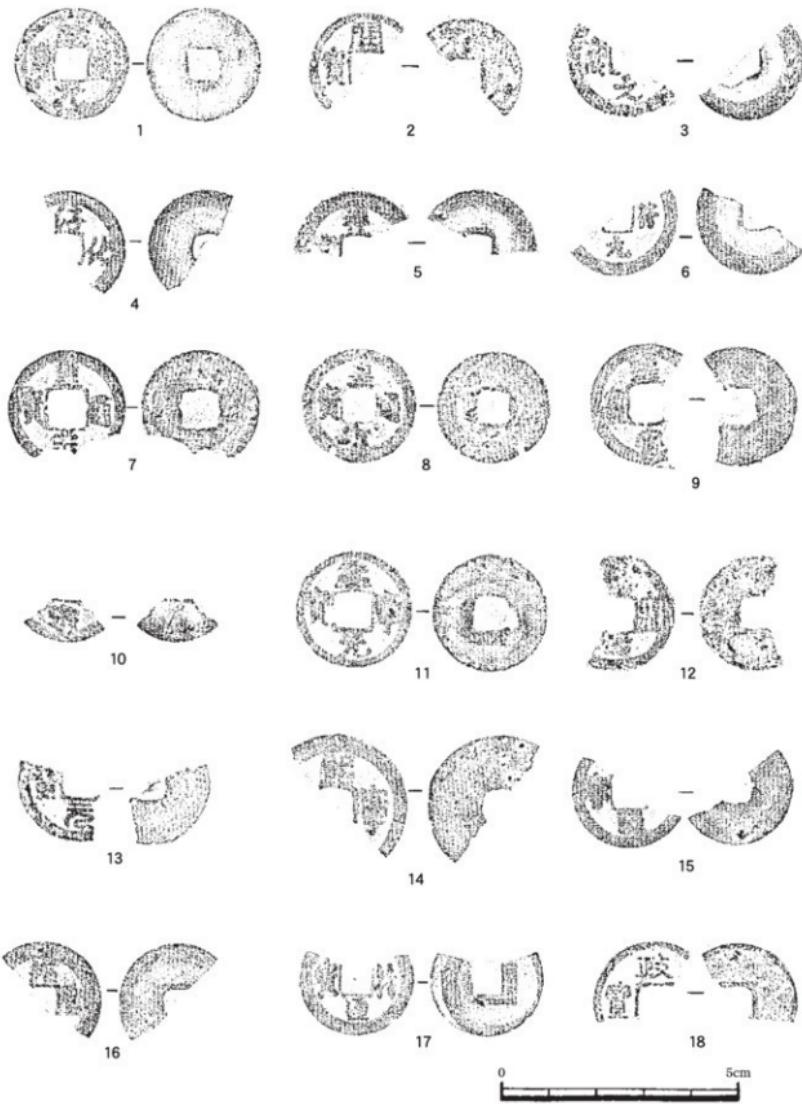
注 ○: 测定不能

第32表 錢貨觀察一覧

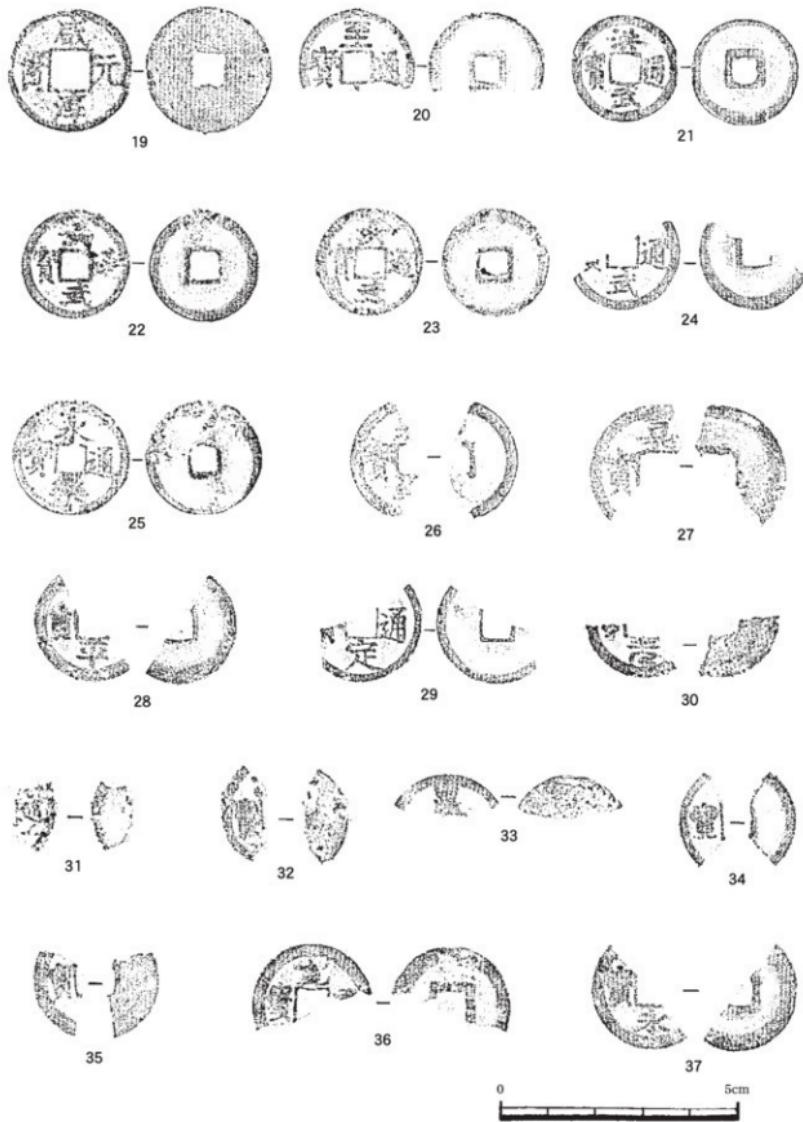
単位:mm

国番号	銭文	銭種	書体	時代 初鑄年代	外縁幅 外縁横	穿巻 穿横	厚さ 重量	残存状況	観察事項	出土地
44	寛永通寶 四文銭	寛永通寶 四文銭	真書体	江戸 1678~ 明治 1898	— — 20.64 20.63	— — 1.9 4.4	1.2 2.1 — —	1/2 完	真鑄製。11枚。 背に「大日本 明治 二一年」	トレンチ4 北側石積み 客土
45	—	五銭	階書体	昭和	— 16.14	— —	1.35 0.5	充	背に「大日本 昭和〇〇年」	客土
46	—	一銭	階書体	昭和	15.99 1941	— 19.11	1.48 — 3.1	充	背に「大日本 昭和六年」	不明
47	—	一銭	階書体	昭和	19.20	—	1.66	充	背に英文と人物像	客土
48	—	1セント	—	1947	20.11 19.76	6.38 6.34	0.97 1.4	充	客土	
49	—	無文銭	—	不明	19.55 19.97	6.30 6.83	0.94 1.5	充	P-26-27 石量面	
50	—	無文銭	—	不明	20.72	7.94	1.34	充		
51	—	無文銭	—	不明	20.66	7.89	2	充	客土	
52	—	無文銭	—	不明	18.81 19.20	7.25 7.85	0.45 0.7	充	客土	
53	—	無文銭	—	不明	19.30 19.21	8.69 8.20	1.13 1.3	充	客土	
54	—	無文銭	—	不明	17.88 18.03	9.14 8.40	0.81 0.7	4/5	客土	
55	—	無文銭	—	不明	— —	— —	0.96 0.6	1/2	客土	
1	成平〇〇	不明	真書体	不明	— —	— —	1.49 2	3/5	客土	
2	〇〇通寶	不明	真書体	不明	25.12 25.34	6.44 6.74	1.65 4.8	充	同版56-3に付着 して出土	客土
3	〇〇〇寶	不明	不明	不明	— —	— —	1.87 3.6	充	客土	
4	〇〇元寶	不明	真書体	不明	— —	— —	2.12 1.8	1/2	客土	
5	〇〇〇〇	不明	不明	不明	— —	— —	1.63 1.3	2/5	客七	
6	—	無文銭	—	不明	22.76 22.49	5.79 5.54	5.7 2.4	充	トレンチ3 黒色土	
7	—	無文銭	—	不明	21.74 21.50	7.00 6.67	7 2.2	充	客土	
8	〇〇〇寶	不明	真書体	不明	— —	— —	1.47 2.2	1/2	客土	
9	〇水〇〇	不明	不明	不明	— —	— —	1.04 2.2	2/5	客土	
10	不明	不明	不明	不明	— —	— —	1.25 0.8	1/4	客土	
11	不明	不明	不明	不明	— —	— —	1.21 1	1/4	客土	
12	〇〇〇寶	不明	真書体	不明	— —	— —	1.49 0.7	1/5	トレンチ4 北側石積み	
13	—	輸銭	—	不明	10.47 9.74	4.10 4.62	0.86 0.3299	充	トレンチ4 北側石積み	
14	—	輸銭	—	不明	10.18 10.30	4.32 5.20	0.52 0.1273	充	トレンチ4 北側石積み	
15	—	輸銭	—	不明	10.25 9.53	5.66 5.56	0.45 0.1154	充	トレンチ4 北側石積み	
16	—	輸銭	—	不明	9.62 9.57	6.31 5.57	0.46 0.1012	充	トレンチ4 北側石積み	
17	—	輸銭	—	不明	9.60 9.70	5.49 5.59	0.51 0.0962	充	トレンチ4 北側石積み	
18	—	輸銭	—	不明	9.45 8.52	4.31 4.47	0.48 0.1143	充	トレンチ4 北側石積み	
19	—	輸銭	—	不明	9.04 9.40	5.83 5.20	0.64 0.0919	充	トレンチ4 北側石積み	
20	—	輸銭	—	不明	7.87 8.54	5.35 5.33	0.36 0.0369	充	トレンチ4 北側石積み	
21	—	輸銭	—	不明	7.54 6.40	3.07 2.58	0.48 0.0693	充	トレンチ4 北側石積み	
22	—	輸銭	—	不明	7.26 7.32	3.31 2.57	0.75 0.1206	充	トレンチ4 北側石積み	

注 ○: 判読不能



第40図 錢貨（1）



第41図 錢貨（2）

第20節 簪

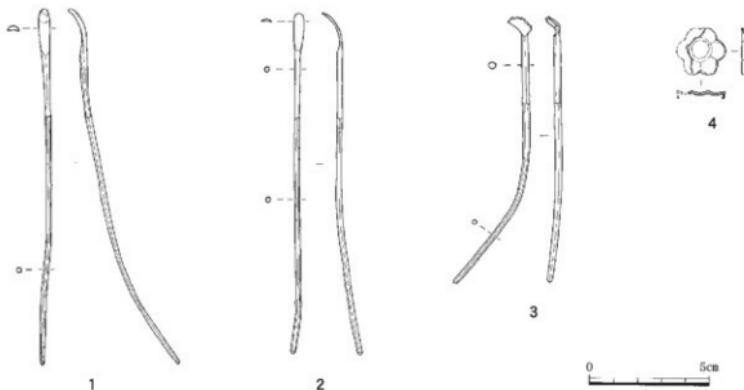
合計5点が出土し、そのうち4点を図化した。簪は頭・首・竿といった部位から成る。頭の形には耳搔き形(1・2)、匙形(3)、花形(4)がある。

第33表 簪観察一覧

単位:mm/g

図番号	分類	完/破	残存長 mm	花			首 頭(カブ) 長軸 幅 最大幅 最小幅 厚さ	ムデイ 幅 最大幅 最小幅	竿 長さ	観察事項	出土地点
				継輪 幅	継輪 厚さ	長さ					
1	耳搔き形	完	156.5	—	19.00	2.50	—	2.44	—	竿は六角柱で先細り。先端は摩滅しているが六角錐。	客土
			47.0	—	5.05	2.19	—	1.60	—		
				—	1.50	28.50	—	10.90	—		
第43図	耳搔き形	完	148.0	—	20.00	2.18	—	2.34	—	竿は六角柱で先細り。先端は摩滅しているが六角錐。	トレンチ9 0~20cm
図版52	匙形	完	41.0	—	4.31	1.84	—	1.90	—	竿は六角柱で先細り。先端は摩滅しているが六角錐。	P-26.27 石畠面
				—	0.68	25.13	—	10.38	—		
4	花形	破	—	—	—	—	—	—	—	—	トレンチ12
			10.0	0.45	—	—	—	—	—	—	

注 「-」: 計測不可



第43図 簪

第21節 金属製品

合計179点が出土した。釘、武器、武具、銅滓、近現代の遺物（弾丸など）がある。

1～11は釘、鉢である。1～5、11は鉄製、6～10は銅製である。長さ・頭の形・装飾などが多く複数に渡っており、様々な用途が考えられる。

25～27は銅滓と考えられる。26・27の表面には木炭が付着している。いずれもトレンチ8から出土している。

第34表 金属製品出土状況

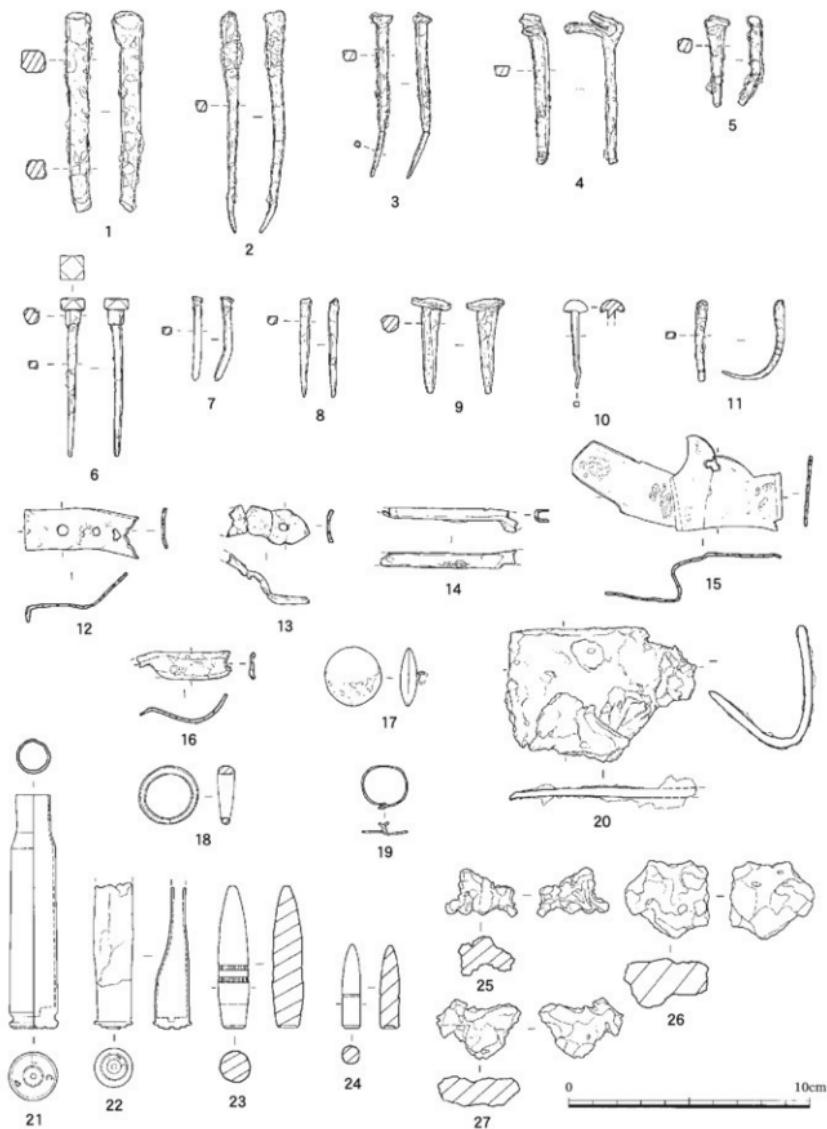
種類	トレンチ8												石室 面下 み内	石室 面下 み外	客土	表層	不明	合計
	1	2	3	4	5	6	8	9	11	12	石室面 下							
釘		2			29								3	15	2	15	86	
鉢													1			1	1	
銅滓							3									3	3	
銅成片																	1	
覆輪		2	2														4	
金具		2															2	
武具		1															1	
器具・八双金物														1			1	
鉢																	1	
薬莢																	4	
兜の鍔形		1			3												1	
鏡片																	1	
洋							2										2	
小札							1										1	
針金																	1	
銅鏡														1			1	
銅成片	1	2	4	5	4	4	4	1	1	8	1	6	13	2	3	55		
弾丸							3	1				1	3				8	
指輪																	1	
ボタン																	1	
不明	1	2	1	5	—	—	1					1	11	1	23		23	
合計	2	6	14	15	48	3	1	2	8	1	10	48	5	21		179		

第35表 金属製品観察一覧

単位:mm/g

同番号	器種・部位	完 ／ 破	残存長	残存幅	残存厚	重さ	観察事項												出土地
							トレンチ8	80～100cm	トレンチ8	40～60cm	トレンチ8	80～100cm	トレンチ8	80～100cm	トレンチ8	120～140cm	客土	客土	客土
釘	釘	完	83.88	10.78	12.80	28.5													トレンチ8 80～100cm
		完	92.80	8.76	6.61	9.0	頭部は楕円形。頭部先端は細く、錐状。												トレンチ8 40～60cm
		完	71.70	4.79	4.62	5.1	胸部断面は方形。												トレンチ8 80～100cm
		破	66.61	6.34	5.32	10.2	頭部は二股にわかっている。胸部断面は方形。												トレンチ8 80～100cm
		破	40.21	10.66	5.11	3.8	頭部は扁平で幅広い。胸部断面は方形。												トレンチ8 120～140cm
			68.10	6.39	5.51	9.8	頭部は面取りと鍛金が施される。胸部断面は円柱形から方形へと移行し、先端は細くなつて四角錐となる。											客土	
		完	34.62	5.19	3.83	2.6	胸部断面は方形で、先端は四角錐。											客土	
		完	41.55	3.96	3.72	2.4	頭部は笠形。頭部付け根の断面形は六角柱でその下は方形。先端は四角錐。											客土	
			39.46	16.44	9.07	10.7	頭部は笠形。頭部付け根の断面形は六角柱でその下は方形。先端は四角錐。											客土	
銅滓	鉢	完	37.69	10.13	2.70	1.9	頭部は半円形。頭部は四角錐。											客土	
	鉢	破	53.03	3.91	3.65	2.3	頭部を欠損する。先端は楕円形。											石積み内	
	武具の八双金物	完	57.31	17.69	1.35	7.1	鍛金と、植物・魚の彫刻が施されている。円形、ハート形の穴がある。											客土	
	兜の鍔形	破	42.94	14.50	1.93	3.9	鍛金もしくは調度品の止め金具か。円形の穴がある。											トレンチ1	
	武具の覆輪	破	56.63	14.77	1.93	4.1	鍛金が残っている。											トレンチ3 黒色土	
	兜の鍔形	破	10.85	40.24	1.25	17.1	鍛金が残っている。											客土	
	不明	破	45.76	11.19	1.55	4.2	覆輪もしくは止め金具か。											客土	
	ボタン	破	12.63	8.01	6.87	3.6	制服のボタンか。											トレンチ9 0～20cm	
	指輪	完	25.46	19.89	3.18	7.3	内径11.989mm。緑青に覆われている。真鍮製か。											不明	
銅滓	針金	—	—	—	0.99	0.4	直径2mmの輪を作っている。											客土	
	不明	破		5.91	7.9		板状のものが折れ曲がっている。風化が進んでいる。											客土	
	薬莢	完	99.57	20.84	0.87	53.8												トレンチ6	
	鉢	破	61.16	16.23	0.48	12.6	底部には「C A」のアルファベットの刻印。											トレンチ6	
	弾丸	完	13.16	1.57	—	40.1	細かな刻みを持つ弦線が2本ある。											トレンチ4 北側石積み	
	銅滓	完	7.76	34.86	—	10.6	1本の沈線。底部から見て時計回りにライフルマーク。											客土	
	弾丸	完	3.00	2.11	1.73	15.0												トレンチ8	
銅滓	鉢	完	3.63	3.44	2.06	32.5	木炭が付着している。											トレンチ8	
	鉢	完	3.51	2.86	1.37	14.6												トレンチ8	

注「—」:計測不可



第44図 金属製品

第22節 石製品

1は用途不明の石球である。砂岩製で、5mm～1cmの敲き痕が多くある。ただし敲き痕は全面にあるわけではなく、所々平坦な部分もある。

2・3は赤色頁岩製の硯である。

4は用途不明製品である。材質は玢岩で、鑿状工具によって、くびれや段をつくっている。

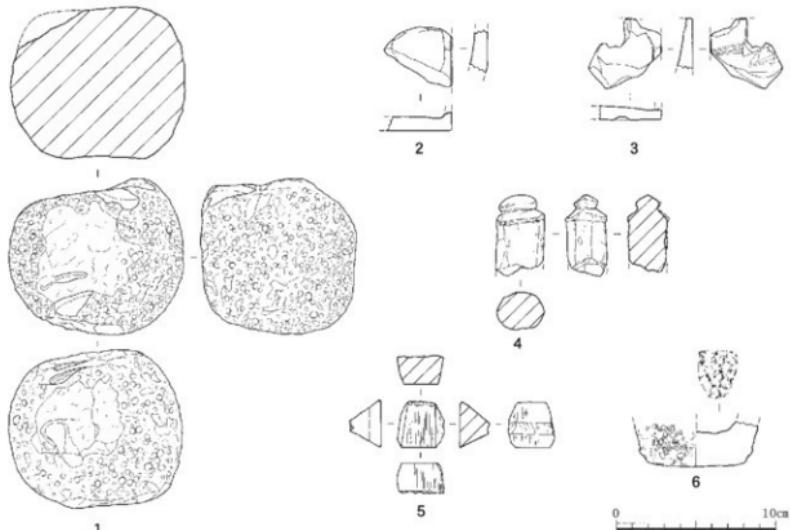
6は玢岩製の坩埚である。外面には黒色（一部赤色）ガラス質の付着物があり、緑青も一部見られる。内面には特に付着物はなく、鑿状工具痕がある。以上のお他には、客土から出土した蛭石製の容器が1点ある。

第36表 石製品観察一覧

単位:cm/g

図番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	色調	石質	観察事項	出土地
1	石球	9.6	10.9	—	1510	灰色	砂岩	丸みを帯びた直方体。表面には、5～10mmの小さな瘤みが多くあり、所々平坦な部分もある。被熱のためか一部ピンク色である。	客土
2 図 45 回	硯	3.6	4.1	1.3	21.9	暗赤灰色	赤色頁岩	硯面に縦方向の細かい傷。	客土
3 図 58 回	硯	3.6	4.5	1.0	19.0	暗赤灰色	赤色頁岩	硯面に縦方向の細かい傷。裏面に沈線。	トレンチ3 黒色土
4 不明	不明	5.0	3.0	2.3	32.4	浅黄色	玢岩	くびれ部・段部に鑿状工具痕。全体に丁寧に加工されている。	トレンチ8 100～120cm
5	不明	1.9	2.8	2.8	24.3	濃淡のある 緑色	翡翠	丁寧にカットされている。	表探
6	坩埚	—	—	—	61.6	浅黄色	玢岩	平底に近い。外面に黒色（一部赤色）ガラス質の付着物。内面に鑿状工具痕。	トレンチ3 黒色土

注「—」:計測不可



第45図 石製品

第23節 瓦

合計552点が出土した。形態・製作技法により大和系・高麗系・明朝系に分けることができる。全体に占める割合は、明朝系が5割、高麗系・大和系が1割である。

1. 大和系

1は平瓦の破片資料である。凹面・凸面とも糸切り痕が残り、その上にまばらなナデ調整がある。側面の面取は2面である。

2. 高麗系

2は丸瓦である。凸面には矢羽根状の叩き目があり、凹面には布目が残る。

3～7は平瓦である。凹面には糸切り痕や布目痕、凸面には矢羽根状の叩き目がある。5にはスタンプ文字があり、「高」の字が確認できる。3にも文字が見られる。

3. 明朝系

軒丸瓦(8～10)の瓦当表面には、横からみた牡丹の花と、その周囲を取り巻く珠文がある。瓦当裏には、やや粗い指ナデ調整痕がある。

丸瓦(11～13)の凹面には布目が残る。凸面はナデ調整である。側面には、割り取った時の割れ口がそのまま残っている。

軒平瓦(14～16)の瓦当には牡丹の花とその両側に葉文がある。

平瓦(17・18)の凸面にはナデ調整痕、凹面には布目が残っている。

第24節 塚

粘土を焼いて作った煉瓦のようなもので、主に床面に敷いた。合計36点が出土している。上面はナデ調整などで丁寧に仕上げるが、下面是無調整に近いものが多い。

第37表 瓦・塚出土状況

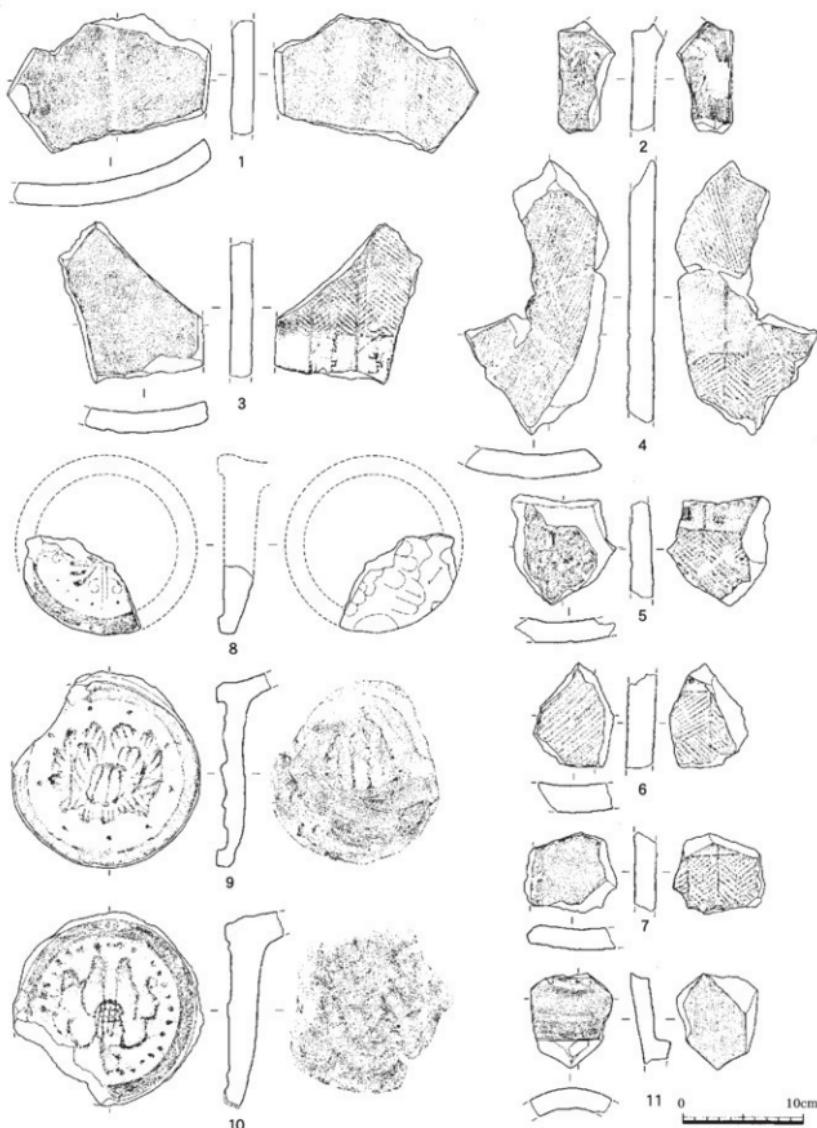
種類・分類	山上地	トレンド									石疊面	石疊面下	石段	石積み内	城壁下部 覆土	客土	表採	不明	合計
		1	2	3	4	6	7	8	9										
織り瓦(2点)	その他の	1															1		2
																			1
高麗系 (17点)	丸瓦	その他の															1		1
	灰色		1								1	1							
大和系 (46点)	平瓦	その他の															1	2	2
	灰色										1	1					2		11
明朝系 (290点)	平瓦	その他の									6	27	1	1					5
	灰色										2		1						39
軒丸	灰色	2											1				4	2	1
	その他の	2	3	1								1					14	4	7
丸瓦	灰色	1	1	1							1	1	2				5	7	1
	その他の	1	2		1	2						1	1	1			7	6	4
軒平	灰色	1											1				3		1
	その他の	2	3														8		14
平瓦	灰色	1	1	2	6	1					5	4	1	1	1		3	32	3
	その他の	3	5								2	19	12	5	1	1	42	24	8
不明 (197点)	灰色										1	1						22	8
	その他の	3	1	7							6	2						125	12
合計		1	3	17	14	17	9	42	30	28	9	2	5	2	2	246	98	29	552
塚				3	1											15	8	8	36

第38表 瓦観察一覧

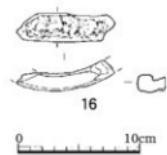
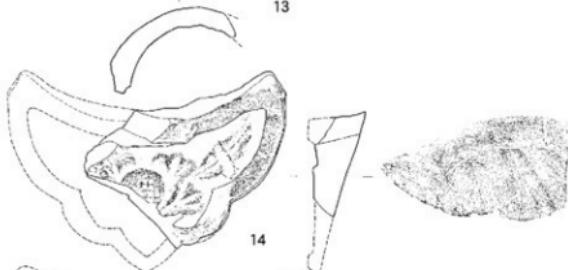
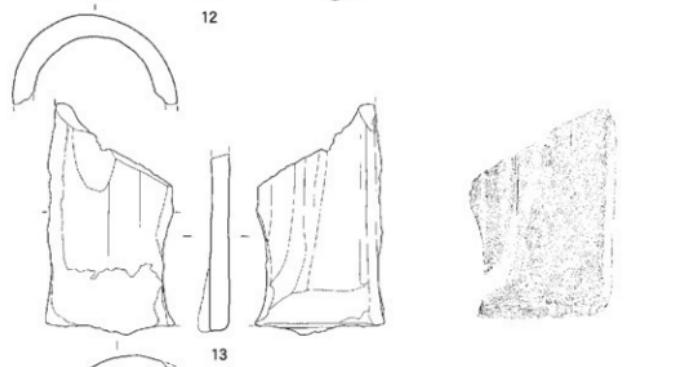
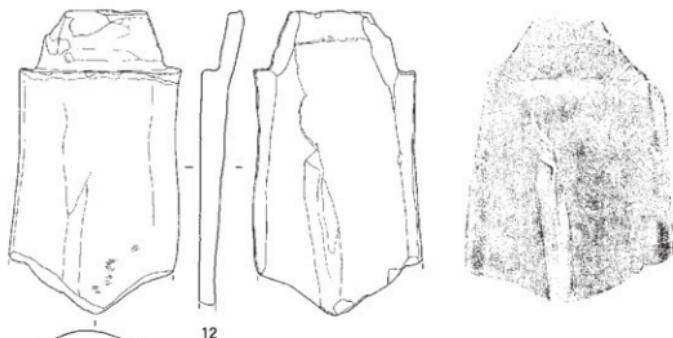
団番号	分類	器種	胎土		調整	色調	器形・文様など	出土地点
			色調・質	混入物				
第 46 國 ・ 國 版 59	高麗系	大和系	平瓦	灰色。	赤色・黒色・半透明粒を少し含む。	前面は糸切りのら上下・斜め方向の末 ばらなた。凸面は糸切りのち上下方 向のまばらなた。	前面は赤色。凸面は黄灰色。凹面 は黄灰色。	トレンチ8 黒色土 0~20cm
			丸瓦	にぶい黄褐色。中心は灰褐色。	白色・黒色・橙色・半透明、 雲母粒?を少し含む。	筒部凸面は、段部付近に矢羽根状 文。筒部凹面には布目。筒部外周は 面取り。	にぶい黄灰色。	客土
				黄灰色。	黒色・橙色・雲母粒?を少 し含む。	前面は糸切り。凸面は矢羽根状文。 側面についてては前面側は面取り、凸面 側は割口を残す。	前面は黄灰色。凹面は灰 黄色。	トレンチ8 ①
				灰オリーブ 色	白色・黒色・半透明、雲母 粒を少し含む。	前面は糸切りと布目。凸面は矢羽根状 文と、糸切り。	橙色。	石畠下コーラ ル敷き 21- 22・23・25
			平瓦	橙色。中心は灰褐色。	白色・黒色・橙色・半透明、 雲母粒を少し含む。	前面は矢羽根状文。	橙色。	トレンチ7 ②
		明朝系		灰色。	白色・黒色粒を少し含む。	前面は布目を切る糸切り。凸面は矢羽 根状文。	灰色。	石積み内
				灰色。	白色・黒色・橙色粒を少 し含む。	前面は布目。凸面は矢羽根状文。	灰色。	P-26・27 石畠面
				灰色。	白色・橙色粒を少し含む。	瓦当裏面はナダ(指紋有り)。瓦当側面 はナダ。	灰色。 瓦当径14.8cm。	トレンチ3 黒色土
			軒丸瓦	橙色。	白色・赤色粒を少し含む。		橙色。 瓦当径15.5cm。	トレンチ3
				灰色。	白色・黒色粒を少し含む。	瓦当裏面はナダ(指紋有り)。瓦当と筒 部の境には瓦当制作時の余分な粘土が 残る。	灰色。 瓦当径14.8cm。 不明	
第 47 國 ・ 國 版 60	明朝系	丸瓦		灰色。	白色・黒色粒を少し含む。	玉縁部は横ナダ。筒部前面には布目。	灰色。 玉縁部に沈線。	客土
				灰色。	白色・雲母粒を少し含む。	筒部内面は、段部付近に矢羽根状 文。筒部凹面には布目。玉縁部は面 取り。筒部側面は割口を残す。	灰色。	客土
				橙色。	白色・橙色・半透明、雲母 粒を少し含む。	筒部凸面は工具ナダによる面取り。筒 部凹面は布目のちナダ。筒部側面は 割口を残すが、筒部下端はナダ。	橙色。 漆喰が残る。	客土
				灰色。	橙色粒を少し含む。	前面、瓦当裏面はケヌリに近いナダ。	灰色。 瓦当幅23.4cm、 全高15.9cm。	客土
			軒平瓦	にぶい黄褐色。	白色・橙色・雲母粒を少 し含む。		にぶい黄褐色。 瓦当幅25.2cm、 全高16.9cm。	トレンチ6
		明朝系		灰色。	白色・橙色粒を少し含む。	前面は布目と、横骨の継じ痕。前面 上端はナダ。凸面はナダ。	灰色。 瓦当幅25.2cm、 全高16.9cm。	トレンチ6
			平瓦	橙色。	白色・半透明、雲母粒を少 し含む。	前面は布目。凸面は横ナ ダ。	橙色。 表探	
				灰色。	白色・雲母粒を少し含む。	前面は布目と、横骨の継じ痕。前面 上端はナダ。凸面はナダ。	灰色。 表探	
				一	橙色。	白色・橙色・雲母粒を少 し含む。	裏面は凹面が多い。	橙色。 漆喰が残る。 厚 さ3.5cm。 トレンチ2
			飾り瓦	にぶい橙色。	白色・橙色粒を少し含む。	側面は横方向のケヌリ。先端はナダ。	にぶい橙色。 漆喰が残る。	表探

第39表 塚観察一覧

団番号	胎土		調整	色調	器形・文様など	出土地点
	色調	混入物				
第 48 國 ・ 國 版 61	21	灰色。 白色・黒色・半透明粒を少し含む。	丁寧なナダ。	灰色。 厚さ6.9cm。		客土
	22	灰色。 白色・黒色粒を少し含む。	ナダ。	灰色。 下面に漆喰。		不明
	23	橙色。 黑色・橙色・雲母粒を少し含む。	上面に丁寧なナダ。側面はやや粗 いナダ。下面は無調整か。	橙色。 厚さ3.3cm。		客土
	24	灰白色。 白色・雲母粒を少し含む。	ナダ。	灰色。 上・下面に漆喰。側面にL字形の 窓。下面にL字形の突起。		客土

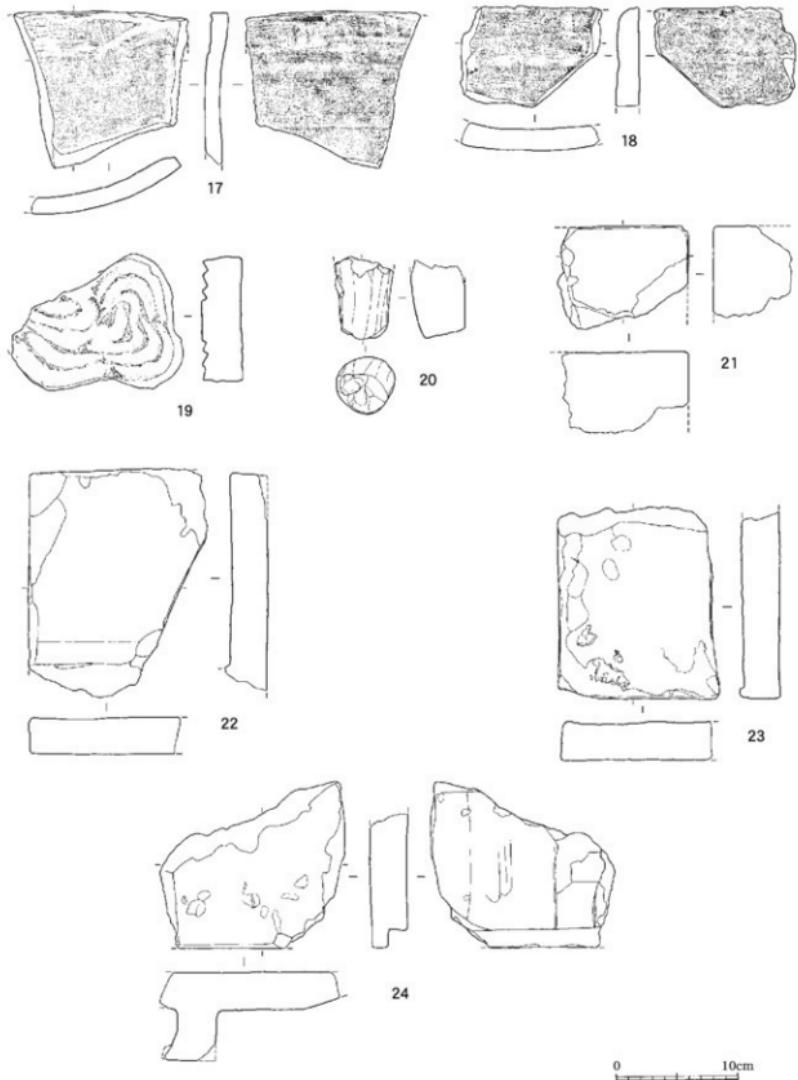


第46図 瓦(1)



0 10cm

第47図 瓦(2)



第48図 瓦(3)・埴

第25節 自然遺物

1. 貝類

合計で111個体分が出土している。巻貝が8割、二枚貝が2割を占める。

巻貝の中で出土量が最も多いのがヤコウガイである。ヤコウガイは食用として美味で、また貝殻は螺鈿細工の原料として用いられる。今回ヤコウガイの殻が55個体分出土しているのに対し、その蓋は1点のみである。貝を食した後、殻と蓋とは別の道をたどったようである。

その他ではマガキガイが10個体出土している。また陸上に住むオキナワヤマタニシが、石疊道の下部から4個体分出土している。

二枚貝では、ヒレシャコガイが最も多い。またアラスジケマンガイがトレンチ8・11から出土している。

貝殻生息地の分類

		水深										底質									
I	外洋・内洋	0 潮間帯上部 (1ではノッチ、3ではマンゴロープ)										a 壴板									
		1 潮間帯中・下部										b 砂石									
II	内湾・輕石地域	2 亞潮間帶上部 (1ではイノーノ)										c 岩礁底、砂泥底、砂底									
		3 千歳 (1にのみ適用)										d マングロープ植物上									
III	河口干潟・マンゴロープ域	4 礁斜面およびその下部										e 流水の流入する礁底									
IV	淡水域	5 土水																			
		6 流水																			
V	陸域	7 林内																			
		8 林内・林縁部																			
		9 林縁部																			
		10 湖沼域																			
VI	その他	11 打ち上げ物																			
		12 化石																			

〈引用文献〉

『古我知原貝塚』『沖縄県文化財調査報告書』 第84集 1987.2

第40表 貝類出土状況(1) 巾貝

番号	科名	出土地	トレンチ				石垣				石垣下				基土				表層				総数							
			2	6	8	11	石垣	石垣下	基土	表層	石垣	石垣下	基土	表層	石垣	石垣下	基土	表層	石垣	石垣下	基土	表層								
1	ニシキウガイ科 サラサバガイ	1-4-a	1		1						2		1		4	9	1	6	11	7										
2	ヤツブガイ科	1-4-a	24	30		1		2	1		15	18		1	16	3	0	65	57	56										
3	サエコ科	1-4-a									1				1	0	0	0	0	0										
4	チャッセモササギ科	1-9-a									1				1	2	1	2	1	0	0	0								
5	カキ科	1-1-b									1				1				0	1	0	1								
6	オノノミノイ科 オニノミノガイ	1-2-c									1				1				0	1	0	1								
7	ソテボラ科 マダラガイ科	1-2-c			2	1					2	3			2		5	5	0	10										
8	スマカガ科 アツカガエ科														1		0	0	1											
9	アツカガ科 シラマガガイ	1-3-a													1		1	0	0	1										
10	オコシキシライ科 コココブリ	1-3-a													1		1	0	0	1										
11	イヌヌタ科 イヌヌタガイ	1-2-a													1		1	0	0	1										
12	イズガイ科 中空カツツイエ	1-2-a													1		1	0	0	1										
13	サクラニシ科 オキナワサクラニシ	1-2-b									3	1			1		4	1	0	5										
14	アガシニ科 バイワヒニ	1													1				0	0	1	1								
	合計		0	26	30	0	0	1	11	2	1	0	0	1	3	2	0	4	20	20	1	3	1	71	22	12	171	74	66	91

注 先史と後史の区別をして西野を体験とした。

第41表 貝類出土状況(2) 二枚貝

番号	科名	出土地	トレンチ				石垣				石垣下				基土				表層				総数							
			3	6	8	11	石垣	石垣下	基土	表層	石垣	石垣下	基土	表層	石垣	石垣下	基土	表層	石垣	石垣下	基土	表層								
1	ビメイカ科 ビメイカガイ	1-2-a									1	1			1	1	1	1	1	0	0	0	1							
2	ジャコガイ科	1-2-c	7	7	1						1	1	2		1		1	0	8	10	3	10								
3	マルスグレイ科 アラスジグランガイ	1-2-c			5	6		1	1									6	8	0	0	8								
4	二枚貝不詳																	0	0	0	1	0								
	合計		1	0	7	7	1	5	6	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	1	0	1	0	8	6	11	32

注 完形と解体の右端を、左端を完形として、多い方を體験とした。

2. 脊椎動物遺体

金子 浩昌

はじめに

今回の調査で検出された動物遺体の量はごく少なかった。調査範囲の限定されたことと、動物遺体の廃棄場所として使われることが余りなかったことによるのであろう。首里城関係の動物遺体調査が終了していないこともあり、今回の調査地区の動物遺体の在り方を検討することができないが、出土する脊椎動物遺体の全体的傾向としては一般的な内容をもつものであった。

今回の報告に当たっては、沖縄県立埋蔵文化財センター専門員羽方誠氏、遺物の資料整理には瑞慶覧尚美・宮平真由美・玉城恵美利氏にお世話をなった。厚く御礼申し上げたい。

検出された脊椎動物遺体種名表

脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA	両性綱 Class Amphibia
軟骨魚綱 Class Chondrichthyes	無尾目 Order Anura
メジロザメ目 Order Carcharhiniformes	科・属不明 Fam.et gen.indet
メジロザメ科 Family Carcharhinidae	鳥綱 Class Aves
属・種不明 Gen.et sp.indet	キジ目 Order Galliformes
エイ目 Order Rajiformes	キジ科 Family Phasianidae
科・属不明 Fam.et gen.indet	ニワトリ <i>Gallus gallus var. domesticus</i>
硬骨魚綱 Class Osteichthyes	哺乳綱 Class Mammalia
スズキ目 Order Perciformes	齧歯目 Order Rodentia
ハタ科 Family Serranidae	ネズミ科 Family Murida
属・種不明 Gen.et sp.indet	属・種不明 Gen.et sp.indet
フエダイ科 Family Lutjanidae	クジラ目 Order Cetacea
タイ科 Family Sparidae	イルカ科 Family delphinidae
クロダイ <i>Acanthopagrus schlegeli</i>	イルカ類 Delphinidae Gen. et sp.indet
属・種不明 Gen.et sp.indet	海牛目 Order Sirennia
フエフキダイ科 Family Lethrinidae	ジュゴン科 Family Dugongidae
ハマフエフキ <i>Lethrinus nebulosus</i>	ジュゴン <i>Dugong dugong</i>
ベラ科 Family Labridae	寄蹄目 Order Perissoda ctyla
コブダイ(カゲイ) <i>Semicossyphus reticulatus</i>	ウマ科 Family Equidae
属・種不明 Gen.et sp.indet	ウマ <i>Equus caballus</i>
ブダイ科 Family Scaridae	偶蹄目 Order Artiodactyla
イロブダイ <i>Bolbometopon bicolor</i>	イノシシ科 Family Suidae
ナンヨウブダイ <i>Scarus gibbus</i>	ブタ <i>Sus scrofa var. domesticus</i>
属・種不明 Gen.et sp.indet	ウシ科 Family Bovidae
フグ目 Order Tetraodontiformes	ウシ <i>Bos taurus</i>
モンガラカワハギ科 Family Balistidae	
属・種不明 Gen.et sp.indet	

検出された脊椎動物

本文中の計測値は特に記されていない限りmmで表す。

魚類

軟骨魚綱

メジロザメ科

椎骨2点。椎体径13.0, 23.0

検出は少ないが、特別な例（今回報告の首里城跡城の下地区）を除くと、首里城内での出土は一般に少ない。
エイ類

椎骨1点。椎体径25.0になる大形のものである。これほど大形のエイ類椎体を遺跡から得られたことはめずらしい。これが1点だけあったというのは、骨が別の目的で運ばれてきたことも考えられる。エイ類に椎体はサメ類椎骨よりも硬質で、中空部分がほとんどないからである。

硬骨魚綱

フエダイ科の一種

骨の出土は少ない。前上顎骨は全長40.0前後が推定され、体長は70cm前後に達したと思われる。他の部位も同程度のサイズの個体であった。

クロダイ

全体量は少ないが、最少個体数ではフエフキダイに次ぐ。前上顎骨長35.0になるのが大形標本であった。

ハマエフキ

もっとも多く多くの標本を残していた。内蔵骨では前上顎骨の残される率が高かった。前上顎骨は大きく全長30.0～40.0に達するものであった。特に大形の個体が搬入されているのであろう。

コブダイ

前上顎骨左右は別個体である。大形で特に左側のは大きく、全長60.0に達するであろう。沖縄方面でも稀にみる大きな標本である。

ベラ科の一種

下咽頭骨1点。咽頭骨咬面中央のエナメル咬頭の並びはタキベラタイプの形態をみる。

イロブダイ

歯骨1点。大形である。

ナンヨウブダイ

下咽頭骨2点があった。咬面幅は16.0前後である。

モンガラカワハギ

大形の歯が一点採集されている。全長21.0あり、この歯を付ける顎骨も大形であったろう。

鳥類

ニワトリ

上腕骨、桡骨、大腿骨、脛骨、中足骨などの四肢骨を検出しているが、脛骨の出土がもっと多く、大腿部の肉を使い、脛骨を廃棄したのであろう。大きさの異なる個体がみられる。

哺乳類

ネズミ類

検出は少なかった。

イルカ類

椎骨1点。椎体の骨端板で、径48.0。この地域でイルカ類の遺骸の出土は少ない。今回のは珍しいと言えよう。

ジュゴン

後頭頸から後頭鱗にかけて残す破片であるが、かなり大きい個体である。この時期になるとジュゴンの遺骸の出土は少ない。特に頭骨の出土は少ない。

ウマ

大龍骨骨体部を1点検出している。これには明らかな切痕がみられた。

ブタ

もっとも多く出土しているが、特定の骨格で量的にめだったのは肋骨くらいであって、その他の部位では、上腕骨のみ右側が4点と多く、他は左右が1点ないし2点程度にとどまった。上腕骨は近・遠位骨端が共に欠損しているが、解体時の破損であろう。橈骨は完存し、全長101.0である。頭骨1点は前頭から後頭骨を残す。頭頂骨は海綿体で充填し、ブタの形質である。下頸骨は骨体部分のみが残され、第3後臼歯の萌出が中途である。第2～3後臼歯位置の頸骨体高は40.0であり、沖縄先史時代イノシシにもみるサイズである。

ウシ

ブタに次ぐ量である。頭骨、下頸骨はなく、四肢骨が大部分であった。四肢骨の両端は打ち割られ、かたちを残すのは橈骨の近位骨端であった。この橈骨近位骨端幅87.0である。肩甲骨頸部幅は26.0。

総括

魚類

検出された全体の数量、種類ともに少なかったが、グスクから出土する代表的な魚種を含むものであって、時期的な特徴を示すものとも言えよう。ハマフエフキがもっとも多いというのもそうした特徴の一つであることは首里城跡右掖門周辺地区の調査資料を報告した際にものべた。古くはブダイ類の多かったことと変つてきている点が注目される。各魚種の標本が少ないのでサイズの変異を知ることが難しいが、見る限り大形の個体が多く、これもまた搬入の様子を示して興味がもたれる。

鳥類

ニワトリに限られた。これもグスク内の出土例に変わらないようである。中形からやや大形サイズのものが含まれていた。

獸類

僅かなイルカ類を除くとブタとウシとウマのみが知られた。イルカ類の検出はむしろめずらしいといってよい。ブタはもっとも多く、食用に多く用いられたことを示している。頭骨のうち頭頂から後頭骨を残す1点は骨質厚く、下頸骨は第3後臼歯が半ば以上萌出段階の大形標本である。沖縄本島産リュウキュウイノシシに比べて臼歯も大きく、骨体の体高の高いことが特徴である。おそらく下頸骨全長は短くなり、左右骨体幅の短い、短頭型の頭形であったのであろう。

ウシはブタよりは少なく、臼歯の検出もなかった。しかし、食用とされたことは、打ち割られた肢骨の状態からもみてとることができよう。図版に示した橈骨の近位骨端を残す標本は骨体の中央で折られ、骨髓が利用されたのである。この橈骨の近位骨端幅87.0、△であれば中形、♀であれば大形の黒毛の和牛に匹敵する。いずれにしても沖縄の中近世のウシとしては大形であった。本遺跡の時代がやや新しくなることを反映しているのかも知れない。

ジュゴン遺骸の少ないのもこの時期の特徴である。

第42表 メジロザメ出土一覧

部位	出土地	個数
背椎骨	石積み内	1
	トロ	1

第43表 エイ類出土一覧

部位	出土地	個数
椎骨	客土	1

第44表 魚類出土量

種目	部位	出土地		トレンチ		石膏面	石膏面下	石積み内	客土	表探	不規	合計	個体数	
		4	8											
ハタ科	ハタ科の一種	頭骨	R	L	1						1	2	0	2
フエダイ科	フエダイ科の一種	前上顎骨	R	L			1					0	1	1
タイ科	クロダイ	前上顎骨	R	L				1		1	1	1	2	2
		歯骨	R	L							1	1	0	1
スズキ科	フェフキダイ科	前上顎骨	R	L	1	1	1	2	1		1	5	2	5
		歯骨	R	L			1					1	0	1
		舌鰓	R	L								2	0	2
	ベラ科	前鰓蓋骨	R	L								2	0	2
		主鰓蓋骨	R	L								1	1	0
		前上顎骨	R	L				1	1			1	1	1
	コブダイ	下唇頭骨										0		0
		前上顎骨	R	L	1							0	1	1
		下唇頭骨												
	ペラ科の一種	前上顎骨	R	L	1									
		下唇頭骨												
		下唇頭骨												
ブダイ科	イロブダイ	歯骨	R	L				1				1	0	1
		下唇頭骨										2	2	2
		ナシヨウブダイ												
フグ目・モンガラカワハギ科・モンガラカワハギ科の一種	ブダイ科の一種	下唇頭骨										1	1	1
		歯						1				1	1	1
		万骨	R	L					1			0	1	
科・種不明	背鰓骨(第1or2)											1	2	3
		背椎骨			2	3			13	1	4	23		1
		尾椎						1		2		3		
	合計				1	3	6	1	2	27	2	15	57	20

凡例 R:上呼吸器 L:下呼吸器

下咽頭骨

第45表 ニワトリ出土一覧

部位	右/左	残存部位	出土地	個数
上腕骨	右	骨体	客土	1
	左	骨体	客土	1
橈骨	不明	骨体	不明	1
大腿骨	左	完存	トロ	8
	右	骨体	不明	1
		遠位部	トロ	4
脛骨		近位部～遠位部	不明	1
	左	骨体	トロ	8
		遠位端	トロ	8
中足骨	右	完存	不明	♀1
	左	遠位部	トロ	8

第46表 ネズミ類出土一覧

部位	右/左	残存部位	出土地	個数
上腕骨	左	完存	不明	1

第47表 イルカ出土一覧

部位	出土地	個数
椎体	客土	2
	不明	1

第48表 ジュゴン出土一覧

部位	出土地	個数
後頭骨	客土	1

第50表 ブタ出土量

部 位	出土地						トレンチ						石裏面		石構造内		寄土		不明		合 计							
	7		8		9		11		12				右	左	不規	右	左	不規	右	左	不規	右	左	不規	右	左	不規	
筋骨																												
筋骨																												
下顎骨	下顎骨			1				1																				
椎体	椎體																											
肋骨	近位～			1																								
肋骨	近位																											
肋骨	近位～遠位部																											
上顎骨	全体																											
上顎骨	遠位側のみ			1																								
喉骨	喉管																											
喉骨	近位端																											
目	目			1																								
中手骨	中手																											
中手骨	II or V																											
中足骨	中足骨																											
中足骨	II or IV																											
中足骨	中足骨			1																								
合 计		1	0	0	5	2	6	2	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	2	4	5	4	6	0	0	2
注	○	キズあり																										

第51表 ブタ歯出土一覧

部 位	右/左	残存部位	出土地	個数
上顎骨	右	P ²	客土	1
	左	M ³	客土	1
		P ²	トレンチ8	1
下顎骨	右	P ₄ M _{1, 2, 3}	トレンチ9	1
		M _{1, 2}	トレンチ8	1
	左	I ₁	トレンチ12	1

第49表 ウマ出土一覧

部 位	右/左	残存部位	出土地	個数
大腿骨	左	骨体	トレンチ7	①

注 ○：キズあり

第52表 ウシ出土量

部 位	出土地						トレンチ						石裏面				寄土				不明				合 计		
	4		6		7		8		11				右	左	不規	右	左	不規	右	左	不規	右	左	不規	右	左	不規
椎体																											
椎体																											
脛甲骨																											
脛甲骨	近位部																										
脛甲骨	近位～																										
脛甲骨	遠位部																										
脛骨	近位端																										
脛骨	遠位端																										
脛骨	遠位～																										
脛骨	遠位端																										
脛骨	遠位～																										
脛骨	遠位端																										
脛骨	遠位～																										
脛骨	遠位端																										
脛骨	遠位～																										
脛骨	遠位端																										
脛骨	遠位～																										
脛骨	遠位端																										
脛骨	遠位～																										
脛骨	遠位端																										
合 计	1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	2	0	1	7	3	5			
注	(1)	蛇、○	ギズあり、(1)	破片																							

第6章 結語

今回首里城公園整備に伴って行った、城の下道の発掘調査で検出した遺構は、首里城の城壁に沿って造られた石疊道路であった。

1. 古文書・古地図からみた城の下道

城の下道については、1743年以降に編集された琉球正史である『球陽』の巻7に記されている。これには、「尚貞王5年 禁城の北に新に一路を開く。禁城・円覺廟の間に道路有ること無く往還に便ならず。是れに由りて王・輔臣に命じ、新たに一路を其の間に開かしめ、以て往来を通す。」と書かれている。尚貞王5年は西暦に直すと1673年、一路とは城の下道、禁城とは首里城、円覺廟とは円覺寺を指す。城の下道の造営は、時の琉球王尚貞の命による土木事業であったことがわかる。

琉球第二尚氏王統第3代国王の尚真（在位1477～1526年）は、1494年に円覺寺を完成させ、首里城とその周辺における大規模な整備を行っている。また第4代尚清王は、1543～1546年に繼世門とそれに連なる城壁を整備している。これによって首里城の外郭の整備が完了した。城の下道は、このような首里城と円覺寺にはさまれた場所に位置しているが、尚真・尚清王の代では整備されず、それから約120年後によく整備されたのである。

昭和6年（1931年）頃に描かれた「首里城附近ノ図」（沖縄県立博物館蔵）によると、城の下道の西側については、久慶門部分で道が西と北の二手に分かれている。西に行くと園比屋武御嶽・守礼門がある。北に行くと円覺寺・円鑑池の間を通って中城御殿（現在の県立博物館）がある大通りに至る。

城の下道の東側はやや北東にカーブしており、その先は三方向に道が分かれている。北に行くと、円覺寺を左手に見ながら、久慶門から延びてくる道に出る。北東に行くと中城御殿がある大通りに至る。また南東に行けば、上の毛とよばれる小高い丘陵上に至る。

城の下道は、石灰岩の石を敷き詰めたわゆる石疊道であるが、この石疊はどこまで延びていたのであろうか。石疊の西側については、ある程度状況がわかる。『冠船之時御座構之図』（沖縄県立博物館蔵）中の「冊封御規式之時守礼門并御城御座之図」（第50図）によると、首里城歓会門付近の状況が描かれている。石疊が描かれているのは、ルンタ山へと延びる道のみで、久慶門方向へ行く道には、石疊は描かれていない。のことから城の下道に見られる石疊は、歓会門に至る前に途切れるようである。

石疊道の両側に造られた石積みについては、その範囲を知ることができる。城の下道の北側に沿って造られた石積みについては、円覺寺の境内を取り囲むようにめぐっている。城の下道の南側で検出した、土留め状の石積みについては、「首里旧城之図」（明治27年 仲宗根樟山筆 第49図）によると、歓会門付近から城壁沿いに城の下道部分を通って、上の毛方向に続くようである。

2. 古写真から見た城の下道

沖縄戦前の城の下道を撮影した写真に、故坂本万七氏（明治33～昭和49年）によるものがある（巻頭図版3）。この写真は城の下道を西側から撮影した写真であり、手前には一段の石段が見える。この石段は発掘調査区のO-23グリッドで検出した石段に相当すると考えられ、坂本氏はこの付近に立って撮影を行ったようである。

写真的右側には、蛇行しながらめぐる首里城の城壁が写っているが、その表面は草に覆われている。城壁に沿ってのびる石積みや、城壁と石積みに囲まれて出来た空き地にも同様に草が生い茂っている。空き地については、平坦ではなくゆるやかに傾斜していることがわかる。

写真的左側に目をやると、城の下道に沿ってのびる石積みと、その外側、つまり円覺寺のある北側には、道を覆うようにせり出した樹木がある。

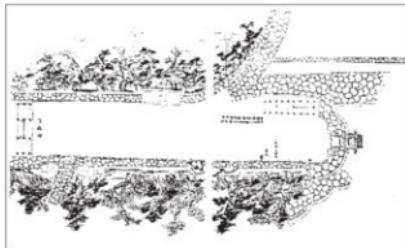
写真中央には、2名の人物が写っている。手前の人物は女性で、こちら側に向かって歩いていている。この女性を基準に両隣にある石積みと高さを比較すると、城壁側の石積みは女性の膝下程度、円覺寺側の石積みは女性の胸の高さくらいであることがわかる。

この女性の後方にも、人物が一人いる。城壁から延びる影でシルエット状であるが、鍔のある帽子をかぶり、右手でキャスター付きのかばんを引き、左手を腰に当てているように見える。やや高齢の女性であろうか。

写真に写っている影は左側、つまり北側に延びていることから、正午頃に撮影された写真と考えられる。首里城の城壁が内側に入り込んでいる部分には太陽の光が差し込んでいるが、それ以外は城壁や樹木によって影が出来る、薄



第49図 「首里旧城之図」明治27年、
仲宗根経山(査不烈)筆 沖縄県立博物館蔵



第50図 「冠船之时御座構之図」(沖縄県立博物館蔵)

公衆送信権のため未表示

第51図 城の下道(東から。坂本万七写真研究所蔵)



第52図 首里城の航空写真(昭和20年4月2日米軍撮影沖縄県公文書館蔵)

暗い場所であったようである。

昭和20年にアメリカ軍が撮影した、首里城の空中写真（第52図）をみても、城の下道を覆うように、円覚寺側と首里城側とから樹木がせり出していることがわかる。

坂本氏が戦前に撮影した写真（第51図）の中に、久慶門付近から守礼門方向を撮影したものがある。写真的左側には首里城の城壁、中央には道、右にはハルン山に茂る樹木が写っている。この写真にある道の構造について見ると、道の部分は石が敷かれているように見える。ただし発掘調査で検出した石疊とは違い、拳大ほどの礫のようである。

3. 戰前の聞き取り調査によって知り得た城の下道の様子

発掘調査区のO-28・29で検出した首里城の城壁は、布積み・あいかた積みであった。しかし城壁の下部については、一段手前にとびだした野面積みであった。聞き取り調査によると、この野面積みの城壁部分は土と植物で覆われており、なだらかに傾斜して城の下の石積みに至っていたという。

発掘調査では残りが悪く、詳細が不明な部分が多い円覚寺側の石積みについては、天端の幅は3尺（約90cm）程度で、比較的厚い構造だったという。石積み外面から円覚寺にかけては傾斜地で、樹木・草が生い茂り、円覚寺の建物はほとんど見えず、鬱蒼として昼間でも暗い所であったという。

4. 発掘調査で明かになった城の下道

今回の発掘調査面積は約1,100m²であり、検出した道跡は石積みを含め幅5m、長さ40m、総面積は170m²であった。沖縄戦において、首里城は壊滅的な打撃を受けており、戦後の造成によってさらに追い討ちをかけられた。城の下道も決して例外ではなかったが、比較的残りが良かったのは不幸中の幸いである。

発掘調査開始前、城の下道は戦中・戦後の高い堆積土に覆われていた。この堆積土を除去すると、沖縄戦の直前まで姿を保っていた石疊道が姿を現した。またトレンチ調査や石疊道の破損部の観察によって、石疊道の下部構造や、石疊道造営以前の状況についての情報も得られた。個々の遺構の詳細は第3・4章を参照していただきとして、ここでは発掘調査で明かになった、城の下道の歴史的な変遷について、首里城の城壁とも一部関連させて考えていきたいと思う。

<1. 城の下道造営以前>

城の下道が造られる以前、この一帯は北を円覚寺、南を首里城の城壁に挟まれた場所であった。そのころの地表面は、トレンチ7で確認した黒褐色土（20層）である可能性がある。この層より下には、無遺物層であるクチャ層と、クチャ層に似た粘質土があるのみである。旧地表面と考えられるこの黒褐色土は北、つまり円覚寺方向に向かってなだらかに傾斜している。

旧地表面の上には、クチャをブロック状に含む層が幾重にもあり、これらは造成層と考えられる。この造成土は、1546年までには完成した首里城城壁整備の際、その一部を掘り崩されており、そこから野面積みの城壁を立ち上げている。この城壁整備に伴う造成の跡は、トレンチ8においても確認出来る（9層）。野面積みの城壁の上には、少し奥まって布積み・あいかた積みの城壁があるが、野面積みの部分に関しては土で覆われていた可能性がある。その覆っていた土として候補に挙げられるのが、トレンチ8の2～4層の黒褐色土である。

以上のような造成層から出土した主な遺物には、土器・青磁・白磁・褐釉陶器・銭貨・釘・銅滓がある。

<2. 城の下道造営以後>

城の下道を造営するにあたって、まず地盤の造成等が考えられる。トレンチ7の3～11層は、石疊・石積みを造る際、削平を受けている。この削平を受けた層が、城の下道を造るにあたって造成されたものか、それ以前かは確定できないが、少なくとも石疊道を造るにあたって、造成層を削平し、地ならしをしている。

地ならしの後は、まず両側の石積みを積み、次ぎにコーラルを敷き、その上に石疊を敷いていることがトレンチ7壁面から観察できた。

このようにして造営された城の下は、円覚寺と首里城の間を通る道として利用されたと考えられる。発掘調査で検出した石疊道は東西40mであり、実際にはもっと長かったはずである。古図面・古写真的検討によって、久慶門付近から西については、石疊ではなく礫敷きである可能性が高いことがわかった。また「旧首里城図」（第3図）には石段を表現したと考えられる線があることから、この線がある部分までは石疊があつた可能性が高い。

ここで、平成4年に行われた、首里城城郭発掘調査の成果を見てみたい(註1)。この発掘調査は、首里城城壁復元のための遺構確認調査であり、残りの良い城壁と、それに接していくいくつかの遺構が検出された。この中で久慶門から東に50m付近の所に、SD1と番号をふられた遺構がある。この遺構はまず、首里城の城壁に対し垂直北方方向に延びる溝があり、それを境に東に石疊・西にコーラル敷きの道があるというものである。この石疊こそが、発掘調査で検出した石疊とつながるものと考えられる。

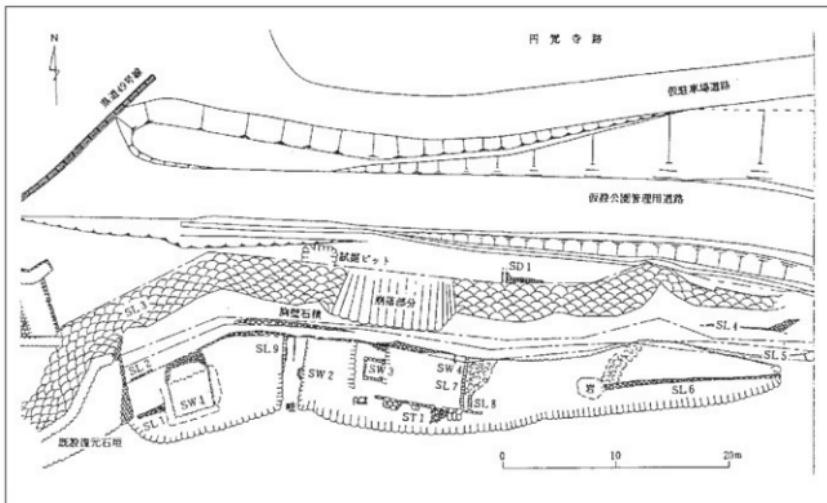
城の下道は、造営されてから沖縄戦等によって機能を失うまで約270年間という長い歴史を持っている。その間何人の人がこの道を往来したであろうことが、つるつるに摩耗した石疊面からわかる。

<註>

註1 上原静「首里城城郭検出の「刻印石」」『文化課紀要』
第9号 沖縄県教育庁文化課 1993.3

<参考文献>

福島清 「冊封儀式に見る建築（上）」『首里城研究』
No.4 首里城研究会1998.7



久慶門東側城壁調査地区図（註1より転載）

図 版



調査開始前
(西から)



調査開始前
(東から)



重機による造成土の除去
(東から)

図版 1 調査状況 (1)



重機による客土の除去
(東から)



旧琉球大学のスタンド跡
(北から)



手前からトレンチ2・3
(東から)

図版2 調査状況（2）



トレンチ1西壁
(東から)



トレンチ2
(西から)

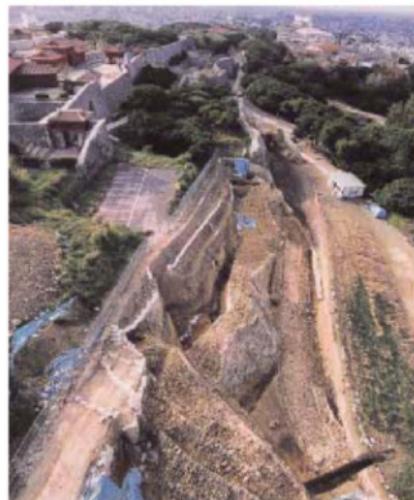


トレンチ3北壁
(南東から)

図版3 調査状況（3）



トレンチ4西壁
(東から)



全体写真 左は首里城
奥は那覇市街
(東から)



全体写真
(北から)

図版4 調査状況（4）



石畳道(東から)



石畳道(西から)

図版5 調査状況（5）



全体写真
手前は旧琉球大学の石畳
(西から)



石畳道の西半分
(真上から)



石畳道の中央付近
(北西から)

図版 6 調査状況 (6)



石畳道の東半分
(北西から)



石畳道の東端
(北東から)



石畳道東側の南側石積
(北西から)

図版7 調査状況（7）



石畳道東側の南側石積①
(北から)



石畳道東側の南側石積②
(北から)



石畳道東側の南側石積③
(北から)

図版8 調査状況（8）



石畳道東側の南側石積④
(北から)



石畳道東側の南側石積⑤
(北から)



石畳道東側の南側石積⑥
(北から)

図版 9 調査状況（9）



石畳道東側の南側石積⑦
(北西から)



石畳道と両側の石積
(北から)



首里城の城壁にとりつく
旧琉球大学の石積(中央)
(北から)

図版10 調査状況 (10)



旧琉球大学の石積
(北から)



旧琉球大学の石積撤去後の状況
(北から)



旧琉球大学の石積撤去後の状況
(西から)

図版11 調査状況 (11)



石段検出状況
(北西から)



石段検出状況
(北西から)



石疊道東端の北側石積
(西から)

図版12 調査状況 (12)



石疊道東端の北側石積
(西から)



全体写真
(北西から)



トレンチ7西壁南側
(東から)

図版13 調査状況 (13)



トレンチ7西壁南側
(東から)



トレンチ7西壁北側
(南東から)



トレンチ7西壁北側
(東から)

図版14 調査状況 (14)



トレンチ7と首里城の城壁
(北から)



トレンチ7 獣骨出土状況
(西から)



トレンチ7 銅銭出土状況
(西から)

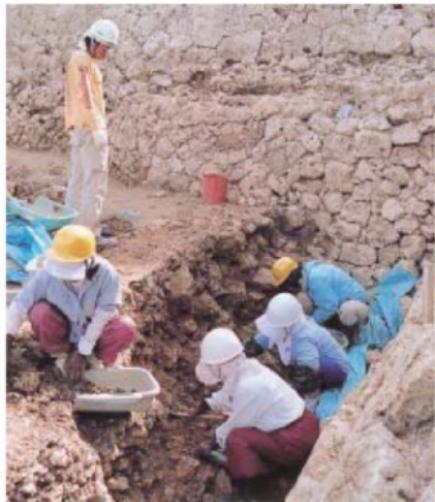
図版15 調査状況 (15)



トレンチ7 青磁出土状況
(北から)



トレンチ8 掘削前の空き地
(東から)



トレンチ8 掘削状況
(北西から)

図版16 調査状況 (16)



トレンチ8
(真上から)



トレンチ8
(真上から)



トレンチ8
(北西から)

図版17 調査状況 (17)



トレンチ8 青磁出土状況
(西から)



トレンチ10 東壁
(西から)



トレンチ10と石疊道北側石積
(北西から)

図版18 調査状況 (18)



トレンチ12 東壁
(西から)



トレンチ12 青磁出土状況
(西から)



トレンチ12と首里城の城壁
(北西から)

図版19 調査状況 (19)



トレンチ12西壁
(東から)



石畳道西端 土層堆積状況
(西から)



調査区西側の石畳道確認状況
(東から)

図版20 調査状況 (20)



現地説明会風景①
(東から)



現地説明会風景②
(北から)



埋め戻し前の遺構の保護状況
(西から)

図版21 調査状況 (21)



発掘作業員
(北から)

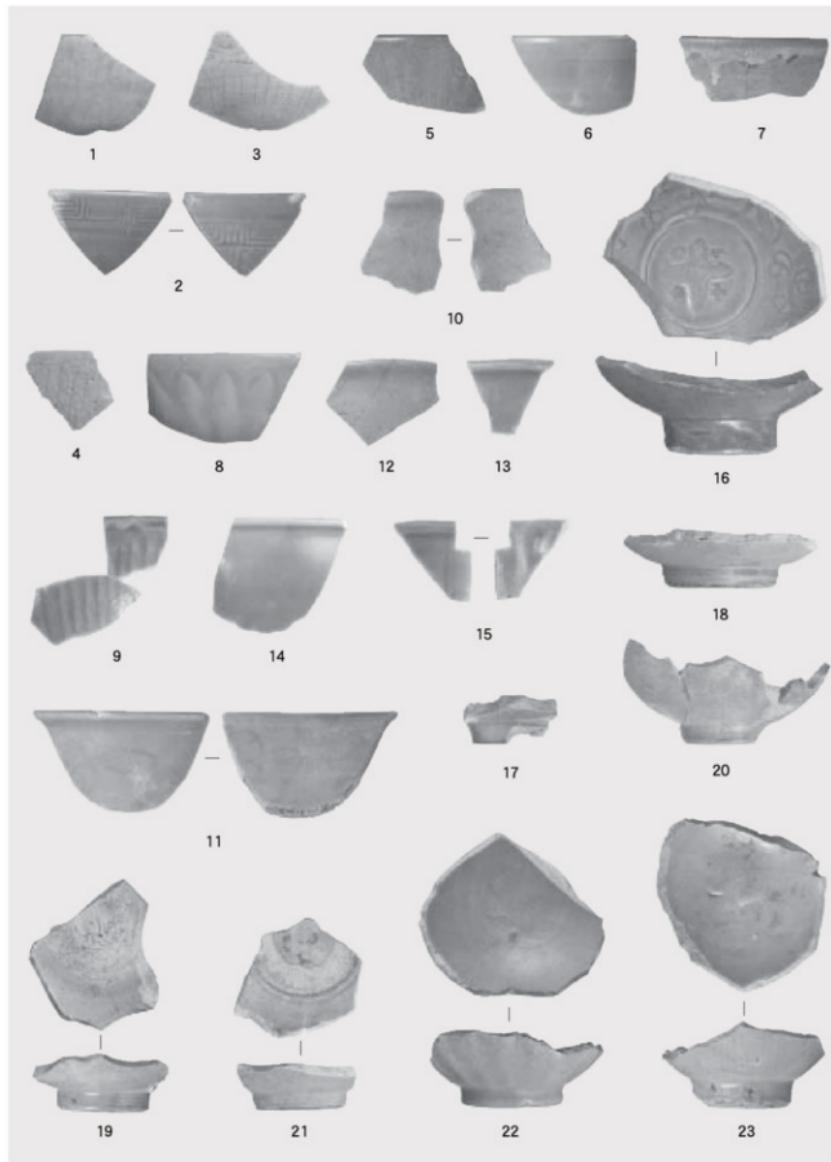


資料整理作業員

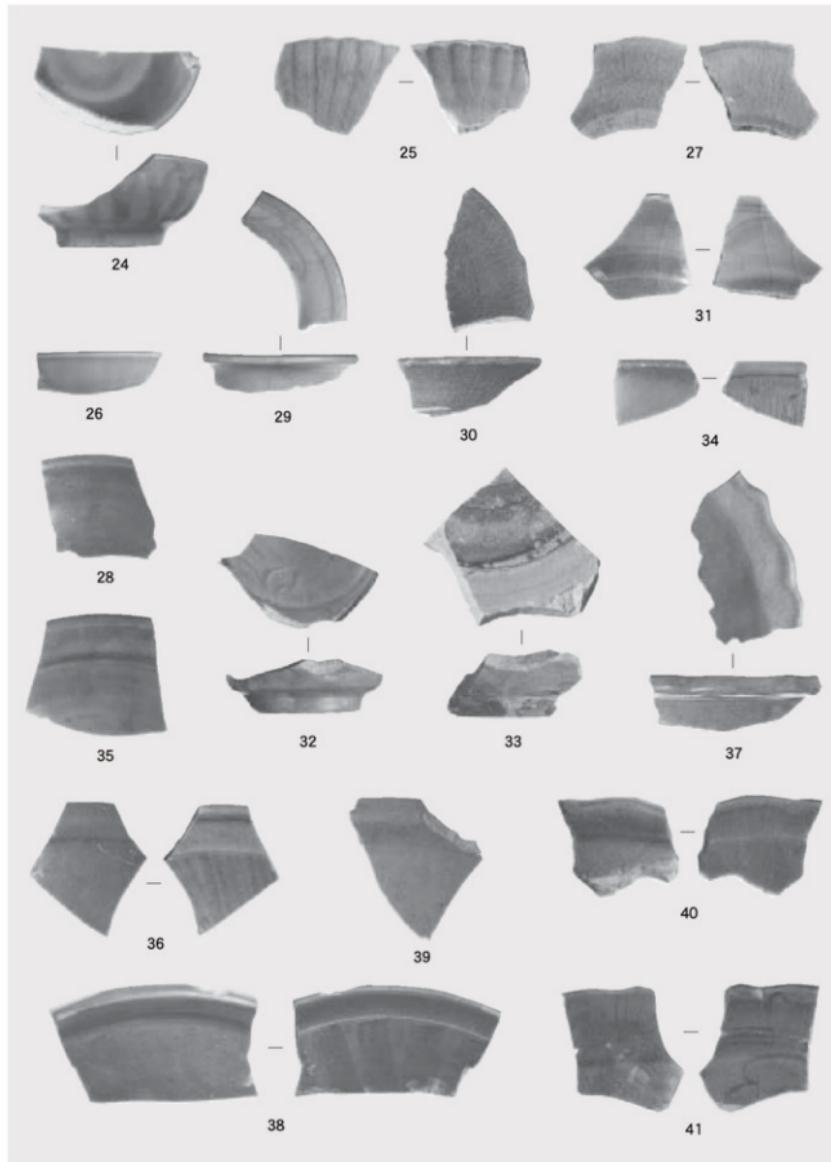


遺物の撮影風景

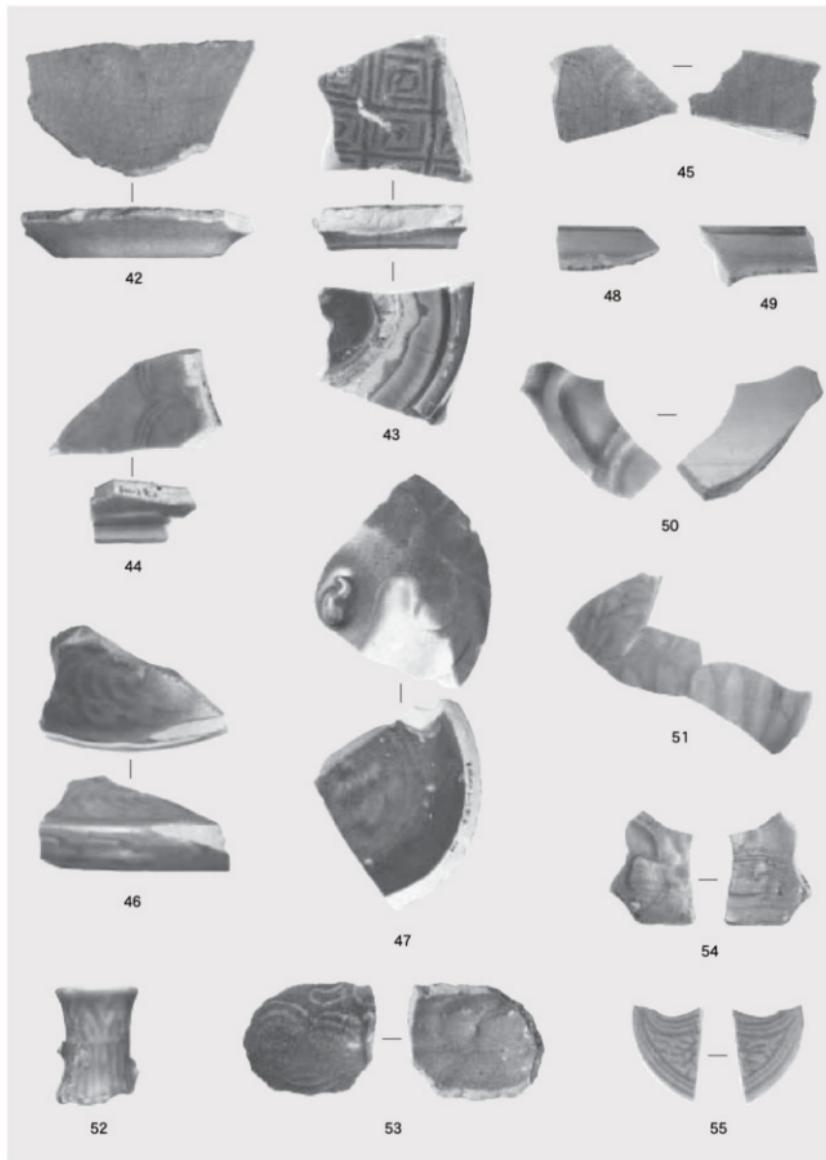
図版22 発掘・資料整理作業員



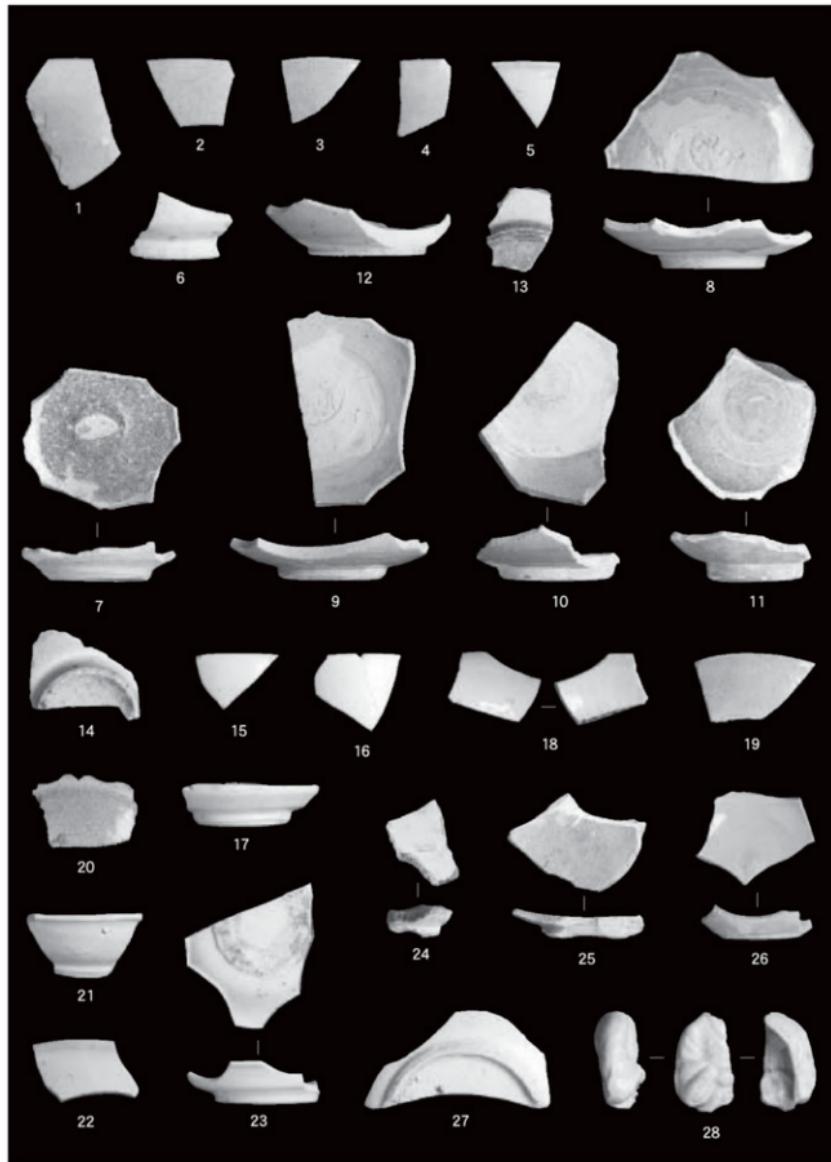
图版23 青磁（1）



图版24 青磁（2）



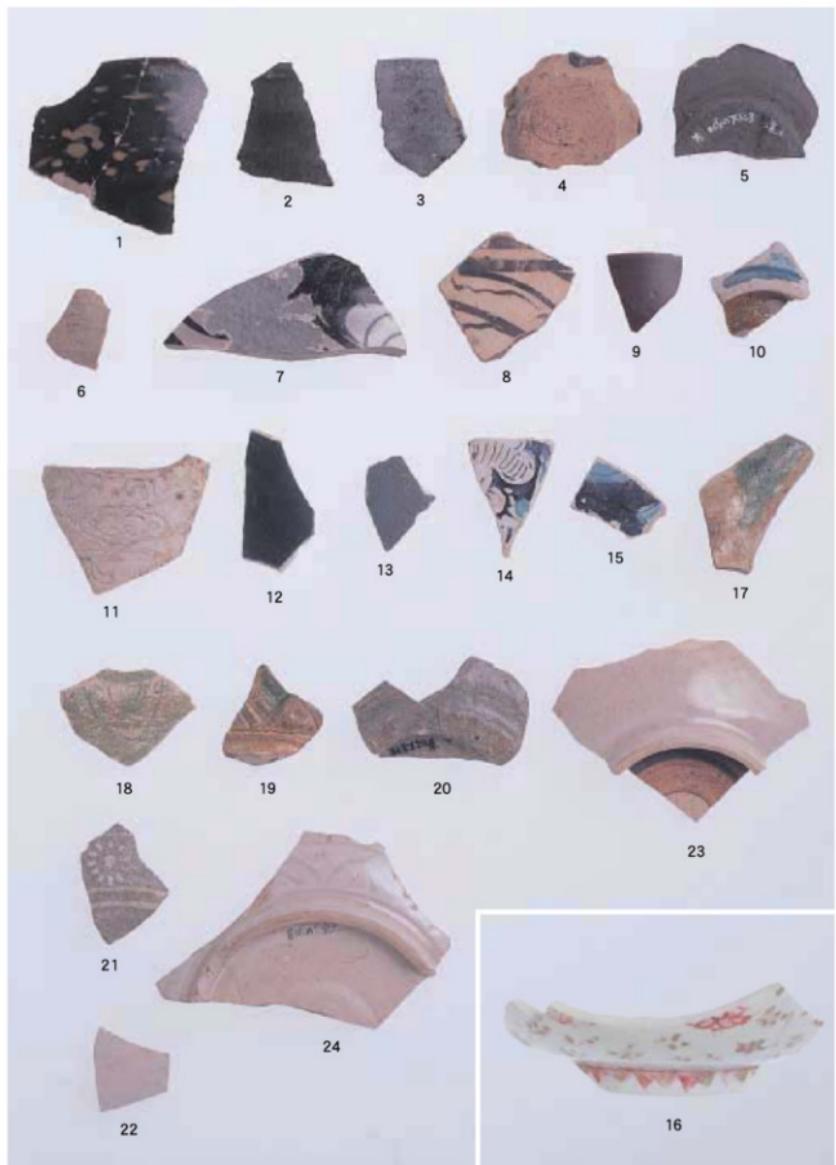
图版25 青磁（3）



图版26 白磁



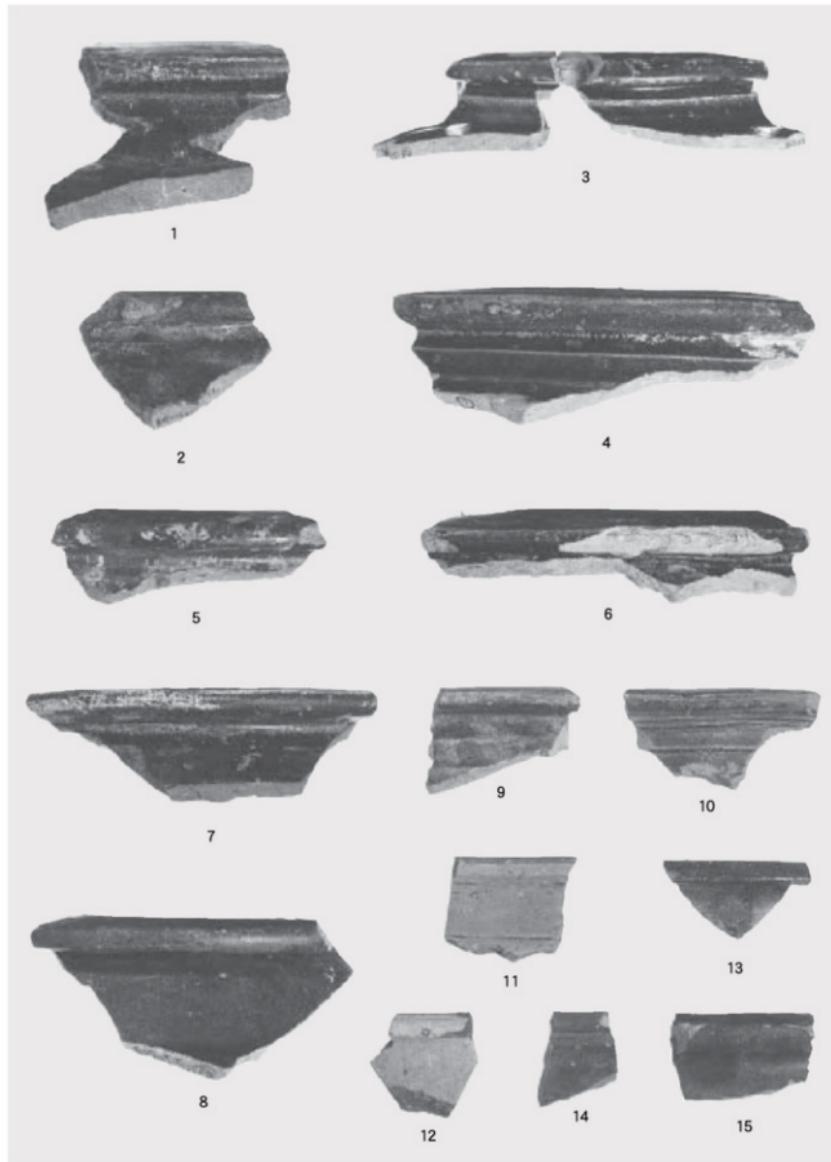
图版27 染付



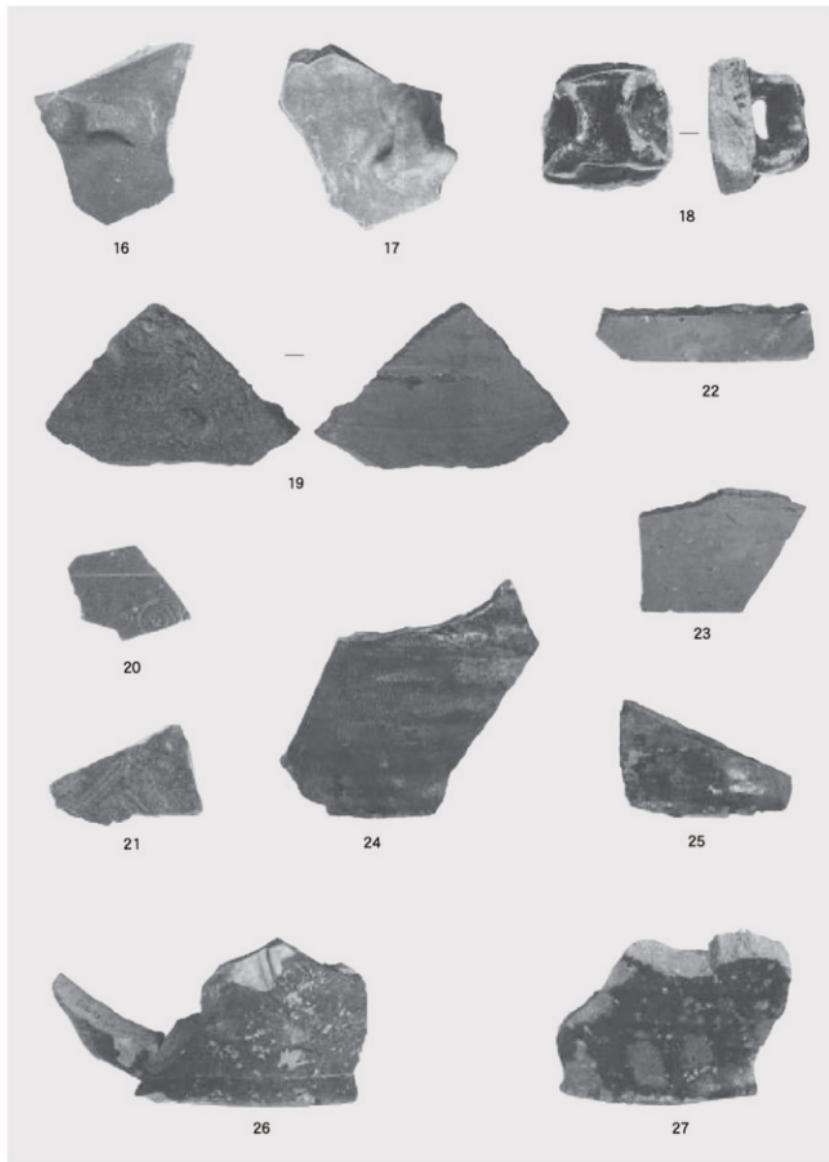
図版28 その他の国外産陶磁器（外面）



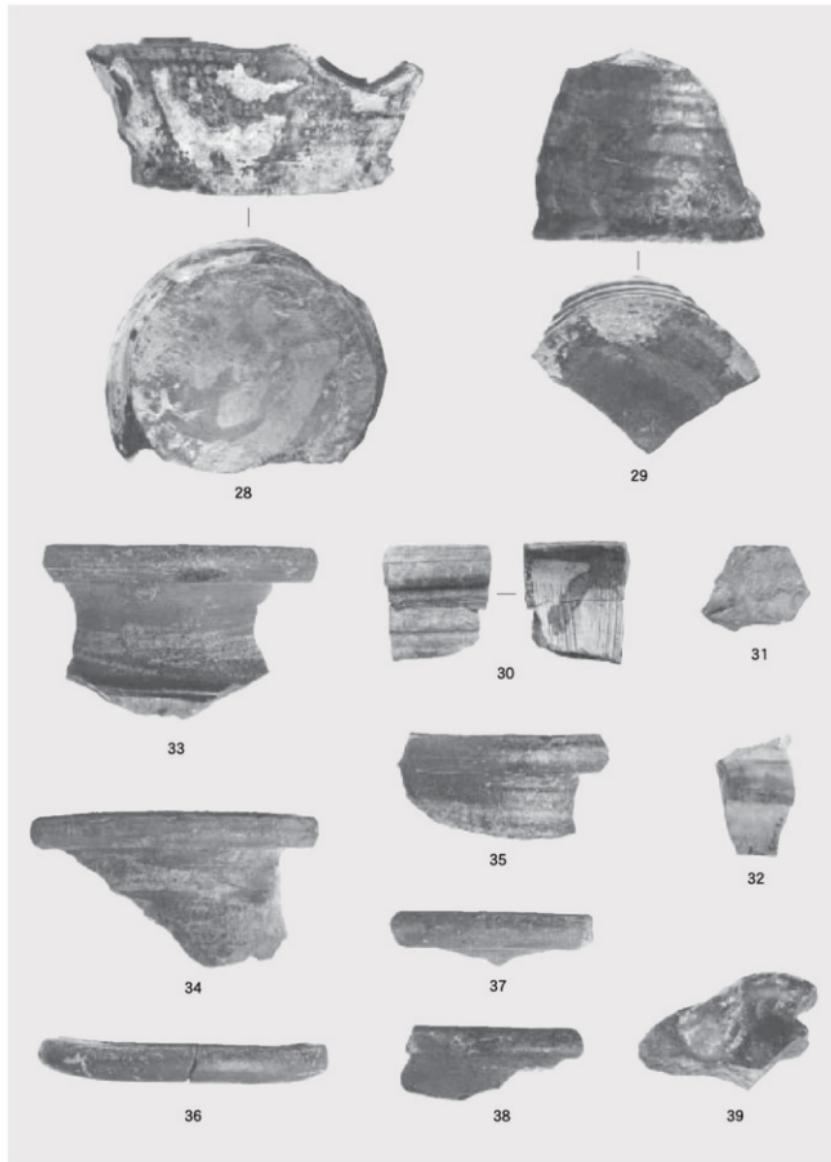
図版29 その他の国外産陶磁器（内面）



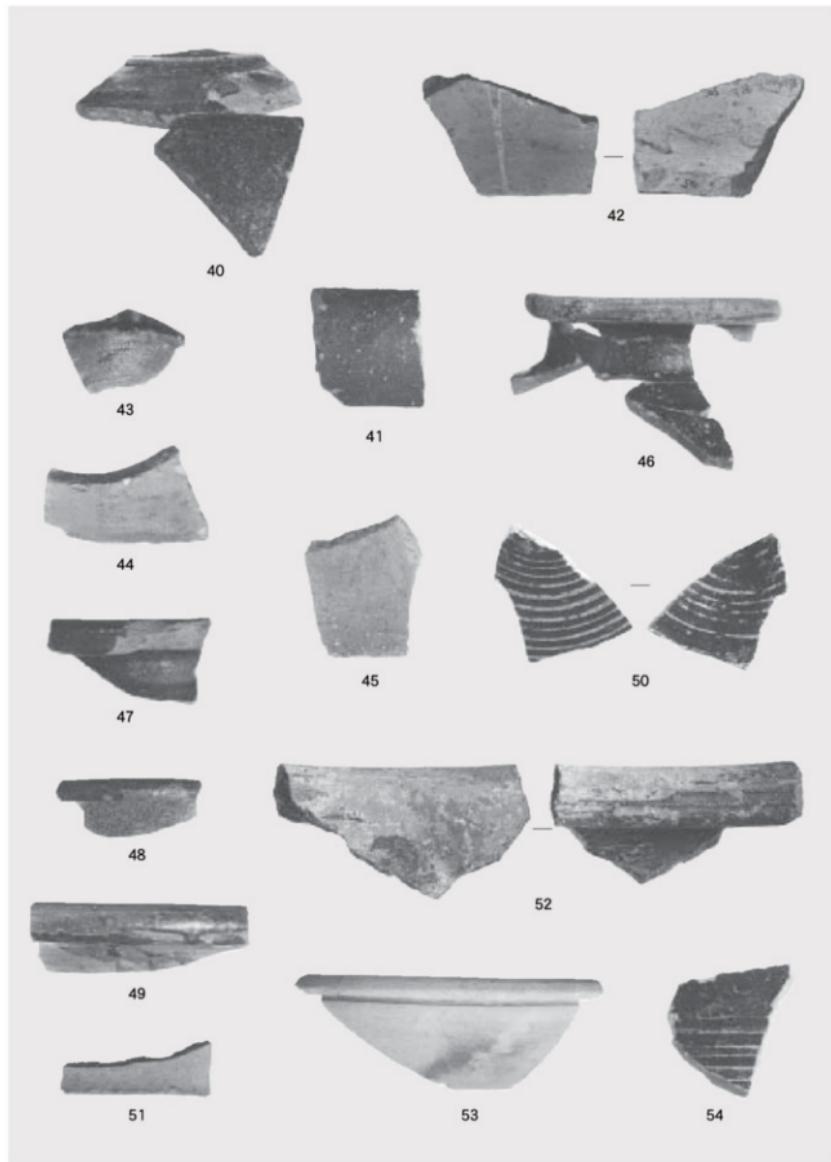
图版30 褐釉陶器 1 (中国产)



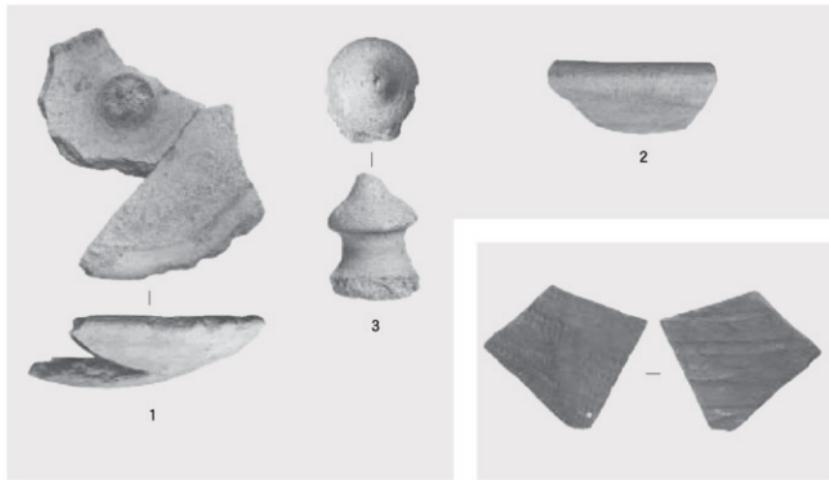
图版31 褐釉陶器2（中国产）



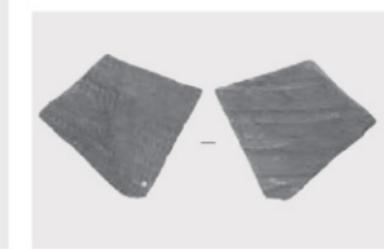
図版32 褐釉陶器 3 (中国産・タイ産)



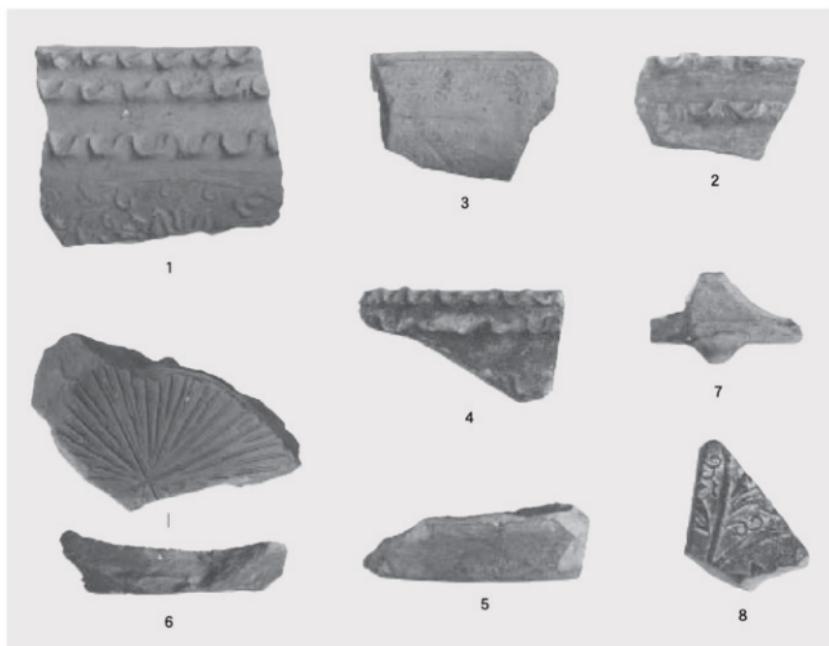
図版33 褐釉陶器4 (タイ産・ミャンマー産)



図版34 タイ産半練



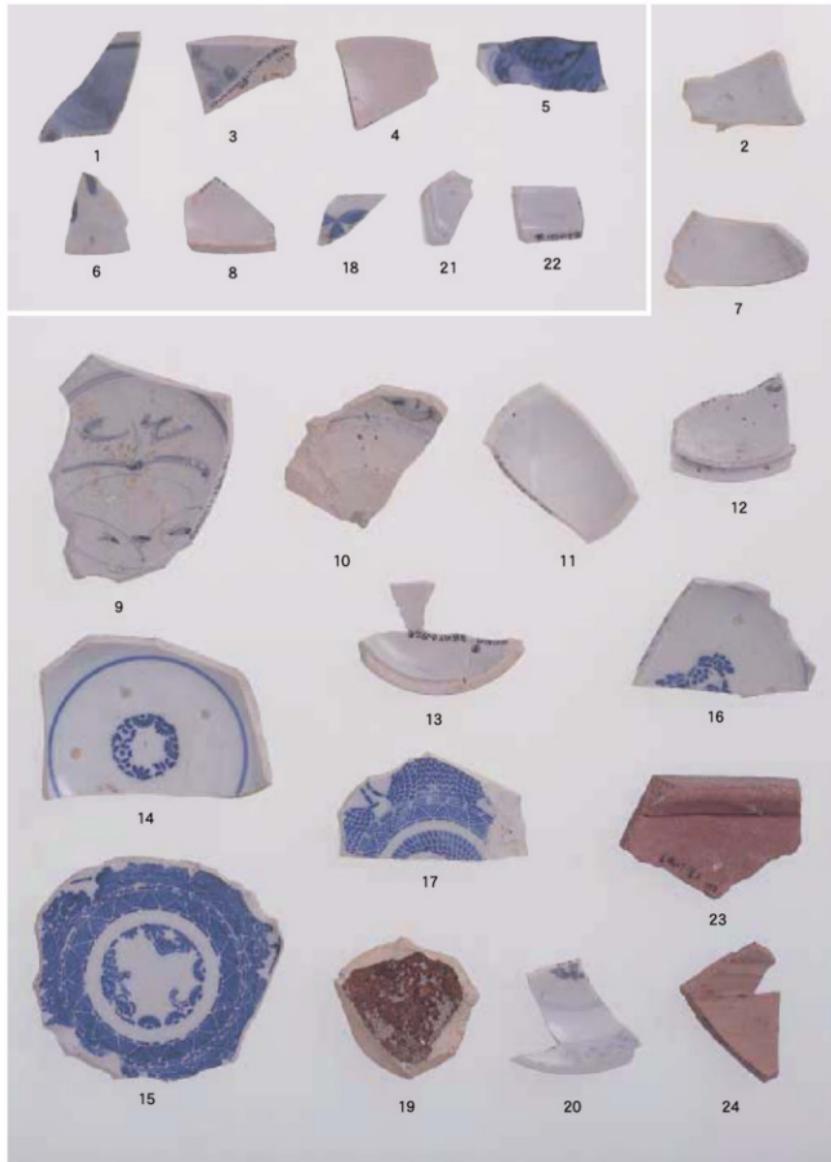
図版35 カムイヤキ



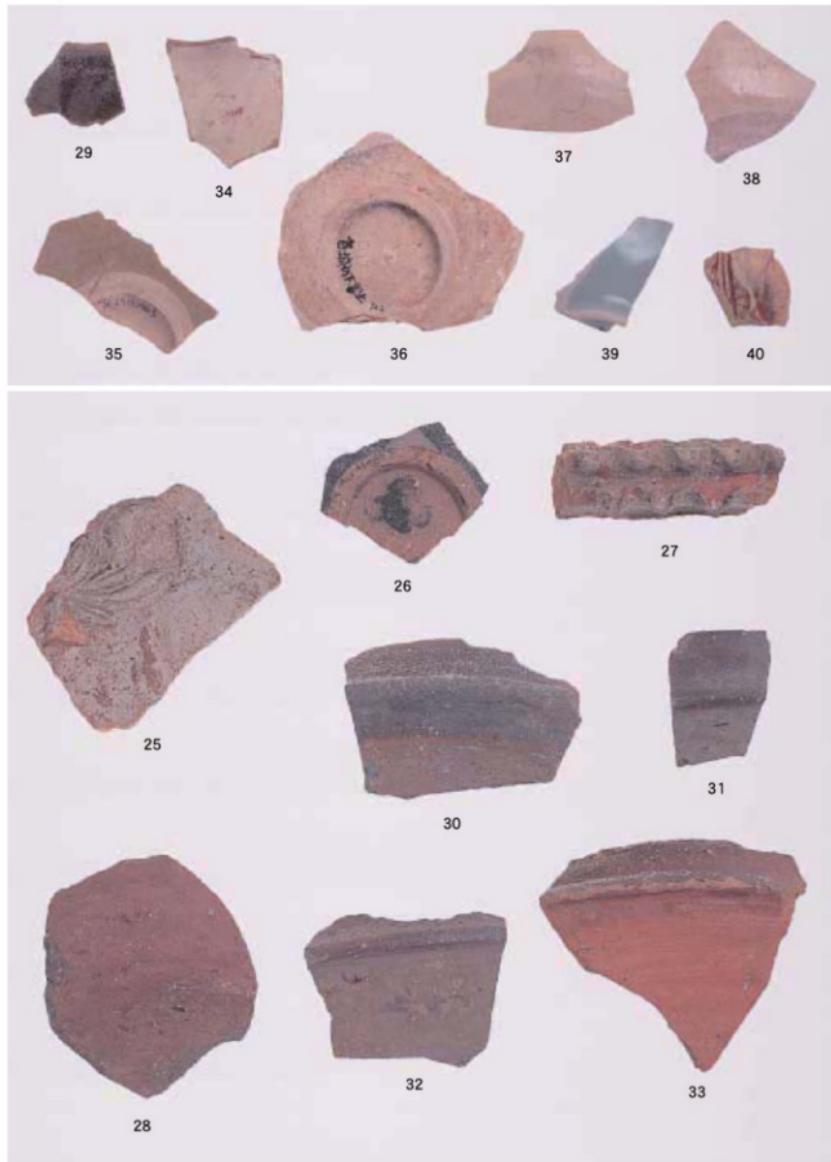
図版36 瓦質土器



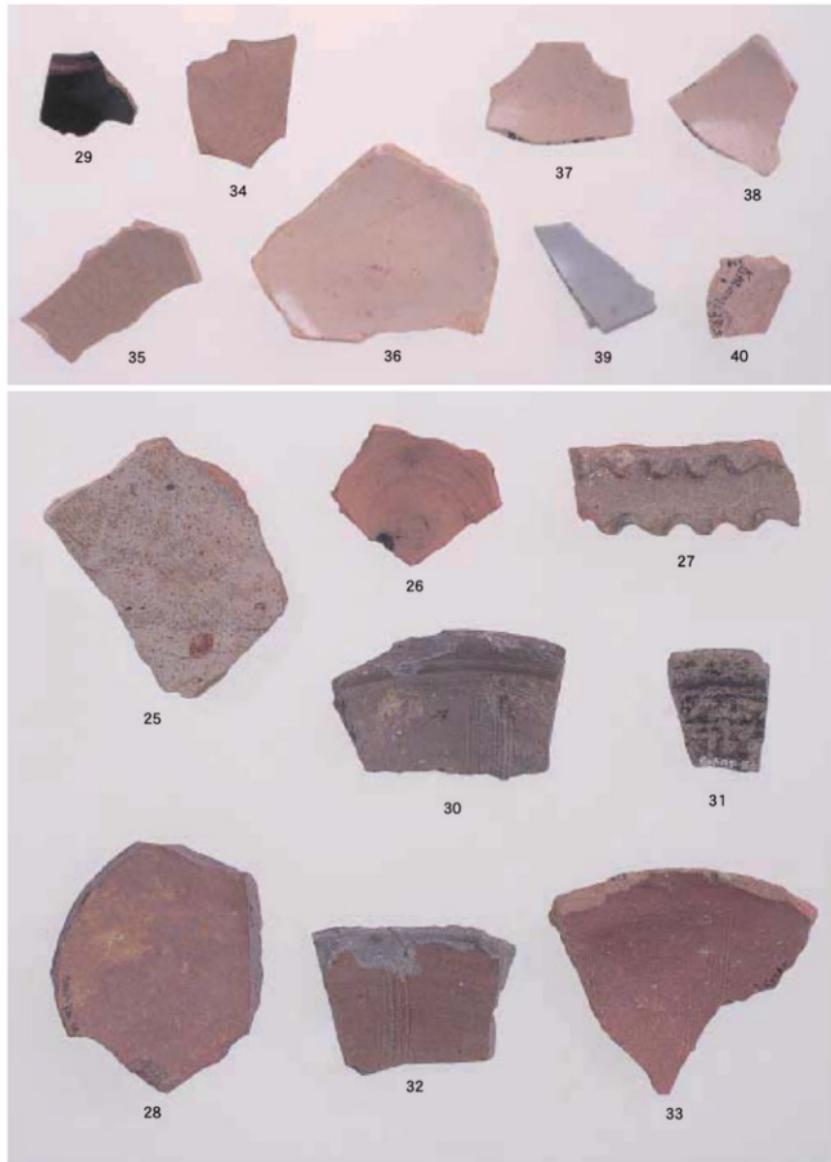
図版37 本土産陶磁器（1）外面



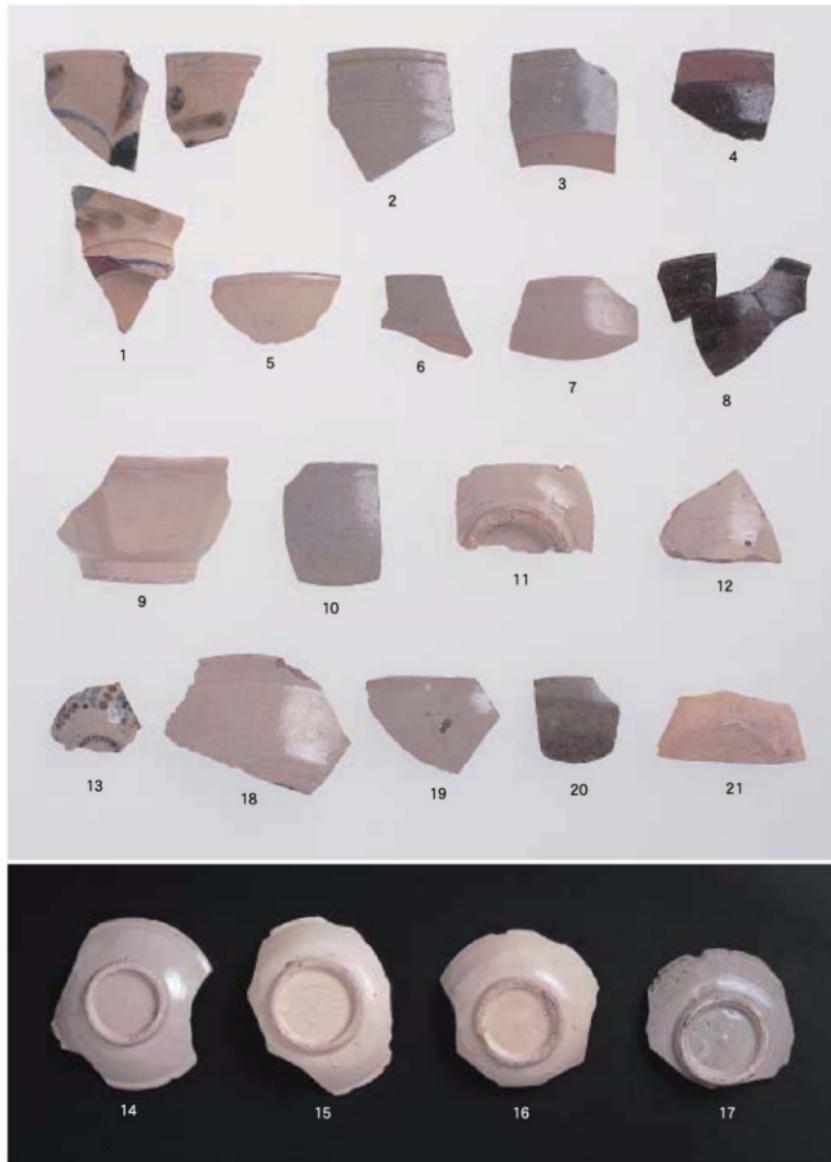
図版38 本土産陶磁器（1）内面



图版39 本土产陶磁器（2）外面



図版40 本土産陶磁器（2）内面



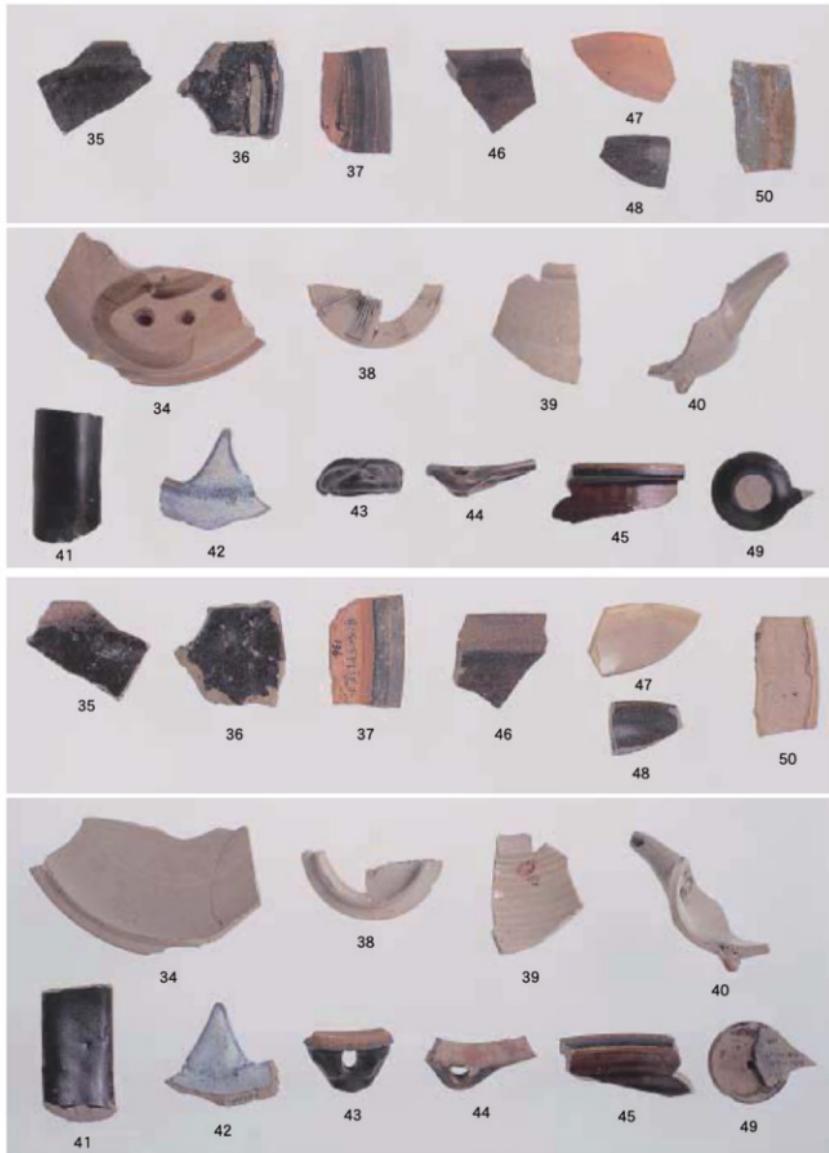
図版41 沖縄産施釉陶器（1）外面



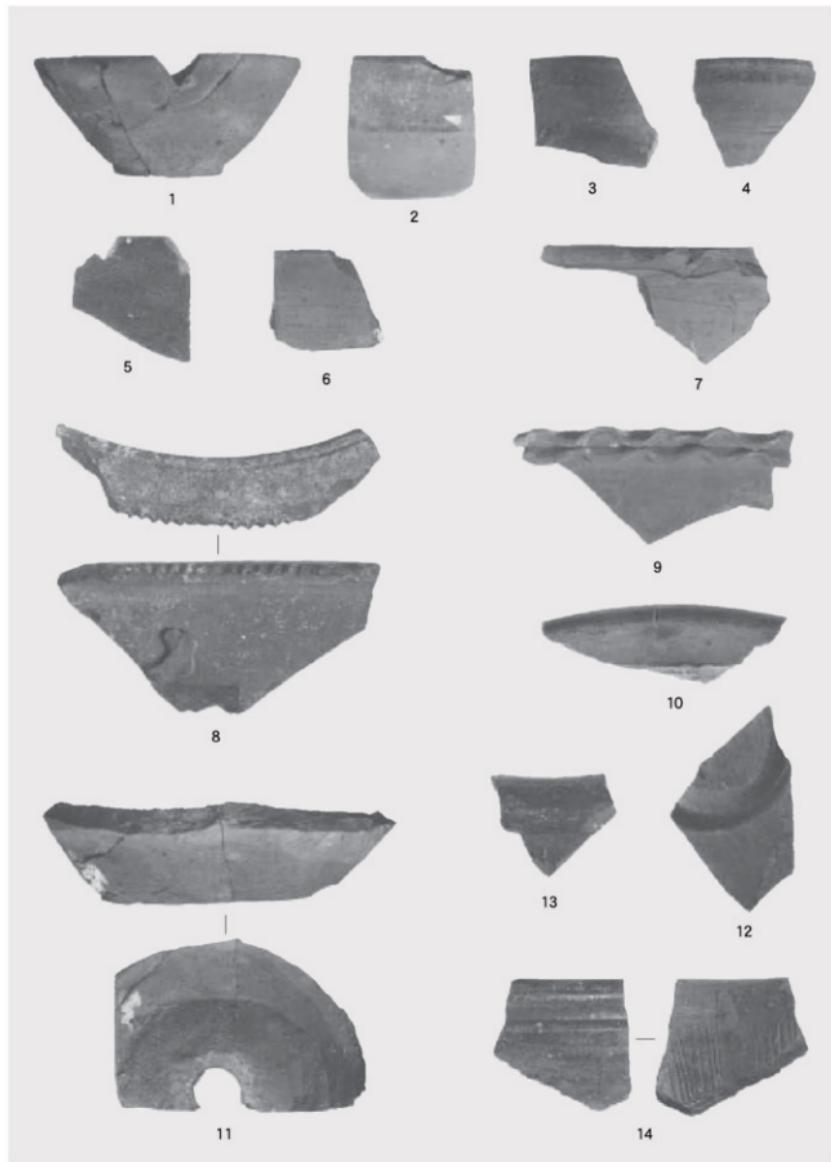
図版42 沖縄産施釉陶器(1) 内面



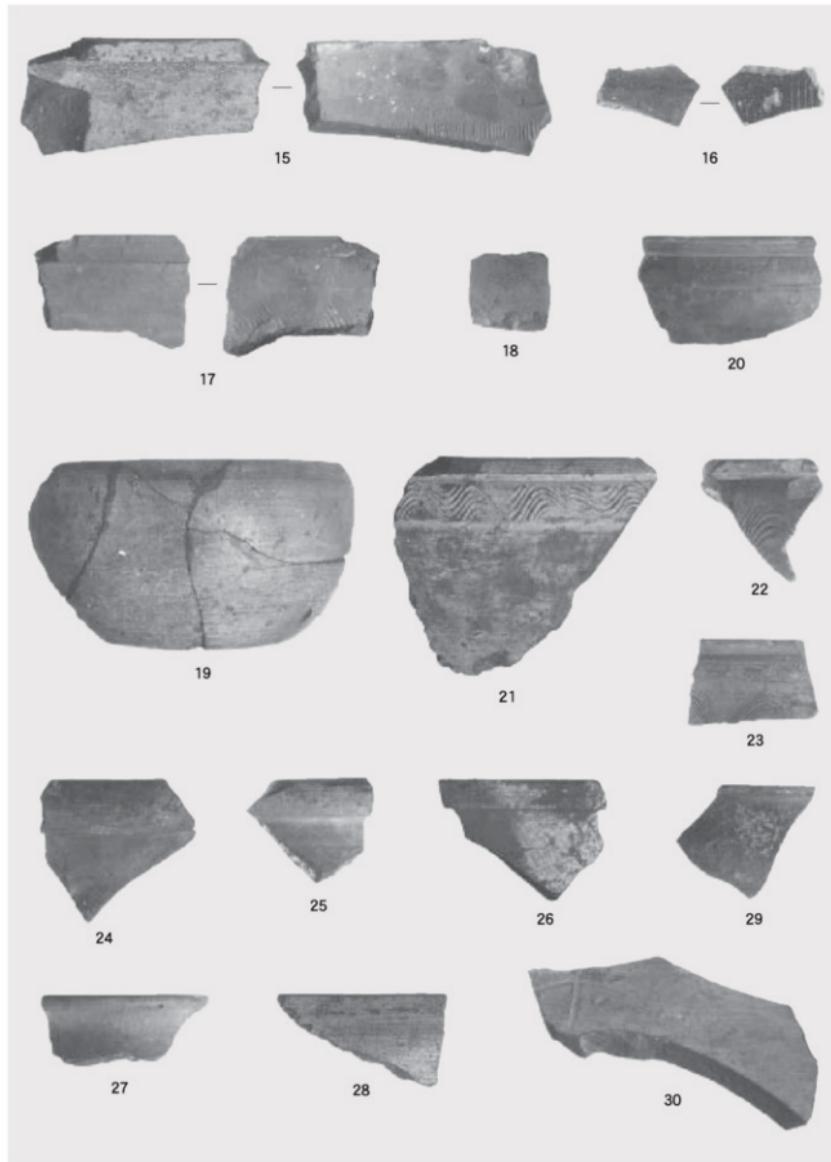
図版43 沖縄産施釉陶器（2）外面・内面



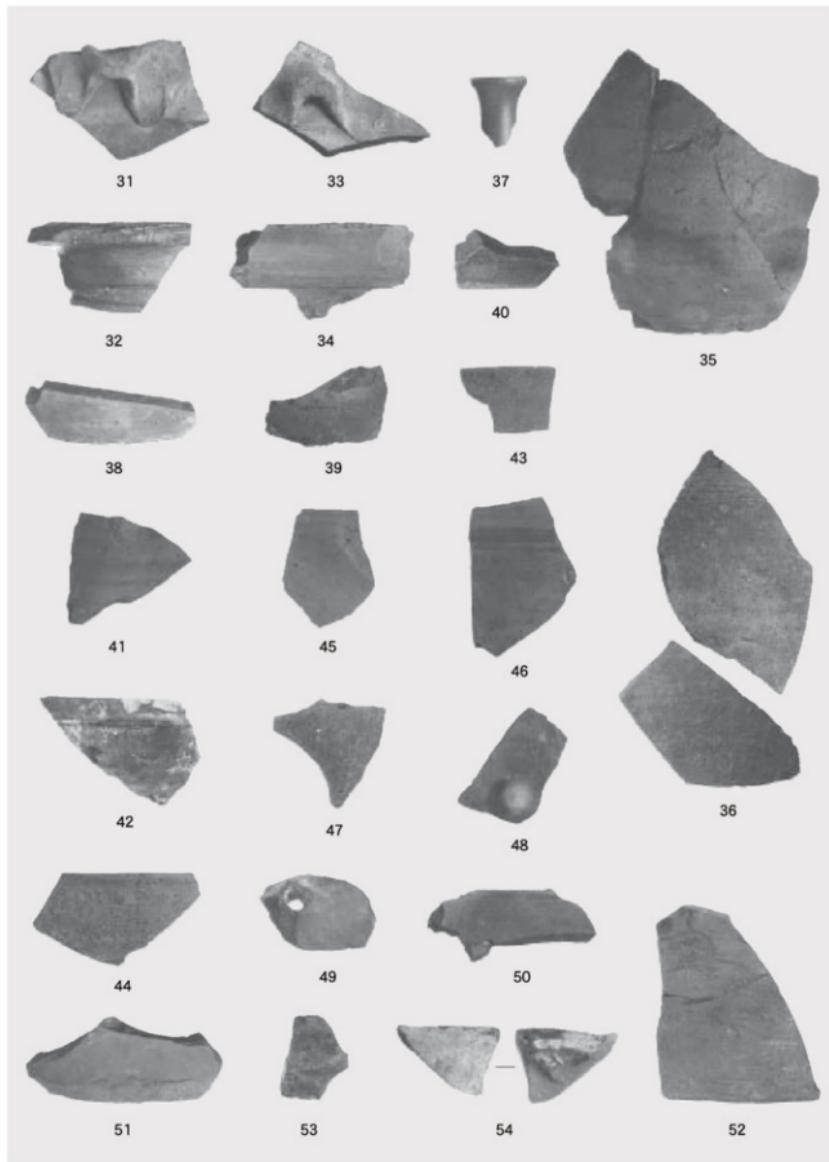
図版44 沖縄産施釉陶器（3）外面・内面



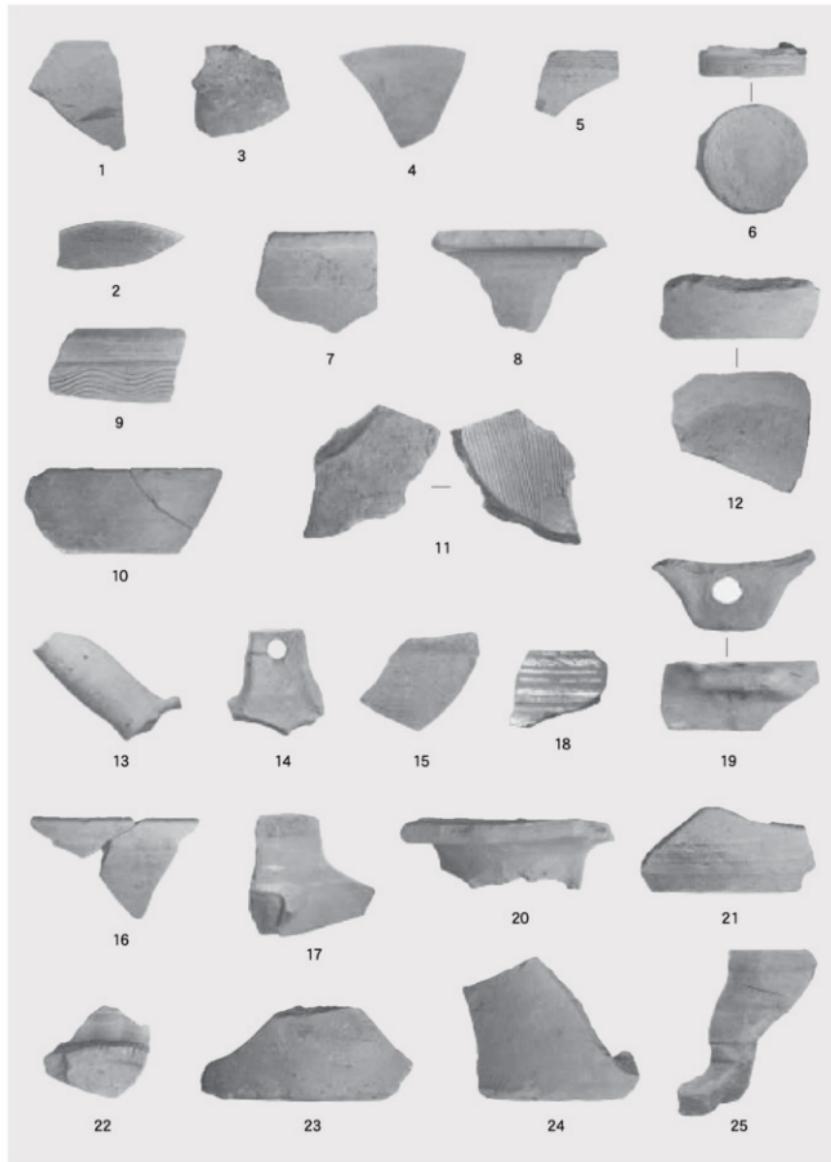
図版45 沖縄産無釉陶器（1）



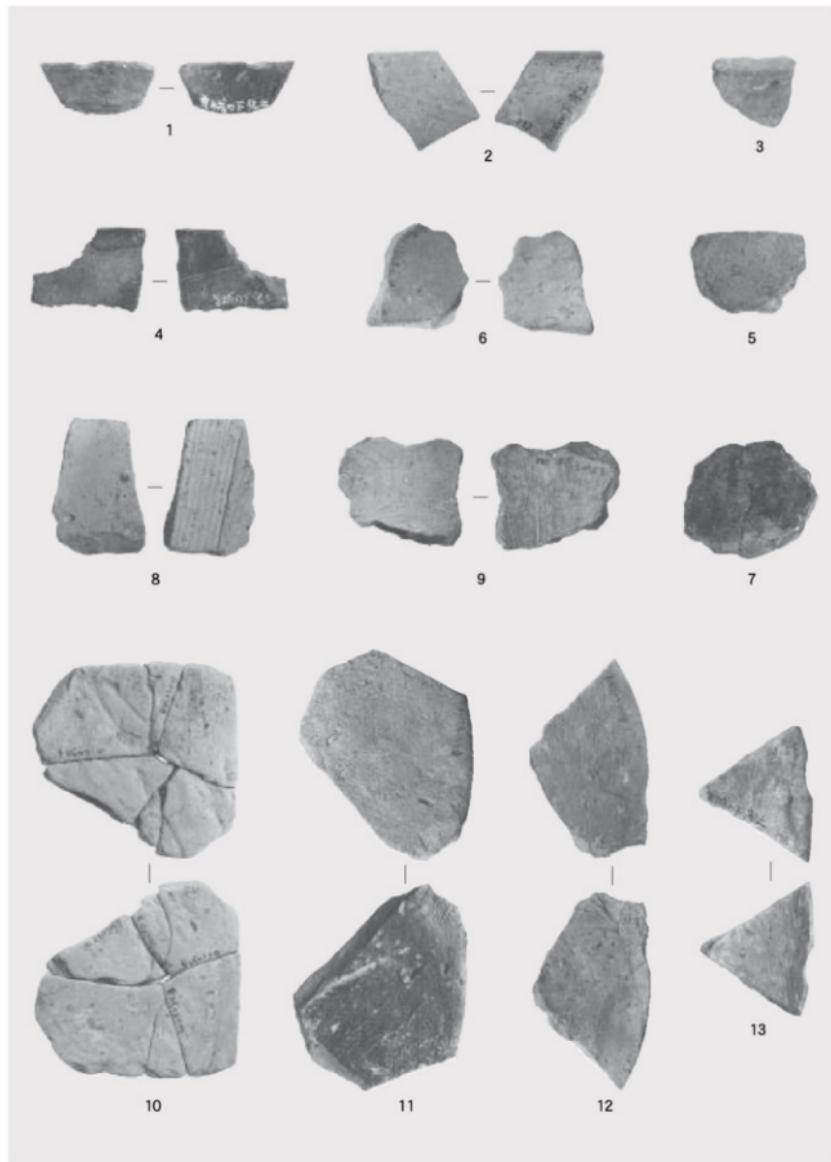
図版46 沖縄産無釉陶器（2）



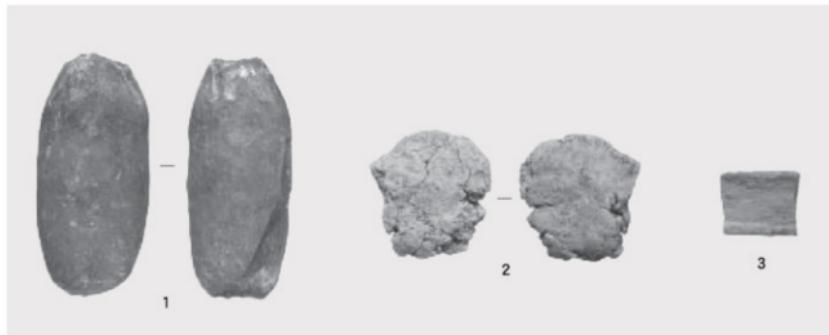
図版47 沖縄産無釉陶器 (3)・(4)



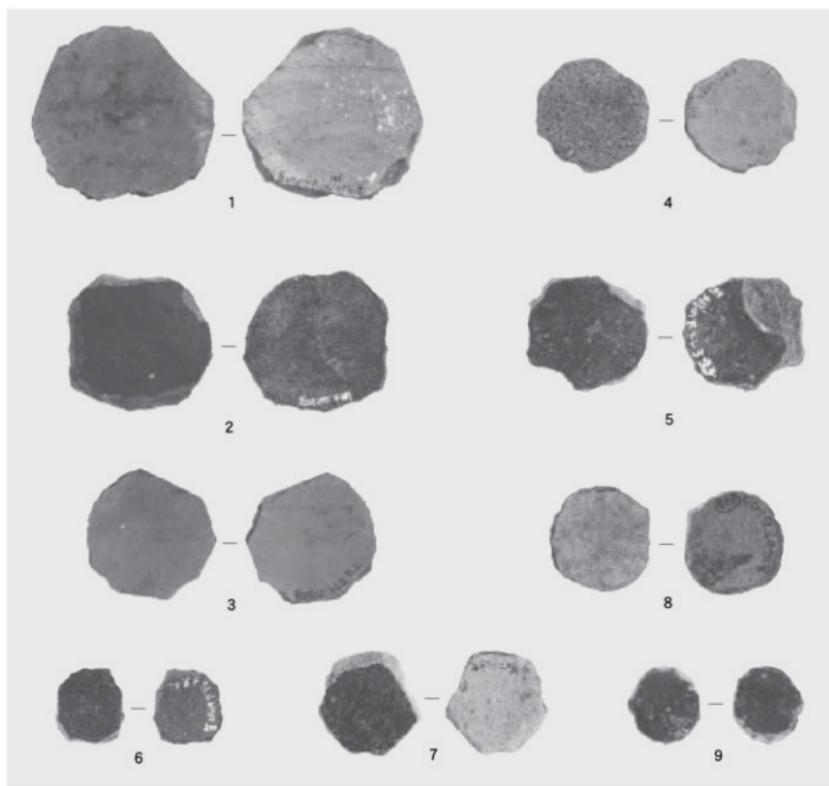
図版48 陶質土器 (1)・(2)



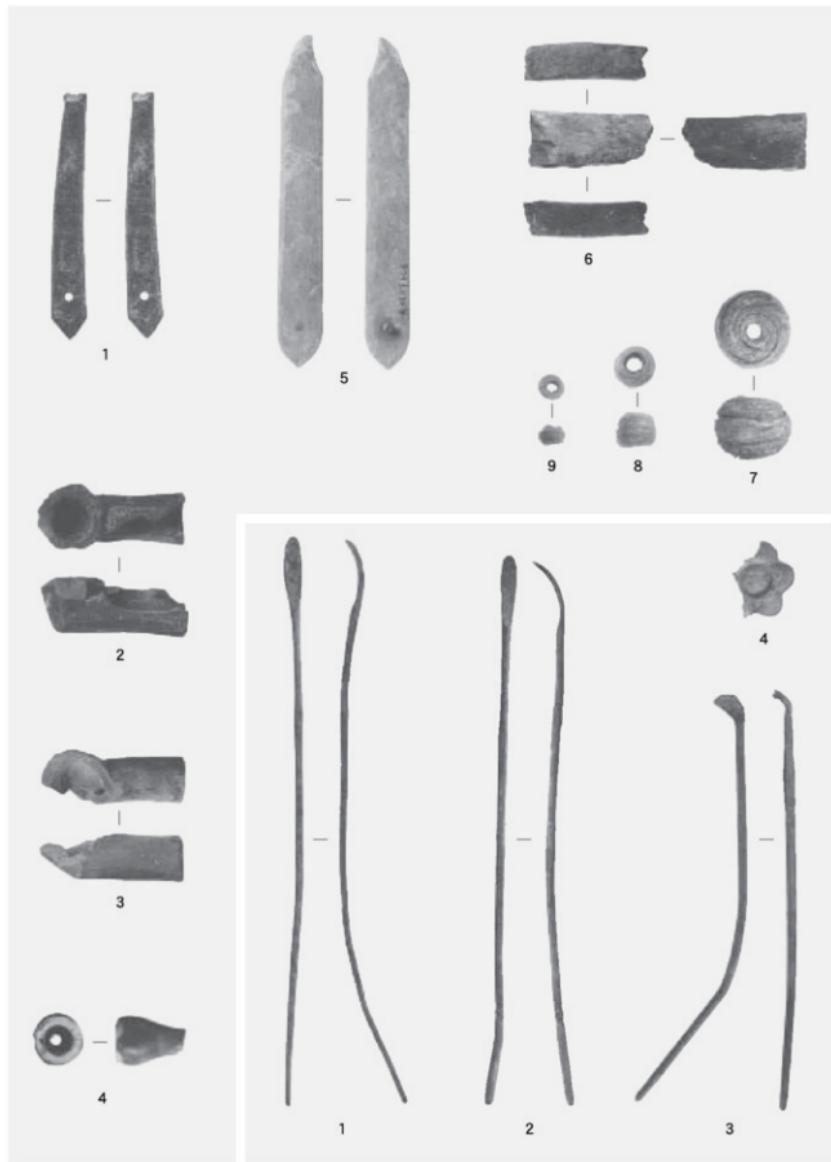
图版49 土器



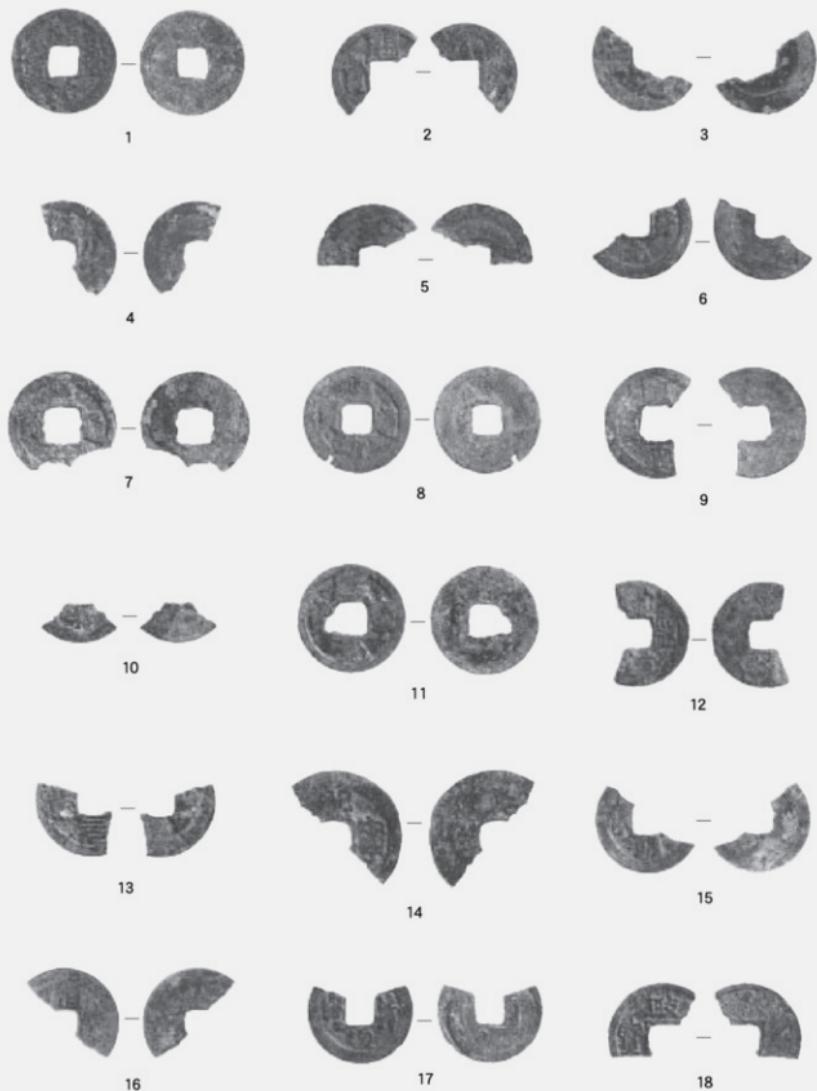
図版50 土製品



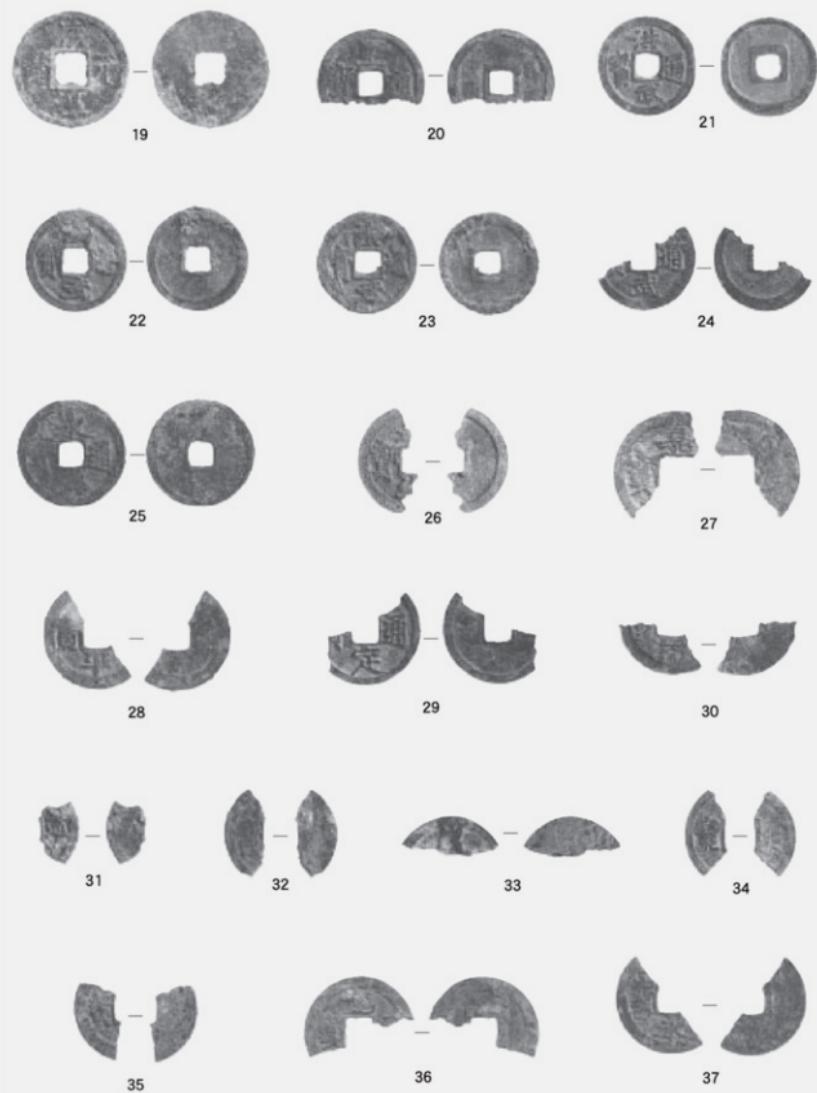
図版51 円盤状製品



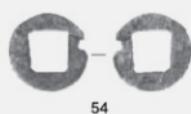
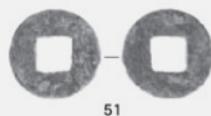
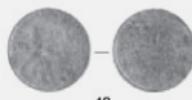
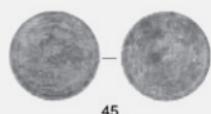
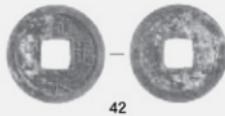
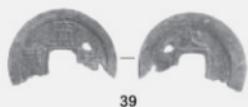
図版52 プラスチック製品(1)、煙管(2~4)、骨製品(5~6)、玉(7~9)、簪(1~4)



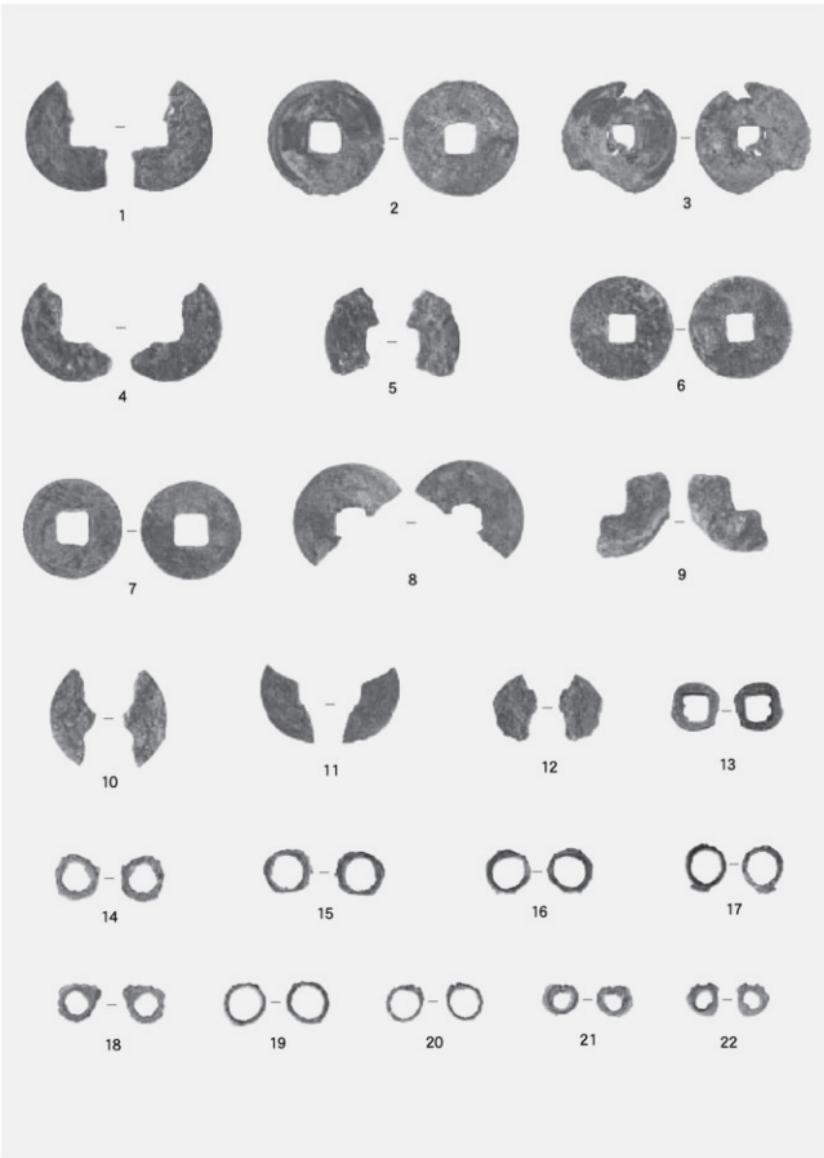
図版53 錢貨(1)



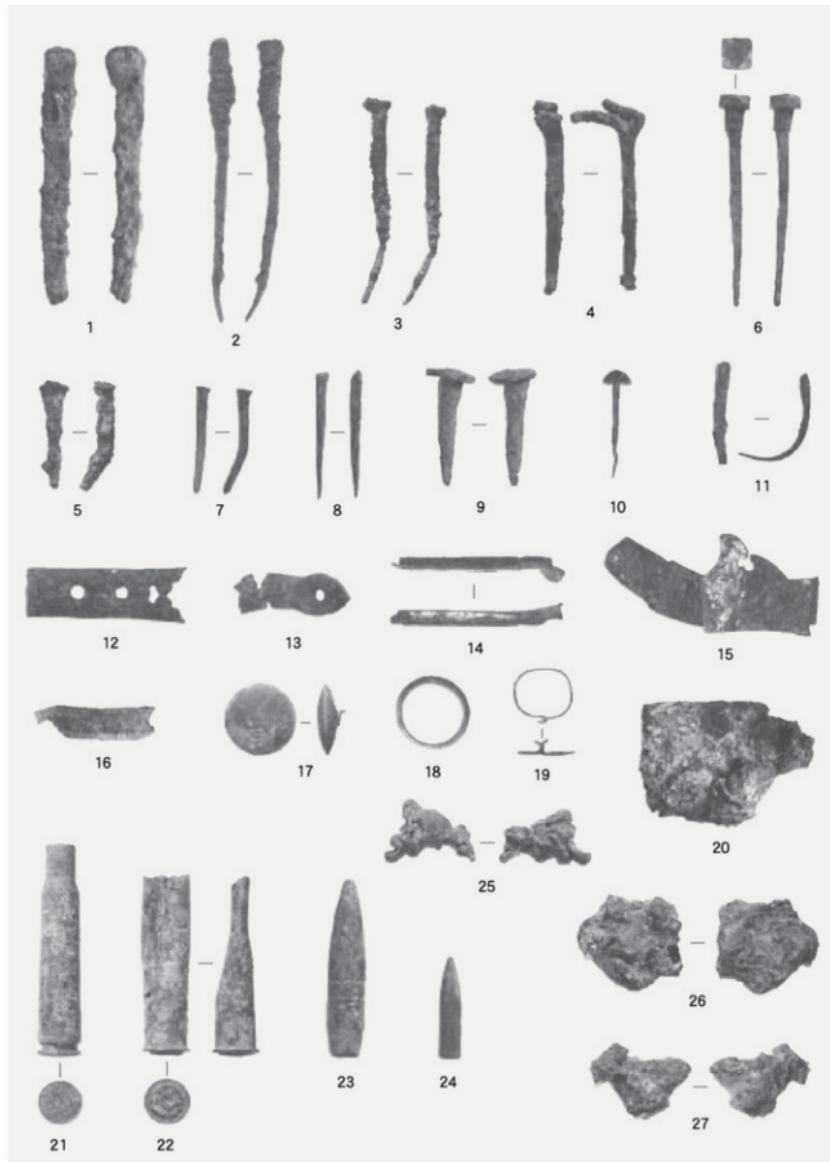
図版54 錢貨(2)



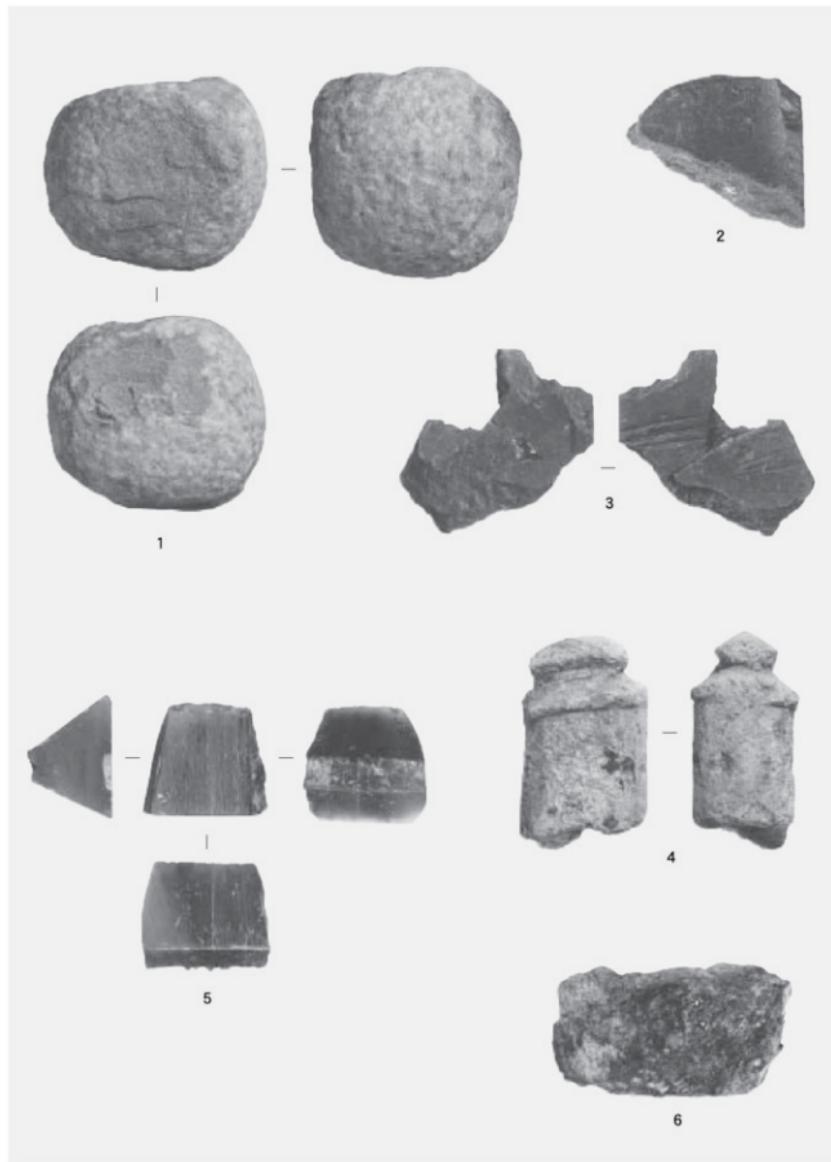
図版55 錢貨(3)



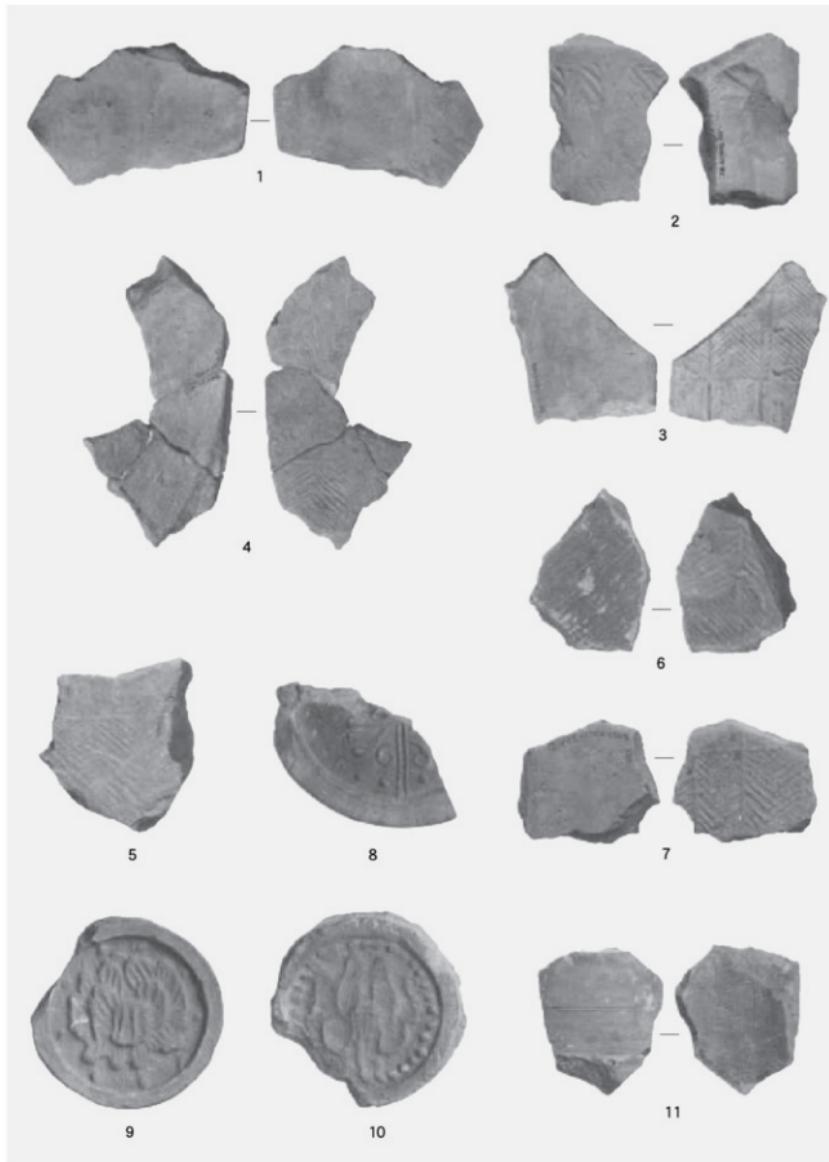
図版56 錢貨(4)写真のみ



图版57 金属製品



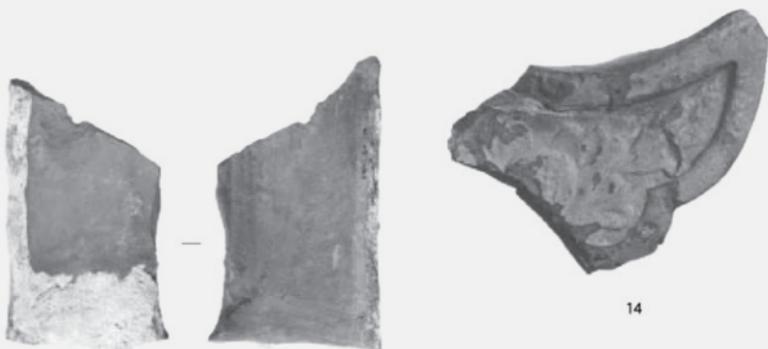
図版58 石製品



图版59 瓦(1)



12



14

13



15

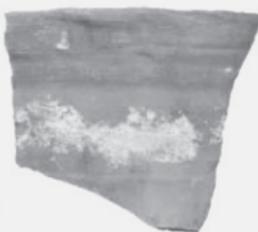


16

图版60 瓦(2)



17



18



20



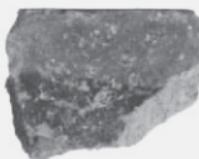
19



22



23



21

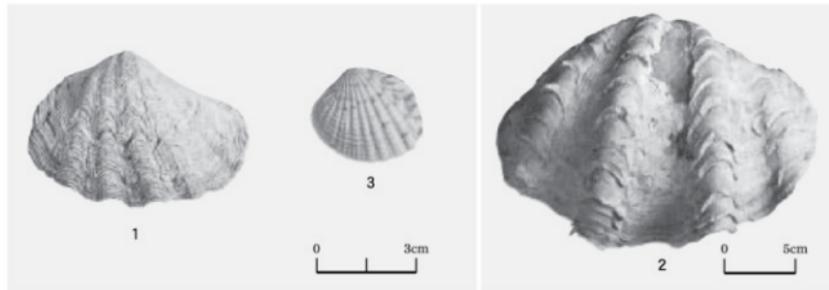
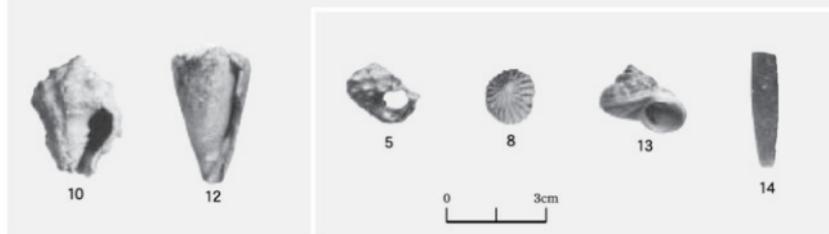
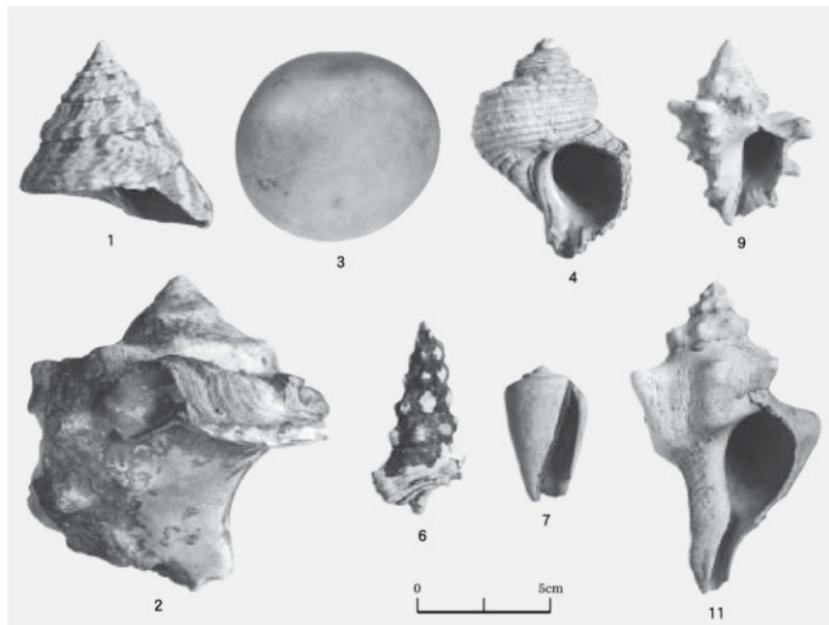


-158-



24

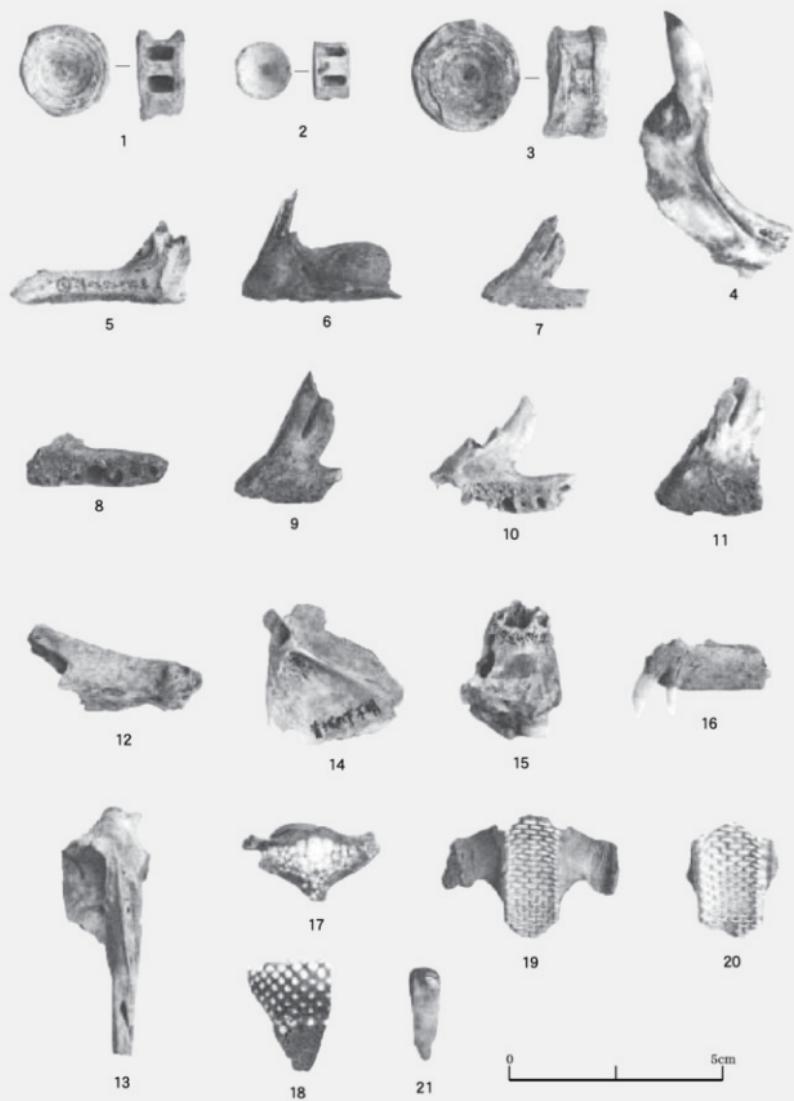
图版61 瓦(3)·博



図版62 貝 上:卷貝 下:二枚貝(番号は表と一致)

図版63 サカナ

1. メジロザメ 脊椎骨
2. メジロザメ 脊椎骨
3. エイ 脊椎骨
4. ハタ科 右 摱鎖骨
5. フエダイ科 左 前上顎骨
6. タイ科 クロダイ 左 前上顎骨
- 7~11. フエフキダイ科 ハマフエフキ 右 前上顎骨
12. フエフキダイ科 ハマフエフキ 右 齒骨
13. フエフキダイ科 ハマフエフキ 左 舌顎
14. フエフキダイ科 ハマフエフキ 右 主鰓蓋骨
15. ベラ科 コブダイ 右 前上顎骨
16. ベラ科 コブダイ 左 前上顎骨
17. ベラ科 コブダイ 下咽頭骨
18. ブダイ科 イロブダイ 右 齒骨
19. ブダイ科 ナンヨウブダイ 下咽頭骨
20. ブダイ科 ナンヨウブダイ 下咽頭骨
21. モンガラカワハギ科 齒



図版63 骨(1)サカナ

図版64 上：イルカ・ジュゴン・ウシ 下：ニワトリ

上

1. イルカ 椎体
2. ジュゴン 後頸骨
3. ウシ 左 肩甲骨 近位部（幼）
4. ウシ 右 上腕骨 骨体 キズあり
5. ウシ 左 桡骨 近位端 キズあり

下

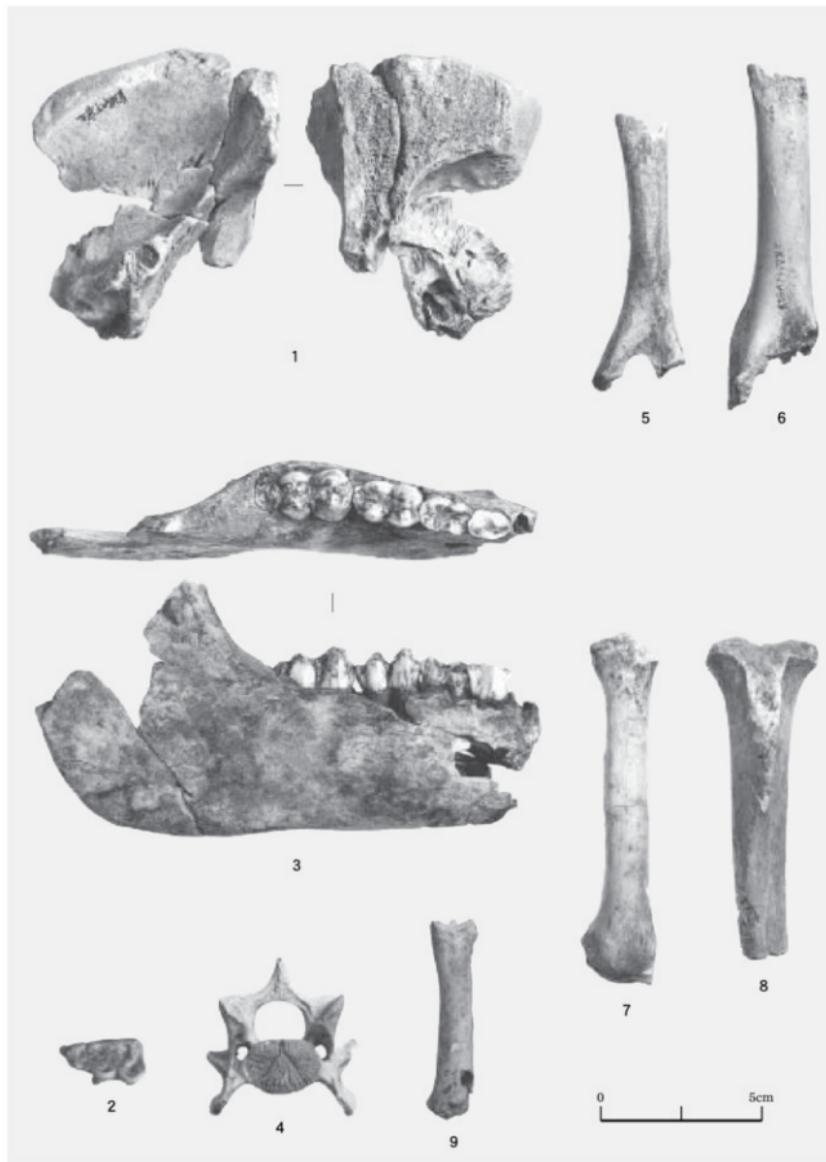
1. ニワトリ 左 上腕骨 骨体
2. ニワトリ 左 大腿骨 完存
3. ニワトリ 左 脛骨 近位部～遠位部
4. ニワトリ 左 脛骨 遠位端
5. ニワトリ 右 中足骨 完存



図版64 骨(2)上:イルカ、ジュゴン、ウシ 下:ニワトリ

図版65 ブタ

1. 左 頭蓋骨 項稜～頭頂骨
2. 左 上顎骨 M³
3. 右 下顎骨 P.M_{1,2,3}
4. 頸椎
5. 右 上腕骨 近位部～遠位部
6. 右 上腕骨 近位部～遠位部 キズあり
7. 右 桡骨 完存 キズあり
8. 左 脛骨 近位骨端はずれ～骨体 キズあり
9. 左 中足骨Ⅲ 近位端～遠位骨端はずれ



図版65 骨(3)ブタ

付 編

城の下道跡出土遺物の放射性炭素年代測定

1 はじめに

今回、城の下道跡の発掘調査において土壤中から採取した炭について、放射性炭素年代測定を行う機会を得た。測定は株地球科学研究所（実際の測定機関はBETA ANALYTIC INC）に委託した。

2 測定方法

AMS（加速器質量分析）

3 測定試料と測定結果

試料名	試料の種類	グリッド	遺構・トレンチ	層序	暦年代 ※(単位は年)
NO.1	炭	N-O-29	トレンチ7	16層	1040～1260
NO.3				4層	1180～1280
NO.4				10層	1220～1310または1370～1380
NO.6		O-24	トレンチ12	6層	1250～1300
NO.7		O-27	石疊破損部	礫敷き	1300～1430

※暦年代の的中率は95%

4 測定結果について

測定した5点の試料は、全て城の下道造営（『球陽』によると1673年）以前の層から採取した。測定の結果得られた暦年代は、文献資料に記された年代よりも古く、矛盾はない。

以下に測定結果に関する資料を掲載する。

放射性炭素年代測定報告書

(株) 地球科学研究所

報告内容の説明 : (同位体分別未補正) 14C 年代

**未補正14C年代
(y BP)** : (同位体分別補正) 14C 年代 "measured radiocarbon age"
試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前 (BP) かを計算した年代。

**14C年代
(y BP)** : (同位体分別補正) 14C 年代 "conventional radiocarbon age"
試料の炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定して試料の炭素の同位体分別を知り
 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で、算出した年代。
試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 ‰ に基準化することによって得られる年代値である。
(Stuiver,Mann,Polach,H.A.(1977) Discussion on Reporting of 14C data. Radiocarbon, 19を参照のこと)
曆年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

$\delta^{13}\text{C}$ (permil) : 試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰)
で表現する。

$$\delta^{13}\text{C} (\text{‰}) = \frac{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C}) [\text{試料}] - (^{13}\text{C}/^{12}\text{C}) [\text{標準}]}{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C}) [\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ [標準] = 0.0112372 である。

曆年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動に対する補正により、曆年代を
算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の測定、サンゴの U-Th 年代と
14C 年代の比較により、補正曲線を作成し、曆年代を算出する。最新のデータベース (
"INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al., 1998, Radio carbon 40(3)
により約 19000 y BPまでの換算が可能となった。*

C14年代測定結果

試料データ	未補正14C年代(y BP) (measured radiocarbon age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	14C年代(y BP) (Conventional radiocarbon age)
Beta- 186995 試料名 (24202) No.1	890 ± 40	-26.5	870 ± 40
測定方法、期間 AM S-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta- 186997 試料名 (24204) No.3	790 ± 40	-24.2	800 ± 40
測定方法、期間 AM S-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta- 186998 試料名 (24205) No.4	770 ± 50	-27.6	730 ± 50
測定方法、期間 AM S-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta- 187752 試料名 (24432) No.6	750 ± 40	-26.8	720 ± 40
測定方法、期間 AM S-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta- 187753 試料名 (24433) No.7	600 ± 40	-26.9	570 ± 40
測定方法、期間 AM S-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	

年代値はRCYBP(1950 ADを0年とする)で表記モダンリファレンス スタンダードは国際的な慣例としてNBS Oxalic Acidの
 ^{14}C 濃度の 95 %を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは 1 シグマ (68% 確率) である。

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=26.5:lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-186995

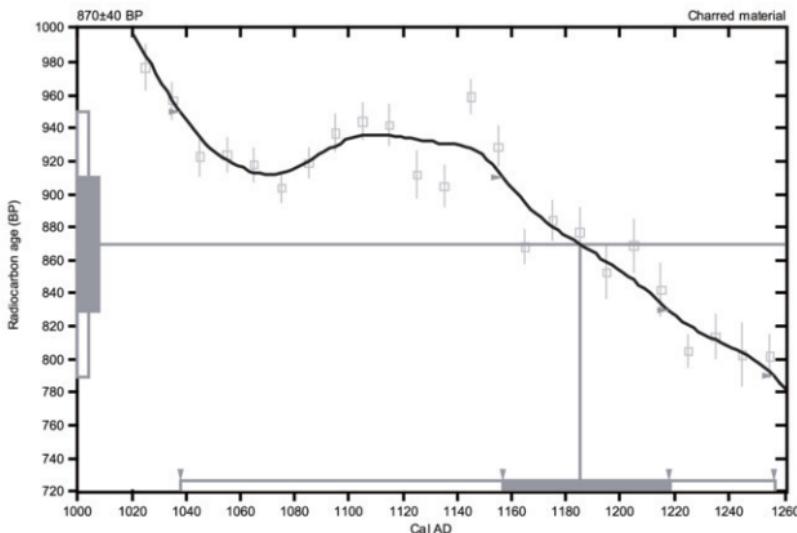
Conventional radiocarbon age: 870±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal AD 1040 to 1260 (Cal BP 910 to 690)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal AD 1180 (Cal BP 760)

1 Sigma calibrated result: Cal AD 1160 to 1220 (Cal BP 790 to 730)
(68% probability)



References:

Database used

Intcal98

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=−24.2:lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-186997

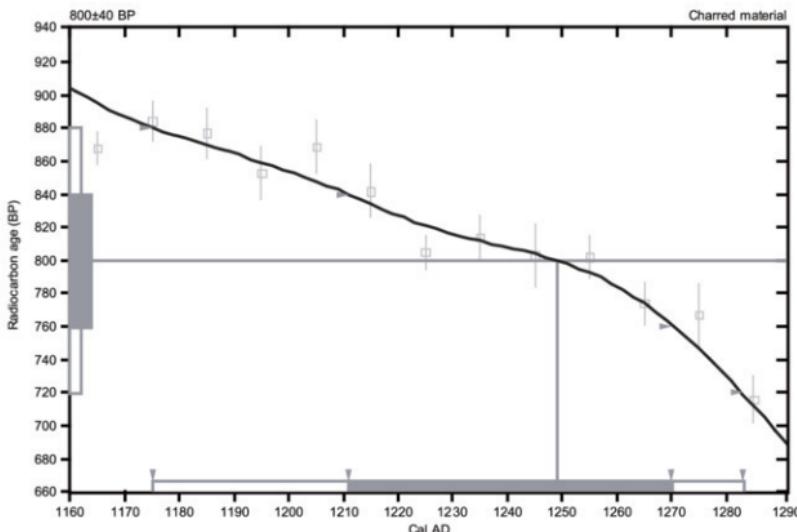
Conventional radiocarbon age: 800±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal AD 1180 to 1280 (Cal BP 780 to 670)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal AD 1250 (Cal BP 700)

1 Sigma calibrated result: Cal AD 1210 to 1270 (Cal BP 740 to 680)
(68% probability)



References:

Database used

Incal98

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p 1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=−27.6:lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-186998

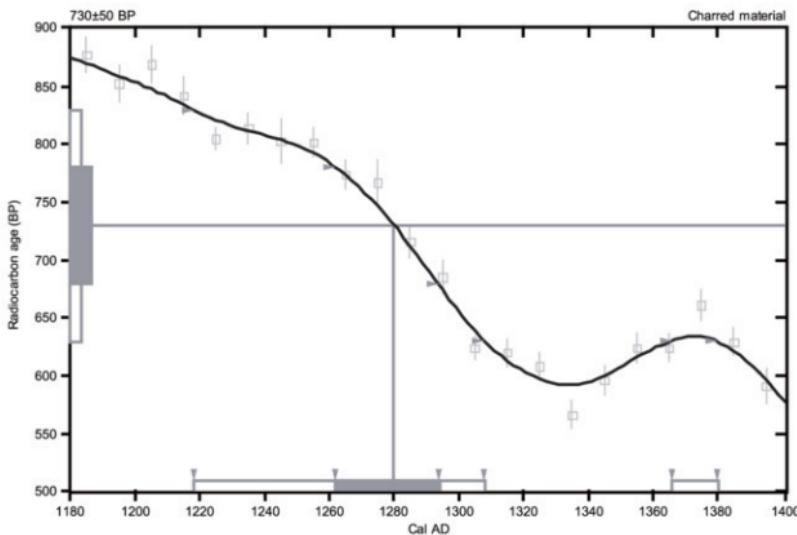
Conventional radiocarbon age: 730 ± 50 BP

2 Sigma calibrated results: Cal AD 1220 to 1310 (Cal BP 730 to 640) and
(95% probability) Cal AD 1370 to 1380 (Cal BP 580 to 570)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal AD 1280 (Cal BP 670)

1 Sigma calibrated result:
(68% probability) Cal AD 1260 to 1290 (Cal BP 690 to 660)



References:

Database used

Intcal98

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.8:lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-187752

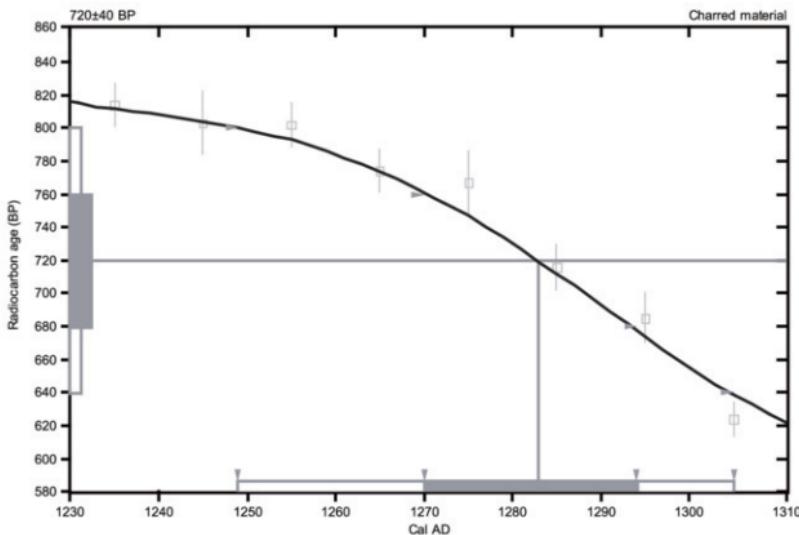
Conventional radiocarbon age: 720±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal AD 1250 to 1300 (Cal BP 700 to 640)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal AD 1280 (Cal BP 670)

1 Sigma calibrated result: Cal AD 1270 to 1290 (Cal BP 680 to 660)
(68% probability)



References:

Database used

Intcal98

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et. al., 1998, Radiocarbon 40(3), p 1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=26.9:lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-187753

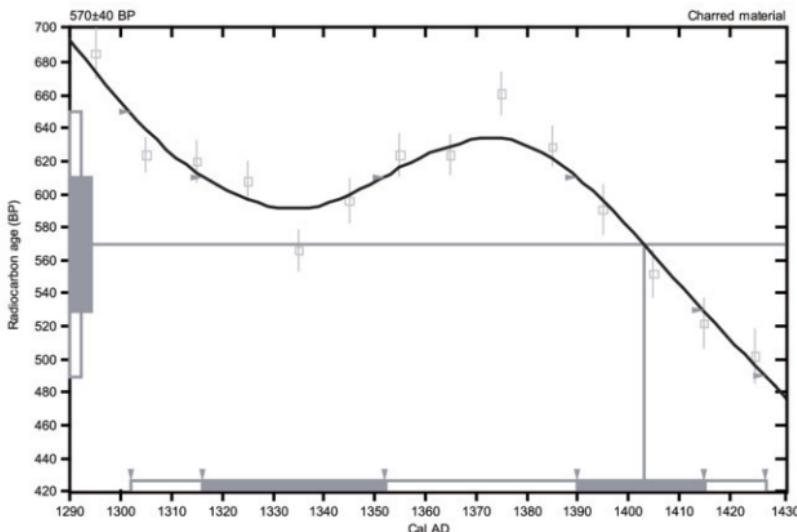
Conventional radiocarbon age: 570±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal AD 1300 to 1430 (Cal BP 650 to 520)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal AD 1400 (Cal BP 550)

1 Sigma calibrated results:
(68% probability) Cal AD 1320 to 1350 (Cal BP 630 to 600) and
Cal AD 1390 to 1420 (Cal BP 560 to 540)



References:

Database used

Intcal98

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxi-xii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com



Consistent Accuracy...

Delivered On Time.

Beta Analytic Inc.
4985 SW 74 Court
Miami, Florida 33155 USA
Tel: 305 667 5167
Fax: 305 663 0964
Beta@radiocarbon.com
Www.radiocarbon.com

Mr. Darden Hood
Director

Mr. Ronald Hatfield
Mr. Christopher Patrick
Deputy Directors

Quality Assurance Report

This report provides the results of reference materials used to validate radiocarbon dating results on unknown materials, prior to reporting. Known age reference materials were analyzed as QA measurements to verify the accuracy of the results. These are analyzed in multiple detectors. To test accuracy, the "blind sample" was measured in TWO separate detectors without the engineers knowing the age. This report quotes the results of the QA measurements.

Report Date: January20, 2004
Submitter: Mr. Kazumi Asai / Mr. Sumihisa Matsuyama
Sample: Beta-186995,186997,186998

QA MEASUREMENTS

TIRI wood standard (international standard)

Expected value:	4500 +/- 50 BP
Measured value:	4450 +/- 40 BP
Agreement:	good

TIRI carbonate standard (international standard)

Expected value:	18160 +/- 100 BP
Measured value:	18170 +/- 150 BP
Agreement:	good

Blind sample

Known age:	2190 +/- 40 BP
AMS age:	2170 +/- 40 BP
Agreement:	good

Background signal

Expected value:	45000 to 50000 BP
Measured value:	45500 +/- 900 BP
Agreement:	good

COMMENT: All standards were within accepted ranges. (TIRI stands for Third International Radiocarbon Inter-comparison. This material has a very well known age.) The "Blind sample" is a sample that was measured at least twice in a detector at different times.

Validation:

Date: January20, 2004

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第18集

首里城跡

—城の下地区発掘調査報告書—

発行年 2004年（平成16）3月26日
編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター
〒901-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7
TEL 098（835）8751
印 刷 衛潮印刷
〒901-2112 沖縄県浦添市字沢姫70番地
TEL 098（878）5666

© 沖縄県立埋蔵文化財センター 2004 Printed in Japan
許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。

